別冊宝島 1186

音楽誌が書かない Jポップ批評 38

マッキー・ワールドの “未体験”ゾーンへ、ウェルカム！

槇原敬之

マジカル・ヒストリー探検！

マッキーと歩んだ LOVE LIFE SMILE 「世界に一つだけの花」での大ブレイク！

幾多のスキャンダルに揉まれながらも、国民的男性ポップス・アーティストとしての揺るぎない地位を築くに至ったマッキーの波乱万丈の活動史（バイオグラフィ）&毀誉褒貶の作品群（ディスコグラフィ）を見つめ[illegible]

区立品川図書館
3471-4667
31144105

アルバム16枚完全レヴュー
全180曲勝手にライナーノーツ

CamScannerでスキャン

別冊宝島1186
音楽誌が書かないJポップ批評38

目次

“イイ人”の皮をそおっとめくってみれば……
おそろしくも素晴らしい、異形の国民歌手としての凄み 4

“新・国民歌謡”「世界に一つだけの花」随想
ぼくらはなぜ「オンリー・ワン」を「ナンバー・ワン」の意味で使ってしまうのか 6

ジャケット観光 8

ヴィジュアル・センスもファン！ ファン！ ファン！ 10
映像に溢れ出たマッキーの「もうひとつの顔」

マッキーと私たちのHome Sweet Home 12
歌に描かれた、記憶のなかの「ふるさと」

天才アーティストの“変わりゆく肖像” 14
“自分探し”をも愉しむ快楽主義者のドラマティックな旅

PART 1
ボクもワタシもマッキーに夢中！

女性リスナーが槇原のラヴ・ソングに“共感”する理由 18
恋愛サンドバッグ・マッキーの素晴らしき世界

男の「マッキー好き」はなぜ「恥ずかしい」のか 20
恋愛シーンをてんこ盛りにしてしまう
オバチャンっぽい過剰な「おトク感」

本誌執筆陣22人アンケート
ワタシを唸らせた“必殺フレーズ”大集合！ 22

『HEY! HEY! HEY!』で見た、マッキーの泪顔…… 26
瞬間、おれは、ピカソ〈泣く女〉を思ってた。

「世界に一つだけの花」が咲くまで 28
マッキーとSMAPのコラボによる“新・国民歌謡”の物語と効用

相田みつをとマッキー 30
“応援ソングの旗手”から、どん底をバネに
“そのままでいいがな”系へと

PART 2
ヒストリー＆レヴュー

■マッキー“てっぺん”ヒストリー■

〈1〉1990-1992：第1次ワーナー時代前期
（デビュー～「北風～君にとどきますように～」）
新世代ラヴ・ソングの旗手、登場！ 成長の跡を刻む“君シリーズ”三部作 34

〈2〉1993-1996：第1次ワーナー時代後期
（「彼女の恋人」～「まだ生きてるよ」）
クォリティを守りつつ新たな試みへ――パワーを見せつけた充実の4年間 40

〈3〉1997-1999：ソニー時代（「素直」～「Cicada」）
移籍後の激動の中で芽生えつつあった「本当に意味のある歌」への志向 46

〈4〉2000-2002：第2次ワーナー時代
（『太陽』～『本日ハ晴天ナリ』）
クォリティを守りつつ新たな試みへ――パワーを見せつけた充実の4年間 52

〈5〉2003-2005：第2次ワーナー時代終盤～東芝EMI時代（「Wow」～現在）
「一つだけの花」「EXPLORER」が証明した“天才少年”のカミング・オブ・エイジ 58

マッキー・アルバム“HAPPY”レヴュー☆

1st Album 君が笑うとき君の胸が痛まないように 36
2nd Album 君は誰と幸せなあくびをしますか。 37
3rd Album 君は僕の宝物 38
4th Album SELF PORTRAIT 42
5th Album PHARMACY 43
6th Album ver.1.0E LOVE LETTER FROM THE DIGITAL COWBOY 44
7th Album UNDERWEAR 45
8th Album Such a Lovely Place 48
Cover Album Listen To The Music 49
9th Album Cicada 50
10th Album 太陽 54
11th Album Home Sweet Home 55
Live Album THE CONCERT －CONCERT TOUR 2002 "Home Sweet Home"－ 56
12th Album 本日ハ晴天ナリ 57
13th Album EXPLORER 60
Live Album NORIYUKI MAKIHARA SYMPHONY ORCHESTRA "cELEBRATION" 61
番外編 リミックス＆ベスト・アルバム紹介 62

課外活動もまた麗しからずや――楽曲提供、セッション参加など 64

表紙イラスト ▶JERRY
表紙デザイン ▶中山デザイン事務所
本文デザイン ▶Flamingo Studio＋カモト・シゲ

CamScannerでスキャン

PART 3
マッキーのワーズ&ミュージック

理性と感情の絶妙の中間に"優しい歌"がたちのぼる 66
マッキーのメロディは、なんでせつないのか？

ソウルあり、ケルトあり、ブラジル、そしてポリフォニーまで 70
一筋縄ではいかないサウンド・クリエイター、槇原のアジなアレンジ技

あなどれないマッキー・サウンド、その変遷 72
プロデューサー、エンジニアたちのイイ仕事

マッキーの原典からライバル、フォロワーまで 74
ルーツ&リンク名盤30選

■槇原ソングの歌詞研究——詞は口ほどにモノを言うRETURNS■

キーワードで読み解く「マッキー曼荼羅の世界」 78
1 槇原敬之は菩薩である。

距離感が絶妙な「君」と「僕」 82
2 恋に恋するラブソングの時代：Before 1999

飢えた樹、新たな生命、そして子供たちと家族 85
3 生まれ変わってこの場所で：After 1999

PART 4
マッキーからひろがる音楽世界

朗声論 90
美「声」男子のヴォーカルの魅力に迫る

ようこそ！ 歌とピアノの魅惑の世界へ 94
古今東西「ピアノ・マン」の音楽とたたずまいの魅力

世界の中心で「ひとりでできるもん！」とさけぶ 96
古今東西「宅録派」のプライベートな音空間

"成功"しづらい社会に響く"人生の応援歌" 98
「どんなときも。」と"自己肯定"ソングの時代

マッキー五番勝負・男の恋唄トクの市
一番 vs KAN……決定的に違うのは、歌のレベル? 100
二番 vs 稲葉浩志……「負け犬」ふたりの対照的な処方箋 101
三番 vs 小沢健二……具体の槇原、観念の小沢 102
四番 vs 草野マサムネ……どんな「自分」にこだわるのか 103
五番 vs 桜井和寿……M原とS井の対極的な哲学 104

英語で歌わナイト！ 106
発音のエロス——マッキーもJポップ歌手の英語を斬る

コムロ、ミスチル、SMAPがマッキーを変えた！ 110
1994年 Jポップ"革命"の余波

過剰と消尽のマッキー・ミュージック 112
才能を「焼き尽くすように使いきる」男の潔さ

対談：伏見憲明×Take-3
マッキーのクィア・リーディング 115
マッキーの歌は、ゲイの切なさとナルシシズムをすごく刺激してくれる

PART 5
寄ってたかって全曲解説

「NG」から「明けない夜が来ることはない」まで、カヴァー、英語曲も含む公式発表曲全176曲レヴュー 120

コラムNo.1☆
#1 老若男女に愛される絶妙なバランス感覚 32
#2 85年11月26日、「サウンドストリート」誌上再現 39
#3 倒錯のメルヘン「Hungry Spider」に潜む槇原の本質 51
#4 ROLLYとマッキーの天才イトコ物語 88
#5 YMOチルドレンの異端児にみるテクノの痕跡 93
#6 「2つの願い(VERSION Ⅱ)」の"突然変異"の魅力 105
#7 マッキー・ソングの「僕」に惹かれる理由 127

流行り歌斬り捨て御免RETURNS 134
Mr. Children／SINGER SONGER／LIV／オレンジレンジ／BENNIE K／桜田かずお

書評でポン 138
▶日本人と英語

おカミさん、「演歌の名盤」ですヨ！ 140
▶演歌の華としての"死のエロス"論

少年易老楽難成 142
▶いよいよ佳境！ 大河ドラマ「義経」

執筆者紹介 143

CamScannerでスキャン

“イイ人”の皮をそおっとめくっ

コーラス部分を一人多重でまかなうことで、荒涼感が

今となってはやや古い話になって恐縮ながら、長きにわたった"謹慎期間"をへて、『HEY!HEY!HEY!』に再登場した時の[illegible]とのはじけっぷりは忘れられない。どこまで話すかは、当然打ち合わせずみだったのだろうが、執行猶予の判決を受けた後、親元で過ごしたという保護観察期間のエピソードを、もう語る語る。電車に乗っていた母親が、乗客から「あの人の息子さん、ねえ」とささやかれるのを聞いたけど、どうして僕のオカンやて、わかったんでしょうねえ」とのセルフつっこみが入る）。あるいは、家の近所をなにげに散歩していたら、見知らぬ女の子からいきなりドーンとつきとばされて「あんた、何しとんのん！」と一喝された（のは「激励の意味も込めてでしょうけど」という解説つき）。また、よくしたことに、手にした扇子でもう片方の手のひらをペシペシと打ち鳴らしながらの熱弁である。

なんなの、この「イイ話」と言うにとどまらない、異様なまでのテンションの上げっぷりは。それまでもCD聞くたびに「ただもんじゃない」、そう思って

おそろしくも素晴
異形の国民的歌

突き抜けたハイトーン・ヴォイスに、甘美感を増していくような歌詞。第一印象は、あくまでも"イイ人"。なのにこの荒涼感やさびしさはどうして？　こんなヴォーカリスト、他にはいません。槇原敬之が美輪明宏や瀬戸内寂聴といった人たちと並んで人生相談に応じる日が来たとしても、不思議ではないのですよ。

文▶真保みゆき［音楽評論家］　写真提供▶産経新聞社

はいたものの、ただものじゃないにもほどがあるね、ここまで来ると。こういう人物が「♪もともと特別なオンリーワン〜」なんて詞を書いたのかと思ったら、そりゃ"特別"だろうし"一人しかいない"のは間違いない。歌の意味までが、違ったニュアンスを帯びて聞こえてくる気がしたものである。

ちなみに「自分でも歌ったら（SMAPに書いた印税に加えて）、もう一儲けやろ」。ダウンタウンからそうつっこまれた時点では自演してなかった「世界に一つだけの花」を、ほどなくして自身のアルバムでセルフ・カヴァー。コーラス部分を一人多重でまかなうことで、SMAPヴァージョンではありえなかった荒涼感、「どんなに"イイ人"げな歌詞を歌っても、所詮人間、ひとりぼっちなんだよ〜」的絶唱を聞かせてくださったマッキー様である。ウソだと思ったら、アルバム『EXPLORER』を聞いてみなされ。冒頭、頭のてっぺんから突き抜けるようなハイトーンを耳にした段階で、部屋の温度が一気に5、6度は下がります。

ナルシシズムもきわめると、“孤高”の風格が

"休業"を余儀なくされる以前、ファンシーさてんこもりの王子様キャラで通していた時代から、「板子一枚めくれば地獄」とも言うべきそうした体質が、

CamScannerでスキャン

てみれば……

見え隠れしていたとも言えるんですけどね。デートをドタキャンされた"僕"が、街で偶然見かけた"彼女"をいたずら心でひそかに尾行、したら二股がけの現場を目撃してしまったのです——と展開していく「SPY」などもはや古典の域に属すると言うべきで、以来出るわ、出るわ。風邪で熱出して寝込んでは、出ていった"彼女"に向かって〈まだ生きてるよ〉とかきくどき『僕はまだ生きてるよ』、雨に濡れたおのれの姿を"濡れたヒヨコ"に例えてみせる『濡れひよこ』。男の脱毛と痩身を、〈ブタの貯金箱割る時は今だ!〉というキモカワイイ一節とともに歌

らしい、
手としての凄み

い上げた「印度式」を聞いた時には、エントロピーが相当高まってるみたいですゥ〜。聞くたびに、そう背筋が凍りついたもんなァ。

ナルシスティックなえぐみが、字面からも感じられる歌詞をあえて選んでみたわけですが、そういう「わかりやすい」曲以上に、一見なんでもない、それどころか陳腐にすら感じられる言葉づかいに、艶歌にも似た「後がない」雰囲気を漂わせちゃうところが、ヴォーカリストとしてのマッキーの、おそろしくも素晴らしいところ。「印度式」と同じ「Such a Lovely Place」に収録されている「素直」で、「♪さびしがり屋はいつもォ〜」と始まるサビの部分とか、あなた、これ以上場の雰囲気をうらさびしくしてどうするのと、たしなめたくなるくらい。ナルシシズムもきわめるところまできわめると、かえって"孤高"の風格が漂うことがある。身をもってそう証明しているのだから、たいしたものである。

近作「EXPLORER」では、前述した「世界に一つだけの花」のほか、関西で育った子供時代の記憶に取材したとおぼしき作品も登場。またそこに"哀しい"歌詞がありましてね。ともあれ、そういう曲も一見性善説げな「世界に〜」みたいな曲も、世間的には"イイ人"の歌として聞かせてしまうあたりが、異形の国民的歌手マッキーの凄み。美輪明宏や瀬戸内寂聴といった人たちと並んで人生相談に応じる日が来たとしても、私は驚かない。★

CamScannerでスキャン

金持ちより芸術家のほうがカッコいい?

2年くらい前、NHK教育「真剣10代・しゃべり場」
見ていたら、「俺はオンリー・ワンと呼ばれるような
在になりたい」と熱弁する少年がいた。どうやら、
が「オンリー・ワン」という言葉でイメージしている
は、作家とかアーティストらしいのだが、それはオ
ー・ワンじゃなくてナンバー・ワンなんじゃないか、
疑問に思った。作家やアーティストになれるのは
争に勝ち残ったごく一部の人なのだから。
ところが、あらためて周囲を見てみれば、世の中
などお金をめぐる競争の勝者がナンバー・ワンで
あり、作家やアーティストなどお金に換算できない
美的価値をめぐる競争の勝者がオンリー・ワンなの
だと。両者の違いは、いい音楽と売れる音楽は違
うという議論と同レベルだが、そのどちらにも競争
があることに違いはない。

ところで、「オンリーワン」でネット検索してみたら、
膨大な数の商用サイトがヒットした。オンリーワン
焼酎、オンリーワン湯たんぽ、犬用品のONLY
WAN、異業種交流会オンリーワン、あなたのオン
リーワンを見つけます、ソープランド・オンリーワン

民歌謡「世界に一つだけの花」随想

くらはなぜ「オンリー・ワン」を ンバー・ワン」の意味で ってしまうのか

つだけの花」は全国の老若男女に愛唱され、2年連続著作権使用料1位に輝いた。あら、マ
ンリー・ワン」賛歌で「ナンバー・ワン」になったのね、なんてオヤジ臭い皮肉でゴメンナサイ。
てるとついつい「オンリー・ワン」と「ナンバー・ワン」の意味の認識がウヤムヤになっちゃった
か? なんでそうなるのか——ちと考えてみましたんで、お付き合い下さい。

[ライター、編集者]
ョン▶玉城雪子

れているオンリー・ワンという言葉の大多数
ー・ワンと同じ意味だったりする。イチロ
野球界のオンリー・ワンだとか、わが社の
ンリー・ワンだとか……。
ば、木村拓哉は「世界〜」について次のよ
ている。〈オレは賛成ですね。オレ自身、ち
きから「順位なんてカンケーねえ!」って
ら。負けず嫌いではあるけど、それは人
ヤダ!ってパンク魂〉(*1)
「人と一緒じゃヤダ」という時点で、すで
他人を比べているわけで、個性をめぐる
に巻き込まれている。こうした彼の考え
くり場」の少年に近い。学校やビジネス

……など。

また、シャープの町田社長が同社のオンリー・ワ
ン戦略を語るインタビューもあった。〈オンリーワン
を積み重ねてナンバーワンになるのが理想だ。し
かしシェアや売上規模など数字を追うと、ありきた
りな商品ばかりになってしまい、結果として利益も
減少する〉(*2)

シャープのオンリー・ワンとは液晶技術のことだ
が、この種の議論はマスメディアにあふれている。
高度成長期のように物を作れば売れる時代は終わ
った。マーケットが縮小していく時代を生き残るた
めには他社がマネできない技術が必要だ——と。
つまり、オンリー・ワンとは現代の企業間競争のキ

*1 「ザ・テレビジョン」03年3月14日号(角川書店)
*2 http://japan.cnet.com/news/tech/story/0,2000047674,20061303,00.htm

CamScannerでスキャン

ーワードであり、オンリー・ワンこそが現代の競争原理だともいえるのである。

以上のことから、日本人の多くが共有している2種類の価値観を導き出すことができる。一つは「金銭的な成功者より美的な成功者の方がカッコいい」であり、もう一つは「ビジネスで勝つためにはオンリー・ワンの技術・サービスが必要だ」である。誰もがオンリー・ワンに憧れている今の日本で、「世界〜」が大ヒットしたのは当然のことなのかもしれない。

「意味」ではなく「語感」が呼んだ[illegible]

それにしても、なぜオンリー・ワンがナンバー・ワンと同じ意味になってしまうのだろうか。それは、オンリー・ワンという言葉を、世界に一つだけの個性、他人がマネできない個性という風に解釈してしまうからである。しかし、〈もともと特別なOnly one〉という歌詞を額面どおりに解釈するなら、それは目指すものではないし、努力して手に入れるようなものでもない。

とはいえ、聞き手の解釈をどうこういう以前に、「世界〜」の歌詞自体がかなり混乱した内容だったりする。たとえば、この歌は差別の歌なのか、競争の歌なのかがはっきりしない。差別の歌であれば、人はそれぞれ違うが、そのままでも尊いという解釈になるが、だとするなら〈No.1にならなくてもいい〉と競争を否定するのはナンセンスだ。差別というのは競争に参加させないこと（就職差別など）を指すことが多いからである。公正な競争に基づく優劣のことを、ふつう差別とは呼ばない。

一方、競争の歌であるのなら、人間はそれぞれ違うのだから、他人をうらやまないで自分の適性・条件に合った努力をするしかないという解釈になる。この場合、「もともと特別」という努力を否定するようなフレーズが矛盾を生んでしまう。

ようするに、この歌は厳密に解釈しようとすると解釈不能になってしまうのだ。逆にいうなら、この歌はどうにでも解釈できるし、また厳密に解釈しないと意味が通らない。

にもかかわらず、「世界〜」が人々の心をとらえたのは、「ナンバー・ワンよりもオンリー・ワン」というひとつの意匠が生み出す語感のよさがあったからである。それ以上でも以下でもない。しかし、語呂、語感のもつインパクトゆえに、この歌は意味を超えて流通してしまったのである。人々は意味に感動したのではなく、語感に感動したのである。前述したように、オンリー・ワンは時代のキーワードなのだから、なおさらである。

ひょっとしたら、当の槇原だって語感に感動しただけなのかもしれない。インタビュー類を読んでいても、彼が歌詞の矛盾に気づいているとは思えないからである。もちろん、流行歌とは本来そういうものであるし、細かい矛盾に気づかないことも流行作家としての才能だとはいえる。★

「世界に一つだけの花」の[illegible]

CamScannerでスキャン

覆面からイイ奴へ、そしていろいろあって大宇宙へと

99年夏の逮捕騒動、その後も同性愛疑惑やらローリー寺西との血縁関係(!!)やら――と、醜聞なゴシップの種が尽きないにもかかわらず、21世紀を迎えてもなお(いや、なおさら)Jポップ界の〈陰の〉王位に君臨する槇原敬之(以下マッキー)。一連の過去を(有無をも言わさず？)乗り越え、今日の圧倒的支持を獲得するに至ったのは、ただ単に"楽曲がステキ…"という理由以外に、何か特別な魅力/魔力でもあってのことだろうか？ ここでは彼がリリースしてきたCDジャケットを振り返りつつ、その秘密の一端をとりとめもなく推察してみました。

文▶木村重樹(編集者/ライター)with 宮崎ハヤ夫(編集見習い/ニート)

初期マッキー

顔出し「NG」？

90年秋のデビュー・シングル「NG」、アルバム「君が笑うとき君の胸が痛まないように」[1]以来、初のヒット曲「どんなときも。」までのマッキーのジャケは、早い話が"パステル・タッチのわたせせいぞう風イラスト"。実質的な「顔出し」解禁となったのが、デビュー約1年後の「君は誰と幸せなあくびをしますか」[2]。(そういえばこの頃、やたら長いタイトルをつけるの流行ってましたね)。

とはいえ、まだ口元が手で隠され、彼の面差しが堂々と登場するのは、3rdアルバムの「君は僕の宝物」[3]から。ビジネススーツを着てこちら側に微笑みかける肖像写真を見た誰もが(かっこイイとは思わなくても)「こいつきっと、イイ奴なんだろうな」みたいな……。こうした"イイ奴"感こそがつまるところ、「優しさ、飾らなさ、包容力」といった、往時の彼のファンが本人に対して抱いていた好意的イメージにつながっていった、ハズ。その表情からは"イイ奴"感のみならず、ほのかな自信すらもうかがえ、実際マッキーは同アルバムで、初のミリオン・セールスを記録する。

中期マッキー

人生いろいろ

その後のマッキーは、94年の「PHARMACY」[4]から2年近い沈黙期を過ごし(ファンの間で「死亡説」が流れたほど)、そんな噂をはねかえすかのごときシングルが、「UNDERWEAR」[5]より1ヵ月後にリリースされた「まだ生きてるよ」[6]。この自虐的なタイトルが躍るジャケットによって、それまではKANや槇原誠志郎と似たり寄ったりと思われていても不思議ではなかったマッキーは、"シャレのわかる奴"ということで、頭ひとつ抜き出たのかもしれない。

その充電期間中に、本人の中で何かが"一皮剥けた(一枚脱げた?)"のだろうか? 7枚目のアルバムは、その名もズバリ! 目に飛び込んでくるのは、点線にそって切り抜かれた穴から覗く赤い男性用下着。今となっては「あら♡」と、下世話な妄想を我々庶民に喚起させてしまう(わかりやすい)モチーフだが、当時のファンとしては「なんじゃこりゃ?」だったのでは? ちなみに同時期のツアー・タイトルが「Under Your Underwear」で、マッキーは君たちのパンツのさらに奥の奥へと……。

そして99年の9thアルバム「Cicada」(英語でセミの意味)[7]では、緑がまぶしい木々を背に、暗い旅館の中でひとり物思いにふけるマッキー。和服姿で佇む彼は、輝く緑から目を背け、いささか沈鬱な面持ちだったりもする。ポジティブネス全開の「UNDERWEAR」から2年半の間に、マッキーにいったい何が起こったのでしょう? そして同作リリースから2ヵ月後、マッキーは檻の向こうへと……。

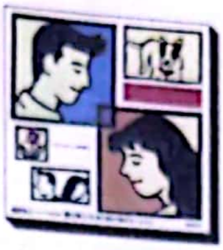
後期マッキー

中から外へ、そして……

2000年秋の復帰第1作「太陽」[8]の赤と青のコントラストは、今までの彼のイメージにはない、ある種ギラついたムードを感じさせます。それは過去の痛みを伴いながらも、さらに前進しようとする彼の決意なのでしょうか？ そして01年のシングル「Are You OK?」

CamScannerでスキャン

初期マッキー



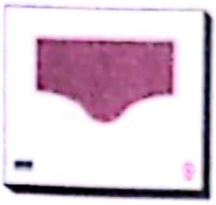
[1] 君が笑うとき君の胸が痛まないように
90.10.25

[2] 君は僕と幸せなあくびをしますか
91.9.25

[3] 君は僕の宝物
92.6.25

中期マッキー

[4] PHARMACY
94.10.25

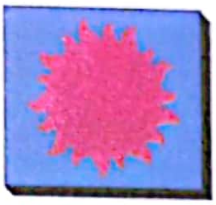


[5] UNDERWEAR
96.10.25

[6] まだ生きてるよ
96.11.18

[7] Cicada
99.07.07

後期マッキー



[8] 太陽
00.11.29

[9] Are You OK？
01.10.24

[10] Home Sweet Home
01.11.21

[11] EXPLORER
04.08.11

[9]。黒い影の人物はマッキー本人？ 雨(涙？)を遮る黄色の傘を手に、彼はどこかに歩いていこうとする。

さらに同年の復帰第2作「Home Sweet Home」[10]は、前作とは対照的な暖色系デザイン。傘を手にしていたマッキーには、果たして「温かい家」が見つかったのでしょうか？ また、この何気ない"やすらぎ"感こそが、後のミリオン・ヒット「世界に一つだけの花」へとつながっていくような……。

そんなマッキーが次にめざしたのは、外も外。大宇宙！ めでたくオリコン1位となった04年の「EXPLORER」[11](どうでもいい話ですが「Very Best Of Led Zeppelin」のジャケと瓜ふたつですね)。"探索者"というタイトル通り、マッキーはパンツの中→あっちの世界→シャバ→そして宇宙にまで旅立って、ついに「僕が一番欲しかったもの」(シングルカット曲)を見つけてきたのです！ まさにそれこそが〈僕があげたものでたくさんの人が幸せそうに笑っていて それを見た時の気持ちが僕の探していたものだとわかった／今までで一番素敵なものをぼくはとうとう拾う事が出来た〉(同曲の歌詞より) という境地なのでしょう。

＊

過去の醜聞やゴシップから来る先入観、あるいは「生理的に顔を受けつけない」といった貴重なご意見まで含め、アンチ・マッキー派の人間もまた存在するとはいえ、俗世間的なしがらみを軽く超越したところからふり撒かれる、彼の"優しさ"≒博愛精神めいたものこそが、マッキー人気の秘訣なのでは？と手堅くまとめて、おしマッキ〜！(マイケルの口調＆身振りで)。☆

＊謝辞・90年代のマッキー人気については宮崎ハヤ夫氏から貴重なご助言をいただいた。記して感謝したい……つうか職探せ！

「僕が一番欲しかったもの」作詞・作曲：槇原敬之

CamScannerでスキャン

ヴィジュアル・センスもファン!ファン!フ

プロモ・ビデオからライヴまで――映像に溢れ出た槇原の「もうひとつの顔」

絵が上手で、お洋服とアクセが大好き。髪やヒゲを切ったり伸ばしたりと見た目もコロコロ変えるマッキーは、実は人一倍ヴィジュアル志向の強いアーティストなのかも。プロモーション・ビデオ(PV)やライヴなどの映像作品を通して、CDを聞いてるだけじゃわからない彼の豊かな一面に迫ってみよう!

文▶吉田正太[ライター]

ファンならどこかで目にしたことがあるだろうが、槇原敬之は絵がうまい。サラサラッと愛嬌のある絵を描く。また、槇原はお洋服が大好きだ。イキで気さくなファッションに命をかけている節がある。彼自身は音楽だけで勝負していきたいのだろうが、そのセンスやキャラクターは「音楽」という器には収まりきれず、音楽が映像を伴ったとき、溢れ出てくる「マキハラ」というものがある。

恋物語の「主役」から「守護天使」へ

まずはPVを見てみよう。槇原のPVには、いくつかの変遷がある。「冬がはじまるよ」に代表される、初期の「やらされている感」の強いPV。新人槇原は、もっとエラい誰かが設定した「ラヴ・ソングの若き歌い手」を、一生懸命演じている。大きすぎる衣装を着せられてダメな自分を歌う槇原、それはそれで愛嬌があったピンクを背景にコロコロと表情を変えてみせるアイドル風の「No.1」は、さすがになんだが)。

だがヒット・メーカーとしての地位を着実に固めていった槇原は、だんだんと自分のセンスを主張できるようになったのだろう。彼はもともと、すべてを自分でコントロールしたがる完璧主義者だ。PVでいえば、「SPY」の出来はそれまでと一線を画すもので、これこそ「槇原のセンス」なのではないか。深夜にさかんに流れた15秒スポットですら、思わず凝視してしまうほどカッコよかった(ザラッとしたモノクロの映像で、上昇するエレベーターの中、槇原が静かに「SPY」の一節を歌う)。

何でも自分でやりたがる槇原も、この「SPY」あたりで満足したのか、その後、次第に他人のセンスを取り入れることを許すようになる。完全英語詞でファンを驚かせた「SECRET HEAVEN」では、ジャケットやPVを

PV PICK UP

まだ初々しい「どんなときも。」

槇原が殺されてしまう、ノワールな「SPY」

Me CompanyのCGアニメが可愛い「COWBOY」

腹話術の人形が微妙にかわいい「素直」

Pierre et Gilles調の「HAPPY DANCE」

素槇原全開、残酷な「Hungry Spider」

ン!

DVD PICK UP

「NORIYUKI MAKIHARA VIDEO CLIP COLLECTION 1990-2001」
(ワーナーヴィジョン WPBV-80010)
「どんなときも。」から「Are You OK?」まで集大成

「STRANGE ATTRACTIONS?」
(SME SEBL-12)
こちらはソニー時代のPV集。「素直」、ピアノが回る「STRIPE!」、マッキーの「SPY」、ショッキングな「Hungry Spider」など、ソニーらしく凝ったクリップばかり全8曲

「NORIYUKI MAKIHARA SYMPHONY ORCHESTRA "cELEBRATION"」
(東芝EMI TOBF-5340~1)
PVとは違った形でマッキーの素顔が体験できるゴージャスなシンフォニー・ライヴ

ロンドンのデザイン集団Me Company(ビョークのジャケットなどで有名)に一任。また「HAPPY DANCE」のPVは明らかにフランスのポップ・アーティストPierre et Gillesの作風を取り入れているし、「明けない夜が来ることはない」では、宮沢賢治の「銀河鉄道の夜」をイメージしたというシックな映像が美しい。もはや誰かの干渉ではなく、自ら他のアーティストとのコラボレーションを楽しむようになったと見える。

この変化とほぼ同時に、PVでの槇原は自分が歌う恋物語の「主人公」役を降りた。主人公でなく「語り部」を演じるようになったのだ。小橋賢児・浜丘麻矢が演じる若く不器用な二人を見守るように歌っていたり(「どうしようもない僕に天使が降りてきた」)、手に持ったヌイグルミに寂しい気持ちを代弁させたり(「素直」)、紙芝居を使ったり(「Hungry Spider」)と形態は様々だが、槇原が語り部役なのは共通。恋物語を演じるには年を取ったということもあるが、それより、彼のいるステージが「個々の恋愛に悩むステージ」から「恋愛そのものを俯瞰するステージ」に上がった、と見るのが正しいのではないか。「桃」や「明けない夜が来ることはない」ではさらにステージが上がり、「生きること」全体を俯瞰して語っているようにも見える。

サービス精神、ノリのよさこそ本質!?

PV以外の映像にも触れておきたい。繊細な歌詞とは裏腹に、青年槇原は本当によくはしゃぎ、よくふざける。とにかくサービス精神が旺盛。これはテレビ出演時などに顕著で、果敢にも明石家さんまにギャグを教えたことは記憶に新しい(以前からライブでよくやっていたネタで、コンビニ口調の「ありがとうございま～す♪」)。コンサートDVD「cELEBRATION」に収められた舞台裏でのはしゃぎっぱなしの槇原は、きっと本気ではしゃいでいる。さらにはアルバム「Such a Lovely Place」のオマケ映像で、幼稚園児や看護婦の格好をして踊り狂う槇原……これは悪ノリ過ぎです。これらのスチャラカな姿が彼の本質であると考えると、逆に、彼がいかに「音楽」というものにストイックに対峙しているかが分かる。二、三の例外を除いて、彼は自分のサービス精神を抑え込み、ひたすら真摯に音楽に取り組んでいる(「二、三の例外」がどの曲かは、各自考えてください)。

さらに言えば、声の変化を恐れて治さずにいるあの歯並び。情けないハの字眉も田舎っぽい脇や唇も、彼の歌詞、声、そして生き方と重ね合わせたとき、「正直さ」や「誠実さ」を表すものに転化する。両面を楽しませ、音楽を突き詰めることに徹したからこその、正直さと誠実さ。槇原は意識していないかもしれないが、これこそが、槇原敬之が人を惹き付ける天性のセンスなのではないか。★

CamScannerでスキャン

マッキーと私たちの Home Sw… Ho…

歌に描かれた、記憶のなかの「ふるさと」

槇原が大阪府高槻市の出身であることはみなさんご存じのとおり。だが彼の歌には、ここだと特定できるほど明確な故郷の描写が出てこない。だからこそ多くの人の共感を得られるわけだ。そうと知りつつも、大阪出身のふたりがそれぞれに「ふるさとの風景」探しに挑んでみました。

文▶榊ひろと［音楽解説者］

普遍を目指してあえて抽象化？

1stアルバム『君が笑うとき君の胸が痛まないように』はアマチュア時代に書き溜めていた作品を中心に構成されているため、高槻市周辺を舞台にしたものと思われる曲が多い。「ANSWER」の〈地下鉄の改札〉は京阪神のどこか、「NG」の〈私電の高架下〉は阪急京都線ということになるのだろうが、具体的な場所を特定するような描写はなく、大都市圏ならどこでもあてはまるような情景ではある。自身の体験や感情をそのまま歌にするのではなく、より多くの聞き手がコミットできるような普遍性を持たせようという作家的な姿勢をデビュー当初から意識していたのではないだろうか？

「桜坂」は具体的な地名として存在するのかもしれないし、〈僕らの街の言葉は／正直綺麗じゃないけれど〉は地元の方言を指すのだとしても、どこの地方の人でも抱きがちな考えとも言えるだろう。「CLOSE TO YOU」に出てくる鉄道の車両やホームは阪急かJRか判別できないものの、〈山の手から下りてくる北風〉という表現は明らかに高槻の地形や風土を感じさせる。

91年の「EACH OTHER」(2nd『君は誰と幸せなあくびをしますか。』)では〈ラッシュアワーの〉〈ホーム〉やら〈地下鉄の改札〉といったフレーズを「CLOSE~」と「ANSWER」から使い回していたりもするが、このアルバムで目を引くのは〈卒業式の20日後に〉で始まる「3月の雪」であろう。「桜坂」に続く"卒業もの"に位置づけられ、こうした中学／高校時代の友人に関わるエピソードは、槇原作品の主たるモチーフのひとつとなっていく。このあたり90年代に盛んだった青春群像ものドラマに通じるものがある。

〈同窓会の案内状／欠席に丸をつけた〉という92年の「遠く遠く」(3rd『君は僕の宝物』)はその最たるものだろうが、注目されるのは〈外苑の桜〉とか〈どんなに高いタワー〉とか東京の具体的な場所が織り込まれているのに対して、〈僕のふるさと〉についての絵は見

マッキー・ソングの「ふるさと」を歩く

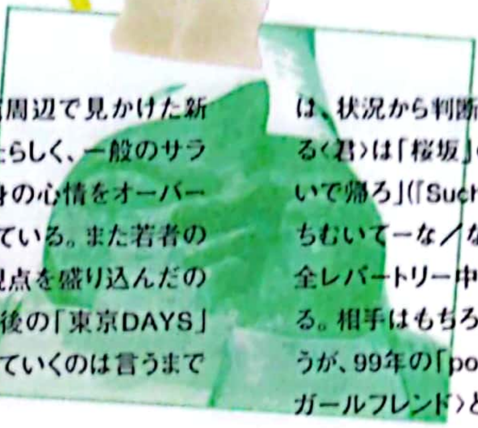
エクスプローラー(文と写真)▶宮城正樹［知ったかブンセキ家］

「No.1」の〈チョコレイト工場のにおい〉の元と思われる明治製菓の高槻工場。実際にはチョコだけを作っているわけではないし、匂いも漂ってくるほどじゃない。沿線は国道でひっきりなしに車が往来して騒がしい。マッキー流にディズニー的ドリーミー・ワールドを創作したというわけだ。隣は地元じゃ明治製菓よりも有名なサンスターの工場。ペパーミントな香りはしないが、マッキーならマジック・ワードに変換できただろう。

マッキーは淀川の河川敷で曲想を練ったというが、詞にはあまり出てこない。むしろ川向こうに光る大阪の灯を見ていろんな思いを巡らせていたのかも。「No.1」に〈あの河原に自転車で／連れて行くよ〉とあるが、その河原とは第1級河川の淀川より、おそらくこの支流の芥川のほうだろう。まったり、ゆるやかに流れるこの川ともうひとつ、草藻が漂う女瀬(にょせ)川に挟まれた街で、マッキーは生まれ育ったのである。

CamScannerでスキャン

「ANSWER」「NG」「桜坂」「CLOSE TO YOU」「EACH OTHER」「3月の雪」「遠く遠く」「東京DAYS」「No.1」
「OCTAVERS」「LOVE LETTER」「手をつないで帰ろ」「pool」「RAIN DANCE MUSIC」「花火の夜」「Happy Ending」
すべて作詞・作曲：槇原敬之



えないということだ。実際に外苑周辺で見かけた新人社員の姿にインスパイアされたらしく、一般のサラリーマンや学生の姿を借りて自身の心情をオーバーラップさせるという手法を確立している。また若者のマジョリティである"上京者"の視点を盛り込んだのも普遍性の増大に寄与、これが後の「東京DAYS」(5th『PHARMACY』)につながっていくのは言うまでもない。

十代の記憶に大きく依ったラヴ・ソング

93年の大ヒット曲「No.1」に登場する〈チョコレイト工場〉は、実際に高槻市に存在する明治製菓のことであろう。〈あの河原〉が工場近辺の小さな支流のことか、淀川本流のことかは判然としないところだが。翌年の「OCTAVERS」(『PHARMACY』)はドラマにでも出てきそうなプチ同窓会的な舞台設定であり、〈山の墓地を抜けたらすぐ〉の〈僕らだけの秘密の場所〉も高槻にありそうな風景である。また〈好きだ嫌いだと騒いでいた／やつらに首をかしげていた〉というのは、いかにも音楽一筋だったマッキーの青春時代らしいが、この曲でも「No.1」と同様に"愛する人をいつか故郷に連れていく(くる)"決意を表明しているのが興味深い。友人や親たちの待つ故郷(過去)と恋人のいる東京(現在)の折り合いをつけるというテーマは、「北風」の〈誰かを愛したその時から／家族の意味さえ変わってしまう〉と呼応するものではないだろうか?

96年の名曲「LOVE LETTER」(『UNDERWEAR』)に出てくる〈線路沿いのフェンス〉や〈向かいのホーム〉は、状況から判断してJR高槻駅と考えられる。登場する〈君〉は「桜坂」の〈君〉だろうか。97年の「手をつないで帰ろ」(『Such a Lovely Place』)では〈なぁ　こっちむいてーな／なぁ　きげんなおしてーな〉と槇原の全レパートリー中で唯一、関西弁の歌詞が使用される。相手はもちろん「LOVE LETTER」とは別人だろうが、99年の「pool」(『Cicada』)における〈16の時のガールフレンド〉と推測され、〈16の自分〉や〈プール〉の出てくる1stの「RAIN DANCE MUSIC」にもつながっている。00年の「Going Home」(『太陽』)は失意の人物の望郷の歌、01年「Home Sweet Home」にはタイトルに反して故郷に言及した曲は見られない。

02年『本日ハ晴天ナリ』における「花火の夜」では「pool」と同じく現在の光景から過去の想い出がフラッシュバックするという手法をとっており、こちらの〈今遠くにいる君〉は「桜坂」や「LOVE LETTER」と同一人物に思える。同アルバムの「さよなら小さな街」は明らかに自身の経験をベースにした"故郷／東京"ソングだが、寓話的な語り口が用いられているのと聞き手にメッセージを還元しようという姿勢が以前との違いだろう。

最新作『EXPLORER』収録の「Happy Ending」には〈太陽の塔〉や〈万博後の遊園地〉と極めて具体的な場所が登場し、昔日の槇原家のものとおぼしきエピソードが描かれる。ラヴ・ソング作りにおいては10代の経験に多くを依ってきたマッキーだが、"家族"をテーマとした同アルバムでは「夏は憶えている」にも見られるように、さらに幼少時の記憶を"探索"する必要があったようだ。☆

高槻市の西隣の茨木市にある、マッキーの母校・春日丘高校。ここでの思い出は多くの曲に出てくるが、最初のケースは、卒業式の時点から後の気持ちの行方を想像した「3月の雪」だろう。学校の周辺には、「Happy Ending」に出てくる〈万博跡の遊園地〉すなわちエキスポランドへと通じる「エキスポ通り」がある。「CLOSE TO YOU」や「てっぺんまでもうすぐ」の観覧車を含めて、マッキーの歌には遊園地への言及が多い。

JR摂津富田駅。「CLOSE TO YOU」の〈少し冷えた駅のホーム〉はここか、と思わせるロケーションのひとつだ。急行が停まらず、冬は冷え込む。「さみいきもち」の主人公の最寄り駅も同様だろう。かたや〈自転車でなら10分と少し〉なのに〈電車の沿線は全然ちがう〉恋人は阪急富田駅。ほぼ並行して走っているJR京都線と阪急京都線の距離が一番縮まるのが両駅間なのだ。JR西日本vs阪急の構図は、尼崎の脱線事故の一因とも言われた。

とびっきり冷たーい「北風」を発生させるポンポン山を背にした高槻市。冬の寒さはかなりの頻度でマッキーの歌に出てくる。山側には高槻の観光スポットが多数あり、全国的にも有名な摂津峡に加え、花の里温泉の露天風呂の眺望などが相乗効果を呼んで、さらに風を冷たくしているものと思われる。一方で、春には桜が咲き乱れる桜公園もあり、その名所を頭の片隅に置いて「桜坂」なる曲も作ったのではないか。

CamScannerでスキャン

天才アーティストの“変わりゆく肖像”

“自分探し”をも愉しむ快楽主義者・槇原敬之のドラマティックな旅

ひとりよがりな気分や思想信条を吐き出すのではなく、普遍的なメロディと言葉を紡いで職業に徹するプロフェッショナル。
そんなイメージのある槇原だが、見ようによっては彼ほど“自分探し”を歌に託してきた人もいない。
己の中の悪意、狂気、暗闇と、傷きながら対峙し、その葛藤を愉しむ度量、あるいは嗜好。
それが槇原に数々の傑作を生み出させてきたのではないだろうか。稀代のガチンコ大衆芸術家の大いなる足跡をたどる。

文▶宝泉薫［著述業］　写真提供▶産経新聞社

19世紀英国の作家、オスカー・ワイルドに「ドリアン・グレイの肖像」という小説がある。美貌と純真さとを併せ持った青年が、同性愛者とおぼしき男に感化され、アヘンなどの背徳的快楽に耽溺していく物語だが、傑作たるゆえんは、その堕落をひとつの肖像画に象徴させたことだろう。その肖像画を贈られた青年は“自分の代わりに、絵のほうが年を取ってくれたら”と願い、それが現実と化す。すなわち、彼が罪を犯すたびに、肖像画だけが醜悪さを加えていき、生身はそのままの姿をとどめ続けるのだ。

これがまったくの絵空事とも思えないのは、“人生”と“芸術”とが常に不即不離な関係にあるからだ。たとえば、本書の主人公のように自分探しの葛藤を作品に託す傾向の強いアーティストの場合、ディスコグラフィーがそのまま本人の物語になったりもする。それこそ“槇原敬之の肖像”――。本稿は、その変遷を読み取ろうとする試みなのである。

槇原の中の“魔”が生み出した傑作群

まずは、出世作「どんなときも。」の歌い出しを想起してみよう。〈僕の背中は自分が／思うより正直かい?／誰かに聞かなきゃ／不安になってしまうよ〉――つまり、表舞台に登場した第一声から、彼は自分のあり方を大真面目に問いかけていたわけだ。そこへ行くと「愛は勝つ」のKANにはカップリングで「それでもふられてしまう男」とオチをつけるシャレっ気があったし、

シングル
「どんなときも。」

WEAミュージック
91年6月10日発売

「それが大事」の大事MANブラザーズバンドに至ってはそもそも、リーダーがアイドル、森尾由美と中学の同級生だったことをネタにした「MO-RIO」という曲でデビューするようなお調子者集団にすぎなかった。そんな当時の“自己啓発ソング御三家”(何しろ、3曲合わせて600万枚以上も売れた!!)の中で、槇原だけが生き残れたのも、歌を通しての自分探しにハマれずにはいられない“何か”があればこそだろう。

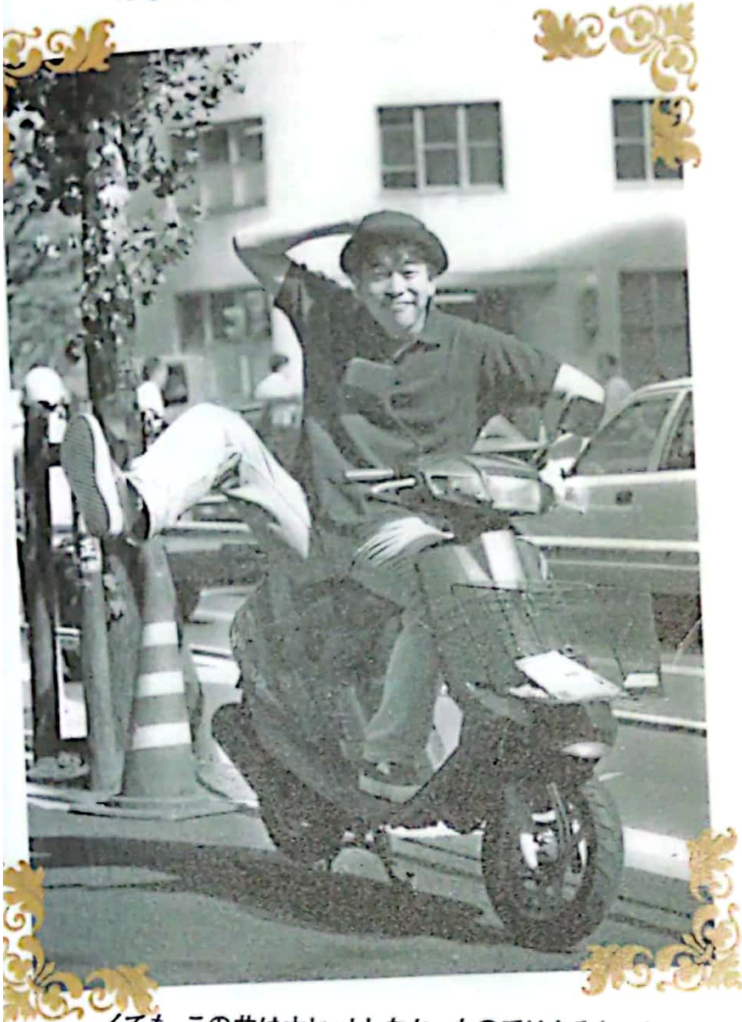
その“何か”を考える上で重要なのが「音楽で、誰かの役に立ちたい」という上京時の発言である(*1)。親を説得するための大義名分でもあったようだが、人並、あるいはそれ以上のコンプレックスを抱えていたかもしれない若者が、等身大の自分を投影した作品によって応援ソング的な共感をかち得たのだ。それはまさに“淋しがり屋の音楽オタク”が“自分をさらけ出した歌で誰かの役に立つ”という喜びを知った瞬間だったに違いない。

むろん、自分をさらけ出すというのはかなりの危険を伴うが……。幸いにも、時代は彼に味方した。たとえば「冬がはじまるよ」には〈すごくうれしそうに／ビールを飲む横顔がいいね〉というジェンダーのビミョーさをうかがわせるフレーズが出て来るが、それは当時のフ

4thシングル
「冬がはじまるよ」
WEAミュージック
WMD3-3015
91年11月19日発売

ェミニズム的空気の中で新鮮な感性として聴かれることになる(同じ意味で「北風～君にとどきますように～」の〈誰かを愛したその時から／家族の意味さえ変わってしまう〉も気になるが、これは家族思いの好青年というイメージで処理されたのだろうか!?)。

さらに、極めつけの幸運は「SPY」である。恋人を尾行する男の話だが、当時、現代人のストーカー心理については注目され始めていたものの、規制法まではまだ布かれていなかった。おそらく、あと数年早くても遅



くても、この曲は大ヒットしなかったのではあるまいか。何せ、これは失恋ソングというにはあまりにも危険な領域に踏み込んでおり、精神病理的な怖さが随所に感じられるからだ。自分とのデートを断った恋人を偶然見かけただけで〈運命的〉と狂喜したり、服装を〈変装に近い〉と疑ったり、別の男とのキスを目撃して涙しながら〈今僕を笑うやつは／きっとケガをする〉と他人に毒づいたり、過去の抱擁が〈君の身体に／アザのように残ればいい〉とサディスティックな呪いをかけたり……。中でも特筆すべきは、尾行を思いついた際、別の男と会っている可能性を危惧しながらも〈2人の日々が大丈夫だと／背中を押す〉と、決行するところである。それならば尾行しなくてもよさそうなものなのに、この時点で主人公は尾行のスリルに取り憑かれており、それが恋人間のルールを破ることも省みずに、快楽に身を委ねるのだ。

そこには、屈折した快楽主義者としての槇原が透けて見える(そうではないと思う人は、前奏や間奏の楽しげなコーラスに耳を傾けてほしい!!)。デビュー以来、彼はルックス面においても変身を繰り返していくが、それはどんな“マッキー”ならOKかを、自分にも他者にも問いかける一種の実験といえた。そんな変身ぶりが意外と面白がられたように、自分の中のヤバそうなところまでさらけ出した作品がミリオンに迫るセールスを記録したのである。いってみれば、彼は自らの“仏”ではなく“魔”の部分でも勝負できるという、アーティストとしての理想の境地へと足を踏み入れた。そして5年後、「Hungry Spider」の衝撃で、ファンを驚かせるわけだ。メルヘン的手法を採っている分「SPY」の生々しい迫力には及ばないが、ストーリーテラーとしての成熟を見せつけたこの作品は、例の事件がなければ異色の傑作として語り継がれることになったに違いない。

12thシングル
「SPY」
ワーナー WMD2-7704
94年8月25日発売

“等身大の自分”より“なりたい自分”

しかし——。中世の僧・一休が「仏界入り易く、魔界入り難し」と言ったように、芸術においても“魔”の世界を極めていくのは簡単ではない。例の事件以後、彼は“仏”になろうと精進する一方で、“魔”については封印、もしくは否定的にしか描かないという態度に変わった。本人いわく「色メガネで見られ、歌がなかなか届きにくい状況」に追い込まれた〔*2〕とはいえ、これはもったい

CamScannerでスキャン

ない。というのも、槇原流ラヴ・ソングの妙味は、ジェンダーのビミョーさに立脚する屈折したエロスにあったわけだが、彼はその路線をやめ、人間愛を探究していく道へと転向。これは歌謡曲やポップスの主成分であるエロスを消滅させるという意味で、自殺行為に近かった。そんな中「世界に一つだけの花」という大ヒットが生まれたものの、それは国民的アイドルのSMAPというエロス的存在が、足りない部分を補完したおかげ。彼自身のオリジナルはといえば、盛りをすぎたあとのさだまさしみたいな説教臭い道歌ばかりが目立つようになっている。

22ndシングル
「Hungry Spider」

SME　SRCL-4535
99年6月2日発売

もっとも、それが作品及び商品として成立しうるのは、本人はもとより、そういうものをよしとする人々が一定数存在するからで……。謹慎中の彼を、めいめいのやり方で励ました坂本龍一と矢野顕子あたりも、その中に含めていいかもしれない。ステイタスある先輩音楽家からの救いの手。それを差し伸べたのが、仮に田代まさしとかだったら、あそこまで元気(!?)になれただろうか。これにより、彼の傷ついたプライドは満たされ、善人音楽家への道をまっしぐら。ひいては「これはただの例え話じゃない」の如き、校長の訓話みたいな歌を作るのであ
坂本や矢野のした
は、人間としては
かく、芸術家とし
槇原を結果として
させたというべき
。
ともあれ、再び強
いのは彼が“屈折した快楽主義者”だというこまり、彼は“快楽としての善行”に目覚めたの
今東西を問わず、ボランティアに走ったりする
は珍しくないが(槇原と同い年の桜井和寿も、
のための銀行を設立して出資している)、彼
ある音楽で善行を説き、自浄感や高揚感を
それがいかにも好都合なのは、例の事件
んとなくカムフラージュできることだろう。

27thシングル
「これはただの例え話じゃない」

ワーナー　WPCV-10199(初回限定盤)
02年9月26日発売

しかも、いくつかの発言を見る限り、彼はそれほど反省してはいない(本人は“可愛い万引き”にたとえたりしている(*3))。実際、それほど反省すべきことでもないわけだが——。一方でこれがいかにも不都合なのは、とことんまで落ち込むことなく、また自らの“魔”についても以前より隠すようになったため、せっかくの善行ソングも今ひとつ迫力不足なことである。おそらく、今の彼は“等身大の自分”より“なりたい自分”を歌う他ないのだろうが、それに救われる人はたぶん、相田みつをや中谷彰宏でも大丈夫なはず。その点「Hungry Spider」には“監禁王子”こと小林泰剛容疑者のような人を救える可能性も潜んでいただけに、惜しい。

それにしても、彼は今後、どうなるのか。ここで話を冒頭の小説に戻すと、肖像と生身との逆転現象におののいたドリアン・グレイは、善人に生まれ変わろうと努力するものの、肖像にはかえって偽善者のイヤらしさが加わるハメに。そこで彼は、絵の中の自分を切り裂くことで決着をつけようとする。が、その瞬間、肖像は最初の状態に戻り、その前には若くも美しくもない醜悪な男の死体が残されていた、とまあ、壮絶なオチがつくわけだ。

24thシングル
「Are You OK?」

ワーナー　WPCV-10153
01年10月24日発売

しかし“槇原敬之の肖像”の場合は、そんな悲劇的なことにはならないだろう。というのも、前出の小説の場合、キリスト教的モラルの束縛によって主人公はそれこそ生きるか死ぬかの懊悩をするわけだが、現代日本に生きる槇原はもう少し気楽でいられるはずだからだ。先に“快楽としての善行”という話をしたのもそういう意味だし、さらに言うなら、今の彼にとっては“自分探し”そのものが快楽と化している気もする。転んだ人を助けたら、自分がまた転んだときにも助けてくれるはず、と歌う「Are You OK?」などはまさに、そんな果てなき自分探しの旅を愉しんでいくためのBGMといえるのではないか。

本屋に行けば、人生のハウツー本が氾濫している今日この頃。槇原はそんな世の中の先頭に立って自分探しを続けている。ある意味、他の誰よりも時代と寝ているアーティストなのかもしれない。★

「どんなときも。」「冬がはじまるよ」「北風～君にとどきますように～」「SPY」いずれも作詞・作曲：槇原敬之

PART 1

ボクもワタシも、マッキーに夢中！

今年、デビュー15周年を迎える槇原敬之。
彼の音楽、彼の言葉、彼のキャラクター、
その魅力をマルチに照らし出し、論じます。
マッキーこそ「世界に一つだけの花」？！

恋愛サンドバッグ・マッキー　「女性が共感する男歌」のナゾ

マッキー好きな男はなぜ恥ずかしいのか？

アンケート——私が唸った必殺フレーズ

お茶の間に進出したマッキーの異能

「世界に一つだけの花」が咲くまで

相田みつをとマッキー

CamScannerでスキャン

女性リスナーが槇原のラヴ・ソングに"共感"する理由

10年前もドスドス! 今日もドスドス? 恋愛サンドバッグ・マッキーの素晴らしき世界

文▶丹菲ヒロコ[作詞家]
イラストレーション▶いんなみりさ

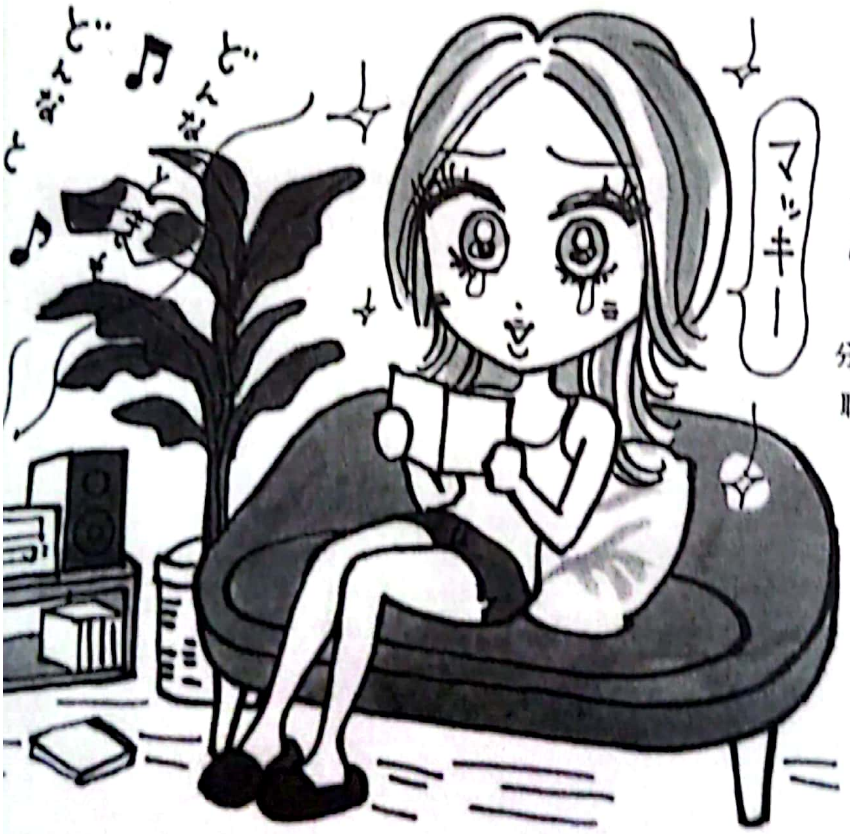
私は基本的に男の作家が書いた恋愛小説は読まない。
には面白いものもあるんでしょうが、辻仁成が中山美
に初めて会った時に「やっと会えたね」と言っちゃった
自己陶酔に付き合わされたら……と逃げてしまう
。単なる先入観じゃんと言われればその通りだけ
男性が書いた歌詞も、ある意味あんまりあてにして
い。憧れの対象として素敵な人はたくさんいるし、
岡村靖幸のようにオレ好きが功を奏して面白い場
るにはある。でも全般的には、聞き手の共感を誘
のリアルな感情を描かずきれいごとに終始する歌
と思う。虚勢を張って自分をかっこよく見せたが
て、男が自分の恋を回想するときの特徴なのかな。

年代の恋のBGMとして A子さんの場合

私の話に、そうよね、と頷いてくれたA子さんは現在33歳。10年以上前のこと、大学に入ってすぐサークル内に彼氏が出来た。彼女は青森から出てきて一人暮らしだけど、彼氏は実家暮らし。付き合い始めて一泊、二泊とするうちになんとなく自分のアパートで半同棲のような形になった。でも、ちょっと気が強くて行動的なA子さんは、付き合ううちにだんだん物足りなくなってくる。優しいけど欲がなくて優柔不断、そんな彼にいらついてきたのだ。何回も別れそうになっては持ち直したけど、1年後ついにA子さんは彼に別れを告げ、新たな道を歩みだす。ところが、自分からふっておきながら、彼女は楽しかった彼との日々をよく思い出していた。

90年代前半にA子さんみたいな恋愛をしていた現在30代以上の女性たちにとって、マッキーの歌を聞くとは、すなわち、恋の中で生まれては消えたり残ったりするさまざまな気持ちを思い出すことだった。ユーミンやドリカムもいたけれど、男性ではマッキーが最強、というか、ほとんど唯一と言っていいくらいの存在だった。

まずは、初期段階の乙女気分。〈あの初めてのKISSの/聴こえそうなドキドキも/寄り添う2人の髪が/同じ香りになる夜も/ずっとわからなかった/数学の答えみたい/僕と君が出会ったのは/もう偶然じゃない〉(「僕の彼女はウエイトレス」)。そう、あなた



槇原敬之が"恋愛教の教祖"のひとりだった90年代。女性たちは口々にその魅力を語りました。「マッキーってなんであんなに女の子の気持ちがわかるんだろう」「男の子にも、あんな優しさを持った人がいたのね」「恋の初めのウキウキも、失恋の克服法も、マッキーが教科書なの」──男のラヴ・ソングは山ほどあるのに、マッキーばかりがなぜモテる？　その理由を"当事者"(!?)たる女性の側から、考察してみました。

と出会ったのはもう偶然じゃない！　モヤモヤした気持ちを、マッキーの歌が代弁してくれた。

恋愛終了後、なぜかA子さんは彼に傷つけられたと思い始める。〈君がどうしていなくなったのか／答えを探すように／洗濯機が回るのを眺めていた〉（「くもりガラスの夏」）。彼女も洗濯機を回すうちに、彼がきちんと将来を考えてないからよ！　と（自分からふったのも忘れて）ムカムカしてきます。

そこでまたマッキーを聞く。〈こんなに　いっぱいの／君のぬけがら集めて／ムダなものに囲まれて／暮らすのも幸せと知った〉（「もう恋なんてしない」）。すると、これまでは歌の主人公の「僕」に自分を重ねていた彼女なのに、今度はマッキーの歌う「君」が自分に、「僕」が彼になってしまう。男歌として聞くと、下手に出てくる寂しい男の歌に聞こえるってわけ。ほ〜ら、別れてみて私のすごさが分かったでしょ！　女って、なぜか男と別れるとちょっとした仕返しをしてやりたいと思うもの。……思うよね？　そんな時、マッキーの歌がすっきりさせてくれるのだ。

☆「僕」「君」置換可能な男歌の不思議に迫る

聞き手の気分に応じて、「僕」になったり「君」になったり。一曲で二度も三度もおいしい。ムカついたときモノに当たるように、マッキーの歌を、サンドバッグよろしくドスドス叩いているわけです。実際に彼氏のモノなんか壊したら、たいていの男は「何すんだよ！　ふざけんな」って怒りますよね。「あぁ、こんなに君を怒らせた僕が悪かったんだ」なんて絶対言わない。でもマッキーは、キレて部屋を枕の羽根だらけにしても、追いかけてきて〈帰ったら部屋の掃除は／僕が全部やるから／一緒に帰ろう〉（「どうしようもない僕に天使が降りてきた」）と言ってくれる。ありえねー。でもうれしいよね。ドスドス。あの野郎、私みたいないい女と別れてどっか行きやがって。ドスドスドス。

いろいろ見方はあるでしょうが、マッキー・ソングは基本的には男歌。なのに、どうしてこんなにすんなり感情移入できるのか？　思うに、マッキーには男性としての気負いのようなものがあんまり感じられないのよね。〈"男らしく　いさぎよく"と／ごみ箱かかえる僕は／他のだれから見ても一番／センチメンタルだろう〉（「もう恋なんてしない」）と歌える人だけに、かっこ悪い部分も見せてなんぼ、という大阪的なサービス精神が備わってるせいもあるだろう。だって、「俺に付いてこい！」って言われても、女の子はあんまりうれしくない人が多いと思うし（「俺が食わせてやる！」ならうれしいんだけどさ）。実際、「君」と「僕」が置き換え可能な男歌なんて、そうそうないもの。

あと、恋をすると「何もかもが輝いて見える」とかいうように、日常の細かなところにも恋愛の機微を感じますよね。そんな女性にとっては、電車とか季節とか歯ブラシとか郵便とか、何でもないモノに気持ちを託すのが上手なのも、マッキーに共感できる理由のひとつだと思う。〈気持ちのアクセルなかなか踏み込めない僕は／出足がよくないと教習所でも言われてた〉（「彼女の恋人」）なんて、うまいでしょ。自分の気持ちを述べてから車の運転に喩えている。作詞家でも、気持ちを描くのがうまい人とモノやシチュエーションに喩えるのが得意な人に分かれるのに、両方うまいんだからたいしたもんです。

恋愛サンドバッグ・マッキー。今度は携帯電話をうまく使ったりして、また恋愛の歌を歌ってくれないかなー。★

「僕の彼女はウエイトレス」「くもりガラスの夏」「もう恋なんてしない」「どうしようもない僕に天使が降りてきた」「彼女の恋人」いずれも作詞・作曲：槇原敬之

CamScannerでスキャン

男の「マッキー好き」はなぜ「恥ずかしい」のか

恋愛シーンをてんこ盛りにしてしまうオバチャンっぽい、過剰な「おトク感」

文▶吉村智樹［B級C調フリーライター］
イラストレーション▶いんなみりさ

「男のマッキー好きは、なぜ恥ずかしいのか」

またキツイお題をぶつけられてしまった……。ここの編集部は、ほんと人を見透かしてくるよなぁ。このテーマには「あんた、その顔でマッキー好きなの？恥ずかしい〜」って含意があるんでしょ？ 前号のサンボマスター特集号でも、お題が「非美形な人とロック」って、それ絶対ほかのライターに振らないでしょ。

編集部に見抜かれた通り、自分も「恥ずかしくてマッキー好きを広言できなかった」ひとりだ。理由は、「(マッキーに負けじと) ブ男なお前が、自分の過去をふり返ってもドコにも見当たらない恋愛の歌なんか聴いて、キモ！」に尽きるわけだが、それでは話が終わってしまうので、もうひとつの理由を。

☆チマチマとしたプライドの小競り合い

槇原敬之の描く「紫陽花の垣根の前で小さなキスをする」ような恋愛はビター文の経験もないが、歌詞、というか独特の"言いまわし"が好きで、「まばたきの間の永遠」に出てくる〈世界有数の格好悪さ〉という言葉を、これまで何度も自筆のコラムに引用してしまった。槇原氏は「詞先」(＊曲をつくる際に、まず詞を書くこと) タイプとのことだが、「君は僕の宝物」でドーナツショップを〈ドーナツ屋〉と表現したり、〈日曜出勤〉〈洗濯籠〉〈旅行雑誌〉〈針目〉など、メロディを作るうえでの"文字数"を意識しながら古めかしい表現に置き換えてゆく小賢しさに、共感を抱かずにはいられなかった。頑なにAOR世界には行かない意地と拘り。YOR (ヤング・オリエンテッド・ロック) というか。

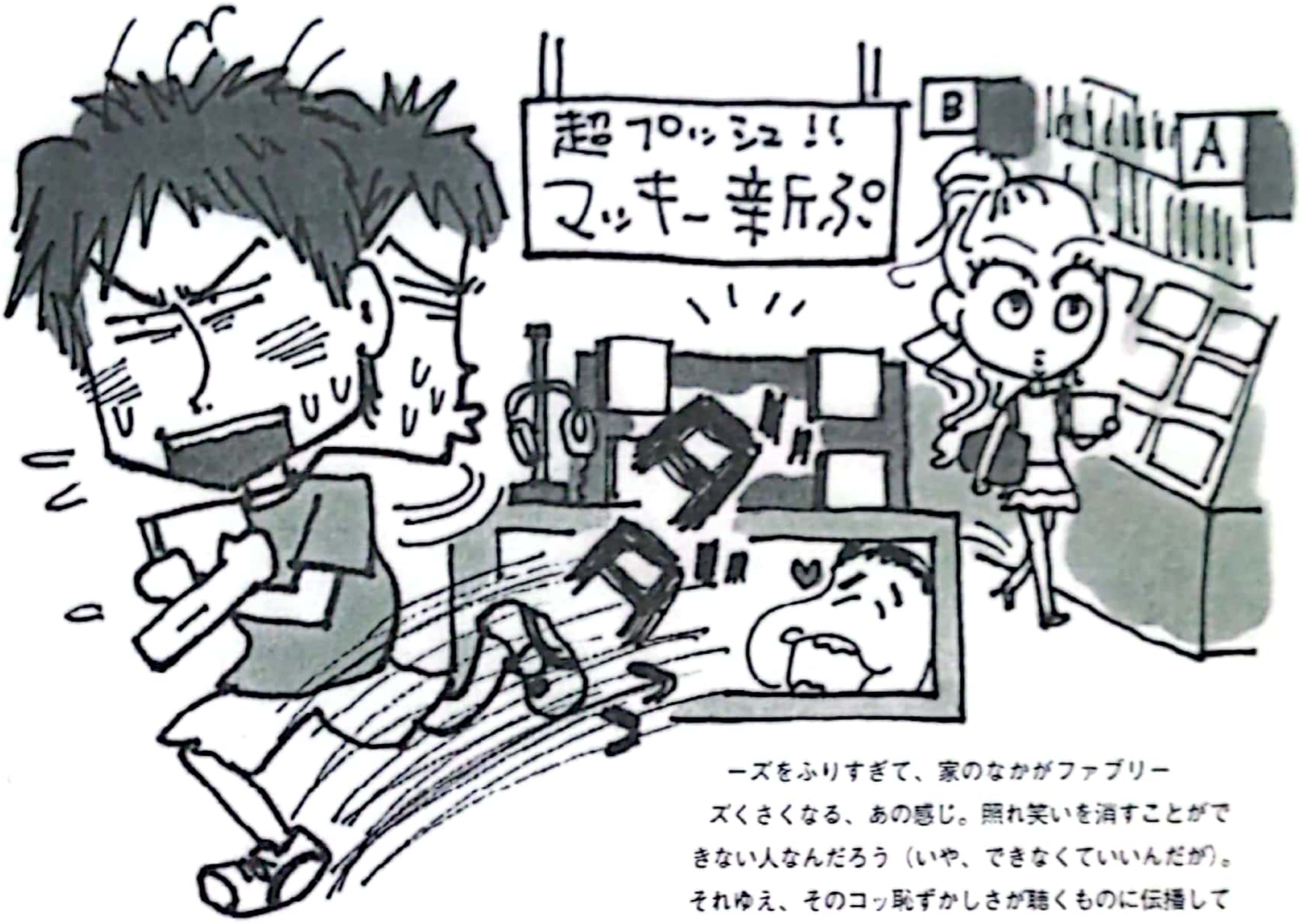
それでいて、決してさだまさしのような臆面もない懐古趣味には走らず、あくまで日常つい口について出てしまう"若年寄ワード"をチョイス。その選択の絶妙なことといったら。歌詞のなかに「あっちには行かない、でも、こっちには絶対に行かない」チマチマとしたプライドの小競り合いが見てとれて、それが文章を書く仕事に就く者には愛おしくてたまらず、シンパシーの嵐が吹き荒れてしまうのである。そして、そんなチマチマしてしまう業というかサガ、もっと言うと"文章の貧乏性"は、やはり他人には知られたくない、伏せておきたい恥ずかしい部分なのだ。

実はこれ、歌詞だけではなく曲にも言えること。本来なら山下達郎や小西康陽、大瀧御大を聴くような「ポップス好き」の間でもっと評価されるべき秀逸なメロディ、アレンジが施された曲が、とてつもなく多い。もともとデがYMO、そして洋楽ポップスに薫陶を受けた人。曲を作る作業は詞先だが、音楽の道への第一歩は「曲先」だ。ただ本人に「詞に耳が傾く曲」への執着が強く、強いゆえに絶賛求道中の未完成状態であり (ポップスが好きな人は、曲と、そこに描かれる恋愛との比重が均一で、どちらにも傾かないものを好む)、その小学生が作ったやじろべえの如き立ち位置グラグラ感がリスナーに伝わってしまう。これがためにに、そういったシーンからの評価が残念ながら、ない。

☆小器用でありながらも未だアマチュアリズムの人

槇原敬之の不幸は、曲がとてもいいのに、詞のなかの「出来ごと」が多いので、比喩ではなく本当に「傾

本来ならば、山下達郎や大瀧詠一のように「日本のポップス」としてもっと語られていい人なのに、男が「マッキーが好き」というのは、コッ恥ずかしい。それは自己顕示欲が旺盛でありながら、それを詞化することを恥ずかしがっているマッキーの心中が伝わってしまうからなのか。



いてしまう」ところにある。

歌詞を書くという作業は、そもそも恥ずかしいことなんだろうと思う。その恥ずかしさを作品にした時に完全に打ち消せ、鋼鉄のように客体視できる神経を持った人もいれば（たとえば古内東子）、恥ずかしさを商品に昇華できる人もいる（たとえば岡村靖幸）。

しかし槇原敬之は自己顕示欲が旺盛でありながら、それを詞化することを恥ずかしがっている。そのため、やたらと歌詞中にリアリティを強調し、情景をすでに越えた“情報”を入れて消臭しようとする。してしまう。そして、やればやるほど消えなくなる。ファブリーズをふりすぎて、家のなかがファブリーズくさくなる、あの感じ。照れ笑いを消すことができない人なんだろう（いや、できなくていいんだが）。それゆえ、そのコッ恥ずかしさが聴くものに伝播してしまう。

そういう点で彼は、小器用でありながらも未だアマチュアリズムの人であり、そのセミプロ感が共感（あるいは反感）を抱かせてしまうのだろう。おそらくこの人が“恥ずかしさの客体視”ができるのは「世界に一つだけの花」のように他人が歌う場合に限るように思う。

ただ、だから好きなんだ。その過剰な「おトク感」が。恋愛のシーンをてんこ盛りに盛りすぎてしまうオバチャンっぽさが。たとえ上質なダンスミュージックであったとしても、「久保田利伸が好きだ」と言うことの方が、本格的に恥ずかしいもの。なぜか。☆

「まばたきの間の永遠」「君は僕の宝物」作詞・作曲：槇原敬之

CamScannerでスキャン

本誌執筆陣22人アンケート

ワタシを唸らせた“必殺フレーズ”大集合!

イラストレーション▶[illegible]

マッキー・ファンが集まれば、お気に入りフレーズの出し合いっこの始まり、始まり～。冒頭、号泣、爆笑――いろんな反応を呼ぶ槇原さんのすばらしきレパートリーから、本誌執筆陣のみなさんがいちばん「やられた」フレーズを1～2つ抽出していただきました。私だったら、僕だったらこれだな、と照らし合わせて楽しんでチョーダイ!

安部薫［ライター］

僕のあげたものでたくさんの人が幸せそうに笑っていて

「僕が一番欲しかったもの」22nd Single／13th Album「EXPLORER」

このフレーズには[illegible]。大人だね、マッキー。

五十嵐十五［ライター］

今までで一番 素敵な恋をしようよ もうこんな僕で いいかななんて思わない

「No.1」15th Single／4th Album「SELF PORTRAIT」

結婚して、カミさんからガミガミ言われ、家庭内不和が続く毎日ですが、この曲を聴くと昔の日々を思い出します。もっと過去に遡れば、おつきあいしてきた女性はみんな、この曲で歌われる気持ちを抱いてきたと思います。でも、なんでダメになったのでしょうか? 結局「No.1」なんてものは、ないのかな……。だけど、ナンかして[illegible]のカミさんに捧げます。

上田健二［編集者］

君はなんだか他人みたいに 僕におじぎをしてみせた 「愛を勘違いしないでください」って

「どうしようもない僕に天使が降りてきた」15th Single／7th Album「UNDERWEAR」

愛とは本来勘違いであるはずなのに、勘違いしないでください[illegible]。ずるい、でも、勘違いしないでって言っちゃう勘違いこそ恋の[illegible]。ちょっと[illegible]、でへ、ずるくてかっこう、それが恋、それがマッキー。

小川真一［音楽評論家］

“毛深い男じゃモテないぞ” 図解説明（ワキ・スネ）

「印度式」8th Album「Such a Lovely Place」

コミックに聞こえるけれど、歌っているテーマは「世界に一つだけの花」とさして変わりはない。平凡は自分じゃやだ、特別なオンリー・ワンになりたい。方向性をちょっと変え、階段から転げ落ちたようなのがこの曲。とんでもないテーマで、どこに飛んでくるのか判らないけれど、ファンならばこの裏返しの優しさを理解できるだろう。こんな好き嫌いがまっぷたつに別れる試金石を、あえて投げ入れた勇気も大いに評価したいところだ。

「僕が一番欲しかったもの」「No.1」「どうしようもない僕に天使が降りてきた」「印度式」いずれも作詞・作曲：槇原敬之

CamScannerでスキャン

鹿島良雄［サラリーマン・ライター］

ほら　朝食も作れたもんね
だけどあまりおいしくない

「もう恋なんてしない」(5th Single／3rd Album『君は僕の宝物』)

この曲から13年経った今も、僕は朝食作らないもんね。なんていってちゃ、今の若者、特に女の子には超嫌われる。だけど、僕の同世代には、食事を作らない男は今も多い。つまり槇原とは10年の違いなのに、昭和30年代生まれは家長制度の香りがまだ残っている恐竜世代だってこと。槇原の登場で、バンドブームが終わって次のJ-POP世代に入ったということを完膚なきまで思い知らされた。自分はヒネたオヤジ洋楽ファンとして生涯生きなければならないと、中年を初めて意識させられたフレーズだった。

川口瑞夫［ライター、編集者］

僕は誰かを探すよ
それはきっと君のためだよ

「ズル休み」(10th Single／4th Album『SELF PORTRAIT』)

いつも自分の気持ちを最優先に考える、槇原の恋愛スタイルがよく表れている一節。こんな恩着せがましいことを言われたら相手がどう思うか、なんてことは一切気にしていない。彼はこれに続けて〈例えば髪を切るように／生き方は変えられないと歌っているのだから、確信犯だといってもいい。どんなときも、どんなときも、自分らしさは変えないという、彼の強情な性格は、デビュー時から現在まで一貫している。

榊ひろと［音楽解説者］

あの雨の日君が　持って行った傘は
僕のにおい消えてる
返さなくていい

「さみしいきもち」(c/w 9th Single「ズル休み」／4th Album『SELF PORTRAIT』)

「別れた相手に傘貸したまま」ってのはそれこそ"あるある探検隊"の世界だが、マッキーって雨具にもコロンとか使っちゃう人なの？　「君に会いに行く」でもデパートの香水売場で相手のこと想い出したりしているし相当な匂いフェチなのかも。それと〈傘〉を見るたび〈僕〉を想い出せということなのか。そう考えるとラストの〈それでもさみしくなったら(略)それくらいは許して〉も何だか生々しい。女の子はきっと許さないだろう。

島田宣子［フリー文筆家］

フロントガラス雨粒を　赤信号がルビーに変える　きっと僕があげたくて
君がほしかったもの

「2つの願い」(11th Single／5th Album『PHARMACY』)

なんてことない2番のAメロの後半に、こんなセンチメンタルで美しい比喩を持ってくるあたり、さすがマッキー！　夜空の星をダイヤモンドにたとえるなんつー安っぽいことはしません。タイトルの「2つの願い」にもピッタリ合ってて、細かいところまで詩人だなあと感心します。青信号がサファイアに、黄信号がトパーズに……とかどっかで応用してみたいオシャレフレーズです。僕はあげたくて君はほしいっていうとこも女心のツボを刺激。

真保みゆき［音楽評論家］

打って！打って！　ホルモン注射
毛があって
彼女なきゃしょうがない

「印度式」(8th Album『Such a Lovely Place』)

発声や歌い方で、なんでもない歌詞を戦慄すべきフレーズへと変化させるヴォーカリストであることは、本文で触れた通り。ただ、字面では伝わりにくいので、えぐさでは彼の作品中おそらく一、二を争う、この一節を選んでみた。こういう歌詞を書いた(ことのある)人物が、その同じ口で「♪ナンバーワンにならなくてもいい」と歌う、そっちのほうがなんぼかこわいわな。以来、「どんなときも。」の聞こえ方も、すっかり変わってます。

舌津智之［米文学者］

「好きなモノは好き」と
言える気持ち　抱きしめてたい

「どんなときも。」(3rd Single／2nd Album『君は誰と幸せなあくびをしますか。』)

最初はベタベタな台詞に聞こえたが、歌詞カードを見て、〈モノ〉がカタカナであるところに目をひかれた。マッキーは、やっぱり、人には言えないような〈モノ〉が好きなわけです。もし言ったら自分を疎外するであろう社会のなかで、他者に向けてナイーブな主張をするのではなく、内に向かう〈気持ち〉だけを信じて守りたい、というストイックなレジスタンス……。闘うマッキーの歌を、闘わない奴らが笑うだろう!?　ファイト！

「もう恋なんてしない」「ズル休み」「さみしいきもち」「2つの願い」「どんなときも。」いずれも作詞・作曲：槇原敬之

本誌執筆陣22人アンケート ワタシを唸らせた"必殺フレーズ"大集合!

Take-3 [DJ]

**君を抱きしめた強さ
確かめさせる距離の
つぶれたタバコを**

僕が槇原ワールドに引き込まれてしまった曲の一つ。「間接的なもので直接的な事柄以上のものが表現できる」という事を思い知らされた。それほど強く抱きしめたんだろうなぁ、と。最後の〈二人の距離を幸せにかえる〉に繋がってくるのだが、主人公の相手を想う気持ちの大きさがとても心に痛かった。初期の歌だが今でも聴くとグッと来ます。

西岡ムサシ [編集者／ライター]

**気弱な僕を可愛いなんて
どうか思わないで**

「TWO MOONS」(5th Album「PHARMACY」)

思わねーよ！　という彼女のツッコミが聞こえてきそう。初デートの別れ際、あまりのふいんき(ちがーう！ふ・ん・い・き・だッ♪)の高まりにビビッてしまいキス不成功――この惨めな気分、身に覚えあるよね？　あーもうオラー生接吻なんてできねえだと絶望するのは凡人。マッキーは違う。相手の気持ちなど意に介さず脳内で勝手にナイスな答を出し、雄々しく前進するのだ。そんなたくましさ(つーか図太さ)は「濡れひよこ」でも健在。

葉山楓 [ライター]

雨は降り止むことなく／たった今この場所で／懲りもせずまたころんだ僕と／自転車をぬらし続ける

「Are You OK?」(24th Single／11th Album「Home Sweet Home」)

「帰宅部の正義」を見事に歌い上げた名曲「Are You OK?」の一節。雨が降っているからといって同じ場所で何度も転倒してしまうくらい運動神経が錆びついている人は自転車なんかに乗らないほうがいいだろうが、それでも懲りずに乗り続け、おまけに他人の世話まで焼いてしまうところはさすがマッキー。「帰宅部の正義」や「非体育会系の選手宣誓」がこんなに似合うアーティストも他にいない。いや、これはもう「思想」だな。

伏見憲明 [作家]

**雨がやみますように／電話がきますように
2つの願いは必ず／ひとつしかかなわない**

「2つの願い」(11th Single／5th Album「PHARMACY」)

マッキーはこの歌詞にどんな思いを込めたのか…それも興味深い。誰もが心当たりのある「本当」を言い当てていて、詞として秀逸だと思う。観察眼の鋭さという意味で、マッキーは、ユーミンやみゆきの継承者とも言えるかもしれない。

宝泉薫 [著述業]

**「私の言葉がわからないなら
この耳はいらないし
言い訳もいらないのよ」**

「SIMPLIFY」(10th Album「太陽」)

出ました、ウラマッキー。ミスをした美容師の耳をつかんで女性が囁く台詞ってことで、その恐怖は怪談「耳なし芳一」に匹敵か。また、サビの〈許しを請いながら　生きるつもりはない〉というフレーズから、事件後に世間や周囲が見せた反応に対する苛立ちの投影とも考えられるが、弱音を吐けずに悩んでいる人にはこんな歌の存在もむしろ励しとなるはずだ。でも、善行ソングに否定的な俺なんかも"この耳はいらない"って怒られたりして!?

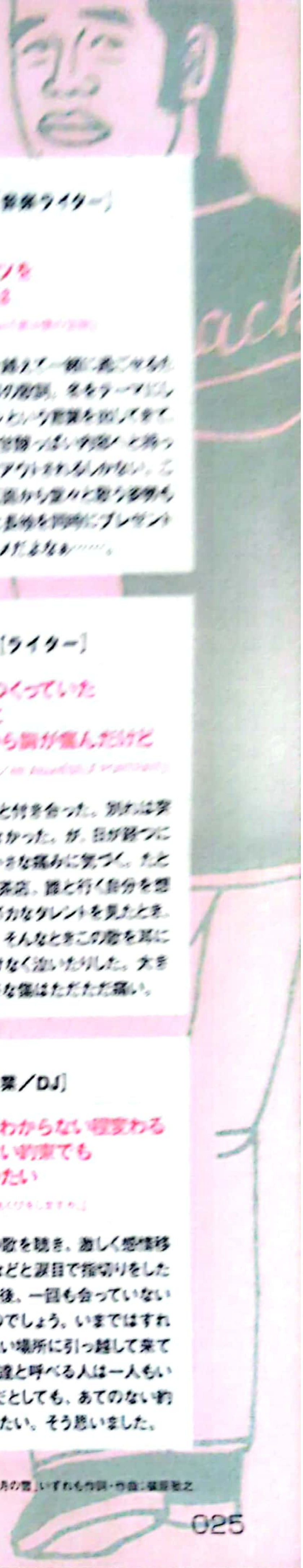
町口哲生 [大学講師]

**いつもよりながめがいい
左に少し　とまどってるよ**

「もう恋なんてしない」(5th Single／3rd Album「君は僕の宝物」)

実は槇原敬之を本格的に好きになったのは、サード・アルバム『君は僕の宝物』なんですよ。とりわけ「もう恋なんてしない」は胸にぐさりときました。僕は本気の恋愛をした経験はあまりない(情が金沢の金箔なみ・笑)のですが、やっぱいつもの〈左〉に〈君〉がいないという欠落感は癒しがたいよね。とはいえ〈もう恋なんてしないなんて／言わないよ　絶対〉……マッキー最高！

「TWO MOONS」「Are You OK?」「SIMPLIFY」「もう恋なんてしない」いずれも作詞・作曲：槇原敬之



宮崎ハヤ夫［編集見習い／ニート］

まばたきの間の永遠

[illegible]

厳密に言うと歌詞ではなく題名なんですけどこれですかね。なんか歌詞がなくても「ありがとう」って感じです。文字が目に入った途端にミクロマクロを超えて、限りないスピードで永遠と瞬間のイメージが交錯していく。なにか密教的な濃密を感じさせるフレーズです。まばたきすら永遠とすると僕らの人生って光陰矢の如しとも言うよな、と巡りつつある自分も大切なんです！こういうものを詩と呼ぶと思うんですが。

宗像明将［音楽ライター］

8月の君の誕生日 半袖と長袖のシャツを プレゼントしたのは

「冬がはじまるよ」[illegible]

この後に続くのは、「季節を越えて一緒に過ごせるためのおまじない」といった内容の歌詞。冬をテーマにした楽曲の冒頭でいきなり「8月」という言葉を出してきて、意表を突く展開を見せながら甘酸っぱい内容へと持っていってしまう技術にはノックアウトされるしかない。このちょっと照れくさい内容を正面から堂々と歌う姿勢も重要だ。それにしても、半袖と長袖を同時にプレゼントするというのは尋常じゃなくマメだよなあ……。

谷亜ヒロコ［作詞家］

日曜日の電車は／みんなやさしく見えて／どんなに混んでても／おだやかに揺れている

「君に会いに行く」4th Album「SELF PORTRAIT」

彼の歌にはだいたいうなずけるが、これにはひっくり返りました。何しろ私は日曜日の電車はみんな意地悪に見えて大嫌い。日曜日は大量の子供がいたり、ムカつくカップルがいたりで、そんで私は仕事だったりで、たいていキィ〜〜〜！となっている。だからこれを聞いた時は一人スゥ〜〜〜ッと遠くに来た気分だった。もう自分だけが意地悪な人間に思えた。それは今でも同じで、このフレーズを聞くたびに私は遠くに追いやられるのだ。

吉田正太［ライター］

知らない間につくっていた 切り傷のように あとになってから胸が痛んだけど

[illegible]

20代のほとんどを一人の人と付き合った。別れは突然だったが、特に痛みは感じなかった。が、日が経つにつれ、生活のあちこちにある小さな痛みに気づく。たとえば駅前に見つけた新しい喫茶店、誰と行く自分を想像すればいいのか。テレビでバカなタレントを見たとき、誰に電話して笑えばいいのか。そんなときこの歌を耳にして「槇原うめーなァ」と、情けなく泣いたりした。大きな傷は対処しやすいけど、小さな傷はただただ痛い。

吉村智樹［B級C調フリーライター］

ヘルメットをとって 変になった僕の髪を

「LOVE LETTER」7th Album「UNDERWEAR」

ほかにも〈就職の二文字だけで／君が大人になってく〉〈網目の影が流れる横顔〉など映像派マッキー節が度が過ぎるほどふんだんな一曲。もう映画の台本みたい。前から思ってるんだけど、この人、映画の脚本の仕事をやらせてあげたい。その行為の代わりに詞を書いてる気さえする。

吉村聖［文筆業／DJ］

すれ違っても／わからない程変わるなら／あてのない約束でも しがみついていたい

「3月の雪」2nd Album「君は誰と幸せなあくびをしますか。」

高校を卒業するくらいにこの歌を聴き、激しく感情移入して「ずっと友達でいよう」などと涙目で指切りをしたような気がするのですが、その後、一回も会っていないので、おそらくは記憶違いなのでしょう。いまではすれ違うこともできないほど遠い遠い場所に引っ越して来てしまいました。勿論、周りに友達と呼べる人は一人もいません。それならば記憶違いだとしても、あてのない約束だとしても、しがみついていたい。そう思いました。

「冬がはじまるよ」「君に会いに行く」「LOVE LETTER」「3月の雪」いずれも作詞・作曲：槇原敬之

CamScannerでスキャン

『HEY! HEY! HEY!』で見た、マッキーの泪顔……

瞬間、おれは、ピカソ《泣く女》を思ってた。

ヒット曲「チキンライス」として実を結んだ、「HEY! HEY! HEY!」でのダウンタウンmeetsマッキー企画。松ちゃんの書いた歌詞を読んで、マッキーは泣いた。号泣だ。その衝撃はいまだに語り草になっているし、心なしかそれ以来マッキーのテレビ露出はいっそう目立つようになったような。尼崎のダウンタウンと高槻のマッキー——関西のおっさん3人のメークドラマ、いま、誌上プレイバック。

文▶梅本直志［ライター］
イラストレーション▶宇和島太郎

マッキー。オレに曲作ってくれへん？

行け〜行け〜マッキー
CDを売れ〜
ナンバーワン!! ナンバーワン!!
オンリーワンよりナンバーワン!!

なんてかえ歌をハナうたって日々をやりすごしていたおれだったんだが、

泪だ。涙じゃない。サンズイに目。泪。だ。だだ漏れの水の目の顔。

また、おれは「HEY! HEY! HEY!」を見てた。2004年10月18日。マンデー・ブルー・マンデー。もっとも、テキトーに家にいて、テキトーにボーとしていたら、そうなっていた、っていうぐらいだったのかもしらん、テキトーな。で、見ていると、また番組の企画でなんかCDを作ろうって浜田が「マッキー。オレに曲作ってくれへん？」とかなんとか。おれは浜田のファンだからさ。初期のダウンタウンで浜田が「もうえー!!」のあのツッコミのシャウトは、おれは音楽として聞いとーったからや〜。あと、H Jungle With t、とかあったじゃん？〈With t〉の〈t〉だけ小文字なんだよな。あれの最初の「WOW WAR TONIGHT〜時には起こせよムーヴメント」が小室哲哉の最高傑作だと、おれは思ってるね。なぐらいなもんで、浜田が「コレ(松本)に歌詞書かせるから」とか言ってた瞬間も、マキマキマッキーが「クリスマス・ソングは？ どうですか？ 松本さんなりのクリスマス・ソングを聴きたい。それを歌いたい」とか言ってた瞬間も、なんにも全然考えてなかった。したら、ですよ。

ダウンタウン+関西のおっさん

泪だ。泪。。。だ。だだ漏れの目に汗の水の目の顔。マッキーの泪顔。。。

泪っていう漢字は、河島英五「酒と泪と男と女」で憶えた。河島英五も死んじゃったんだよな。

なんか、関西の空気感、なのか。CDになった「チキンライス」のジャケット写真では、浜田と松本が出会い、1976年3月に卒業した尼崎市立潮小学校の校門で浜田とマッキーが笑いあっていて、この企画のテーマのひとつがノスタルジアでもあることを示唆している。マッキーは高槻だっけ。ダウンタウンの魅力のひとつに、ふたりが小学校で出会い、中学で友達になり、高校はバラバラで、でも、卒業後、競艇選手試験に落ちた浜田が、すでに印刷工に就職内定していた松本を尼崎の公園に呼び出して「なあ、まっつんよ。あの話、憶えてるか？ 吉本入れへん？」と言った。

に始まる、ふたりの30年の物語、そのものがあると思う。ダウンタウンを見ているとき、ぼくたちは、

浜田雅功と槇原敬之
作詞 松本人志「チキンライス」
（R & Cジャパン　YRCN-10071）
2004.11.17発売

松本の武骨だが詩情あふれる詞、浜田の朴訥なヴォーカルを、槇原の達者なサウンドが温かく包む。最高2位、約19万枚のヒットになった。

←ブックレット表。ダウンタウンの母校の校門前で微笑む浜田とマッキー。ふたりともオシャレだ。トレイ裏↑は楽屋で作詞する松本の写真。インレイには松本の手書き文字で歌詞が印刷されている。

ふたりの30年の時間、そのものをも見ている。

そこに、とくに、関西のおっさん、とかがカラむと、30年分の空気が一層濃くなる。気がする。おれが関西のおっさんやからやろか。たとえば、マッキーとかがカラんできても全然そうなのだ。おれの小学校のときの塾の先生は潮小学校の先生でした。マッキーとかもなんかはあるはずや、松本浜田を見ているとき。浜田松本とカラんでいるとき。

CDになった「チキンライス」のジャケット写真には《浜田雅功と槇原敬之　作詞 松本人志》と大きく印刷されてる。ROLLYの名前とかもほしかったな。マッキーのいとこの元・ローリー寺西、実家も高槻の近くのロックROLLY。楽器は「ずっとクラシック・ピアノをやっていたんです。ギターはいとこにまかせて」なんてふたりの関係もなんかいいよな。ギターと一緒じゃないときのROLLYはちょっとヘタレのようなときとかもあるけど、ギターと一緒のROLLYは最強だからさ。

大槻ケンヂかなんかのソロ・アルバムだったかな。チープ・トリック「甘い罠」を日本語でカバーしていて、その中で、ROLLYがゲストで、ギター・ソロを弾き始めるんだよ。

まだ《すかんち》だった頃、ROLLYは「ぼくたちはレッド・ツェッペリンやクイーンを紹介したいんです。ぼくたちのCDを聞いてツェッペリンやクイーンのCDを聞いてほしいんです。でも、みんな、なかなか、すかんちしか聞いてくれなくて……」とか言ってた。「で、聞いてくれても、なんかつまんない、とか言われて。すかんちの方がいい、とか言われて」。

でも、大槻ケンヂのチープ・トリックのROLLYのギター・ソロの始まった瞬間、おれは思った。なあ、ROLLYさんよ。それでもいいやんけ。それでいいやんけ。そのギターの音は、マッキーのいとこがいかにチープ・トリックやツェッペリンやクイーンやロックが好きか、音楽が大好きか、ギターがそう言ってるとともに、もうそういうの全然関係なく、そのギターの音が、すごかったから。瞬間、おれは泣いてしまっていた。泪だよ。なあ、マッキーのこと、もう笑われへんよな。

マッキーの異能が、すごかったから

「『チキンライス』もね、僕以外の人に、なにかをおしえられました。そういう感じだったんですよ。やられましたね。《親孝行って何？　って考える／でもそれを考えようとすることがもう／親孝行なのかもしれない》。あの歌詞は、これ以上、なにかがいるの？って」。のちのインタビューの中で、マッキーは、ふりかえっている。

松本が書いてきた歌詞を見て、感動して、号泣してしまっていたマッキー。あの、松本さんが!?　というインパクト。近年のマッキー・スタンダード、家族や幸せについてのこととかとのシンクロニシティー。マッキーはピュアーやなあ。が、泣くこたねーだろ。ツッコミも事情も、過去をひもとけばいろんな事柄があなたの前にもあったでしょうよ。だけどもおれはもうそういうの全然関係なく、そのマッキーの異能が、すごかったから。瞬間、おれは、ピカソ《泣く女》を思ってた。☆

CamScannerでスキャン

不思議と一致する
槇原とSMAPのキャリア

マッキーとSMAPには若干の世代差はあるものの、アーティストとしてはほぼ同期と言っていい。ジャニーズJr.の中からポスト光GENJIの担い手として6人のメンバーが選抜された1988年の春、槇原は高校を卒業し浪人生活のかたわら音楽活動を本格化させ、「どんなときも。」がチャートのNo.1を飾った91年の夏にはSMAPが待望のCDデビューを果たしている。そして槇原が例の事件で活動停止を余儀なくされた99年から、SMAPは音楽アーティストとしてのキャリアの曲がり角を迎えていた。担当ディレクターとしてデビューから彼らを育ててきたジャニーズ出版の鎌田俊哉（嵐の担当に転属）とビクターの野沢孝智（現在はフリーの立場で関ジャニ∞に協力）がSMAPから離れ、新たな制作スタッフが彼らを担当することになったのである。

翌2000年には木村拓哉が結婚、ご祝儀ムードも手伝って「らいおんハート」は彼らにとって当時で最大のヒットとなったものの、アイドルとしてある種の"上がり"感が漂う結果となってしまった部分も否めない。01年にはそれまでの全シングルを収録した「Smap Vest」と隠れた名曲を集めた「ウラスマ」をリリースするがオリジナル・アルバムの発売はなく、シングル「Smac」には過去のヒット曲の歌詞フレーズが織り込まれるなど、キャリアの"総決算"を意識させる状況であった。そこへ起きたのが"稲垣メンバー"事件だったのだ。その稲垣吾郎復帰の場となった02年冒頭の「SMAP×SMAP」こそ番組史上最高の視聴率を稼ぎだしたが、1年ぶりのシングル「freebird」も2年ぶりの新作アルバム「Smap 015 Drink! Smap!」も当初の売上げは通常のレベルを上回るものではなかった。だが、この「Drink! Smap!」に収められた「世界に一つだけの花」がリードオフ・トラックとして彼らのテレビ／ラジオ番組、そして前年の4人公演を償うべく拡大された全国ツアーを通じてファンの間に徐々に浸透していったのである。さて「世界に一つだけの花」が書かれたのは02年の春頃、つまり槇原のワーナーでの最終作「本日ハ晴天ナリ」の[illegible]と同時期と推測されるが、実際のところ槇原は当初、同アルバムに収録された「Wow」を提示したものの、SMAPサイドに却下されたという。

このように自作自演系アーティストとアイドルが楽曲の世界観をすり合わせるのには困難がともないがちだが、SMAPはジャニーズの中でもシンガー・ソングライター系の作品を積極的に取り上げてきたグループである。その端緒は林田健司による一連のヒット曲あたりだろうが、これは単に目指す音楽的方向性が合致していたという点で田原俊彦が久保田利伸を抜擢した事情と大差ないし、書き下ろし曲での林田側のスタンスも職業作曲家としての山下達郎や織田哲郎に通じるものだろう。やはりSMAPとシンガー・ソングライターの組み合わせで出色だったのは山崎まさよし作品「セロリ」のカヴァーであり、スガシカオ＝川村結花コンビによる「夜空ノムコウ」は弾き語りっぽい世界を職業作家的な視点から再構築した作品であった。ともすれば個人の思想や心情を表現したものと捉えられがちな自作自演系アーティストの作品を、群像性を備えたジャニーズのアイドルが歌うことによって聞き手を巻き込んだ一般性や普遍性が付与されるのである。とりわけSMAPは傑出したヴォーカリストを擁しているわけでも息の合ったハーモニーを聴かせるタイプでもなく、メンバー

マッキーとSMAPのコラボによる"新・国民歌"
「世界に一つだけの花」

「世界に一つだけの花」は、決して偶然に恵まれて見出された"野に咲く一輪の花"ではない。そこには多くの人に愛でられる花たちと同様に種を蒔き、水や肥料をやり、精魂込めて手入れをするというプロセスがあった。両者のキャリアと資質が絶妙に交錯しながら展開していった物語を、いま一度紐解いてみよう。

文▶榊ひろと［音楽解説者］
イラストレーション▶いんなみりさ

CamScannerでスキャン

のソロ回しとユニゾンで勝負しているがゆえにその効果も大きい。

SMAPが歌って歌の意味合いが変化

そのうえ03年3月に発売された「世界に一つだけの花」シングル・ヴァージョンでは、さらにアレンジや歌割りに改良が加えられている。グループきっての“オンリー・ワン”シンガー中居正広が“下手っぴだけどチャーミングでしょ”とばかりに最初のソロを取り、“市井の善人の一生懸命な姿”を演じ続けてきた草彅剛が1番のBメロと大サビのリフレインという重要なパートを担当する。これによってリスナーの感情移入が容易になるとともに、自分もカラオケで歌ってみようという気にさせたのである。

何よりも重要だったのは、槇原自身が歌っていたならば“更生した人によるお説教臭い人生訓”となりかねないところを、SMAPのヴァージョンだったら穿った見方をする人々にとっても“No.1アイドルが歌うお気楽な多様性賛歌”くらいに留まったという点である。他にも「反戦歌だ」「負け組の癒しソング」「ファリックなメタファーがちりばめられている」などと議論が百出したが、誤解や思い込みを含めて解釈の幅が広いほうが流行り歌としてのポテンシャルは高まるということも、槇原は「どんなときも。」で充分に思い知らされていたはずだ。

SMAP版「世界に一つだけの花」の大ヒットによって、ソングライター槇原敬之に注目が集まり、アーティストとしてもアルバム『EXPLORER』での復活劇に繋がるわけである。何しろ振り付けの先生までもが売れっ子タレントとして活躍してしまうのだから、国民的トップ・アイドルSMAPの御威光は凄まじい。ここで興味深いのは、裏方仕事（あるいは別の分野）で確かな手腕を発揮している人物に対しては、文化人待遇と言うべきか、世間の目がスキャンダラスな要因を割引いて見てくれるのではないかということだ。フルタイムの芸能人が駐車違反程度でエライ目に遭うのとは対照的である。ともあれSMAPにとっても歌うべき新たな世界が開けたのは喜ばしいことだが、元々ジャニーズのグループには、人数が増えるほど、あるいは年齢が高くなるほど“You & I”的なラヴ・ソングから離れる傾向があった。SMAPにしても「がんばりましょう」あたりから時代の気分を語るメッセンジャーの役割を果たしてきたし、最初期の「心の鏡」「君は君だよ」でもティーンエイジャー向けのライトな応援ソングながら槇原ワールドに通じるものがある。さらに言えばジャニタレはある種“超人的な存在”のヴィジョンを具現化するために遣わされているので生来がイタコ体質、国分太一が美輪明宏（マッキーも心酔しているという）に滝沢秀明が細木数子（こっちは単なるミーハーおばさんぶりを暴くためか）といった具合に妖しくも禍々しい面々に仕えているのも無理からぬところだろう。

さて、今年になってSMAPがリリースしたエリック・クラプトン作曲によるシングルはトラジ・ハイジの「ファンタスティポ」の売上げにも及ばず、キムタクの月9主題歌に起用されたエアロスミスも昨年のクイーンのようなブームを巻き起こすことはなかった。メガ・ヒットの後は企画も大変なんだろうが、今度のシングルは作詞をクドカンこと宮藤官九郎に依頼したとか。後輩たちとの仕事で名を上げた人気脚本家を一本釣りするとは、もはやなりふりかまってなどいられないのだろう。また“ナンバー・ワン”になるのかもしれないが、そこには“オンリー・ワン”の矜持などまるで感じられない。★

の物語と効用
が咲くまで

相田みつをとマッキー

“応援ソングの旗手”から、どん底をバネに“そのままでいいがな”系へと

簡素で謹直ゆえ、無意識レベルでの刷り込みが強い相田みつをの言葉。「世界に一つだけの花」を筆頭に、マッキーの歌詞には相田みつをを思わせるものが多い。しかしさすがマッキー、時代と自身の変遷とともに、明らかな深化が見てとれるのだ。

文▶五十嵐十五［ライター］
イラストレーション▶もりいくすお

失敗から何かを学ぶ“失敗力”同様、挫折をバネに人間のステージを上げることを“挫折力”……と呼ぶかどうかは知りませんが、どちらにしても量より質。凡ミスばかり続けていても、養われる“失敗力”はタカが知れています。挫折のほうも、完膚なきまで打ちのめされなければ乗り越えた後のパワーは弱いもの。

その点、槇原敬之の“挫折力”とは、日本ポップス史上において一、二を争うほどの質を誇るわけですが、そんなもの競ってどうこうなるものではございません。そこはやはり、彼の類い稀なる音楽センス、シンガー・ソングライターとしての天賦の才があってこそ。スキャンダルで地に堕ちたミュージシャン数あれど、挫折を乗り越えられない凡人のほうが多いのですから。

とはいうものの、槇原敬之の挫折が彼個人によって克服されたわけでないのは周知の事実。SMAPに楽曲提供した「世界に一つだけの花」の大ヒットにより、あらためてソングライターとしての“オンリーワン”がクローズアップされたのは幸運なことでした。

☆「いのちいっぱい　じぶんの花を」との相似性

これを機会に禊を終えたのか、槇原敬之の再生は劇的に始まりましたが、実のところ謹慎明けから音楽活動を再開してしばらくは鳴かず飛ばず。そうした低迷期のことを、彼は音楽番組「HEY! HEY! HEY!」に出演した際にダウンタウンとのカラミで見事に自嘲し、爆笑を呼んでいました。その異常なテンションに「地獄を見た後の人間は強し！」と思ったものです。

お笑いの仕事は“失敗”がネタになり“成功”を導くことができる職業——とは、浅草キッド・水道橋博士の言葉。当然、槇原敬之は芸人ではありませんが、挫折後のキャラ変貌には均質なものを感じてしまいます。たとえ「マッキー気持ち悪いよね。あんなヤツに偉そうなこと言われたくない」と陰口を叩かれたとしても、そう言わせたほうが勝ち。その時点で、彼の音楽は成立しているのです。いわば“異形の人”として作り、歌う音楽が純粋に受け手の心へと届くさまは、芸人にとっての“お約束”に通じるものがあります。

立ち戻って、そのきっかけとなった「世界に一つだけの花」ですが、相田みつをの「いのちいっぱい　じぶんの花を」との相似について、騒ぎになった記憶がないのですが、単にわたしが寡聞にして知らないだけ？　もしくは触れてはならないタブー？　谷川俊太郎や中原中也の詩への憧れを公言する槇原敬

之ですが、相田みつをについて語る記述は見当たりません。

相田みつをの言葉は簡素で謹直ゆえ、無意識レベルでの刷り込みが強いもの。長渕剛に始まり、最近では安倍なつみの盗作事件など、お粗末なパクリ騒動がついて回りますが……それもこれも貧困に極み、世に受け入れられない日々の葛藤を“わかりやすい”言葉に換言した相田みつをのなす魔力。影響を受けるのは良として、その言葉をオリジナルなものに転化させるには、相当オツムがよろしくないとバレちゃいますよ。

☆復帰後の歌詞には、タイトルに逆オチをつけるような深みが

振り返ってみれば「どんなときも。」により一躍“応援ソングの旗手”となった槇原敬之。しかし、以降の作品は男のダメなハートを些細な日常描写と重ね合わせたラヴ・ソングが主体でした。そうした中、たとえば「どうしようもない僕に天使が降りてきた」やら「まだ生きてるよ」やら、みつをチックな曲タイトルを掲げてきましたが、いま聴き直すと説得力が足りません。上っ面だけをなぞって自意識過剰、昨今の“読みながら涙が止まりませんでした”系小説と変わりません。

しかしながら、挫折はやはり人間に奥行きをもたらすものです。不祥事から復帰後の「雨ニモ負ケズ」「優しい歌が歌えない」といった曲の歌詞には、タイトルに逆オチをつけるような深みを抱かせています。その手法はかつての性善説から性悪説に転向したかのような、通称“にんげんだもの”系ソングとも位置づけられます。

つまり「つまづいたっていいじゃないか　にんげんだもの」を筆頭とする相田みつをの至言の数々を想起させる歌で、別称“そのままでいいがな”系とも呼べるものです。これらは、人間の諦念――救いのなさに救われる性質を活性化させるもので、最近とみに流行の“がんばらない”思想にも近しいものがあります。働けど働けど報われない、年収300万円時代の一般意識と合致した槇原敬之は、彼の体験した“底”をバネに“平成の相田みつを”と化したかのようです。

80年代バブル期デビューのガンバルマン系が90年代を乗り越えられなかった一方、浮き沈みはあったけれど現在も「どんなときも。」を体現しながらサバイブしているマッキー。ちなみに、最新シングル「明けない夜が来ることはない」って……あんた、それは受験生に向けて教師が口にするNo.1フレーズでしょ。そこまでブッチャケちゃっていいのか？★

CamScannerでスキャン

老若男女に愛される絶妙なバランス感覚

わたしはマッキーのこんなところが好き！

[illegible]「マッキーが好き！」[illegible]

文▶[illegible]
写真▶[illegible]

「どんなときも。」を聴いてファンになったのが1991年の終わりだから、マッキーのファンになってもう13年だ。マッキーの存在はあまりにも日常で、好きな理由を挙げるなんて今さらというか、かなり難しい。うーんと考えて、出てきたキーワードが、「バランス」だった。

私が思い浮かぶマッキーのイメージはたくさんある。ビシッと決めたかっこいい姿、鼻に指を突っ込んでいる姿、笑顔や笑い声、たまに話している大阪弁。インタビューで「自分の中を見つめる」という耳の痛い話をしていたり、「ありがとうゴザイマ〜ス」とコンビニ店員口調でお茶目っぷりを発揮してたり。「太陽」や「I ask」みたいな曲もあれば、「君は僕の宝物」とか「MILK」とかもあるし、「まだ生きてるよ」や「印度式」なんて曲もある。マッキーという人間はひとりしかいないのに、想像以上にいろいろな面がミックスされている。それも、絶妙なバランスで（そういえば、マッキーはY字バランスができるんだよね。余談ですが）。

最もバランス感覚がすごい！と感動するのが、音の重ね方や曲のアレンジ。私は曲作りに詳しくないんだけど、それぞれの音がこだわりのもとで組み合わされていると感じるし、それを心地よく思う。たくさんの音を重ねた曲があるからこそ、「You are so beautiful」のようなシンプルな曲だって生きてくるんだと思う。そこもバランス。

そういった曲のアレンジを120%楽しむことができるのは、コンサートのときだろう。コンサートでは、CDとは違ったアレンジも多く、それだけで曲の印象がガラリと変わってしまうので、前奏を聴いただけではどの曲だかわからない。マッキーが歌い始めて、曲名がわかったときに「はぁ〜」「おーっ」という小さなどよめきとともに会場の雰囲気や空気が変わる。その瞬間が何よりも好きだ。コンサートに来てよかった、と、これまでにない幸せを感じる。

「世界に一つだけの花」のヒットで、広い範囲の人たちに聴かれるようになったと言われているけれど、マッキーファンの層の厚さはずっと前から実感できた。コンサート会場には「どんなときも。」の発売よりも後に生まれたという(!)小・中学生、連れ立ってきている親子や50代くらいのご夫婦の姿だってある。性別では、女性が中心だけど、他の歌手のファンに比べたら男性ファンの割合も多いようだ。そんないろんな人たちがファンサイトの掲示板に集ったりもするのだけど、書き込みを見ている限り、誰が男性で誰が女性で、という区別がつきにくい。それだけ男女のファンの持つ視点や感じ方が違わないのだろう。このように老若男女のファンから愛されていることも、マッキーの魅力を証明するひとつなんだと思う。☆

PART 2

ヒストリー&レヴュー

人生、楽ありゃ苦もあるさ——
挫折を乗り越えて活動してきた15年間で、
残したアルバム16枚、シングル33枚
その足跡を検証し、作品を再評価!

マッキー"てっぺん"ヒストリー&

全オリジナル+ライヴ・アルバム"HAPPY"レヴュー

①1990-1992(3作品) ②1993-1996(3作品) ③1997-1999(3作品)
④2000-2002(4作品) ⑤2003-2005(2作品)

リミックス&編集盤紹介

楽曲提供、プロデュースなど課外活動

CamScannerでスキャン

第1次ワーナー時代前期 1990-1992：デビュー～「北風～君にとどきますように～」

AXIAオーディションで見出され、浪人中に21歳でデビュー。91年、4度めの受験のかたわら映画のために書き下ろした「どんなときも。」のヒットで、またたく間に巨大な成功を手に入れた。その後もコンスタントなリリースで、アーティストとしての声価を順調に高めていく。

文▶榊ひろと[音楽解説者]　年表作成▶編集部　イラストレーション▶もりいくすお

新世代ラヴ・ソングの旗手、登場！ 成長の跡を刻む"君シリーズ"三部作

原石と呼ぶには鋭すぎたデビュー時の輝き

原敬之がデビューしたのは1990年の秋のこと、その大活躍を思えばあまりにもさりげないスタートで。当時はKANの「愛は勝つ」が大ヒットするなど男性ヴォーカリストに注目が集まりつつある状況が、第1弾シングルとなったオーディション入賞曲に対する反応は乏しく、わずかにアルバム収録曲

「北風」が地元大阪のFM802でヘヴィ・ローテーションに選ばれたのが救いと言えるくらい。しかしながら当時は民放FM放送局の全国への拡大（1県1局＋東阪2局体制）、カラオケ・ブームとトレンディ・ドラマに後押しされたミリオン・ヒット連発など、まさしくJポップ元年とも言うべき状況であり、決して逆風の中でのデビューではなかったのである。

1stアルバム『君が笑うとき君の胸が痛まないように』には、セカンド・シングルとなった「ANSWER」をはじめとしてアマチュア時代に書き溜めてきた中から選ばれた作品が並んでおり、その歌詞とメロディは原石と呼ぶにはすでに鋭すぎるくらいの輝きを放っている。ただしサウンド・プロダクションに関しては木崎賢治プロデューサーの意向により、ベテラン・アレンジャーの西平彰が共同プロデューサーとして編曲とプログラミングに大きく関与することとなった。それまですべての音作りをひとりで手掛けてきた槇原にとってこの"プロの洗礼"は相当に不本意だったらしく、サウンド面では宅録派の本領を発揮できずに終わっている。実際のところ、アルバムの仕上がりを聴くとテープ・コンテスト入賞者の作品というよりも、弾き語り系のシンガー・ソングライターがプロデューサーの手によって流行りの打ち込みサウンドに染められているといった印象さえ受ける。だが、この屈辱を晴らす日はそれほど遠いことではなかった。

「どんなときも。」で一気に頂点へ

2ndアルバムと初の"弾き語り"ミニ・ツアーの準備に取り掛かっていた91年の春先のこと、織田裕二主演映画『就職戦線異状なし』の主題歌を担当する企画が持

ち込まれる。厳しいスケジュールの中で完成させた「どんなときも。」が発注元の承認を得られた日、4度目の挑戦となっていた大学受験の合格通知も届いたといい、まさしくこの歌に込められた様々な思いが報われたような気分だったことだろう。6月10日にリリースされた「どんなときも。」は、映画のスポットに加えてタイアップしたファースト・フード店のCMとしても大量にオンエアされ、ヒット・チャートを瞬く間に駆け上がって1カ月半後にはトップを獲得、最終的には170万枚近いメガ・セールスを達成したのである。9月には東名阪で初のコンサートを実施、満を持してアルバム『君は誰と幸せなあくびをしますか。』をリリース、チャートでは第3位に輝いている。"君シリーズ"第2弾となった本作では念願だったアレンジとプログラミングの主導権を得たものの、前作と同様に3分の1程度の楽曲で生のリズム・セクションを採用しており、プロとしてのサウンド作りは発展途上というか試行錯誤の段階と言える。また服部克久編曲・指揮のストリングスを導入するなど、一流ミュージシャンのプレイやアレンジからもっと学ぼうという貪欲な姿勢も感じられる。

さらに、「どんなときも。」の大ヒットにおもねることなく新たな作風にトライした4thシングル「冬がはじまるよ」を11月に発売、年末にはレコード大賞と『紅白歌合戦』への出演を果たし、翌92年初頭には初の本格的な全国ツアーを成功させるなど、順風満帆に活動を続ける槇原。ハードなスケジュールをこなしながらも創作への意欲はいささかも衰えを見せず、4月には"君〜三部作"の完結編となる『君は僕の宝物』を完成させ、5月には先行シングルとして「もう恋なんてしない」をリリースした。同曲はチャートでは第2位に留まったものの再びミリオン・セールスを達成、6月末に発売した3rdアルバムも4週にわたってチャートの第2位を獲得して120万枚を売り上げる大ヒット作となっている。

『君は僕の宝物』では1曲で生ドラムを用いた以外はすべて打ち込みアレンジでベーシックなリズムを構築、ギタリストとして今日に至るまで槇原を支え続ける小倉博和と佐橋佳幸が初めて顔を揃えている。またエンジニア(ミキサー)の佐藤康夫とシンセ・オペレータの飯田高広といった第1次ワーナー時代の中軸となる面々が結集、スマイル・ガレージでの録音とミックス、名匠ボブ・ラドウィッグによるN.Y.でのマスタリングという音作りの体制も整った。こうして完成したアルバムは詞・曲はもちろんのことサウンドの面でも極めて完成度が高く、シングル・ヒット以外にもファンの思い入れ深い珠玉の名曲が並ぶマスターピースとなっている。さらに秋には3カ月以上にわたる長期ツアーを敢行、年末に向けては1stアルバム収録曲の再録音ヴァージョン「北風〜君にとどきますように〜」までヒットさせるなど、マッキー人気は頂点を迎えたのであった。★

1990

3月　「AXIA MUSIC AUDITION '89」でグランプリと"一万人審査委員賞"を受賞
9月25日　WEAミュージック邦楽コンベンション出演（東京：原宿クエストホール／大阪：IMPホール）
10月21日　FM大阪「槇原敬之とキタモンダ」放送開始（91年3月まで）
10月25日　1stシングル「NG」、1stアルバム「君が笑うとき君の胸が痛まないように」同時発売……アルバム最高48位、17.7万枚

1991

1月　1stアルバム収録曲「北風」がFM802のヘヴィ・ローテーション曲になり、注目を集める
4月25日　2ndシングル「ANSWER／北風」発売
4月　弾き語りミニ・ツアー（全国十数カ所）
6月10日　3rdシングル「どんなときも。」（「就職戦線異状なし」主題歌、ケンタッキーフライドチキンCMソング）発売……最高1位、167万枚

6月22日　「就職戦線異状なし」公開
6月25日　1stビデオ「幸せの記憶」発売
6月27日　初のバック・バンドを従えたライヴ（大阪クラブクアトロ）
6月29日　「どんなときも。」、「オリコン」シングル・チャート1位に
9月　初のホール・ツアー「槇原敬之CONCERT TOUR "僕はここにいます。"」で東名阪を巡演
9月25日　2ndアルバム「君は誰と幸せなあくびをしますか。」発売……最高3位、58万枚
10月　「どんなときも。」がミリオン突破
ニッポン放送「槇原敬之のオールナイトニッポン」放送開始（火曜第2部、92年9月まで）
11月10日　4thシングル「冬がはじまるよ」（サッポロビール「冬物語」CMソング）発売……最高5位、76.2万枚
12月10日　ビデオ「僕はここにいます。〜槇原敬之1番初めのライブ〜」発売
12月31日　「日本レコード大賞」「紅白歌合戦」に出演

1992

1月26日〜2月21日　「槇原敬之CONCERT TOUR '92 STOVE LEAGUE TOUR」（全国13カ所で計18,000人を動員）
3月　「どんなときも。」が92年ゴールドディスク大賞"ベスト5シングル賞"受賞
5月25日　5thシングル「もう恋なんてしない」（日本テレビ系ドラマ「子供が寝たあとで」主題歌）発売……最高2位、139.7万枚
6月25日　3rdアルバム「君は僕の宝物」発売……最高2位、126.5万枚

8月25日　「槇原敬之CONCERT TOUR '92〜君は僕の宝物〜」青森市文化会館からスタート。全国32カ所36公演で約7万人を動員
10月25日　6thシングル「北風〜君にとどきますように〜」発売……最高6位、62.7万枚
12月　3日　ツアー「君は僕の宝物」終了

CamScannerでスキャン

マッキー・アルバム
“HAPPY”レヴュー#01

1st Album

君が笑うとき君の胸が痛まないように

ストーリーテラーへと“脱皮”する前の若く不安定な輝きがいとおしい

文▶吉田正大［ライター］

90年代に入ったばかりの頃、大阪や京都にいた音楽好きの若者の間には、槇原敬之の軌跡がけっこう残っていた。「友達の友達が歌手デビューしてんて」「あ、そいつが高3のときに作ったデモ・テープ、あるで！」——最初はただの世間話（多少の嫉妬入り）だったが、91年の「どんなときも。」大ヒットで状況が変わる。もとより槇原の書く歌は、不安定になりやすい若者たちの「共感する心」に訴えかける。売れ筋というには繊細すぎる彼の歌がちゃんと売れたことは、まるで自分の仲間が成功したかのように誇らしげに語られた。「ANSWER」の歌詞を「あれ、京都の北大路駅の改札のことやで」と、したり顔で解説するヤツまで出てきたり。

大阪の高槻で暮らしていた高校時代、槇原はすでに60曲以上の曲を完成させていた。その中から厳選されたのが、このデビュー・アルバムの10曲である。作詞作曲はもとより、アレンジからコーラスまでを自分でこなす完璧主義者の槇原だったが（「宅録オタク」ともいう）、しかしこれからデビューする新人がそう自由にさせてもらえるはずもない。このアルバムについては、後に槇原自身がそのアレンジを否定する発言をしている。〈あんまり自分の意見が入っていない、他人の手に渡ったアルバム〉（『月刊カドカワ』92年8月号）、〈人の手で僕の曲を解釈されていくことで、全然片栗粉の入っていない中華料理みたいになっちゃった〉（同93年5月号）と。

WEAミュージック　WMC3-1
（1990年10月25日発売）
ワーナーミュージック　WPC7-8528
（1998年11月26日再発売）

①ANSWER ②RAIN DANCE MUSIC ③80km/hの気持ち ④12月の魔法 ⑤桜坂 ⑥CLOSE TO YOU ⑦NG ⑧FISH ⑨君を抱いたら ⑩北風

しかし、槇原のファンには、根強い人気を持つ一枚である。絶妙に配置された「身近なモノ」が、聴く者の共感を呼ぶ。後年、槇原は短編小説のような「ストーリー」をそのまま歌詞にするようになるが（「SPY」「モンタージュ」など）、この頃の歌詞は、ストーリー以前の「日常の断片」を積み重ね、その向こうにある物語を想像させる。〈愛という窮屈をがむしゃらに抱きしめた〉（①）、〈私電の高架下　君が聞き取れないから〉（⑦）など、それまでの紋切り型ラブ・ソングにはなかった言葉遣いと、まだ若く不安定な声。自分の成功を意識しないからこそその、素直な心情の吐露であったのかもしれない。ファンがこのアルバムを大切にする理由は、きっとそこにある。☆

」「ANSWER」いずれも作詞・作曲：槇原敬之

マッキー・アルバム
"HAPPY"
レヴュー#02

2nd Album
君は誰と幸せなあくびをしますか。

恋愛が90%を占める女子高生的世界の中で キラリと光るマッキーの"優しさ"

文▶谷亜ヒロコ［作詞家］

初めてマッキーの顔がジャケットに登場。アクビ中で目をつむり、口元を手で隠して遠慮がちだけど。当時「チューリップの財津さん？」と何度も間違えたが、今考えるとそんなに遠くない存在かもね。優しい男グループということで。

優しい男とは、別に石田純一がやりそうなソフトな対応ということではなく、好きじゃなくなった彼女に対して〈優しさをつらぬいても／もう愛には変わらない〉(⑤)と言える勇気。〈もう君の僕じゃない／僕の君じゃない〉(⑥)と言いきっているのも、当時としてはかなり衝撃的でした。90年代初めは未練ばかりを歌って、愛の終結をズバッと言い切った人はいなかったと思う。

〈留守番電話のメッセージ〉と歌い出していきなり時代を感じさせる②を筆頭に、電話関係の言葉が出てくる歌が4曲ほどあるが(③⑤⑧)、デビュー・アルバム「君が笑うとき君の胸が痛まないように」には髪の毛が小道具としてよく出てきた。私の場合、髪を異常に気にしていたのは中学生まで。そして電話は女子高生の必需品。というわけで私は、「君が笑うとき〜」が女子中学生、このアルバムは女子高生、「君シリーズ」最後の「君は僕の宝物」では行動範囲が広がって女子大生、というふうに成長したと見ている。なんで女子なんだよ。でも、内緒の旅行をしたり、僕の彼女はウエイトレスだったりと青春恋愛真っ盛りな様子に、なぜか女子高生のメンタリティが味わえるのです。両思いのように見えて実は片思い、自分の中で勝手に恋が始まって勝手に終わったりしているのでは？と思わせる詞が多いのも、女子高生の脳内恋愛みたいだし。とにかく、妄想を含めて恋愛が人生のほぼ90%を占める時期にピタッとくるアルバムです。そう考えると、恋愛のことがほとんど出てこない⑪はアルバム中かなり異色な存在だった。ついでに言うと、アルバム・タイトルとこの曲名に「。」を付けたのも、かなり早かった。

サウンドの作り方もすでに確立されていて、②で使った「1, 2, 3, ゴー！」とかけ声かけて威勢良くスタートするスタイルも、この後再利用されている。全体的に、今聞いても古さを感じない。音が良い。ところでジャケット・デザインは信藤三雄率いる"渋谷系"のメッカ、コンテンポラリー・プロダクション。マッキーもまだメインストリームじゃなかったってことですかね。★

WEAミュージック　WMC3-15
(1991年9月25日発売)
ワーナーミュージック　WPC7-8529
(1998年11月26日再発売)

①どんなときも。(Instrumental) ②僕の彼女はウエイトレス ③AFTER GLOW ④Necessary ⑤満月の夜 ⑥EACH OTHER ⑦ひまわり ⑧CALLIN' ⑨3月の雪 ⑩僕は大丈夫 ⑪どんなときも。

「僕の彼女はウエイトレス」「満月の夜」「EACH OTHER」いずれも作詞・作曲：槇原敬之

CamScannerでスキャン

マッキー・アルバム
"HAPPY"
レヴュー#03

3rd Album
君は僕の宝物

90年代初頭の若者の生活感覚を切り取って Jポップ時代到来を告げる金字塔的作品

文▶鹿島良雄［サラリーマン・ライター］

J-POP界における槇原敬之の位置を決定づけたブレイク・アルバム。セルフ・アレンジによる自信に満ちたサウンドは、彼の定石通り、ほとんどがプログラミングによるもの。特に冒頭②③のたたみかけるようなリズムの迫力が物凄い。J-POPという言葉が定着した時期の金字塔的作品である。

90年から92年ぐらいにかけて、48トラック・レコーディングによるデジタル・サウンドは模索の時期を脱し、完成・豊饒の域に達しつつあった。山下達郎や小田和正といった老練なミュージシャンがそれをいち早くものにして大ヒットをとばしていったわけだが、槇原は彼らに負けないサウンド構築をものにしたといえる。

槇原の曲の特色は、メロディーがソウル、R&Bにあまり影響を受けないこと。譜割りがオン・リズム中心で、素朴、明朗で言葉が聞こえやすいボーカル・ラインである。それこそが、彼が洋楽を横目にJ-POPの中心的存在となったことの秘密だ。当時はフリッパーズ・ギターなどの"渋谷系"全盛期でもあったが、時代の先端とのせめぎあいの中で正面切って洋楽の消化をこなしていた彼らと比べると、朗々と日本語詞を歌い上げる槇原のボーカル・スタイルは、異様な迫力である。揺るぎない自信をもって、それをけっして変えないというのが、現在にいたる槇原の矜持。そのスタイルが完成した瞬間といえよう。

詞がはっきりと聞こえるそんなメロディー・ラインに、マニアックなプログラミングが要所でキラリと輝きを放ちながら絡み合う。この妙味がマッキーの魅力で、洋楽ファンが減った90年代に良質なJ-POPファンの心をつかんだ要因といえよう。

では昔かたぎな譜割りなのかといえば、そんなことはない。カラオケで歌ってみればわかるが、実に巧妙に整理されたメロディーは攻略が難しく、いかに彼が音楽知能犯であるかもわかる。

カップルの同棲を射程距離内に置いた②③では、〈洗濯機〉〈歯ブラシ〉といった日常的な言葉を使いながらも、見事なまでにクサイ生活臭を漂わせない。泥臭さのないワンルーム・マンション的な物質生活感覚が若者のスタンダードになった、超高度消費社会との同時代性。同時に、そんな生活の中で新たに芽生える孤独感をも見事に描き出した物語をもって、槇原は他のシンガー・ソングライターの追従を完全に突き放した。90年代初頭の男女をセンシティブに切り取りつくした10編の詞には、プロデューサーであるところの木崎賢治のディレクションの貢献も大きいだろう。☆

WEAミュージック　WMC3-21
（1992年6月25日発売）
ワーナーミュージック　WPC7-8530
（1998年11月26日再発売）

①INTRODUCTION ②くもりガラスの夏 ③もう恋なんてしない ④三人 ⑤まばたきの間の永遠 ⑥てっぺんまでもうすぐ ⑦雷が鳴る前に ⑧涙のクリスマス ⑨遠く遠く ⑩冬がはじまるよ ⑪君は僕の宝物 ⑫君は僕の宝物～REPRISE～

CamScannerでスキャン

85年11月26日、「サウンドストリート　デモテープ特集」誌上再現!

16歳のマッキーが見せた、タフネスの原点

99年12月26日、坂本龍一のコンサートへの出演で、槇原はカムバックの第一歩を踏み出した。その背景にあった両者の縁こそ、坂本がかつてラジオ番組で槇原のデモテープを絶賛した、という有名なエピソード。当夜の模様を、熱心なリスナーだった筆者がプレイバックする。

文▶鈴木芳樹［ライター］

槇原敬之が正式にデビューしたのは、1990年10月。しかしそれより5年前、彼は本名の「槇原範之」名義でNHK-FMの人気番組「坂本龍一のサウンドストリート」の「デモテープ特集」に応募し、坂本教授の絶賛を浴びていた。ここまでは知っているファンが多いだろう。では放送当日の雰囲気は、どんなものだったのだろうか。

「デモテープ特集」は文字通り、一般のリスナーから曲を募集して教授のお目にかかったものを番組内で放送する企画で、82年5月にスタートした。あの教授が選ぶだけあって、実際にかかるのは現代音楽もどきや一発ウケを狙ったお笑いソングや、いかにもYMO調のテクノ・ポップばかり。そのうちリスナーも「傾向と対策」を把握するようになり、スター的な常連が生まれ、次第に内輪の馴れ合いめいた雰囲気が漂い始めた。

しかし85年11月26日、煮詰まった空気を吹き飛ばす事件が起きた。「デモテープ特集」では滅多に取り上げられない正統派ポップス「HALF」が、ほぼフル・コーラスで放送されたのだ。企画そのものに飽きていたのか、シニカルで投げやりなコメントが目立った教授だが、このときばかりは態度が一変。高揚しているのがありありと伝わる口調で「うまいねえ」「かなり好きです」と連発し、「ちょっと手直しすれば、このままシングルにできる」とまで言い切ったのだ。

「demo tape 1」（ミディ　MDC4-1070）91.3.21発売

教授、異例の大絶賛

とりわけ印象に残っているのは、「Bメロから最後のサビのリフレインに入る前に、きちんと1小節分のブレイクを置いているのが心憎い」と曲の構造にまで言及し、しかも褒めちぎったこと。「デモテープ特集」で教授が作曲テクニックに触れるのは珍しく、たとえ触れるとしても「先達からのお小言」みたいな皮肉ばかり。アマチュア作品にここまで感心するのは、かなり異例の事態だった。

みえみえのオチだが、「HALF」で録音とミキシング以外のすべてを担当したのが、当時はまだ高校1年生だった「大阪府の槇原範之くん」。「HALF」はいたく教授のお気に召したようで、「デモテープ特集」で評判のよかった曲を集めたオムニバス「demo tape 1」でも、実質的なエンディングを飾っている。

内輪ノリで盛り上がっている空間に、あえて場の雰囲気にそぐわない「正統派ポップス」をぶつけ、見事に高評価を獲得した「槇原範之」。この芯の太さと、それに見合った才能に、「槇原敬之」の原点を見出すのは不自然ではないだろう。だからこそ彼は、何があってもタフに復活し続けてきたのだ。★

CamScannerでスキャン

第1次ワーナー時代後期 1993-1996：「彼女の恋人」〜「まだ生きてるよ」

Jポップ界全体が「ミリオン・セラーの時代」に突入する中、槇原は順調にリリースを重ね、ヒットさせていく。咽ポリープ手術による活動休止や英語アルバム制作の試みを経て、歌手としてもひと皮剥けた槇原だが、96年末にはついにデビュー以来在籍したワーナーを離れることになる。

文▶榊ひろと（音楽解説者） 年表作成▶編集部 イラストレーション▶もりいくすお

クオリティを守りつつ新たな試みへ パワーを見せつけた充実の4年間

パーティ・ソングなど新機軸も続々登場

4枚のオリジナル・アルバム（1枚は英語作品）をリリースし一般に充実期と見られる第1次ワーナー時代後期であるが、若くして一躍シーンの頂点へと昇り詰めた槇原にとって、スターダムにつきもののクリエイティヴな面でのアパシー、人間関係のトラブル、ハード・スケジュールによる疲弊、常にヒット曲が求められる音楽ビジネスの現実など、様々なハードルを乗り越えながらの活動であった。しかし、そんな状況下でも作品のクオリティを維持しつつ、新たな領域へも作風を拡げようとの果敢なトライは続けられた。

1993年最初のシングルとなった「彼女の恋人」は従来の槇原には聴かれなかったダンス系のサウンドを大胆に取り入れた野心作。このようにシチュエーション設定に凝った歌詞をビートの効いたアップテンポに乗せて歌う手法は、その後も「SPY」「どうしようもない僕に天使が降りてきた」と各アルバムからの先行シングルに繰り返し用いられる。春には4thアルバムの録音を終えて、5月から「君は僕の宝物」ツアーの後半戦を展開、9〜10月にはシングルを連続リリースした。「No.1」は「どんなときも。」以来のチャート1位に輝き、「ズル休み」も第3位まで上昇する。

10月末に発売された「SELF PORTRAIT」は初登場でNo.1を獲得し、2作続けてのミリオン・セラーとなった。このアルバムでは基本的に前作と同様の制作システムがとられているが、「彼女の恋人」の弦セクションと「猫がふんじゃった」のアレンジをマイケル・ギブスが手掛けニューヨークで録音されている。ジャズ・カルテットを従えた4ビートの後者は槇原にとっては異色作。また新機軸となるパーティ・ソング「困っちゃうんだよなぁ。」も登場した。ここからクリスマス向けシングルとして「雪に願いを」がリカットされている。

活動休止〜英語アルバム制作が転機に

93年秋からスタートした全国ツアーは約10万人を動員して94年2月に終了、5月には典型的なマッキー節の「2つの願い」、8月には胡弓っぽいサウンドをフィーチャーした「SPY」と順調にシングルをリリース。特に後者はTVドラマ「男嫌い」（TBS系）の主題歌に起用されたこともあって90万枚近くを売り上げ、3曲目のチャート1位を

獲得している。両曲を収録した5thアルバム「PHARMACY」は10月末に発売され、ミリオンこそ逃したものの2作連続でNo.1に輝いた。「SPY」と新たなパーティ・ソング「恋はめんどくさい？」を除いては叙情的な作品が並び、「花水木」「東京DAYS」といった佳曲も誕生している。歌詞とメロディはややマンネリぎみだが、サウンド作りにはますます磨きがかかったという印象だ。11月末からスタートした全国ツアーはさらに規模を拡大し、5カ月間で約15万人を動員して翌95年の4月に終了した。しかし、このツアー中に喉の不調を訴えた槇原はポリープの除去手術を受け、その後も長期にわたって休養することになったのである。

ビジネス・サイドとしては槇原の活動休止に焦る部分もあっただろうが、本人にとってはむしろ良いリフレッシュの機会というか、まわりの状況に流されずにマイペースの活動を展開していこうと心に決めたのではないだろうか？　プライヴェート・レーベル“River Way”を設立しての復帰第1弾は、何と英語詞による作品集となった。まず1年8カ月ぶりのシングルとして96年「SECRET HEAVEN」を当時としては珍しかった12cmサイズのマキシCDシングル（リミックス版収録）としてリリース、英語詞にもかかわらずチャートのトップ10入りするヒットとなりマッキー・パワーの健在ぶりを示したのである。7月には第2弾マキシ・シングル「COWGIRL」とアルバム「ver.1.0E LOVE LETTER FROM THE DIGITAL COWBOY」が続き、8月にはリミックス・アルバム「LOVE CALLS FROM THE DIGITAL COWGIRL」までCDとアナログが同時発売された。

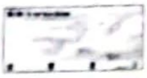
ファンの不安や不満を払拭するように、早くも9月には日本語詞シングル「どうしようもない僕に天使が降りてきた」をリリースしてトップ5入りを果たし、10月末に2年ぶりの日本語詞アルバム『UNDERWEAR』を発売してチャートの第2位を獲得している。オープニングの「男はつらいっすねぇ」こそ意表をつくロック調のサウンドだが、全体の作風に大きな変化は見られない。しかし英語作品を経ることで日本語の詞・曲作りに新たなモチベーションを取り戻した感もあり、アレンジ面でもこれ見よがしな打ち込みは影をひそめてナチュラルな響きを志向するなど、クリエイターとしての成熟が垣間見えるアルバムである。11月に発売したアルバム未収録シングル「まだ生きてるよ」を置き土産に、デビューから在籍したワーナーを離れることになった。☆

1993

1月　4thアルバムのレコーディングがスタート
3月　NYCのヒット・ファクトリーで、アレンジャーにマイケル・ギブスを迎えて初の海外レコーディング

4月25日　7thシングル「彼女の恋人」とライヴ・ビデオ「君は僕の宝物TOUR '92」を同時発売……シングル最高4位、49.7万枚
5月 5日　「槇原敬之CONCERT TOUR '93～君は僕の宝物～」スタート（全国37カ所で39公演）
6月 6日　JFN系列全国30局ネット「槇原敬之のHITACHI CLOSE TO YOU」（毎週日曜日午後1:00～1:30）放送開始
7月25日　「槇原敬之CONCERT TOUR '93～君は僕の宝物～」終了

9月 1日　8thシングル「No.1」（KDD「ゼロゼロイチバン」CMソング）発売……最高1位、68万枚
10月 1日　9thシングル「ズル休み」発売……最高3位、31.1万枚
10月20日　渋谷パルコPART 1内SPACE 5で「槇原敬之 SELF PORT RAIT FAIR」開催（11月3日まで）
10月24日　「槇原敬之CONCERT TOUR '93～'94 "SELF PORT RAIT"」スタート（全国32カ所43公演）
10月31日　4thアルバム「SELF PORTRAIT」リリース……最高1位、108.3万枚



11月28日　10thシングル「雪に願いを（TBS '93冬キャンペーンソング）／Red Nose Reindeer」発売……最高12位、18.8万枚

1994

2月 4日　東京・厚生年金会館5DAYS公演スタート
2月 9日　「SELF PORTRAIT」ツアー終了
5月 5日　11thシングル「2つの願い」リリース……最高3位、34.4万枚

7月30日　真駒内オープンスタジアムで、初の野外イベント「JTスーパーサウンド'94イン札幌」に出演
8月 2日　12thシングル「SPY」（TBS系ドラマ「男嫌い」主題歌）発売……最高1位、86.6万枚
10月25日　5thアルバム「PHARMACY」発売……最高1位、91.6万枚
11月30日　「CONCERT TOUR '94～'95 "WELCOME TO MY PHARMACY"」スタート（全国31カ所で58公演）

1995

2月 6日　東京・厚生年金会館6DAYSスタート
4月20日　「CONCERT TOUR '94～'95 "WELCOME TO MY PHARMACY"」終了。"充電期間"（喉ポリープの手術）に入る
8月　6thアルバム「ver.1.0E LOVE LETTER FROM THE DIGITAL COWBOY」レコーディング開始
11月　LAで英語詞の打ち合わせ

1996

4月10日　プライベート・レーベル「River Way」発足。通算13thにして初の12cmシングル「SECRET HEAVEN」を発売……最高6位、16.6万枚

6月　7thアルバム「UNDERWEAR」のレコーディング始まる
7月10日　英詞シングル第2弾（通算14th）「COWBOY」（フジテレビ系「アジア太郎」オープニングテーマ）発売……最高20位、4.2万枚
7月25日　6thアルバム「ver.1.0E LOVE LETTER FROM THE DIGITAL COWBOY」発売……最高5位、29.2万枚
8月10日　リミックス・アルバム「LOVE CALLS FROM THE DIGITAL COWGIRL」のCD、アナログ同時発売……最高29位、3.7万枚
9月25日　15thシングル「どうしようもない僕に天使が降りてきた」（日本テレビ系「TVおじゃマンボウ」エンディングテーマ）発売……最高4位、32.1万枚

10月25日　7thアルバム「UNDERWEAR」発売……最高2位、75.8万枚
11月18日　16thシングル「まだ生きてるよ」発売……最高10位、14.8万枚

CamScannerでスキャン

4th Album
SELF PORTRAIT

音楽性と日本語志向を高次元で両立させたサウンド・クリエイター槇原のブレイクスルー

文▶川口瑞夫［ライター、編集者］

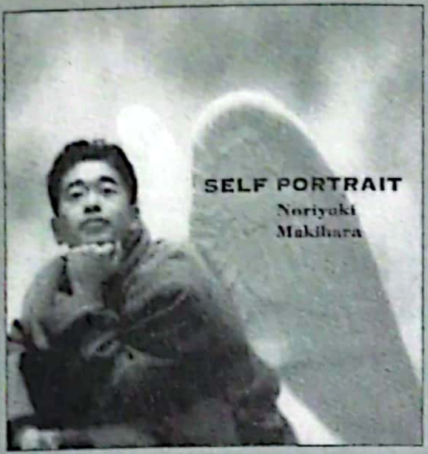
本作は第2期の始まりを告げる作品だが、個人的には、槇原のキャリアの頂点に位置するアルバムだと思っている。前3作がシンガー・ソングライター的な作りだったのに対して、本作では、彼のサウンド・クリエイター的な資質が見事に開花しているからである。

槇原の高校時代の友人はエンジニア志望だったそうだが、彼の音楽からは、録音や音色に対して強いこだわりが感じられることが多い。本作も例外ではなく、①冒頭に登場するキーボードの硬質で透明感のある音色が、このアルバムの方向性を決定付けている。よくいえば手の込んだ、悪くいえばゴチャゴチャしたアレンジが多いにもかかわらず、アルバム全体を通してクールなかっこよさが感じられるのは、録音・音響処理の成果だといえるだろう。

特に注目したいのはシングルにもなった⑩。曲調は、おなじみともいえる槇原節だが、イントロにおけるシンセ音とキーボード音の対比や、サビにおけるコーラス処理など、硬質な手触りを強調した音響処理になっているため、従来の槇原節にはない独特の緊張感が漂っているのである。

⑥や⑦など、ブラコン志向が強くなっているのも本作の特徴だが、そうした曲でも、日本語の語感を大切にしているところが槇原らしい。言葉の乗せ方で無理をしない分、コード進行やメロディ展開で無理をしているようなところもあって、それが独特のフックを生み出している点にも注目したい。⑪のAメロなんかも、日本語の乗りがスムースだから目立たないが、メロディ展開はかなり意外性に満ちている。この意味でも、このアルバムには槇原らしい独特の完成度があるといえる。

その後の槇原は、音色に温かみのある『PHARMACY』でややシンプルなアレンジに回帰した後、全曲英語詞の『ver. 1.0E LOVE LETTER FROM THE DIGITAL COW BOY』で再度サウンド志向を強める。しかし、槇原のサウンド志向と日本語志向が高い緊張感の中で両立しているという意味では、本作を超える作品は作られていない。☆



WEAミュージック　WMC3-44
（1993年10月31日発売）
ワーナーミュージック　WPC7-8531
（1998年11月26日再発売）

①君に会いに行く ②No.1 ③さみしいきもち ④髪を切る日 ⑤Witch hazel ⑥彼女の恋人［ALBUM VERSION］ ⑦SELF PORTRAIT ⑧困っちゃうんだよなぁ。 ⑨MILK ⑩ズル休み ⑪雪に願いを ⑫猫がふんじゃった

CamScannerでスキャン

マッキー・アルバム
“HAPPY”
レヴュー#05

5th Album
PHARMACY

出し惜しみなし、凄曲連打のド迫力！
この贅沢感こそマッキー・アルバムの醍醐味

文▶西岡ムサシ［編集者／ライター］

「どんなときも。」以来続いた“ヒットメーカー・マッキー”時代を締めくくるアルバム。その勢いは序盤の②③でいきなり全開である。メロディ、言葉、サウンド、すべてにおいて出し惜しみなしの凄曲連打！　実際、この2曲にはアルバム全体のムードを支配するパワーがあるようで、マッキー・ファンの知人も「「PHARMACY」って恋愛絶好調っぽいよね。有頂天って感じ」と言っていた。悲しい曲や危ない曲もあるんだけど……まあ、君からのキスがしやすいように背中かがめてみたり、仲直りのキスの印に恋人の帽子のツバを後ろ向きにして乱暴に戻されたりしてちゃ仕方ないか。

ワーナーミュージック　WPC2-7511
(1994年10月25日発売)
同　WPC7-8532（1998年11月26日再発売）

①INVITATION(INSTRUMENTAL) ②HOME WORK ③DARLING ④2つの願い(VERSION II) ⑤LONESOME COWBOY ⑥TWO MOONS ⑦SPY ⑧花水木 ⑨OCTAVERS ⑩今年の冬 ⑪恋はめんどくさい? ⑫東京DAYS

ヒット曲④のヘヴィな再アレンジ版、カントリー・ワルツ風の⑤、暗黒マッキー炸裂のストーカー・ソング⑦（〈抱きしめた強さ／君の身体に／アザのように残ればいい〉〈今僕を笑うやつは／きっとケガをする〉の呪詛がコワイ）をはじめ聞きどころ満載なわけだが、ボクの一番のお気に入りは⑪。前作の「困っちゃうんだよなぁ。」から後の「男はつらいっすねぇ」への流れに連なるイケイケおちゃらけソングである。しかし、イントロの♪パッパラパッパッパーとか「あんた、お母ちゃんの言うことよう聞きや」「分析の結果、そのように出ております」といった茶々を除けば、曲本体は別にふざけてない。むしろ、これ見よがしなソウル／R&B風の味つけを抑えてきたマッキーが、♪ヌォウウォウウォウとか♪フゥ〜とフェイクをかましたり、ゴスペルっぽい大サビを入れて盛り上がったりする意外な一面が窺える好曲なのだ。テクノ・ポップ＋ゴスペルという着想にウキウキしちゃったのか、ストイックな王道ポップス職人が思いきり羽を伸ばしてる様子に萌えまくり。実際これだけで充分なのであって、茶々は余分とすら思える。のちの「まだ生きてるよ」や「印度式」ではおちゃらけと音楽性の一致度が上がっているけど、この曲ほど惹かれるものはなかった。

最後のデートに臨む思いを描いた哀しくも美しい⑧、80sニュー・ウェイヴ経由っぽいレゲエのリズムに乗って悪友と再会する⑨、ひとり暮らしの日常を慈しむ⑩なども含め、前作ほどのインパクトはないものの完成度は高い。ただ本人は少しばかり行き詰まりも感じていたようで、英語アルバムへの挑戦によっていったん“ヒットメーカー・マッキー”をリセット、徐々に渋い作風へとシフトしていく。☆

「SPY」作詞・作曲：槇原敬之

CamScannerでスキャン

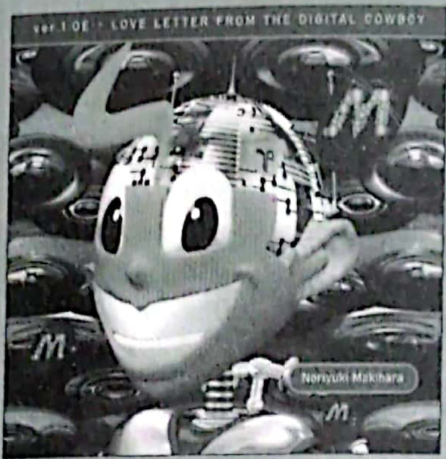
マッキー・アルバム "HAPPY" レヴュー #06

6th Album
ver.1.0E LOVE LETTER FROM THE DIGITAL COWBOY

「自分が聞きたい」音楽の実現に向けて 全編英語詞の"洋楽"に挑戦

文▶榊ひろと［音楽解説者

ポリープ手術にともなう入院とその後の休養生活を通じて"ラジオから自分の聞きたい音楽が流れてこない"と感じたことが、この全編英語詞による"洋楽"アルバムの制作を槇原に思いつかせたという。普段は詞を先に書いてから作曲に取りかかる槇原だったが、本作は先にメロディとサウンドを仕上げたものをロスアンゼルスの音楽出版社に委ね、作詞を担当するソングライターを募るという制作方法がとられた。名乗りを上げた作詞家陣にはスティーヴン・ビショップ、ブルース・ガイチ、アンディ・ゴールドマーク、リンダ・トンプソン、ブロック・ウォルシュ、ウェンディ・ウォルドマン、ランディ・グッドラム、クリス・ファーレンなど洋楽リスナーが驚くようなそうそうたる面々が並んでいる。



ワーナーミュージック　WPC2-7603
(1996年7月25日発売)
同　WPC7-8533 (1998年11月26日再発売)

①Hey Yo!②Cowboy(Album Mix) ③The Lover In You④Running Out Of Daydreams⑤Day And Night⑥9 x Forever⑦My Eyes Adored You⑧I Can Feel Your Heart⑨Secret Heaven(Album Version) ⑩Limit's Of Love⑪I'm Not Gonna Fall In Love⑫Bye Bye Cowboy ⑬If You Believe In Love

ただし録音はすべて国内で行われ、槇原自身のアレンジとキーボード、小倉博和と佐橋佳幸のギター、飯田高広のシンセ操作、佐藤康夫のミックスといったいつもの体制を基本に、⑦のギター・ソロに松原正樹、⑨のピアノ・ソロに本間昭光、その他ホーン奏者やベーシストが数曲でゲスト参加している。また録音エンジニアのひとりとしてアマチュア時代からの槇原のパートナーである沢田知久が初めてクレジットされた。したがってサウンドそのものは従来の日本語による作品と大きな違いはないものの、楽曲のテイストとしてはやはり70~80年代のAOR的な作風が目立つ。そこに当時最先端だったダンス系のエッセンスを混ぜ込んでいるのが本作の特徴と言えるが、メロディの良さが光るのはバラード系のナンバーである。

もちろん日本語作品と比べると槇原本来の魅力が充分に発揮されているとは言い難いし、本人の思考を反映した歌詞ではないので歌声に魂がこもっているはずもないが、日本人作曲家が歌ったデモ・テープだと考えれば充分すぎるくらいクォリティの高い作品集と言えるだろう。ちょっとした気分転換のための寄り道とはいえ、ソングライターあるいはヴォーカリストとしての槇原にとっては、次なるステップへ向けて大きな刺激となる試みだったのではないだろうか。☆

7th Album
UNDERWEAR

音作りに広がりが出て歌詞も奔放に。R&Bサウンド流行の波を捉えた快調作

文▶高橋道彦［音楽評論家］

アルバムはいきなりハードなギターを配した①で幕を開ける。それまで、メロディーを大切にするシンガー・ソングライターらしく、しっとりとしたストリングスをあしらったナンバーなどでオープニングを飾ってきた槇原からすると、十分に異色。趣味性の高い英語詞アルバムを経て、従来の方法論からひとつ自由になり、サウンドがカラフルになったことは確かだ。音作りに広がりが出れば歌詞も奔放さを増す。音楽と下着というと、エロ・ジャケやらなにやら、過度にセクシャリティを強調するか、アンツ・イン・マイ・パンツといったフレーズのようにコミカルな路線に走りがちだが、槇原はたとえトランクス一丁であっても精一杯の矜持を保とうとする姿に、男の情けなさや自己愛を託そうとする。そうした意味では、〈ぼくは君のアンダーウェア／いつでも脱ぎすてるためにいる〉〈ぼくは君のハンカチーフ／涙をふくために生きている〉と歌う鈴木慶一「GOD SAVE THE MEN（やさしい骨のない男）」（『SUZUKI白書』に収録）と比べたくなってくる。もちろん、両者は世代も違うし、いきなりノリつっこみのようなセリフで迫る槇原と、自己憐憫をシニカルに見つめる東京者、鈴木慶一のやり方は異なるけど、共通点も見出せる。そう思わせるのは、②にポリフォニーが登場するから。「SUZUKI白書」にも台湾の先住民族のコーラスが入った曲があり、②はそんな感じも思い出させる。マンドリンの入った④はケルト風にも聞こえるし、槇原が英米の王道ポップスのみならず、周縁の音楽にも意識的なことがよくわかる。ただ、意識的ではあっても、着地点はあくまでポップなメロディー重視。それがこの作品に勢いを与えていて、理屈っぽくならないのは彼のストイックなところだ。

ワーナーミュージック　WPC2-7608
（1996年10月25日発売）
同　WPC7-8534（1998年11月26日再発売）

①男はつらいっすねぇ ②PENGUIN ③どうしようもない僕に天使が降りてきた ④君の自転車 ⑤うん ⑥I need you.（ALBUM VERSION） ⑦revenge ⑧オオカミ少年 ⑨THE END OF THE WORLD ⑩PAIN ⑪LOVE LETTER ⑫まだ見ぬ君へ

①はギターはハードだが、全体的な印象はジャネット・ジャクソンを手掛けるときのジャム＆ルイス的な手法に聞こえる。⑥はベイビーフェイスっぽいし、⑪はフィリー・ソウル的でもある。この96年ごろから、J-POPの世界でもソウル／R&B的な音作りが明らかに目立ちはじめるようになったが、このアルバムもそうした時代の流れを捉えているといえそうだ。一聴ではお洒落な80年代サウンドみたいな⑨が不倫ソングというのもソウルの本質をついている。☆

「GOD SAVE THE MEN（やさしい骨のない男）」作詞・作曲：鈴木慶一

CamScannerでスキャン

ソニー時代 1997-1999：「素直」～「Cicada」

ソニーへの移籍は華々しかった。シングルはケレン味あふれ、アルバムはアーティストとしての充実ぶりを如実にドキュメント。だが99年8月26日、大きな挫折が槇原を襲う。覚せい剤取締法違反により逮捕、無期限の活動停止。新たな作品発表までは丸1年待たなければならなかった。

文▶榊ひろと［音楽解説者］　年表作成▶編集部　イラストレーション▶もりいくすお

移籍後の激動の中で芽生えつつあった「本当に意味のある歌」への志向

移籍によって強まった原点回帰の傾向

休養明け初のツアーを1997年1月に終えた槇原はソニー（SME）への移籍を発表。一方で古巣のワーナーが5月に発売したベスト・アルバム「SMILING」は、チャート1位を獲得し150万枚以上を売り上げるビッグ・ヒットとなり、マッキー人気の根強さを印象づけた。同社の編集盤"SMILINGシリーズ"は99年までに計4タイトルがリリースされている。

ソニー移籍第1弾となったシングル「素直」はピアノ伴奏を中心とした「ANSWER」以来のスロー・バラード、第2弾の「モンタージュ」こそ「SPY」路線のナンバーだったが、冬季五輪関連タイアップ曲としてリカットされた「足音」もバラードといった具合に、叙情性を前面に出した原点回帰の傾向が見られる。歌詞の面でも「素直」と「足音」は色恋沙汰のラヴ・ソングに留まらない精神性を訴えようとしているようだ。

11月に発売されたアルバム「Such a Lovely Place」からは槇原によるセルフ・プロデュース体制となり、録音とミックスのエンジニアを旧知の仲である沢田知久が担当した。シンセ技師には新たなメンバーが加わったが、ゲスト・ミュージシャンは最少限に留められており、ホーム・レコーディングに近い環境で制作が行われたものと思われる。そのためか打ち込み中心のアレンジにもかかわらず、インティメイトかつオーガニックなサウンドに仕上がっており、全体に派手さは少ないがしっとりとした感触の音像が目立つ。もちろんロックっぽい「Fan Club Song」やテクノ・ハウス風の「印度式」なども収録されてはいるが、やはり印象に残るのはバラード系のナンバーである。

98年冒頭の全国ツアーは16カ所で19公演とかつての規模には及ばないものの、4月には5大都市で初のアリーナ・コンサートを敢行。喉の負担を考慮しつつ多くのファンにアプローチするための方策だったようだ。7月には「HAPPY DANCE」、11月には「STRIPE!」とタイアップ付きシングルをリリースしていくが、この年はオリジナル・アルバムの発売はなく、10月にカヴァー・ソング集「Listen To The Music」が届けられた。ファンの間には"また企画もの？"みたいな声がなかったわけでもないが、これとてマイペースの詞・曲作りを担保しつつプロダクトの数をキープするための苦肉の策だったのかもしれない。またソニー時代の特徴

として槇原が対外活動に本格的に乗り出したことが挙げられる。97年には加山雄三トリビュート・アルバムに参加して「お嫁においで」を歌い、98年にはローリー寺西こと寺西一雄のソロ・シングル「Name Of Love」を作詞・作曲・プロデュースしている。

"Cicada＝蝉"というタイトルの意味は

新天地で順調に音楽活動を展開しているかに見えた槇原だったが、この頃すでにソニー移籍時に設立した個人事務所の代表を委ねていた人物とマネージメントを巡る不協和音が芽生えていたとされる。また私生活の面を含めて混沌とした状況にあり、自身も後に"まさに蝉が脱皮したがっているような時期"と述懐している。しかしながら、創作に対する意欲はいささかも衰えることなく、99年6月にはニュー・アルバムからの先行シングル「Hungry Spider」をリリース。この「Hungry Spider」にしても「HAPPY DANCE」にしても、新機軸としてアイリッシュ・トラッドとフラメンコとフォルクローレがないまぜになったようなエスニックな哀愁モノとも言うべきメロディとサウンドを聴くことができる。ケルト／ロマ／インディオといった人々に格段のシンパシーがあるわけでもなさそうだが、こうした路線は21世紀に入ってからポルノグラフィティやKinKi Kidsがさんざん活用しているし、「世界に一つだけの花」まで通奏低音のように共鳴し続けている。

七夕の日に発売されたアルバム「Cicada」は前作までとほぼ同様の布陣で制作されており、マスタリングも従来のボブ・ラドウィッグに代わって沢田知久が手掛けた。"涼しげな夏"というコンセプトは貫かれており、多様なタイプの楽曲が収められているのにサウンド的には静謐と言っていい音像でまとめられている。数多くの音が打ち込まれているにもかかわらず、決してカラフルにはならずにどこかダウナーなモノトーンを感じさせる一方で、あまりにも隙のないサウンド構築に息が詰まってしまう部分も否めない。しかし楽曲面では初めて海外に題材を求めたと思われる「Star Ferry」での中華風のメロディとサウンド、中期YMOを彷彿させるアレンジが耳を引く「青春」、「Name Of Love」のセルフ・カヴァーなど聴きどころは多い。そして9月からはアルバムを引っ提げての久し振りの大規模なツアーに入る予定だったのだが……。☆

1997

1月6日~31日 ツアー「UNDER YOUR UNDERWEAR」(全国10カ所で10公演)
4月23日 加山雄三トリビュート・アルバム「60 CANDLES」(ファンハウス)に参加。「お嫁においで」を歌う
5月 1日 編曲を手掛けた矢野顕子のシングル「クリームシチュー [The Stew]」(EPIC) リリース
5月10日 ワーナーから初のベスト・アルバム「SMILING~THE BEST OF NORIYUKI MAKIHARA」発売……最高1位、166.1万枚
6月25日 PV集のビデオ「SMILING~THE VIDEO COLLECTION」発売

7月30日 ソニー移籍第1弾となる17thシングル「素直」(アステル東京CMソング) 発売……最高12位、14.5万枚
9月10日 ワーナーからベスト・アルバム第2弾「SMILING Ⅱ~THE BEST OF NORIYUKI MAKIHARA」発売……最高2位、51.3万枚

10月29日 18thシングル「モンタージュ」(日本テレビ系ドラマ「恋の片道切符」主題歌) 発売……最高9位、18万枚
11月27日 移籍第1弾 (通算8th) アルバム「Such a Lovely Place」発売……最高2位、56.2万枚
12月 「SMILING」が日本ゴールドディスク大賞「ポップ・アルバム・オブ・ザ・イヤー」受賞

1998

1月 6日「GEORGIA PRESENTS 槇原敬之CONCERT TOUR'98 "Where is the LOVELY PLACE?"」スタート。全国16カ所で19公演

1月21日 19thシングル「足音」(GEORGIA提供・長野オリンピック聖火リレー公式応援ソング) 発売……最高24位、4.1万枚
2月27日「GEORGIA PRESENTS 槇原敬之CONCERT TOUR'98 "Where is the LOVELY PLACE?"」終了
4月15日~30日「GEORGIA PRESENTS 槇原敬之CONCERT TOUR'98 "It's a LOVELY PLACE?"」(5カ所7公演)
5月10日 ワーナーが"エクストラ・ベスト"アルバム「SMILING Ⅲ~THE BEST OF NORIYUKI MAKIHARA」を発売……最高6位、17.7万枚

7月23日 20thシングル「HAPPY DANCE」(テレビ朝日系「ニュースステーション」8月度ウェザーテーマ) 発売……最高14位、7.3万枚
10月21日 初めてのプロデュース作品、寺西一雄 (ROLLY) シングル「Name Of Love」(ソニー) 発売
10月28日 カヴァー・アルバム「Listen To The Music」発売……最高2位、28.6万枚

11月26日 21thシングル「STRIPE!」(アルペンCFソング) 発売……最高16位、6.5万枚
12月24日 クリスマス公演「Alpen Presents Noriyuki Makihara Christmas Concert '98~PLAY for PRAY~」(東京国際フォーラム)

1999

2月10日 ワーナーからカラオケCDつきベスト盤「SMILING GOLD~THE BEST & BACKING TRACKS~」発売……最高24位、3.8万枚
4月17日~29日 初のファンクラブ・イベント「FUN for FAN」名古屋、大阪、東京で開催

5月 1日 PASCOが槇原敬之プロデュースのパン「DANCEHALL」を関東地区限定で発売
6月 2日 22ndシングル「Hungry Spider」(日本テレビ系水曜ドラマ「ラビリンス」主題歌) 発売……最高5位、35.2万枚
7月 7日 9thアルバム「Cicada」とPV集ビデオ「STRANGE ATTRACTIONS?」同時発売……アルバム最高3位、55万枚
8月26日 覚せい剤取締法違反で逮捕。全国ツアーはキャンセル、無期限活動停止となり、CDは店頭回収あるいは出荷停止に
11月25日 東京地裁で初公判。検察は懲役1年6カ月を求刑
12月 8日 公判で懲役1年6カ月・執行猶予3年の判決が下される
12月25日 恵比寿ガーデンホールで坂本龍一のコンサート「SKMTP」にゲスト出演

CamScannerでスキャン

8th Album

Such a Lovely Place

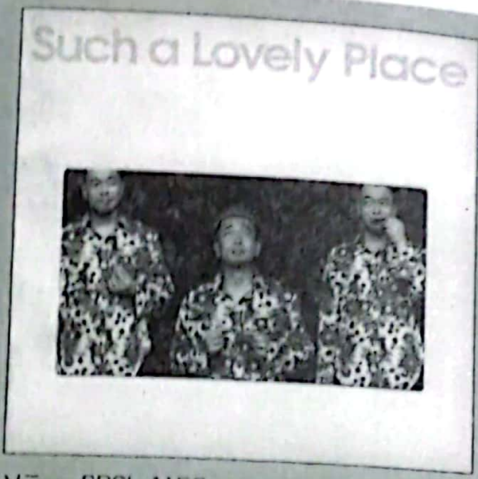
“ヒット・メイカー槇原”の素顔が覗ける再デビュー作のような色合い

文▶小川真一［音楽評論家］

余裕の一枚。新天地(ソニー)に移った気負いもないし、まるで休みの日にサンダルばきで散歩にでかけるような、そんなリラックスしまくった表情がみてとれる。この余裕がどこから出てきたものなのか、ヒット・メイカーになったという自信か、ベスト盤を出してひと括りついたという安心感か。ともあれ“素顔”がこのアルバムの大きなテーマになっている。

午後の眠りからさめるような、ゆったりとした①でスタートする。槇原の歌には自身が主人公になって悩んだり考えたりするものが多いが、この曲では傍観者になり遠い風景を語りだしていく。主格は相変わらず“僕”だけれど、それもどこか朧げで、中空から自分を見下ろしているような淡いペシミズムが漂っている。

「〜てーな」という大阪弁を盛り込んだ⑤にしても、ギミックの利いたシチュエーションを設定して複雑な心情を歌にするという手法から離れ、ごく自然に、ありきたりの光景を抽出するソングライティングへの移行が感じ取れるのだ。



ソニー　SRCL-4153
(1997年11月27日発売)
同　SRGL-601
(スーパーオーディオCD：1999年5月21日発売)

①うたたね ②Fan Club Song ③Cleaning Man ④モンタージュ ⑤手をつないで帰ろ ⑥素直〜Album Version〜 ⑦情熱〜Album Version〜 ⑧印度式 ⑨僕のものになればいいのに ⑩足音 ⑪Such a Lovely Place

さり気なさの極限のような⑥でも、透明な気持ちがなければ見えてこない些細な感情の動きを、ピンセットの先でつまむようにデリケートに浮き彫りにしている。

その反面、絶対に歌に出来ないようなモチーフ(肥満、毛深さ)を、遊び心で調理した⑧のような曲も、余裕から生まれたものだったと思う。ルーサー・ヴァンドロスを思わせるシルキーなソウル感覚も耳新しい。会話部分まで譜割りの中に押しこめてしまう職人技には唸ってしまった。TVドラマ『恋の片道切符』主題歌④や、長野オリンピック聖火リレーの公式応援ソングになった⑩などなど、佳曲が多い。このアルバムをフェイヴァリットに挙げるファンが多いのも十分に頷けるところだ。

派手さはないけれど、自分が納まるべき愛おしい場所をみつけた。そんなささやかな宣言のようなアルバムだ。ある意味では、再デビューのような色合いをもった作品であり、槇原が素顔を見せてくれたアルバムなのだと思う。★

CamScannerでスキャン

マッキー・アルバム
“HAPPY”
レヴュー#09

Cover Album
Listen To The Music

自作曲でないからこそ顕著に表れたアレンジャー／ボーカリスト槇原の資質

文▶宗像明将［音楽ライター］

槇原敬之が愛聴してきた国内アーティストの楽曲を集めたカバー・アルバム。発売当時、曲目を見てまず驚いたのは、かつて「ニューミュージック」と呼ばれたジャンルのアーティストの楽曲を多く取り上げているてらいのなさだ。自分の趣味を良く見せるためにマイナーなアーティストの楽曲ばかりを取り上げるようなことはせず、また各アーティストの有名ではない曲ばかりを集めたりもしていない。自身のルーツを素直に示すこの直球ぶりは、やはり槇原敬之という人物の魅力でもあるだろう。筆者もほとんどの楽曲を聴いて育ってきたため、発売当時にちょっとした興奮を覚えたものだ。

①はLOUの楽曲。大貫妙子の②は矢野顕子もカバーしている。オフコースの③のようなせつないナンバーでは、ボーカリストとしての槇原の表現力が発揮されていて、厚いコーラス・ワークも美しい。また、非常に相性が良いのが大江千里の④で、この楽曲の持つ「痛み」も見事に表現されている。

サザンオールスターズの⑤は、一気にトロピカルなサウンドに。YMOの⑥は、チェンバロも鳴り響く槇原流のテクノ・ポップだ。しっとりと歌い上げているのは矢野顕子の⑦。文部省唱歌の⑧は、アイルランド音楽に変貌させられてしまった。インドのタブラが鳴っているのは、松任谷由実の⑨。ゴダイゴの⑩は、アルバムの中で一番ファンキーなサウンドだ。

中島みゆきの⑪では、楽曲に真正面から向かい合っているかのような歌唱が印象的。ラストの⑫は池田聡の楽曲で、エスニックな打楽器やボーカルが配されたサウンドがディープだ。

歌われるのが自作の楽曲ではないぶん、『Listen To The Music』はアレンジャー、ボーカリストとしての槇原の資質がよく表れた作品になっている。アレンジは、エスニックなアプローチなど多彩で凝ったサウンドを展開しており、ボーカルはせつない楽曲ほどその実力と魅力を発揮している。続編となるカバー・アルバムも制作中とのことなので、そちらも楽しみにしたい。★

ソニー　SRCL-4387
（1998年10月28日発売）

①蒼い月の夜～Lady In Blue～ ②海と少年 ③秋の気配 ④Rain ⑤ミス・ブランニュー・デイ(MISS BRAND-NEW DAY) ⑥君に、胸キュン。 ⑦David ⑧朧月夜 ⑨春よ、来い ⑩MONKEY MAGIC ⑪空と君のあいだに ⑫月の舟

CamScannerでスキャン

マッキー・アルバム
"HAPPY"
レヴュー#10

9th Album
Cicada

周到に演出された切なさに
"大人"になった槇原の技が光る

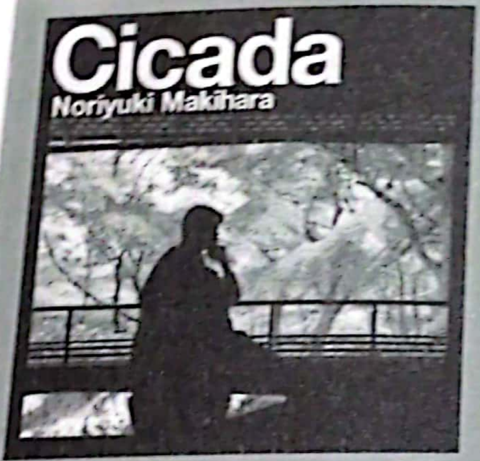
文▶[illegible]（ライター）

「夏の切なさ」を感じる一枚である。たとえばプール
ではしゃぎ疲れた午後。気がつけば窓を開け放した
居間で一人寝入っていて、外をみたらもう夕暮れで—
—そんなとき感じた、理由のない寂しさや切なさ、不
安。詞に歌われる情景だけで
なく、マイナー・コード主体で
進むメロディの組み合わせが、
全体として「懐かしい不安」を
き立てる。恋の切なさを歌う
はどのアルバムにもある槇
の得意技だが、「Cicada」に
恋をするより幼かった時代
なさがある。

ここまでは、槇原の狙い
のだろう。〈今回のアル
、和なんですよ。湿りけ
というか〉〈マイナーコ
かけたのも、今回の
ワッツイン」99年7月
原本人が語るとおり、
不安も、計算ずくのこ
の計算に入っていなかったことが起こる。
日、槇原敬之逮捕。「Hungry Spider」を
! HEY! HEY!」の放送3日後のことだっ
の「Cicada」を含めたすべてのアルバ
ムが発売停止になる。Cicada——セミ。何年も地
に眠り、地上に出て2週間ほどで死んでいくセミの一
生をなぞるかのように、「Cicada」は、発売されてか
らたった50日余りで店頭から消えた。

この時期の槇原の曲を否定
する向きは、ファンの間にもあ
る。それまでのアルバムで感
じられた「槇原自身の迷いや悩
み」が薄く、「ダメな自分」に
っている様子が感じられない。
余裕があって手慣れているか
「小手先でつくられた」と感じる
人もいるだろう。しかし、それ
が何なのだ。小手先だろうと計
算ずくだろうと、この切なさは
本物だ。

このアルバムがつくられたの
は、槇原敬之が29歳から30歳
になる頃。そして、彼がなんの
躊躇もなく「青春と恋愛のポッ
プス職人」として受け入れられ
ていた時代の、最後のアルバムになった。もとより
定評のあった詞と曲に加え、前作「Listen To The
Music」あたりで完成された「滑らかな高音の裏声」
が、透明感のある情景を胸の中に作り出す。その真価
は、もっと認められていいはずだ。☆



SME　初回限定盤：SRCL-4539~40
通常盤：SRCL-4541（1999年7月7日発売）

①~introduction for Cicada~ ②pool ③Hungry Spider ④HAPPY DANCE~Album Version~ ⑤Star Ferry ⑥青春 ⑦STRIPE! ⑧この傘をたためば ⑨The Future Attraction ⑩BLIND ⑪Name Of Love ⑫Cicada
＊初回盤のみ、Thunder Babies「待ってたぜBABY!」収録の8cm CDつき

蜘蛛が蝶に恋をした――倒錯のメルヘンに潜む槇原の本質

危なき哉、素晴らしき哉、「Hungry Spider」

「Hungry Spider」は逮捕前の最後のシングル。歌詞はいつになくブラックだし、PVもヤバい雰囲気満点で、朗々とした歌も不気味に響く。好青年イメージを裏切るこの曲はしかし、というより、だからこそマッキー畢生の傑作だ――そんな主張をお届けする。

文▶宝泉薫［著述業］
イラストレーション▶玉城雪子

今でこそ"Jポップの白樺派"みたいに道徳を説きまくる槇原敬之だが、かつては背徳の匂いのする作品で異彩を放ったこともあった。たとえば「SPY」では失恋ソングの形を借りて、ストーカー心理を赤裸々に表現。川端康成の小説『みづうみ』と並ぶ尾行モノの傑作と呼んでも、過言ではない。

そして、この「Hungry Spider」。ここで彼はメルヘンに題材を取りつつ"監禁"を歌っている。美しい蝶を好きになってしまった蜘蛛が、その蝶を捕まえてしまい、食べるべきか助けるべきか、煩悶した末に逃がしてやるという内容だが、その素晴らしさは、期待と不安、残酷と慈愛、サディズムとマゾヒズムとの狭間で揺れ動く監禁心理が、迫真の描写でもってあぶり出される点なのだ。殊に、2コーラス目のサビ前で〈今すぐ助けると言うより先に／震えた声であの子が／「助けて」と繰り返す〉とファルセット混じりに歌われる部分は、エクスタシーの極致。詩人としても音楽家としても一流な彼ならではの、生涯最高のパフォーマンスと言っていい。

槇原の芸術家的資質を最大限に発揮

むろん、これを悪趣味と感じる人もいるわけで、近田春夫氏も〈ハッキリいって相手は愛してなんかいないです、アンタ(蜘蛛)のことなど〉(『考えるヒット3』より)と指摘。槇原流ラヴ・ソングの特徴を、相手の気持ちなどお構いなしに"一方的な感情"のみで終始するところと見て(失恋モノですら)モテない男の夢物語みたいなとらえ方をしている。それはそれで、まさにその通りだが……。だからこそ、その世界は非凡なのである。つまり、恋愛を関係妄想のひとつだとすれば、相互に通じ合う関係性より、一方的な感情に終始する"無関係性"を描いたほうが、"妄想としての恋愛"という本質により近づきやすいということ。それを極上のポップスとして体現できることが、芸術家・槇原の魔力でもある(そのあたりは近田氏も、重々承知だろうけど)。

ただし、この作品は魔力が強すぎたというか、数年来の槇原ファンを戸惑わせ、ヒット中に例の事件が起きたことで"ああ、やっぱり"とミョーな納得を生むハメに。だが、その魔力が最大限に発揮されたこの曲ほど、彼の芸術家的資質が色濃く反映された作品もない。それは"屈折した快楽主義"(これについては別稿で詳述する)というヤツだ。たとえば、蝶を逃がしてやるというオチにしても、それは優しさからではなく、食欲より性欲を選んだ(食べてしまえば、その美しさを味わうこともできない)という結果にすぎないのだから。★

ngry Spider」作詞・作曲：槇原敬之

ワーナー時代
)-2002：『太陽』～『本日ハ晴天ナリ』

槇原が選んだのは、古巣のワーナーミュージック。作風は事件前と大きく変わった。内省的な
とどまらない大きなテーマを歌った歌詞が増えていく一方で、派手さはないが複雑に練れたサ
るようになる。"完全復活"へ、準備は整った。

者〕 年表作成▶編集部 イラストレーション▶もりいくすお

よって得たアイディアを作品に
復活"に向けた試行錯誤

力強さに満ちた
太陽』

原にとって最初の音楽活動となった
本龍一コンサートへのゲスト出演で
ークの矢野顕子からも励ましの便り
2000年に入って本格的に曲作りを
、事務所代表による資金横領が発
訟事件へと発展している。しかし、
契約のオファーがあり、5月にはデ
スト・アルバム『10.Y.O.～THE
LECTION～』も発売されている。
復帰作『太陽』は槇原のセルフ・
アに沢田知久、マスタリングは
来からの布陣で制作され、ギタ
幸といったお馴染みの面々がプ
技師には新たに毛利泰士を迎え
のことながら内省色の強いも
すべての音楽が陰鬱なトーンに
、むしろ新たな曲調に挑戦し
さに満ちた仕上がりとなった。
ル・ヒット"とか"売れ線のラ
を意識する必要もなく、まさ
を進めていったのが功を奏し
ト上でも第4位にランクされ
まだまだ数多くのリスナーが
ことを印象づけたのである。
言ってみればリハビリ期間。
いかにして聞き手にわかり
やすい形で還元していくかのように、ソングライティング面での試行錯誤が続けられた。01年4月にリリースされたシングル「桃」は槇原らしいミディアムのラヴ・ソング、10月の「Are You OK?」は新生マッキーをアピールするビッグ・バンド・スタイルの4ビート・ナンバー。後者

からはメディア露出も解禁されたが、どちらの曲もメッセージ色が濃厚で、「太陽」のあまりのシリアスさに引いてしまったファンを次のアルバムに呼び戻すには至らなかったようだ。ただし11月にリリースされた新作「Home Sweet Home」の出来は悪くない。一部にはダークな面を引きずった作品も見られるものの、軽やかな冒頭の「Happy Birthday Song」および対をなす終幕のタイトル曲、清々しいバラード「You are so beautiful」や愛犬にインスパイアされた「君が教えてくれるもの」など希望と優しさに溢れた楽曲も目立つ。要はシングル曲選択の問題なのかもしれないが、タイアップもままならない状況では如何ともしがたかったのだろう。

ヴォーカルの表現力も大きくアップ

槇原が完全に復調したと言えるのはやはり、02年初頭に3年ぶりのコンサート・ツアーで待ちわびたファンの前に立った時だろう。その感動的な様子をドキュメントした2枚組ライヴ・アルバムは5月にリリースされている。次のスタジオ作品となる「本日ハ晴天ナリ」からは5月の「雨ニモ負ケズ」を皮切りに翌年のリカット「Wow」も含めて4枚のシングルが切られたが、もはやヒットを狙うというよりもシングルをニュー・アルバムのサンプラーあるいはショーケースと割り切っていたようだ。さもなくば哀愁味のあるラテン調ナンバー「花火の夜」あたりはまだしも、「これはただの例え話じゃない」みたいな曲をアルバム発売の6週間前に出すというのは普通なら考えられない話だ。

この「本日ハ晴天ナリ」では録音とミックスのエンジニアにYMOとの仕事で知られる飯尾芳史を迎え、マスタリングは従来どおりN.Y.のゲイトウェイ・スタジオで行われている。小倉、佐橋のギターは不動だが当時のツアー・メンバーがリズム隊を担当したり、生のパーカッション・アンサンブルやホーン・セクションが参加したりと、以前よりもオーガニックなアレンジとサウンド構築が特徴となっている。教訓を織り込んだ寓話的な歌詞をポップな曲調に溶け込ませる手法も完成されつつあり、オープニングの「AMAZING GRACE」に象徴されるように祈りの感覚と穏やかさに満ちたアルバムとなった。

槇原がヴォーカリストとしての表現の領域を大きく拡大しているのも第2次ワーナー時代の特徴である。こぶしやファルセットの使い方もずっと柔軟になり、ゴスペル的な曲調にトライするケースも見られるようになった。いずれにせよ槇原敬之の完全復活へのお膳立ては創作面でも制作布陣の面でも充分に揃ったと言えるだろう。あとはプロモーション等の体制が整い、何らかの起爆剤を手にするのを待つばかりであった。この時代の槇原を受け入れてチャンスを与え、大きなヒットは出なくとも忍耐強くリリースを続けたワーナーの姿勢はもっと評価されても良いだろう。★

2000

5月24日 ワーナーがデビュー10周年記念2枚組ベスト盤「10.Y.O. ～THE ANNIVERSARY COLLECTION～」を15万枚限定発売……最高7位、14万枚
9月 ワーナーに復帰し、アルバム・レコーディングを開始
11月29日 10thアルバム「太陽」発売……最高4位、18.6万枚
12月 6日 ソニーからベスト・アルバム「SINGLE COLLECTION～Such a Lovely Place 1997-1999～」発売……最高17位、4.8万枚

2001

4月25日 23rdシングル「桃」発売……最高11位、9.2万枚
5月23日 プロデュースした坂本美雨のシングル「15分」が発売される
10月19日 テレビ朝日「ミュージックステーション」に出演。2年2カ月ぶりのテレビ登場
10月24日 24thシングル「Are You OK?」発売……最高16位、3.7万枚
11月20日 11thアルバム「Home Sweet Home」リリース……最高8位、8.6万枚

2002

1月23日 ソニーが編集盤第2弾「Song Book～since 1997-2001～」を発売……最高42位、1万枚
1月23日 ワーナーからPV集DVD「NORIYUKI MAKIHARA VIDEO CLIP COLLECTION」発売
1月 小貫信昭・著「うたう槇原敬之」(ソニー・マガジンズ)発売
2月 6日 3年ぶりのツアー「CONCERT TOUR 2002～Home Sweet Home～」スタート(全国9カ所13公演)
3月16日 「CONCERT TOUR 2002～Home Sweet Home～」終了
5月 9日 初のライヴ・アルバム「THE CONCERT: CONCERT TOUR 2002～Home Sweet Home～」発売……最高15位、1.7万枚

5月22日 25thシングル「雨ニモ負ケズ」リリース……最高25位、1.5万枚
7月24日 「世界に一つだけの花」を提供したSMAPのアルバム「Smap 015 Drink! Smap!」発売
8月 7日 26thシングル「花火の夜」とライヴDVD「THE CONCERT: CONCERT TOUR 2002～Home Sweet Home～」同時発売……シングル最高23位、1.3万枚
9月26日 27thシングル「これはただの例え話じゃない」(TBS系「世界ウルルン滞在記」エンディングテーマ)発売……最高18位、1.6万枚
11月 7日 アルバム「本日ハ晴天ナリ」リリース……最高9位、5.2万枚

CamScannerでスキャン

マッキー・アルバム "HAPPY" レヴュー #11

10th Album

太陽

"事件"後の好奇の視線や不安を吹き飛ばす 青いモヤが一気に晴れたようなあざやかさ

談▶Take-3［DJ］　構成▶編集部

特筆すべきは、アルバム全体を覆いつくすブルー・トーン。①から青いモヤがかかったようなトーンがずっと続く。メロディはいかにも、の槇原節だが、歌い方が変わっているのに気がつく。タイトル曲⑩の1番ではイコライザーでラジオ・ヴォイスに声を処理。もどかしく思うこちらの気持ちを見透かすかのように、エンディングを前にいきなり生声に戻る。そこで一気にそれまでのモヤが晴れパーッと光がさしたかのようで、初めて聴いたときには鳥肌が立ってしまった。2番の歌詞や歌い方は、槇原本人の苦悩をそのままストレートに伝えるが、決してダークにならず光あふれた明るさがある。この曲はアレンジや音質も、これまでにない生くささを感じさせる。もしかしてこれは生ドラム？　という音質で打ち込みをしたり。このようなアレンジでここまで歌詞を聴かせるとは思ってもみなかったこと。あの事件がなかったら絶対歌えない、作ろうとして作ったのではなくて、生まれてしまった曲だろうと思う。ファンならずとも、誰もが「あの事件後に出すアルバムは、どんなものになるんだろう？」と期待と不安の入り交じった気持ちで待ち構えていたと思うが、この一曲で槇原は新たな地平に立ったのだ。

確かにファンが期待するような歌詞のディテールに凝ったラブ・ソングはほとんどといっていいほど見当たらない。あえていえば②くらいか。しかしこれとて歌の主人公は恋愛に踏み込んでいるのではなく、一歩下がったところにいる。そこで自分と相手、そして全体を見ている。それはネガティヴなものではなく、視野を広げるために一歩引いているのだと思う。⑧は槇原お得意の"故郷を遠く離れて、帰りたいけど帰れない"ソングだが、事件前の自分にけじめをつけるため歌っているように聞こえる。「遠く遠く」(『君は僕の宝物』収録) へのアンサー・ソングともいえるもの。⑪のある種開き直った感もそれまでにはなかったものだ。"僕は僕だから"というテーマも以前のような「どんなときも。」的なものではなく、"事件のことなんかもひっくるめて僕は僕だよ"と歌う。これを最後に持ってくるところがにくい。聴けば聴くほど味わいのあるアルバムだ。☆

ワーナーミュージック　WPCV-10111
(2000年11月29日発売)
同　WPAV-10001
(DVDオーディオ 2003年3月12日発売)

①彗星 ②キミノイイトコロ ③PLEASURE ④流れりよこ ⑤I ask ⑥WILD RABBITS ⑦迷わない羊 ⑧Going Home ⑨SIMPLIFY ⑩太陽 ⑪Ordinary Days

11th Album

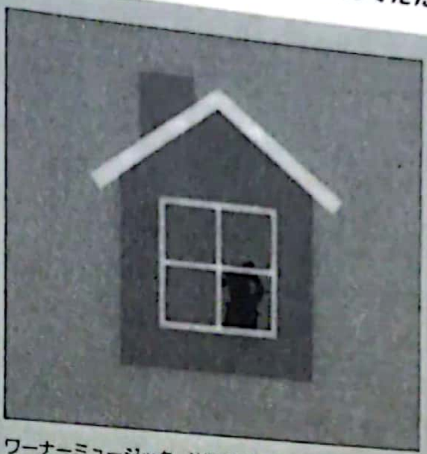
Home Sweet Home

歌詞の新機軸、メロディの実験、打ち込みの熟成と新しい方向性を出しきったような野心作

文▶鹿島良雄［サラリーマン・ライター］

②がとにかく目立つ。〈飛び込んでくるニュースに／僕はもう慣れかけていた〉という詞が目に飛び込んでくる。トランス・テクノを思わせる効果音的アレンジ、珍しくディストーションがかかった激しいギター・フレーズなど、彼の作品の中でも最もアグレッシヴな曲に仕上がっている。「9.11」にインスパイアされた詞だろうか（01年11月21日発売、事件が影を落とすかどうかギリギリのところだ）。そうしたニュースに対し〈それより今日の夜何を／食べるかを考えていた〉と切り返しているところが、彼の面目躍如である。〈この世界はまるで泥沼〉で〈（自分の）真っ黒い心の中　目を凝らしたら／正直な気持ちが／かすかに見えた気がした〉という落としどころが、2001年のリスナーに向かって自分の立ち位置を示す、ひとつの表明になっているのだろう。心ニクイ詞だが、疲弊した時期だったのだろう、とも感じる。

この詞にはもうひとつのポイントがある。〈「泥沼でもきれいに咲ける花が／あるなら君はどうする」〉という一節。これは後の「世界に一つだけの花」に連なるフレーズなのではないだろうか？



ワーナーミュージック　WPCV-10157
(2001年11月21日発売)
同　WPAV-10002
(DVDオーディオ：2003年3月12日発売)

①Happy Birthday Song ②LOTUS IN THE DIRT ③桃 ④ファミレス ⑤You are so beautiful ⑥Are You OK? ⑦天国と地獄へのエレベーター ⑧1秒前の君にはもう2度と会えない(ALBUM VERSION) ⑨長生きしよう ⑩君が教えてくれるもの ⑪Home Sweet Home

彼のメロディーとしては最もシンコペーションが効いた①も楽しい。〈残念ながら〉と、ふだんより一段と腰を低くしてたたみかけるサビがハメをはずしている。ホーン・アレンジメントや、小倉博和のツボをキメまくったギター・フレーズなど、ポップス・アレンジの贅を尽くした一曲。コード進行がドラマチックな④はストリングス・アレンジがコリまくっているし、アメリカン・ミュージカルの大団円のようなシャッフルの⑥も異色だ。これらの見事な生楽器風アレンジは、クレジットによればプログラミングによるもののようだが、生と比べても遜色ない。槇原の打ち込みマニアぶりが光る、極北的作品の数々といえる。

ゴスペル調のイントロを持つ⑦、YMO時代の坂本龍一的キーボードの音色がさりげなく光るドラマチックな⑧など、勢いのある曲ほど後半に配されていることも特色となったこのアルバム、挑戦はいろいろな方角に向いているが、次へと進むカギは十分にちりばめられている。☆

「LOTUS IN THE DIRT」作詞・作曲：槇原敬之

マッキー・アルバム
"HAPPY" レヴュー #13

1st Live Album

THE CONCERT —CONCERT TOUR 2002 "Home Sweet Home"—

"事件"から復帰後初、の冠抜きでも槇原のアナザー・サイドが楽しめるライヴ

文▶小川真一［音楽評論家］

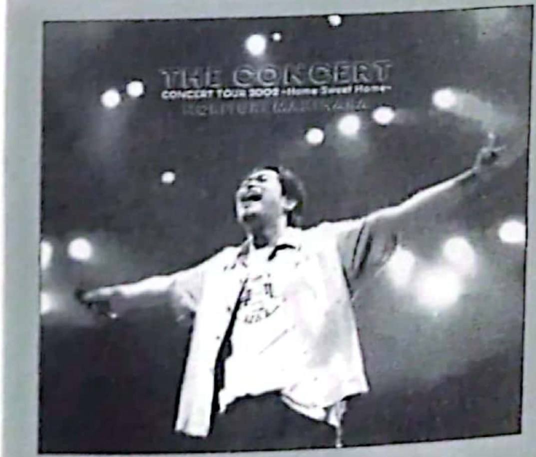
「うん」のピアノ弾き語りヴァージョン[1]①で幕を開けるが、ぴりぴりとした緊張がこちらにも伝わってくる。約3年ぶりのコンサート・ツアー、それも復帰後初めてのライヴとなれば、緊張しない方が不思議だ。2002年におこなわれた「NORIYUKI MAKIHARA CONCERT TOUR 2002～Home Sweet Home～」の最終公演（東京厚生年金会館）のステージを記録した2枚組アルバム。

前半はどこかぎこちなく、ファンの反応を確かめるように進んでいくが、それでも人前で歌うことの喜びは、彼の歌声の中からしっかりと感じとることが出来る。[1]の前半は、②③④など初期の佳作が多く選ばれている。前半部のクライマックス[1]⑥を歌う場面では感極まって涙ぐみ、最後のフレーズが歌えなくなってしまう。やはり歌詞の内容がそうさせたのだと思うけれど、会場からのもらい泣きの声まで聞こえてきそうだ。

ギタリストの小倉博和を中心としたバックアップ・メンバーの演奏力が異常なほど高い。宅録的な狭さを感じていた初期の曲なども、このライヴ盤で突き抜けるような明るさを伴い、今までになく新鮮に耳に届いてくる。逆に裏YMO的というか、打ち込みのグルーヴを活かした［2］④などの曲も、思いのほか見事に再現されているのには驚いた。事件後初の復帰ライヴというドキュメントの部分を抜きにしても、槇原のアナザー・サイドが味わえるアルバムだ。

後半の[2]はどんどんとアッパーなノリを発揮し始める。②③のハイ・テンションぶりや客席と一丸となった⑥もライヴならではのものだろう。アンコールの「どうもありがとうございます」の弾んだ声が実に清々しい。ライヴは、アコースティックにアレンジされた[2]⑩でしっとりと幕を閉じる。

単なるライヴ盤という以上に、さまざまの意味性が感じられるアルバムだ。ともあれ、経過報告としてはこれ以上の作品はなかったと思う。なお、一部内容の異なるDVDも発売されているので、当夜のパフォーマンスはそちらでも味わうことができる。☆



ワーナーミュージック　WPCV-10181～2
(2002年5月9日発売)

[DISC 1]①うん ②今年の冬 ③まばたきの間の永遠 ④ズル休み ⑤もう恋なんてしない ⑥MILK ⑦You are so beautiful ⑧彗星 ⑨君が教えてくれるもの ⑩太陽
[DISC 2]①核 ②Are You OK? ③I ask ④LOTUS IN THE DIRT ⑤天国と地獄へのエレベーター ⑥どんなときも。⑦Home Sweet Home ⑧LOVE LETTER ⑨Happy Birthday Song ⑩君は僕の宝物(bonus track)

CamScannerでスキャン

マッキー・アルバム
“HAPPY”
レヴュー#14

12th Album
本日ハ晴天ナリ

音響的快楽を排除し「語りかけ」を重視？ 復帰以降のサウンドに浮かぶ疑問

文▶川口瑞夫［ライター、編集者］

例の事件がどの程度影響しているのはわからないが、『太陽』(00年)以降のアルバムはどれも、よくいえば上品、悪くいえば地味な印象を受ける。アレンジにしても、録音処理にしても、商業音楽に特有のキャッチーなキラメキ感や、肉感的な気持ちの良さみたいなものがあまり感じられない。

先行シングルとして発表された⑤は、昭和30〜40年代のラテン歌謡を思わせるサウンド・コンセプトでアルバム中でも派手な部類に属する曲である。これとほぼ同じコンセプトなのが、同じ02年8月に発売された観月ありさ「Love Potion」(音楽配信サイトで試聴可能)だが、両者の印象はまったく違う。観月の曲には、七色の光線が飛び交うようなミーハーな娯楽性や、足腰を直撃するようなビート感が濃厚なのに対し、槇原の曲にはそうした要素が一切ない。槇原の過去作品でいえば「HAPPY DANCE」(98年7月)が同じようなサウンドだが、それと比較してみても、⑤の印象は地味である。

松野ひと美『槇原敬之の本。』(04年・幻冬舎)によれば、槇原はアルバム『Such a Lovely Place』(97年)について、「人を酔わすための歌は書きたくなかった」とコメントしたという。想像するに、こうした彼の信念は『太陽』以降(事件以降？)、より強まったのではないだろうか。近年の作品では、音楽に酔う感覚＝高揚感が排除されているのである。

ワーナーミュージック　WPCV-10204
(2002年11月7日発売)

①AMAZING GRACE ②Wow ③24hr Super market ④緑 ⑤花火の夜 ⑥君の声を待つ夜 ⑦これはただの例え話じゃない ⑧さよなら小さな街 ⑨I got a friend. ⑩雨ニモ負ケズ (Album Ver.) ⑪本日ハ晴天ナリ ⑫Turtle Walk (Album Ver.)

酔う感覚の代わりに強調されているのは、リスナーに語りかけるようなアプローチである。ようするに、歌詞を聞かないでサウンドやメロディだけで盛り上がってしまうような聞き方はしてほしくないということなのだろう。ただ、②④⑥⑦⑧⑨⑩と、反省と感謝をしつこいくらいに繰り返す彼の語りを聞いていると、反省している自分に酔っているだけなんじゃないかという気がしてくる。

また、⑫の歌詞は「世界に一つだけの花」に酷似しているが、「僕らしく歩いて行く」という一節などは、彼の初ヒット曲に出てきた「僕が僕らしくあるために」と大差ない。つまり、彼の基本的な精神構造は今も昔も変わっていない(反省のわりには成長していない？)ように思えるのである。なお、②はSMAP用に書かれて没になった曲。☆

CamScannerでスキャン

第2次ワーナー時代終盤〜東芝EMI時代
2003-2005：「Wow」〜現在

03年春、SMAPに提供した「世界に一つだけの花」が大ヒット。追い風にも慌てず驕らず、槇原は順調に活動を充実させていく。その一方で「〜花」は新しい"国民歌謡"の地位を得ることになった。今秋にはカヴァー・アルバム第2弾を予定、オリジナル新作の登場も近いようだ。

文▶榊ひろと［音楽解説者］　年表作成▶編集部　イラストレーション▶もりいくすお

「一つだけの花」『EXPLORER』が証明した"天才少年"のカミング・オブ・エイジ

順風を得て精力的・多面的な活動を展開

2003年の早春のこと、全国25カ所30公演という前年の2倍以上の規模に拡大されたツアーを敢行中の槇原を取り巻く環境は急速に変化しつつあった。02年のSMAPのアルバムに提供し好評を呼んでいた「世界に一つだけの花」がシングルとして発売されると、瞬時にミリオンを達成する国民的な大ヒットとなり、作者であった槇原の名が大きくクローズアップされたのである。順風はそればかりではない。5月リリースのニュー・シングル「君の名前を呼んだ後に」が、松嶋菜々子からの要望によって彼女が出演するCMに使用されることが決まり、ビデオ・クリップにも松嶋が出演する運びとなった。チャートでも11位にランクされ久々にヒットと呼べる成果を上げたのである。翌6月には早くも「Good Morning!」を発売したが、このシングルを最後に槇原は再びワーナーを離れることになるのだった。

だが、槇原はようやく到来したこれらの好機に安直に便乗することなくマイペースで活動を展開していった。03年の後半から04年にかけてはニュー・アルバムの準備を進める一方で、SMAPとのコラボレーションが契機となったのか、対外的な活動を積極的に推し進めていったのである。まずは英国のヴォーカル・グループBlueに対して「The Gift」(「僕が一番欲しかったもの」)を、続いて鈴木雅之に「Boy, I'm gonna try so hard」を提供、さらに村上"ポンタ"秀一、尾崎豊、ビーチ・ボーイズといったアーティストのトリビュート・アルバムに相次いでゲスト参加していった。こうした活動でソングライターとして、あるいはヴォーカリストとしてよりいっそうの経験を積んだ槇原は04年、満を持して東芝EMIへの移籍を発表、第1弾シングルとして4月に「優しい歌が歌えない」をリリースした。また6〜7月には東京と大阪で大編成のオーケストラとコーラスを従えたコンサート"cELEBRATION"を開催、この模様は秋に2枚組のライヴ・アルバム／DVDとして発売されている。

7月の先行シングル「僕が一番欲しかったもの」に続いて8月には待望の新作アルバム『EXPLORER』をリリース、チャートで初登場No.1に輝き50万枚以上を売上げる今世紀初の大ヒット作となった。また同月末にはデビューから04年4月までの全シングル曲をまとめた『Completely Recorded』がワーナーから発売され、

チャートでは第2位に留まったもののやはり約50万枚のセールスを達成している。さらに「僕が一番欲しかったもの」もテレビ・ドラマの主題歌に使われたこともあって「Hungry Spider」以来のトップ10ヒットとなり枚数的にも「桃」レベルの売り上げを回復した。事件からの内省と再生への旅路を綴った「優しい歌が歌えない」で幕を明ける「EXPLORER」には、ワーナーからの手土産とも言うべき「君の名前を呼んだ後に」も収録されているが、やはり最大の持参金は「世界に一つだけの花」のセルフ・カヴァー・ヴァージョンであろう。とりわけ同曲に「Boy, I'm gonna try so hard」と「僕が一番欲しかったもの」がボーナス・トラック的に続く、終盤の提供曲3連発の存在感は圧倒的である。

“探求者”の旅路はまだまだ続く

「EXPLORER」の制作布陣は録音とミックスのエンジニアが飯尾芳史、シンセサイザー・プログラミングが毛利泰士と、国内マスタリングになったほかは前作「本日ハ晴天ナリ」を踏襲しており、もはや打ち込みを基軸にしているとは思えないくらいナチュラルで豊潤な音像を実現している。アレンジ面でも前作ほど生演奏をフィーチャーしているわけではないのに、オーガニックなグルーヴを聴かせる局面が目立つ。楽曲的には“家族”をテーマにした作品がいくつも並び、人間としての成熟を窺わせる一方で音楽面でもアーシーなサウンドからジャジーな浮遊感まで多彩な新境地を聴かせてくれた。秋には全35公演というEXPLORERツアーを展開した槇原は、充実した04年をダウンタウンとのコラボレーション「チキンライス」のヒットで締めくくった。今年5月の36回目の誕生日にリリースした最新シングル「明けない夜が来ることはない」のタイトルには自身の現在の心境が率直に反映されているかのようだ。

最近のインタビュー記事で取材者は槇原のことを“子役出身”のタレントのような面影があると評している。確かにミュージシャンとしての槇原には、ある種“天才少年”のままポピュラー音楽の上澄みを吸収してすくすく育った健康優良児みたいな印象がある。その後の試練や経験が皮肉なことに思索と作詞の面で新たなインスピレーションをもたらしてきたが、音楽的な面でもそれこそ“泥水の中の蓮”や“誰も知らないような場所で咲いてた名前も知らなかった花”の美しさに気付き、それをソングライター／ヴォーカリストとして自分のものにできるまで、「探求者」槇原敬之の道程は続いていくのだろう。☆

2003

1月 8日 松本英子 featuring 槇原敬之「今年の冬」(BMGファンハウス) 発売
2月 1日 「CONCERT TOUR 2003「本日ハ晴天ナリ」」スタート(全国25カ所、30公演)
2月13日 28thシングル「Wow」発売……最高57位、0.6万枚
4月24日 ツアー「本日ハ晴天ナリ」終了
5月21日 29thシングル「君の名前を呼んだ後に」(住友生命「らいふ30」CMソング) 発売……最高11位、6.2万枚

6月25日 30thシングル「Good Morning!」発売……最高20位、1.2万枚

9月 「槇原敬之詩集」(ぺんぎん書房) 発売
10月29日 Blueに提供した「The Gift」がシングル発売(東芝EMI)
10月31日、11月1日 ファンクラブ限定「槇原敬之Special Live 唄い舞う! 魅惑の舞浜2日間」(東京ベイNKホール)
11月19日 鈴木雅之に提供したシングル「Boy, I'm gonna try so hard」(EPIC) 発売
12月 3日 村上“ポンタ”秀一の音楽活動30周年記念アルバム「MY PLEASURE」発売(ビクター)。山下達郎の「LOVE SPACE」をカヴァー

2004

1月21日 TBS系「さんまのからくりTV」出演の外国人4人組The Studentsのシングル「ハトマメ～Say Hello to the World～」発売。槇原は作詞・作曲・プロデュースを手がける
3月24日 尾崎豊トリビュート・アルバム「BLUE～A TRIBUTE TO YUTAKA OZAKI」発売。「Forget-me-not」で参加
4月 1日 東芝EMIに移籍
4月22日 尾崎豊トリビュート・ライヴに出演(渋谷AX)
4月28日 移籍第1弾の31stシングル「優しい歌が歌えない」(NHK総合「土曜スタジオパーク」エンディング・テーマ) 発売……最高12位、2.1万枚

6月29日 オーケストラ・ライヴ「cELEBRATION」大阪公演(大阪城ホール)
7月2日、3日 「cELEBRATION」東京公演(日本武道館)
7月28日 32ndシングル「僕が一番欲しかったもの」(日本テレビ系ドラマ「ラストプレゼント」主題歌) リリース……最高9位、8.1万枚

8月 4日 2曲に参加したビーチ・ボーイズ・トリビュート「BEACH BOYS BEST of TRIBUTE」(トーキョーリップスプロ)と、4月22日に渋谷AXにて行われた尾崎豊トリビュート・ライヴの模様を収めたDVD「THE NIGHT: A TRIBUTE TO YUTAKA OZAKI」(SME) が発売
8月11日 13thアルバム「EXPLORER」発売……最高1位、53.9万枚
8月25日 ワーナーから決定版的シングル・コレクション「Completely Recorded」発売……最高2位、55.8万枚
9月 4日 「槇原敬之CONCERT TOUR 2004 “EXPLORER”」スタート(全国26都市で35公演)
9月 松野ひと実・著「槇原敬之の本。」(幻冬舎) 発売
11月17日 “浜田雅功と槇原敬之 作詞：松本人志”名義でのクリスマス・シングル「チキンライス」(R&Cジャパン) 発売……最高2位、18.9万枚
11月24日 「槇原敬之CONCERT TOUR 2004 “EXPLORER”」終了
11月25日 7月3日の武道館公演の模様を収めた「cELEBRATION」のCDとDVDが同時発売……アルバム最高27位、2.3万枚

2005

2月14日 新潟県中越地震の被災者のため、共同募金を通じてチャリティ・オークションを開催
3月16日 楽曲提供したエルモのテーマを含むCD「HAHAHA!～セサミストリート・キャラクターソング」発売
5月18日 36歳の誕生日に33rdシングル「明けない夜が来ることはない」発売……最高12位、1.5万枚
8月 6日 「広島平和コンサート2005」(広島平和記念公園芝生広場) に出演予定
10月20日～11月11日 オーケストラ・ライヴ“cELEBRATION 2005 ～Heart Beat～”開催予定。東京・大阪・名古屋・広島で8公演
秋 カヴァー・アルバム第2弾「Listen To The Music 2 (仮)」リリース予定

マッキー・アルバム
“HAPPY”
レヴュー #15

13th Album
EXPLORER

“恋”から内省を経て“愛”に辿り着いた槇原の優しさと誠実さが心に響く

文▶上田健二［編集者］

東芝EMI移籍第1弾にして、久々にオリコン・チャート1位に輝いた完全復活作。SMAPの⑩を筆頭に、朋友セイン・カミュ率いるThe Studentsが歌った⑧、鈴木雅之のために書いた⑪、イギリスのアイドル・グループBlueに提供した「The Gift」を改題した⑫と、セルフ・カヴァーを4曲収録している。

でっかくておだやかな愛にあふれた、真摯なアルバムである。タイトルには「誰の心の中にもある幸せの鍵を探求していこう」という意味がこめられているという（松野ひと実著『槇原敬之の本。』〈幻冬舎刊〉より）。かつては自分本位の「恋」を中心に歌ってきた槇原が、事件後の内省の日々を経て、もっと広い意味での「愛」を歌い始めたのだ。

たとえば、今作のテーマのひとつである「家族」についての歌——リストラされた男が主人公の④、ケンカしている家族の顛末を描いた③。どれも、しんどい状況で幸せをみつける歌だ。大それた幸せじゃない。子どもの寝顔だったり、お腹いっぱいになることだったり、他愛もないこと。でも、そんな小さな幸せの積み重ねの中でぼくらは、そしてきっと槇原自身も、生きている。不幸を嘆くより、見方をちょっと変えるだけでいい、と槇原は歌う。五木寛之の『生きるヒント』的なうさんくささが感じられないのは、彼のまっすぐな歌声とほんわかしたキャラのせいだろう。だから⑩も、SMAP版ではどこか自意識過剰な主張に聞こえてしまう〈NO.1にならなくていい／もともと特別なOnly One〉というフレーズも、槇原版ではすんなり胸に響いてくるのだ。

東芝EMI　初回限定盤：TOCT-25440
通常盤：TOCT-25441（2004年8月11日発売）

①優しい歌が歌えない ②夏は憶えている ③Tag Team ④武士は食わねど高楊枝 ⑤Happy Ending ⑥君の名前を呼んだ後に ⑦とりあえず何か食べよう ⑧ハトマメ～Say Hello To The World.～ ⑨The Fog ⑩世界に一つだけの花 ⑪Boy. I'm gonna try so hard ⑫僕が一番欲しかったもの

ファンクのリズムを取り入れたおとぼけソング⑧や、ビーチ・ボーイズばりの多重コーラスが利いた②などのアップ・テンポが、多くを占めるシンプルなアコースティック・アレンジのバラードを引き立て、彼の「誠実さ」を浮かび上がらせる。中でもオープニングを飾る先行シングル①のあまりにも素っ裸な心情吐露はどうだ。涙が出てくるのは、悲しい歌だからじゃない。優しさに泣けてくるのだ。クオリティの高さとアルバムとしてのまとまりは、彼のキャリアの中でも随一だと思う。最新作が最高傑作であるということは、彼は今、絶好調である、ということだ。★

「世界に一つだけの花」作詞・作曲：槇原敬之

マッキー・アルバム
"HAPPY"
レヴュー #16

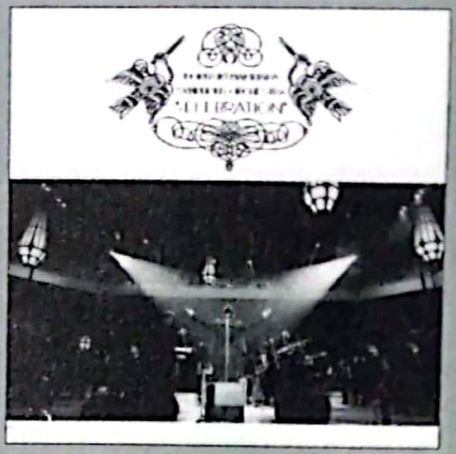
2nd Live Album
NORIYUKI MAKIHARA SYMPHONY ORCHESTRA "cELEBRATION"

シンフォニックな新アレンジが効いた華やかな"マッキー復活祭"

文▶榊ひろと［音楽解説者］

04年7月3日に武道館で開催されたオーケストラとの共演コンサートの模様を収録した2枚組ライヴCDで、同タイトルのDVDと同時にリリースされている。新作アルバム「EXPLORER」の発売を1カ月後に控えた文字通りの"マッキー復活祭"あるいは快気祝いとも言える作品である。編曲とピアノを担当した門倉聡とバンマスの小倉博和を核としたレギュラー・バンド5名、ストリングスとホーン他からなる約80名のオーケストラ、さらには洗足学園音楽大学の生徒82名の合唱隊、総勢170名近い大編成によって槇原敬之ナンバーの数々が演奏される。また普段の制作ブレーンである飯尾芳史(サウンド・デザイン)と毛利泰士(サウンド・プログラミング)もステージ・スタッフとして参加している。

選曲的には00年以降の作品が全体の3分の2以上を占め、しかも自身の大ヒット曲は「SPY」と「どんなときも。」のみ。もちろんオーケストラ向けの楽曲選択という面やニュー・アルバム収録曲のお披露目といった要因もあってのことだろうが、前のライヴCDでは新しい曲を中心にしながらも第1次ワーナー時代のレパートリーをサービスしていたのと比べると、新たな方向性に関して槇原がさらに自信を深めたということが窺われる。聴きどころはやはりスタジオ盤での打ち込みサウンドをオーケストラでどのように演奏しているのかという点だが、単純にシンセの音を生演奏に置き換えるのではなく、やはり随所にシンフォニックな編成の特質を活かしたアレンジが施されている。中でもトラッド色を強めた[1]④、スタンダード・ナンバーみたいにドレスアップした[1]⑦、ボール・バックマスター的な弦アレンジでスケールを増した[2]③、観客をも巻き込んだ大合唱が感動的な[2]⑥、さらに力強くなる一方で穏やかさも感じさせる[2]⑦、アフリカン・チャントを大きくフィーチャーした[2]⑧あたりが光る。だけど、いくらノリの良い曲だからって、シリアスな[2]⑪をアンコールの最後にリピートしなくてもいいんじゃないかな。★



東芝EMI　TOCT-25540~1
(2004年11月25日発売)

[DISC 1]①OVERTURE②PLEASURE③pool ④PENGUIN ⑤Happy Birthday Song ⑥I ask. ⑦You are so beautiful ⑧とりあえず何か食べよう
[DISC 2]①うたたね②夏は憶えている ③SIMPLIFY ④SPY ⑤天国と地獄へのエレベーター ⑥世界に一つだけの花 ⑦太陽 ⑧僕が一番欲しかったもの ⑨どんなときも。⑩君の名前を呼んだ後に ⑪天国と地獄へのエレベーター

CamScannerでスキャン

マッキー・アルバム
"HAPPY"
レヴュー番外編

Miscellaneous Items
リミックス＆ベスト・アルバム

文▶[illegible]ひろと[illegible]

痛し、かゆし!?の勲章たち

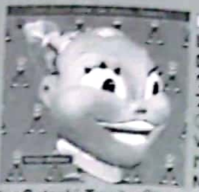
いわゆるベスト・アルバムをはじめとする編集盤はヒット・メーカーの勲章。だけど、マッキーのように何枚も何枚も出ていると、自らが関与したケースばかりでもないだけに(というか明らかに少ない)、不労所得が入るとはいえありがたいばかりでもなさそうな……というわけで、ホントのお買得はどれなのか、ちょいとご紹介!

"本編"より面白い？　リミックス盤

槇原敬之関連の編集盤でもっとも重要なのがリミックス・アルバム①であろう。もちろんこれは本編である『ver.1.0E LOVE LETTERS FROM THE DIGITAL COWBOY』の翌月に連動企画として発売されたものだから、槇原自身がどのくらい内容にタッチしているかは不明ながら、半ばオリジナル作品と言ってもよいだろう。国内外の著名リミキサー5人が『THE DIGITAL COWBOY』からの7楽曲（計8トラック）をリミックスしているのだが、元が"洋楽"だけにやりたい放題というか、かなり大胆なリプロダクションが施されている。テクノ、ハウス、ドラムンベースといった当時最先端のダンス系サウンドそのものはさすがに色褪せた感もあるが、槇原のメロディと歌声が何の違和感もなく乗っているのはやはり英語詞の効用であろう。バック・トラックの音数が元ヴァージョンよりも整理されているせいか、槇原のヴォーカルが普段よりずっと生々しく聞こえる部分も多い。マッキー・ファンの間では本編以上に物議をかもしたアルバムだが、案外と本人のテイストが色濃く反映された作品だったのかもしれない。

『SMILING Ⅱ』以降は不思議な盤揃い

続いては数多く出ているいわゆる"ベスト盤"的アルバムを紹介しておこう。最初にワーナーを離れた時期に発売されたのが②で、チャートのトップに輝き150万枚以上を売上げている。選曲的にはシングル・ヒット13曲にアルバムからの人気曲を加えた当時としては順当なものだが、⑨が発売された現在となっては役割を終えた感もある。続編の③はバラード系を中心にシングルA面以外の曲だけで構成されたファン向けの一枚。50万枚以上を売上げてチャートの第2位にランクされるなど、その頃のマッキー人気の根強さを印象づけたが、



①(リミックス・アルバム)
LOVE CALLS FROM THE DIGITAL COWGIRL
ワーナーミュージック WPC2-7607(1996年8月10日発売)
①Cowboy(Towa's Ex... Vibe) Remixed by Towa Tei ②I'm Not Gonna Fall In Love(Newborn Album Mix) Remixed by Satoshi Tomiie ③Limits Of Love(Vinyl... Mix) Remixed by Michael H. Brauer ④Day And Night(The Midnight Mix) Remixed by Tom Tucker ⑤The Lover In You(The Sound Of Readymade Mix) Remixed by Yasuharu Konishi ⑥Secret Heaven(X-Trac Mix) Remixed by Michael H. Brauer ⑦Running Out Of Daydreams(The Memphis Mix) Remixed by Tom Tucker ⑧Limits Of Love(Si No Limits Album Mix) Remixed by Satoshi Tomiie

②(ベスト・アルバム)
SMILING ～THE BEST OF NORIYUKI MAKIHARA～
ワーナーミュージック WPC2-7609(1997年5月10日発売)
①No.1 ②どんなときも。③もう恋なんてしない ④... ⑤...NG ⑥MILK ⑦冬がはじまるよ ⑧北風～君にとどきますように～ ⑨彼女の恋人 ⑩ANSWER ⑪僕の彼女はウエイトレス ⑫SPY ⑬ズル休み ⑭どうしようもない僕に天使が降りてきた ⑮雪に願いを ⑯遠く遠く

③(ベスト・アルバム)
SMILING Ⅱ ～THE BEST OF NORIYUKI MAKIHARA～
ワーナーミュージック WPC2-7610(1997年9月25日発売)
①北風(ORIGINAL VERSION) ②君に会いに行く ③EACH OTHER ④花水木 ⑤まだ見ぬ君へ ⑥てっぺんまでもうすぐ ⑦東京DAYS ⑧DAY AND NIGHT ⑨THE END OF THE WORLD ⑩Red Nose Reindeer ⑪Witch Hazel ⑫LOVE LETTER ⑬今年の冬 ⑭君は僕の宝物

④(ベスト・アルバム)
SMILING Ⅲ ～THE BEST OF NORIYUKI MAKIHARA～
ワーナーミュージック WPC2-7611(1998年5月10日発売)
①CLOSE TO YOU(ENGLISH VERSION) ②DARLING ③くもりガラスの夏('98 NEW VERSION) ④SECRET HEAVEN ⑤80km/hの気持ち('98 NEW VERSION) ⑥雷が鳴る前に ⑦COWBOY ⑧恋はめんどくさい？('98 NEW VERSION) ⑨LIMITS OF LOVE ⑩困っちゃうんだよなぁ。('98 NEW VERSION) ⑪DANCING IN THE RAIN(ENGLISH VERSION) ⑫HOMEWORK ⑬I'M NOT GONNA FALL IN LOVE ⑭まだ生きてるよ('98 NEW VERSION) ⑮PENGUIN

選曲的にはアルバム未収録だった「雪に願いを」のカップリング曲「Red Nose Reindeer」が目を引く程度である。

要注意なのはビートの効いたナンバーを軸に編集された第3弾の[5]である。1stアルバムからの2曲の英語ヴァージョンと「'98 NEW VERSION」と称するリミックス版5曲が収録されており、いずれも大幅なリアレンジやトラックの差し替えが行われているものだ。英語詞はJeff Pattersonによるもので、演奏者クレジットも1stのものとは違うので完全な新録音ヴァージョンと言って良いだろう。「'98 NEW VERSION」は基本アレンジはそのままにニューヨークの一流セッション・メンがリズムとホーンを生演奏で差し替えた2曲と、ロンドンでリミックスという名のリプロダクションを施された3曲に大別される。シリーズ最終作の[5]は前3作のいいとこ取りをした内容で、カラオケ・ディスクがおまけとして付いていた。

デビュー10周年を記念して2000年にワーナーから発売された[6]は、96年までの全シングル16曲を収録したもの。曲目的には[9]のディスク1と同じだが、最初の3曲に関しては沢田知久が新たにミックスをやり直した「10.Y.O. Version」が使われている。ボーナス・ディスクの「THE 10th ANNIVERSARY MEGA-MIX」に関しては、うまく繋ぎましたという以上のものは感じられない。

やっと出た決定版『Completely～』

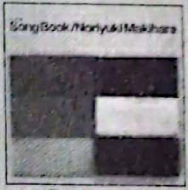
ソニーからも2種類の編集盤がリリースされている。『太陽』での復帰に便乗したと思しき[7]は、タイトルどおり6枚のシングルに収められていた11曲にカヴァー・アルバムからの3曲をボーナス的に加えたもので、「STRIPE!」のカップリング曲「Merry-go-round」のアルバム初収録が珍しいくらい。3年ぶりとなった「Home Sweet Home」ツアーの開始に合わせた[8]は、シングルA面6曲にソニー時代の3枚のアルバムから各2曲、さらにワーナー音源3曲を加えたものだが選曲の意図はよく見えない。

「EXPLORER」を凌ぐ勢いで好セールスを記録した最新ベストの[9]は、東芝EMI移籍第1弾「優しい歌が歌えない」までの全シングル31曲をレーベル3社の壁を越えて収録したタイトルに偽りなき決定盤。SMAP効果で集まった新たな聞き手にマッキーの黄金時代を伝えるとともに、しばらく御無沙汰だったファンに第2次ワーナー時代のエッセンスを届ける内容ともなっている。だが、これだけで満足するようなワーナーやソニーではないだろう。特に第1次ワーナー期にはシングルのカップリング曲にアルバム未収録の作品がまだいくつか残されており、コアなファン向けの3～4枚組アンソロジーなんかのリリースもありえない話ではなさそうだ。☆

[5](ベスト・アルバム) [illegible]

[6](ベスト・アルバム)
10 Y.O. ～THE ANNIVERSARY COLLECTION～
ワーナーミュージック WPCV-10073～4
(2000年5月24日発売)
[DISC 1]①NG（10 Y.O. Version）②ANSWER（10 Y.O. Version）③どんなときも。（10 Y.O. Version）④冬がはじまるよ ⑤もう恋なんてしない ⑥北風～君にとどきますように～ ⑦彼女の恋人 ⑧No.1 ⑨ズル休み ⑩雪に願いを ⑪2つの願い ⑫SPY ⑬SECRET HEAVEN ⑭COWBOY ⑮どうしようもない僕に天使が降りてきた ⑯まだ生きてるよ
[DISC 2]THE 10th ANNIVERSARY MEGA-MIX（どんなときも。／僕の彼女はウエイトレス／DARLING／No.1／もう恋なんてしない／北風～君にとどきますように～／彼女の恋人／SPY／どうしようもない僕に天使が降りてきた／くもりガラスの夏）

[7](ベスト・アルバム)
SINGLE COLLECTION ～Such a Lovely Place 1997-1999～
SME SRCL-4973(2000年12月6日発売)
①素直 ②情熱 ③モンタージュ ④僕のものになればいいのに ⑤足音 ⑥HAPPY DANCE ⑦BLIND ⑧STRIPE! ⑨Merry-go-round ⑩Hungry Spider ⑪この傘をたためば ⑫秋の気配 ⑬ミス・ブランニュー・デイ(MISS BRAND-NEW DAY) ⑭空と君のあいだに



[8](ベスト・アルバム)
SongBook "Since 1997～2001"
SME SRCL-5284(2002年1月23日発売)
①素直 ②モンタージュ ③足音 ④印度式 ⑤Such a Lovely Place ⑥HAPPY DANCE ⑦STRIPE! ⑧Hungry Spider ⑨Name Of Love ⑩Cicada ⑪海と少年 ⑫David ⑬桃 ⑭太陽 ⑮北風～君に届きますように～

[9](ベスト・アルバム)
Completely Recorded
ワーナーミュージック WPCL-10117～8(2004年8月25日)
[DISC 1]①NG ②ANSWER ③どんなときも。④冬がはじまるよ ⑤もう恋なんてしない ⑥北風～君にとどきますように～ ⑦彼女の恋人 ⑧No.1 ⑨ズル休み ⑩雪に願いを ⑪2つの願い ⑫SPY ⑬SECRET HEAVEN ⑭COWBOY ⑮どうしようもない僕に天使が降りてきた ⑯まだ生きてるよ
[DISC 2]①素直 ②モンタージュ ③足音 ④HAPPY DANCE ⑤STRIPE! ⑥Hungry Spider ⑦桃 ⑧Are You OK? ⑨雨ニモ負ケズ ⑩花火の夜 ⑪これはただの例え話じゃない ⑫Wow ⑬君の名前を呼んだ後に ⑭Good Morning! ⑮優しい歌が歌えない

＊その他の編集盤としては、[2]～[4]をまとめて再パッケージした限定盤『SMILING～THE BEST OF NORIYUKI MAKIHARA～』(ワーナーミュージック WPC7-8525～7／1998年11月26日発売)、ソニー時代のオリジナル＆カヴァー・アルバム3枚を詰め込んだ限定ボックス『槇原敬之BOX 1997～1999』(SME SRCL-5526～9／2003年2月5日発売)がある。『槇原敬之オリジナルカラオケ集』(WEAミュージック WMC3-28／1992年11月28日発売)なんて珍品も。

CamScannerでスキャン

楽曲提供、セッション参加など"本筋以外"で
楽しめるマッキーのもうひとつの顔

課外活動も また麗しからずや

文▶宮城正樹〔知ったかブンセキ家〕

「世界に一つだけの花」が槇原史上空前の大ヒットになったが、槇原が他アーティストのレコーディングに参加したり楽曲提供をしたケースは実はかなりある。"課外活動"の軌跡をふりかえってみよう。

SMAPの大ヒット「世界に一つだけの花」は、もともと02年のアルバム『Smap 015 Drink! Smap!』にマッキーが提供した曲。これをシングル・カットにあたって再編曲したのが、僕らが耳にしているヴァージョンだ。この02年こそ、本格的な彼の課外活動元年とも呼ぶべき年、プロ意識が本格的に目覚めた年と言っていい。楽曲提供もセッション参加も90年代初頭からあるが、初期は仲間との付き合いの色彩が濃い。キャリアを積むとともにそのバリエーションは増していき、02年以降の活動ぶりと作品群には、職業作家としての自覚が明確に刻まれているのだ。

91年、同じレコード会社の同期だったUNI-SEXのアルバムに1曲だけコーラスで参加したのが、最初の課外活動。このバンドから後にソロ・デビューした川崎真理子の編曲も手がけた。少し空いて97年には、憧れの人・矢野顕子のシングルに編曲で参加。同時期に、加山雄三トリビュートに参加もした。翌98年には従兄のROLLYこと寺西一雄のシングルでプロデューサー・デビュー。小室哲哉、奥田民生、つんくを筆頭に、男性アーティストによる女性歌手のプロデュースが一大ブームだった時期だが、マッキーはその風潮に安易に乗ることはなく、あくまで仲間意識にこだわったようだ。一方で遊び心も忘れない。99年の覆面バンドThunder Babiesによる「待ってたぜBABY!」や、PASCOのパン「DANCEHALL」のプロデュース(関東地区限定販売)はその好例であろう。

復帰後しばらくは、吉田美奈子、大貫妙子、野宮真貴、鈴木雅之ら先輩とのコラボが増えた。「世界に一つだけの花」が大ヒットした03年には、UKのコーラス・グループBlueにも美しいバラード曲「The Gift」を提供している。偶然「世界に〜」を耳にしたBlueの熱烈なラヴ・コールによって実現したそうだが、この曲はのちにマッキー自ら日本語詞をつけて「僕が一番欲しかったもの」として吹き込んでいる(c/wはそれをさらにセイン・カミュが英訳した「What I wanted the most.」)。マッキーは他アーティストへの提供曲を自分でも後に取り上げることが多い。『HEY! HEY! HEY!』から生まれた「チキンライス」ほどは売れなかったものの『さんまのからくりTV』出の企画モノ「ハトマメ〜Say Hello to the World.〜」さえセルフ・カヴァーしている。聞き比べも楽しんでみられては。★

槇原敬之の課外活動リスト

作成▶宮城正樹+編集部

●…楽曲提供、編曲、プロデュース ■…楽曲提供を伴わない編曲やプロデュース ▲…コーラスなどでのゲスト参加 ○…他アーティストのカヴァー(自分名義の作品に収録したものを除く)

▲UNI SEX「Call Me」──コーラス
アルバム「OOH! PIE」(WEAミュージック WMC3-16/1991.10.25)収録

●松下里美「ほんとは、ね…」──"木下鉄丸"名義で作詞、作曲
シングル(東芝EMI TODT-2936/1993.1.27)

■川崎真理子「失恋はつかれる」──編曲
シングル(WEAミュージック WMD3-3032/1993.1.27)、アルバム「GIRL'S TALK」(WMC3-43/1993.10.25)収録

■同「Driving Lazy Lady」──編曲
シングル(ワーナー WPD2-7713/1995.10.25)、アルバム「OK」(同 WPC2-7521/1996.3.25)収録

■同「キスをしなくてよかった」──編曲
シングル(同 WPD2-7714/1996.1.25)、アルバム「OK」収録

■同「がんばったりしてて」──編曲

■同「すきになっただけ」──編曲

■同「もっと落ちついて」──編曲

■同「OK」──編曲
いずれもアルバム「OK」収録

○槇原敬之「お嫁においで」〔加山雄三〕
トリビュート・アルバム「60 CANDLES」(ファンハウス FHCF-2376〜7/1997.4.23)収録

■矢野顕子「クリームシチュー [The Stew]」──編曲
シングル(EPIC ESDB-3752/1997.5.1)、アルバム「Oui Oui」(ESCB-1816/1997.7.1)収録、再発シングル(ESDB-3789/1997.10.1)

●寺西一雄「Name Of Love」──作詞、作曲、編曲、プロデュース
シングル(ソニー SRDL-4566/1998.10.21)※B面は「SPY」のカヴァー

■Thunder Babies「待ってたぜBABY!」──プロデュース
槇原敬之「Cicada」初回盤(SRCL-4539〜40/1999.7.7)の特典8cmシングルに収録

●坂本美雨「15分」──作曲、編曲、プロデュース
シングル(ワーナー WPC6-10132/2001.5.23)

▲大貫妙子「Wonderland」「虹」──コーラス
アルバム「note」(東芝EMI TOCT-24719/2002.2.20)収録

▲松本英子 featuring 槇原敬之「今年の冬」(槇原のカヴァー)──デュエット
シングル(BMG BVCS-29607/2003.1.8)、アルバム「君の音」(BVCS-27020/2003.2.26)収録

●SMAP「世界に一つだけの花」──作詞、作曲、編曲
アルバム「SMAP 015 Drink! Smap!」(ビクター VICL-60950/2002.7.24)収録

▲吉田美奈子「ENCOUNTER」──コーラス
アルバム「Stable」(エイベックス・イオ IOCD-20040/2002.10.9)収録

●野宮真貴「さよなら小さな街」──作詞、作曲
アルバム「Lady Miss Warp」(レディメイド RSCM-1001/2002.11.7)[2]収録

○槇原敬之「春よ、来い」〔松任谷由実〕
※「Listen To The Music」収録版と同じ
トリビュート・アルバム「Queen's Fellows: yuming 30th anniversary cover album」(東芝EMI TOCT-25001/2002.12.11)収録

●SMAP「世界に一つだけの花」(シングル・ヴァージョン)──再編曲
シングル(ビクター VICL-35477/2003.3.5)

■鈴木雅之「ランナウェイ Brand New Soul Version」──編曲、プロデュース、コーラス
ベスト・アルバム「Martini Blend」(ESCL-2395/2003.3.19)収録

●Blue「The Gift」──作曲
アルバム「Guilty」(東芝EMI VJCP-68580/2003.10.29)収録、シングル(VJCP-12174/2003.12.17)※日本盤のみ

●鈴木雅之「Boy, I'm gonna try so hard.」──作詞、作曲、編曲、プロデュース
シングル(EPIC ESCL-2466/2003.11.19)、アルバム「Shh...」(ESCL-2496/2004.2.25)収録

●同「Gazer」──作詞、作曲、編曲、プロデュース
アルバム「Shh...」収録

○村上"ポンタ"秀一feat.槇原敬之「LOVE SPACE」(山下達郎)
アルバム「My Pleasure」(ビクター VICL-61240/2003.12.3)収録

●The Students「ハトマメ〜Say Hello To The World.〜」──作詞、作曲、編曲
シングル(ポニーキャニオン PCCA-80023/2004.1.21)

○槇原敬之「Forget-me-not」〔尾崎豊〕
トリビュート・アルバム「BLUE〜A TRIBUTE TO YUTAKA OZAKI」(SME SECL-67/2004.3.24)、ライヴDVD「THE NIGHT: A TRIBUTE TO YUTAKA OZAKI」DVD(SEBL-23/2004.8.4)収録

■a cappellers「花水木」(槇原のカヴァー)──コーラス・アレンジ
シングル(フォーライフ FLCF-4008/2004.3.24)、アルバム「Steppin' Out」(FLCF-4005/2004.5.26)収録

○槇原敬之「Wouldn't It Be Nice」〔ビーチ・ボーイズ〕

○槇原敬之with高野寛「Good Vibrations」〔同〕
トリビュート・アルバム「BEACH BOYS BEST OF TRIBUTE」(トーキョーリップスプロ LTCA-00001/2004.8.4)収録

●浜田雅功と槇原敬之「チキンライス」──作曲、編曲、プロデュース
シングル(R&C YRCN-10071/2004.11.17)

●エルモ(松本健太)「HAHAHA〜エルモのテーマ」──作詞、作曲、編曲
アルバム「HAHAHA!〜セサミストリートキャラクターソング」(アイシーアベニュー音楽出版 IPCA-30001/2005.3.16)収録

CamScannerでスキャン

PART 3

マッキーのワーズ＆ミュージック

メロディ、歌詞、サウンド、洋楽、邦楽。
マッキーの本領、「言葉と音楽」を、
さまざまな方向から分析します。
槇原ソングのパワーの理由を解きあかせ！

槇原印メロディの「せつなさ」徹底解析

サウンド・クリエイター、槇原のアジなアレンジ技

あなどれないマッキー・サウンドの変遷

ビーチ・ボーイズから美輪明宏まで！　ルーツ＆リンク名盤30選

詞は口ほどにモノを言うRETURNS
槇原ソングの詩と哲学、3方向から斬り捨て御免!?

CamScannerでスキャン

マキマキマッキーマッキーマッキー
マキマキマッキーマッキッキー

と、いうような詩（詩？）このマキマキマッキーに、あなただったら、どんなメロディをつけますか。言葉とはもともとメロディを孕んでいて、作曲とは、それらをつかまえればいいだけ、なのかもしれない。あなたは、だれと幸せなメロディをつかまえますか。おれは、このマッキッキーからは、グリーグ「ペールギュント」第1組曲第4曲「山の魔王の宮殿にて」を聞くことができます。

マッキーの8×4の譜割り

僕の背中は自分が
思うより正直かい？

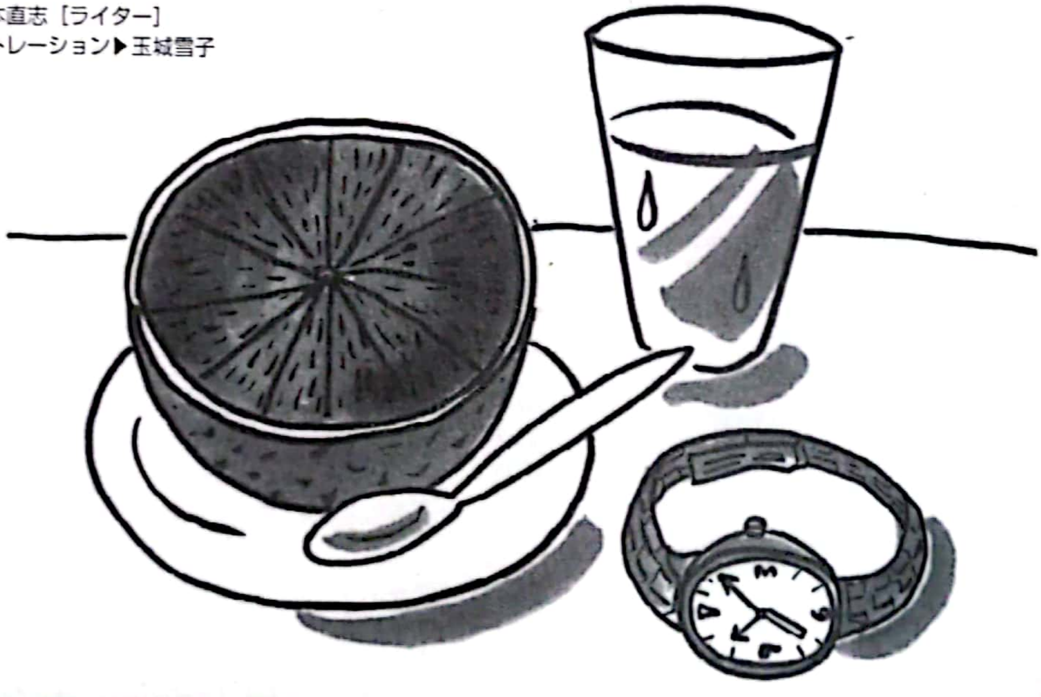
と、いう歌詞から、マッキーは、どんなメロディを聞いたんだろう……ってその答えがあのメロディだったんだと思うと、またちょっと違った色の風が見えてくる。事実、サード・シングル「どんなときも。」は出世曲、代表曲であるとともに、マッキーの

現実と音楽の絶妙の中間に“優しい歌”が立ちのぼる

マッキーのメロディは、なんでせつないのか？

マッキーの歌ってせつないよね。せつないせつない。じゃあなんでせつないの？
ところでせつないって何？　――解き明かせるものなら解き明かしてみたい巨大なナゾですね。
言葉の持っているメロディを大切にした作曲、って言うのは簡単だけど、
やるのは大変。つーか偉業。苦労の跡が見えない流麗かつトリッキーなメロディに潜む
マッキーの天才性。その核心に迫ります。Are you ready?

文▶梅本直志［ライター］
イラストレーション▶玉城雪子



メロディの、マッキーのメロディたる面、確立された特徴がよく出てる楽曲でもあるのだ。

まず、譜割りを見てみると「ぼく〜の〜せ〜なかはじぶんが〜〜おも〜う〜よ〜りしょうじきかぃ〜〜」。ネコだと「ニャニャーニャーニャーニャニャニャニャニャニャニャ〜〜ニャニャーニャーニャーニャニャニャニャニャニャ〜〜」。

エト、なにがいいたいのかというと、音符でいうと、主に8分音符と4分音符の組みあわせでリズムが表現されてる。普通に文章を読んだりしゃべったりしてる譜割りだったらニャニャニャニャニャニャ……とか8分音符ばっかりになってしまうはずで、かんたんな日本語ラップとかだとそんなんもままあるんだが、これは、そうなっていない。一方、文節で区切った「ぼくの、せなかは、じぶんが」でも、もちろん、それを破壊した「ぼくのせ、なかはじ、ぶんが」でもない。シング・ライク・トーキングっていうグループがいるけど、なんか、そんなような会話と歌、現実と音楽の、その絶妙の中間。これを、マッキーの8と4の譜割り、略して《マッキーの8×4（エイト・フォー）》とか呼んでみたい。緑茶成分が、においをカット!!

槇原敬之は、いわゆる詞先だ。歌詞を先に書いて、それに曲をあてハメていく。字あまりじゃないメッセージとポップ音楽のメロディのバランス。いわゆる詞先の名曲としては、たとえば、北原白秋作詩、山田耕筰作曲の「からたちの花」とかが思いだされるけど、楽譜で見てみると、3拍子／2拍子の変則的交錯にもくらくらしてしまう。日本語詞先の単体結晶化、芸術の複雑にも思いをはせてしまうんだけど、マッキーのバランスとは、そういうのでもないんだろう。

マッキーの四七抜かない音階

ドレミを追ってみよう。

だー。キーはF#。嬰へ長調だー。ト音記号の右に#が6コもついて、初心者に挑戦的なキーともなっているが、

ドミーミーレーミミレドドシド〜〜
ドラーラーラーソソファミレレ〜〜

メロディック、メロディアス。どういうことなのかというと、ドレミの隣の音、隣の音へと流れていく流れ。いちばんメロディックなメロディとは、長調だったら、ドレミファソラシド♪　短調だったら、ラシドレミファソラ♪　なのだ。で、ファもシも使われている点。最初のたったの2ラインの中で、ドレミファソラシの7音の全部が使われている。

音階っていうのは大変なもので、たとえば、小泉文夫さんとかの何冊もの本が著されているぐらいで、日本のもともとの伝統の音階は4番目と7番目の音を抜いた四七（ヨナ）抜き音階、ペンタトニックとも言う、長調だったら、ドレミソラ♪　短調だったら、ラシドミファ♪　確かに、その5音はどうならべてもメロディにきこえる、世界的にもかつては5音音階が主流だった、いやいや、四七抜きこそ西洋の7音音階との折衷だろ、たとえば「君が代」の雅楽律音階とかレミソラドレ（上行時）レシラソミレ（下行時）とかじゃね？　みたいな？

マッキーの四七抜かない音階はとりあえずはよりメロディアスな淡いやわらかい7音音階だと言うことはできる。

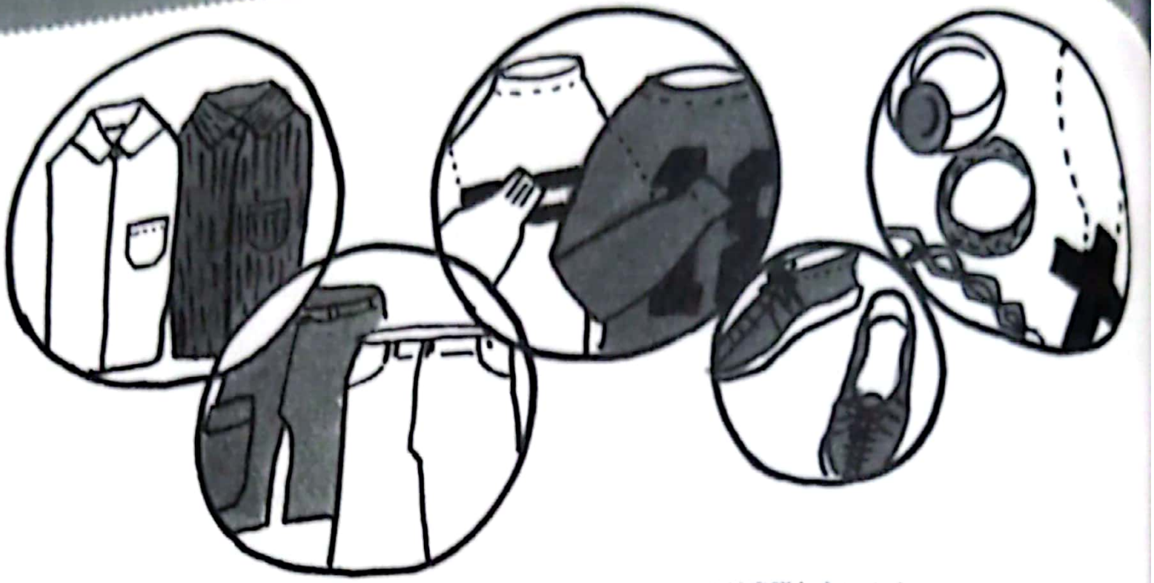
続く「誰かに〜」「聞かなきゃ〜」の高音部分も印象的。音は高い方のド。何歌っているのか歌詞カード見なきゃわかんない歌手が多い中、合唱部のような明瞭な歌唱がキワ立ってる。「追い越せないのは〜」の「は〜」も同じ音。Bメロのオチは低いドに誠実に解決させて、F#〜A#＋5onCっていうちょっと不穏な和音。

さて、ここまでは、マッキー・スタンダードの基本。すごいのは、ここから。Are you ready?　サビ行きます。

平行調の光と影

どんなときも　　どんなときも
ドードドシド〜〜ドードドシド〜

CamScannerでスキャン



ぼくがぼくらしくある　ために
ソラララララシドレミレードシド〜〜〜

今さっき印象的だった高い方のドを下から叩くような同じフレーズ、同じ歌詞のくりかえし。コード進行はBmaj7〜F#onA#とベースの音が半音下降しているので、相対的には、2回目の方が滞空高度は上がっている。ソからラララララ、短調の主音×4連射!!　するや、そのまま、今さっき印象的だった高い方のドを下から貫通、ブレーク・オン・スルーでラ→シ→ド→レ→ミ急上昇、そう、いちばんメロディックな短音階の急上昇、のち、ドラマティックな弧を描いていく。ここのてっぺんのミ、高い方のミが、この曲の中でいちばん高い音、でもある。サビのまん中の音が、その曲の中でのいちばん高い音。そんなどまん中のど直球。そんな中道たればこその王道。ひねれないのか、ひねらないのか。ガンコな人なんだろうな〜。

F#キーでの高い方のミは高い方のA#。何曲かでしらべてみたら、彼の裏声でなく歌ってる最高音がAとかA#とかだった。そこから、F#っていうキーが決定されたのだとわかる。

この2ラインの前半後半で、同じ調号（ト音記号に#6コ）で記される長調から短調への転調がなされているとも考えられる。F#とD#m。Cキー（調号なし）でのCとAmの関係（平行調）。楽器弾く人でもあんまり意識しないかもしれないけど、マッキーのメロディの陰影は、さりげなくもすばやい、この平行調間転調のコントラストにもあると思う。もっと転調らしい転調、たとえば、4枚目のシングル「冬がはじまるよ」では主音の同じ長調と短調（同主調、AとAmでの転調がめくるめく。スティーヴィー・ワンダー・スタイルのハーモニカや、スティーリー・ダン「リキの電話番号」のあのあやしいコード感覚の炎が白い恋人たちの横顔をキュビズムにしていく。にしても、そもそも、せつない、って何？

長調、長音階の効果は明るい、楽しい。短調、短

「どんなときも。」
（1991.6.10）

「もう恋なんてしない」
（1992.5.25）

「SPY」
（1994.8.25）

音階は暗い、悲しい。なんでそうなのか、そうなるのかははっきりとはわかっていない。もちろん、ここでは、クオリアだ一脳科学だ一論じる度量もなく、ただ思うのは、マッキーは、なんで「僕が僕らしくあるために」って歌詞をいちばんメロディックな短調のメロディにのせたんだろう?

すごい長調っぽいメロ、たとえば「ジングルベル」の頭にのせてみる。「ぼっくっがっぼっくっらっしっくっあっるったーっめにー♪」。すごい短調っぽいメロ、たとえば「ドナドナ」のサビで。「ぼくがぼくーらーしいく〜〜〜〜〜あーるーたーめーに〜〜♪♪」。

黄色い字で「僕が僕らしくあるために」と書くのと、水色の字で「僕が僕らしくあるために」と書くのとでは、意味が違う。

ただ明るいのでも暗いのでもない。楽しくも悲しくもどっちでもないけど、どっちでもあるような、中間の感情。

決意と、迷いと、人生に立ち向かっていく「僕の背中」。マッキーのメロディのせつなさは、まず、マッキーの姿のせつなさだろう。

同じ構造を、マッキーは、5枚目のシングル「もう恋なんてしない」のサビのオチでもためしている。

だけど　しんじてる
し――んじてる

それにしても、そもそも、メロディってなんなの?「音の高低の組みあわせ」「高井麻巳子のセカンド・シングル」以外の文言として「音楽の三要素のなかでも根底的なものは、リズムとハーモニーである。リズムの波が目の前にずうっとのびていて、ハーモニーの波が上下から寄せてきて、人の目の前で複雑怪奇な干渉模様が生じる。これがメロディだ」みたいな言葉もあり、歴史的には、リズム→メロディ→複音のメロディ(対位法)→ハーモニー→だったかとも思えるけど、リズム×ハーモニー=メロディ、のようなとらえ方も、ルネサンス以後のすでに三要素の前提となっている感覚には、むしろ自然なのかもしれない。が、1970年代後半以後の四要素目:サウンド、をくわえたとしても、いずれにしても、人々の耳には、いぜん、メロディが音楽の中心なのが、不思議なのですよ。

で、初期のマッキー音楽のひとつの頂点だったとも思えるのが、12枚目のシングルだった「SPY」だ。イントロからとばしている。スパイだから、スパイ・ミュージック。おあずけになったデート。偶然見かけたキミのアトをつけてみよう。イタズラ心にウカれてもいるはずなのに、キーはGmの短音階。D7-10。ジミヘンのコード。サビが来ます。

だけど　しんじてる　し――んじてる
ドドド　ソーミレド　ソ――ソミレド

きみをしーんじーてる――
ドドドレードレーミミ――

この、突然の、一転の、死ぬほどドミソの長調のメロディ(B♭に平行調転調)。んで、し――んじてる、ソ――ソミレド、ですよ!! シンコペーション、っていうの? でも、こんな効果的なせつねーシンコペーション見たことねーよ。楽譜は4拍子3小節で書けるけど、音楽は、3拍子‖2拍子‖3拍子|4拍子|の転拍子にもなっている。グラグラなんですよ!!「信じてる、信じてる」くりかえしながらもパニクって混乱していて、でも、コード進行はB♭~DmonA~Gm~Gm7onF~とベースの音は、バッハ「G線上のアリア」のあのド~シ~ラ~ソ~ファ~の下降、慈悲。

悪夢と失望と怒りのふちで「嘘をついてまではしい幸せが僕だったのかい?」の中間部の中国のようなワルツ(ここはほんとに3拍子)へウカぶ頃、マッキーは、その物語の神様にもなっていただろう。ご加護を!!

それを証明するかのように、この傑作後、これまでの〈8×4のメロディ〉も転調の陰陽もリセットした全編英語詞のシングル、アルバムを発表、マッキーは、次のスタンダードへときはなたれていった。★

ソウルあり、ケルトあり、ブラジル、そしてポリフォニーまで

一筋縄ではいかないサウンド・クリエイター、槇原のアジなアレンジ技

文▶高橋道彦[音楽評論家]　イラストレーション▶宇和島太郎

槇原敬之の音楽性にあらためて興味を持ったのは、SMAPの「世界に一つだけの花」を聴いたときだ。普段のぼくだったら、ナンバー・ワンよりオンリー・ワンだなんて青臭い歌詞を持つ曲は、間違いなくスルーしている。聴く耳、持たない。だが、そうは思わせない力がこの曲のイントロにはあった。まず、冒頭の弦楽器の響きが風変わり。あまり伝わらない比較とは承知の上だが、ぼくにはブラジルのギタリスト、レニーニのフレーズみたいに聞こえる。もしくは、レッド・ツェッペリンのアコースティックな曲。さらにはそれに続く、おそらくシンセによる、ちょっとコブシを回すようなメロディーが摩訶不思議だ。スコットランドのバグパイプのようでもあり、北米先住民族のいわゆるインディアン・フルートみたいでもある。まあ、いちばん近いと思うのは、初期U2のアイリッシュ感覚なのだけど。熱心な洋楽リスナーとして知られる槇原だが、彼が意識しているのは売れセンの洋楽だけではないようだ。異端の視線といえば大袈裟になるけれど、保守本流に収まらない資質も槇原は持っている。

☆王道志向とひねくれ精神が同居するバランスのよさ

そうした資質が前面に出てくるのは7作目のアルバム「UNDERWEAR」からだろうか。ピグミーの高度な歌声をサンプリングしたディープ・フォレストや、郭英男(台湾先住民)のヴォーカルを使用したエニグマ「リターン・トゥ・イノセンス」あたりから刺激を受けたのか、「PENGUIN」ではポリフォニーが挿入され、ティン・ホイッスルのようなアイリッシュ感覚も聞かれる。マンドリンを使った「君の自転車」もケルトっぽい。「世界に一つだけの花」の原点はこのへんにありそうだ。

もともと、コーラスの多重録音やひとりユニゾンに人一倍こだわりを持つ槇原が、ポリフォニーにも関心を持ちはじめたのは自然な成り行きだろう。コーラスへの執着は、わざわざ"all vocals and background vocals by Noriyuki Makihara"とクレジットしているファースト「君が笑うとき君の胸が痛まないように」からよく出ている。特に「北風」は曲調・サウンドともに大瀧詠一を強く思わせる。ただ、初期にはビーチ・ボーイズやカーペンターズを思わせるコーラスが多かったが、やがてそれも変わっていく。ゴスペル的なハーモニーへの傾倒だ。

まあ、槇原の洋楽趣味自体が一筋縄ではいかないともいえる。「ver.1. 0E LOVE LETTER FROM THE DIGITAL COWBOY」でカヴァーしたのがフランキー・ヴァリ「瞳の面影(My Eyes Adored You)」だったり。元フォー・シーズンズのリード・ヴォーカリストの全米ナンバーワン・ヒットながら、どちらかといえば隠れ名曲。シンガー・ソングライター・ブームが一段落した70年代なかば、ポール・アンカやニール・セダカを含めヴェテラン勢が美しくも地味めなスローで大ヒットを飛ばした時期があり、これもそんな1曲だ。ほかにも、たとえばスティーヴ・ミラー・バンドの「フライ・ライク・アン・イーグル」のコーラスの断片だけを引用した曲も槇原にはあったり。そこにオレンジレンジのような無防備さはない。要するに、ちょっとひねくれ者なのだが、それが王道ポップを愛する姿勢と無理なく同居している

CamScannerでスキャン

ニューミュージック系の保守本流ポップス、というイメージがある槇原だけど、熱心な洋楽リスナーであることはよくわかる。でも、「モロ○○風」とわかるような曲はダメ、と語る彼だけに、その取り入れ方はなかなか一筋縄ではいかないのだ。通を唸らせるマッキー流サウンド・クリエイションにスポットを当ててみると……。

ザ・コアーズ
"Best of the Corrs"
（143/Lava　2001）
※マッキーとケルトを結びつけたのは彼らのプロデューサー、デイヴィッド・フォスターか？

レニーニ
"O Dia Em Que Faremos Contato"
（BMG　1996）
※驚異のギタリスト／シンガーの話題作。「未知との遭遇の日」というタイトルで日本盤も出た

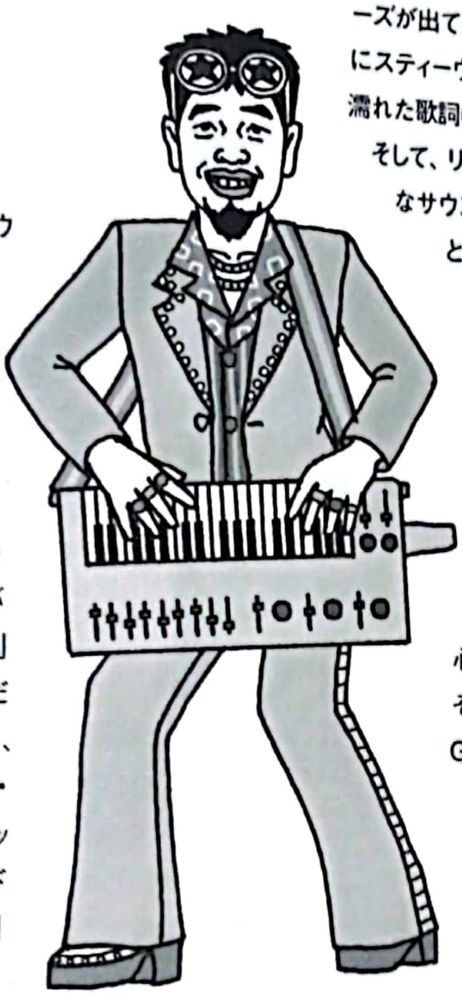
フランキー・ヴァリ＆ザ・フォー・シーズンズ
"In Season"
（Rhino　2001）
※オールディーズ好きにはおなじみの白人ドゥーワップ・グループ。ソロ曲まで網羅した2枚組

ザ・ディール
「ベスト・オブ・ディール」
（ビクター　1995）
※ベイビーフェイスが88年まで在籍した4人組の「ジャスト・マイ・ラック」を含むベスト盤

のが彼の素敵なところだ。

☆ソウル・テイストも すっかり熟れて

そして、もうひとつ、彼のサウンド作りの柱となっているのがソウル・ミュージックやいわゆるブラコン的な要素だ。槇原はフェイヴァリットとしてヴァネッサ・ウィリアムズやルーサー・ヴァンドロス、ロバータ・フラックらの名も挙げる。ファースト・アルバムでいえば、「80km/hの気持ち」はビリー・オーシャンみたいだし、「NG」はベイビーフェイス、特に80年代に彼が在籍したザ・ディールの「ジャスト・マイ・ラック」あたりを思わせる。セカンドだと「僕の彼女はウエイトレス」にはカール・カールトンの「バッド・ママ・ジャマ」っぽいフレーズが出てくるし、「AFTER GLOW」のハーモニカにスティーヴィ・ワンダーの影をみる人も多いだろう。濡れた歌詞にブラコン的な音はよく似合う。



そして、リリースを重ねるにつけ、槇原のソウル的なサウンドへの取り組み方も変わってくる。なんというか、余裕が出てくる。たとえば11作目のアルバム・タイトル・ナンバー「Home Sweet Home」はアーチー・ベル＆ザ・ドレルズ「タイトゥン・アップ」＋オーティス・レディングのホーン・セクションみたいな、遊び心が感じられる。それは「本日ハ晴天ナリ」に収録された「さよなら小さな街」でのレトロなカリプソ調にも通じる遊び心だ。

その「本日ハ晴天ナリ」は「Amazing Grace」で幕を開ける。「Home Sweet Home」にも、もろにゴスペル調の「天国と地獄へのエレベーター」がある。カラッと明るいコーラスから、憂いを帯びたゴスペル的なハーモニーへ。そこには、逮捕後の彼の心境が映し出されているのかもしれない。★

CamScannerでスキャン

あなどれないマッキー・サウンド、その変遷

マッキーの音創りを脇から支えたプロデューサー、エンジニアたちのイイ仕事

文▶武田昭彦［ライター］　イラストレーション▶宇和島太郎

☆木崎プロデューサーの手腕が光る初期作品

何はさておき初期の槇原を語る上で忘れてならないのが、プロデューサー木崎賢治の存在だろう。ナベプロ在籍時には沢田研二のバックアップで知られる木崎は日本におけるプロデューサーの草分けともいえる人物で、後にはノンストップ・レーベルにおいて吉川晃司やスターキング・デリシャスなどを世に送り出したキャリアの持ち主だ（現在はブリッジ代表）。槇原の持って生まれた才能を、多くのリスナーへ届けるのに木崎の音楽センスと顔の広さは不可欠だったと思われる。1stアルバム『君が笑うとき君の胸が痛まないように』（90年）では、AORサウンドをベースにした音創りを前面に打ち出しながら、槇原の音楽ワールドを絶妙な匙加減で表現しているのが判る。出しゃばり過ぎず、しかし言いたいことはしっかりと伝える槇原のスタンスを踏まえたサウンド・プロダクションは、木崎の懐の深さがなくては到底成し得なかっただろう。続く『君は誰と幸せなあくびをしますか。』（91年）では多くのスタジオ・ミュージシャンを起用することで、曲に奥行きを持たせるアプローチを実践。曲に彩りを添えるコーラス・ワークを筆頭に、「AFTER GLOW」における八木のぶおのハーモニカや「僕は大丈夫」のストリングスが心に響く。

☆達人ラドウィッグ起用で新境地へ

『君は僕の宝物』（92年）からはマスタリングにボブ・ラドウィッグという世界的に有名な一流エンジニアを起用し、音の奥行き感に加え、アルバム全体における音色の統一を図った。以後8作目まで、槇原のアルバムは常に彼がマスタリングを担当することになる。90年代初頭は世界的に見てもCDの音質が見直されていた時期であり、ここ日本でも多くのミュージシャンがレコーディングおよびミックス、そしてCDの音質を大きく左右するマスタリングに着目。槇原のように海外のエンジニアに目を向ける例も珍しくなかった。アルバムのマスタリングに留意することは、自他を差別化しつつ"壁"を越える近道でもあったのだ。従来は若干、毛羽立って聞こえたドラムのアタック音やコーラス・ワークの薄さが見事なまでに改善されたことで、槇原の目指すAORを基本にしたサウンドは明らかに

シングルはいわば一過性、アルバムは一生モノ。だからアルバムの音質に対するこだわりの有無は、アーティストの姿勢を物語る。"時代の音"に敏いサウンド・クリエイター、槇原敬之の場合はもう言うまでもない。彼のアルバムの音創りをざっと俯瞰し、その音楽の魅力、アーティストの意思のありかを再確認してみよう。

Such a Lovely Place［SACD］
ソニー　SRGL-601
（1999年5月21日発売）
※同社のJポップでは初のSACDだった。現在は品切れ

太陽［DVDオーディオ］
ワーナー　WPAV-10001
（2003年3月12日発売）

Home Sweet Home［DVDオーディオ］
ワーナー　WPAV-10002
（2003年3月12日発売）

※飯尾芳史は79年にキャリアをスタート、YMOをはじめ多くのエンジニアリング、プロデュースを手がけてきたベテラン。SMAP「世界に一つだけの花」のシングル・ミックスも担当

NORIYUKI MAKIHARA SYMPHONY ORCHESTRA "cELEBRATION"［DVD］
東芝EMI　TOBF-5340～1
（2004年11月25日発売）

大人っぽい響きを獲得した。心臓の鼓動をヒントにしたという「イントロダクション」は、ザ・ダムドの「ストロベリーズ」（82年）に挿入されるインタールードとそっくりで驚かされるが……。「涙のクリスマス」におけるジェイク・H・コンセプションによる哀愁を帯びたサックスの音色もちょっと邦楽離れした響きを湛え、円やかで温かいイメージを見事に演出している。『SELF PORTRAIT』（93年）は前作の"大人路線"をより一歩押し進めた音創りが特徴で、前作以上にマイルドなサウンドを聞かせる。それまでどうしてもデジタル臭く耳障りに思えたシンセの音色がほぼ払拭されている点が特筆ものだ。なお、木崎プロデューサーとの蜜月関係は、96年の『UNDERWEAR』まで続いた。

☆サラウンドを縁に飯尾芳史が活躍

ソニー移籍後、セルフ・プロデュース体制となった槇原は、AORサウンドから脱却を図り、時代の流行を適度に取り入れたヴァラエティに富んだ音創りに挑戦している。『Such a Lovely Place』（97年）は99年にSACDもリリースされたが、後者では伸びやかなサウンドをたっぷりと楽しむことができる。続く『Cicada』（99年）では録音、ミックス、さらにマスタリングまでの全制作工程を槇原の大阪時代からの友人である沢田知久が一人で手がけることになり、音質は明らかにJポップ路線に変貌を遂げてしまった。

ワーナーに復帰した『太陽』（00年）、『Home Sweet Home』（01年）の2作は、再びマスタリングをボブ・ラドウィッグが担当し、音楽に生気が戻ったのがはっきりと聞き取れるのが何とも面白い。これら2作は、5.1チャンネルのサラウンド音声を含むDVDオーディオ版もリリース。サラウンド・ミックスを手がけた飯尾芳史（UPUP所属）の仕事ぶりに好感を抱いた槇原は、アルバムのミックスを飯尾に依頼することになる。『本日ハ晴天ナリ』（02年）のグルーヴ感あふれるサウンドは、紛れもなくミキサー飯尾の世界観が貫かれたものだ。

彼の生み出すサウンドは、曲の要所要所にハッとするような音素材をちりばめることで聞き手の感覚を研ぎ澄まさせるマジックを秘めている。飯尾はおそらく常に洋楽の音創りをクールな視点で聞き込んでいるのではないか。いっぽう、オケとの共演ライヴを収めたDVD『cELEBRATION』（04年）では、5.1チャンネル・ミックスこそオーソドックスながら、飯尾の卓越したサウンド・センスが体感できる。槇原敬之の音楽は、今後も"時代の音"を常に意識しながら進化を遂げていくに違いない。★

CamScannerでスキャン

ッキーの源泉からライバル、フォロワーまで

ルーツ&リンク
盤30選

情報の並べ替えで個性を出す渋谷系的編集者タ
○風」みたいな曲が少ないマッキー。生粋の創造者タイプなのか。そんなわけで
うよりは、内から湧き上がる音楽を形にする生粋の創造者タイプなのか。そんなわけで
盤選びは困難でしたが、ついでに彼の音楽との共通項が多い盤、影響を窺わせる盤
盤としてリストアップしました。ファンなら話のタネに聞いてみると楽しめるかもよ!?

部薫/榊ひろと/高橋道彦/西岡ムサシ/吉村聖
ーション▶いんなみりさ

Beach Boys R
unds
イズ/ペット・サウンズ
6

"紙一重の天才"ブライアン・ウィルソンの偏執狂的な音作りへのこだわりと、闇を絶対に表に出さずハッピーな音楽を作り続けた姿勢に、槇原は敬意と共感を抱いているはず。トリビュート盤で本作から「素敵じゃないか」を歌っていたが、マッキーらしい選曲だ。（西岡）

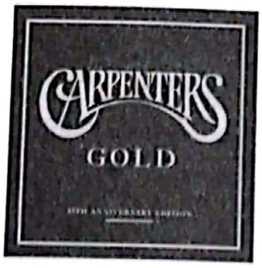
Paul McCartney R
McCartney II
ポール・マッカートニー/マッカートニーII
Parlophone, 1980

日本での逮捕・投獄劇、ウィングス解散、ジョン・レノンの死と失意のどん底にあったポールの宅録第2弾（10年ぶり）。キャリアの転換期には引きこもるものの必ずしぶとく甦る人だ。発表当時シンセの多用が賛否両論を巻き起こしたのも今や懐かしい。（榊

agles R
atest Hits, 1971-1975
イテスト・ヒッツ1971－1975

茨木の楽器屋の店長や下宿先の家主だったエンジニアの導きもあって、ドゥービーやイーグルズといった西海岸ロックを通じてカントリーやブラコンにも親しんでいったと思われる。「ホテル・カリフォルニア」以前のルーツ色濃いヒット曲集を挙げておく。（榊）

The Carpenters R
Carpenters Gold: 35th Anniversary Edition
カーペンターズ/ゴールド
A&M, 2004



「CLOSE TO YOU」なんて曲名もあるが最も彼らを意識しているのは「三人」だろう。多重録音コーラスはもちろんホーン系のアレンジや英語の発音まで随所に影響は窺われるが、ポップスの王道を歩み続けるという規範性こそ槇原が学んだ最大の美点かも。（榊

hn R
The West Coast
グス・フロム・ザ・ウエスト・コースト

本作発表後の武道館公演で槇原を目撃した。宅録派のマッキーもその圧倒的なピアニズムに感銘を受けたようで何度か本盤を推薦している。具体的な共通項はBlueとのコラボくらいだが、ジョージ・マイケルのポジションに平井堅を置くと納得できるのは何故?（榊）

美輪明宏 R
白呪
エレック、1975

今年2月17日のNHK総合「夢・音楽館」で槇原は「ヨイトマケの唄」を歌った。カヴァー・アルバム第2弾には入るのかな? 歌を"演じる"美輪とは芸風が違うが、著書も愛読しているようだし、例の「オンリー・ワン」にも美輪の影響大、という声もある。（西岡）

CamScannerでスキャン

Earth, Wind & Fire

All 'N' All

アース、ウィンド＆ファイアー／太陽神
Columbia, 1977

インタールードながら評価の高い「ブラジルの余韻」（ミルトン・ナシメントのカヴァー）も収録。フィリップ・ベイリーのファルセットが冴え、「宇宙のファンタジー」を含め、アースならではのハモリが全開。ラテン／ブラジル音楽からの影響大だ。（髙橋）

オフコース

グレイテスト・ヒッツ1969-1989

東芝EMI、1998

中高時代にバンドでコピーしていたのは全盛期の曲だろうが、「秋の気配」など初中期のセンチメンタリズムから後期の打ち込みテイストまで関連性は幅広い。特に最初期の槇原作品には小田和正から影響を受けたと思しきコード進行の楽曲が少なくない。（榊）

松任谷由実

Neue Musik: YUMI MATSUTOYA COMPLETE BEST

東芝EMI、1998

「Listen To The Music」で「春よ、来い」をカヴァー。花鳥風月的な景色や季節感への観察眼とか音楽面も含めたシーン展開の鮮やかさとか、叙情の構築手法で多くを学んだのでは？そういえばユーミン（というかマンタ）も打ち込みに凝ってた時期がある。（榊）

ゴダイゴ

西遊記

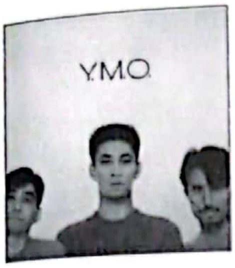
コロムビア、1978

小学校中学年だった槇原をノックアウトし、地元での公演にまで駆けつけさせたグループ。英語詞の多用も含めて洋楽度の高い音楽性やマルチ・キーボーディスト（ミッキー吉野）主導のアレンジなど、その後のマッキーの音楽的志向性を決定づけた存在だろう。（榊）

YMO

浮気なぼくら

アルファ、1983



もはや説明不要のマッキーの恩師。坂本龍一がラジオでデモテープを放送しなかったら今日の槇原はなかったかも。サウンド的な影響では中期のアルバムや教授のソロ作品も外せないところだが、やはりここはYMOが歌モノに挑んだ異色作を推しておきたい。（榊）

Culture Club

Kissing To Be Clever

カルチャー・クラブ／ミステリー・ボーイ
Virgin, 1983

1982年に中学に進んだ槇原はMTV世代でもある。YMOと比べればニューロマやエレポップは陳腐に聞こえただろうが、ブリティッシュ・インヴェイジョン勢がR&Bやレゲエのエッセンスをポップに消化していく手法には無意識にせよ影響を受けているのでは？（榊）

矢野顕子

ひとつだけ～The Very Best Of Akiko Yano～

EPIC・ソニー、1996

YMOとのつながりや「春咲小紅」のヒットを通じて聴き始めたのだろうが、現在では公私にわたるメンターと言える存在。歌詞の生活感やタイトルのセンス、カヴァー趣味まで感化度は大きい。「You are so beautiful」なんて彼女への献歌にさえ聞こえる。（榊）

大江千里

Sloppy Joe

EPIC・ソニー、1989

元祖"男ユーミン"。日常的ディテールへのこだわり、花鳥風月に心を託した表現など、今や男性自作自演歌手にも一般的な方法論はこの人あたりから始まった。マッキーが取り上げた「Rain」をはじめ、男の恋唄のスタンダード満載の初ベスト・アルバム。（西岡）

CamScannerでスキャン

ルーツ&リンク名盤30選

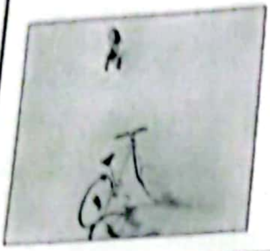
吉沢秋絵
なぜ？の嵐
キャニオン、1988

実はおニャン子クラブの洗礼を受けていた槇原は吉沢秋絵派だったそうだ。確かに「なぜ？の嵐」の〈雨がひとつ　ふたつ　みっつ　舗道に落ちて来て／危ない私を叱っているわ〉の歌詞などには、「北風～君にとどきますように～」と同種の情緒が感じられる。（安部）

Pet Shop Boys
Actually
ペット・ショップ・ボーイズ／哀しみの天使
Parlophone, 1987

80年代組の中では爆発を博した印象もあったが、本国では現在までずっと第一線。音楽の印象は異なるが打ち込みサウンドをポップに聴かせる手法、流行りのダンス系ビートをやや諧謔的なスタンスで取り入れていたあたりがマッキーとの共通点だろう。（榊）

山下達郎
僕の中の少年
ムーン、1988



ポンタのアルバムで「LOVE SPACE」を歌うまで直接の関連はないが、全盛期の使用スタジオとエンジニアは共通、スマイル代表がワーナーの重役を兼任していたことも。歌モノ打ち込みという点で80年代後半からの達郎作品は超えるべき目標だっただろう。（榊）

Gipsy Kings
Volare!: The Very Best Of The Gipsy Kings
ヴォラーレ！　ヴェリー・ベスト・オブ・ジプシー・キングス
Nonesuch, 2005

フラメンコ、ロマ（ジプシー）音楽のようでいて、そのどちらでもない槇原の「花火の夜」。ポルノグラフィティにカヴァーさせたくなるまがまがしさもあるが、そんな雑多感覚の元祖といえばジプキン。インチキくささが過剰なパワーを生む面白さ。（高橋）

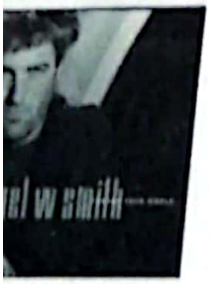
中島みゆき
大吟醸
ポニーキャニオン、1996

他の槇原のバックグラウンドとは異質に思える彼女だが、大阪時代からの親友が教えてくれた「誕生」を不安定な時期（94年頃）に聴き深い感銘を受けたという。自己肯定への希求は一貫したテーマだが、復帰後はより顕著な形で作品に反映されるように。（榊）

Babyface
A Collection Of His Greatest Hits
ベイビーフェイス／グレイテスト・ヒッツ
Epic, 2000

ベイビーフェイスの作風は、日本だけではなく、台湾のディヴィッド・タオなどアジア各地のアーティストに大きな影響を及ぼした。ソウル正統派といえるメロディー作りと、内省的なシンガー・ソングライターとしての姿を矛盾なく両立させた。（高橋）

Michael W. Smith
hange Your World
nion, 1992



エイミー・グラントの「レガシー」もフェイヴァリットに挙げる槇原だが、そのエイミーとの共演でも知られるスミス。ステイシー・オリコも手掛けるコンテンポラリー・クリスチャン・ミュージック界の星。表現が多彩で、柔軟な自作自演歌手だ。（高橋）

The Corrs
Forgiven, Not Forgotten
ザ・コアーズ／遥かなる想い
143/Lava/Atlantic, 1996

デイヴィッド・フォスターのプロデュース／アレンジのもと、世界的にヒットを飛ばしたアイリッシュ・グループ。ヴァイオリンなどのケルトっぽさと、ウィルソン・フィリップスを彷彿させる爽やかなコーラス、キャッチーなメロディーが絶妙にマッチ。（高橋）

岡村靖幸
yellow
EPIC・ソニー、1987

清潔なマッキーと精液臭い靖幸ちゃんも超観念的という意味では共通。理想と現実の矛盾に苦悶し、脳内恋愛をエンジョイする。宅録マルチ・プレイヤーなとこも、1stアルバムを西平彰（Jポップ界の影の重要人物）がトリートメントしたとこも同じだ。（西岡）

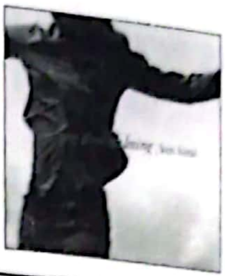
広瀬香美
THE BEST: Love Winters
ビクター、2004

マッキーのライバルはKAN（もてない男向け）ではなくドリカムや広瀬（フツーの女性向け）だったと思う。わけても彼女はマッキーと張る"冬女"だったし、職人的な曲作りや打ち込みサウンドなど共通点も多い。豊かな才能とプロ意識にあらためて感嘆。（西岡）

KAN
KREMLINMAN
ワーナー、1999

マッキーを研究し尽くした怪曲「車は走る」収録。「イメージした音を再現しようと思うと機械の方が良い」と語るマッキーに倣ってか、ひさしぶりにKAN自らシンセをプレイ。噂によるとラストの「すいません」だけマッキーに歌わせたかったそうです。（吉村）

平井堅
gaining through losing
デフスター、2001



今はファンを公言していないようだが、ライヴ「cELEBRATION」での目撃談もあるし、声の似た先輩を意識してるのでは？　さんざんクダをまいて相手のせいにする「even if」の身勝手さはマッキーと共通しているが、どこか可愛げがあって憎めないのは堅ちゃんならでは。（西岡）

モーニング娘。
4th「いきまっしょい！」
ゼティマ、2002

「恋はめんどくさい？」「まだ生きてるよ」などのイケイケおちゃらけ路線の後継者は娘。とつんく♂かも……って無茶？「Mr. Moonlight」はもちろん、パーティと教訓が同居する「ザ☆ピ～ス！」の奇妙な味（笑えないところも含めて）は捨てがたい。（西岡）

Bluem Of Youth
GROWIN' DAYS
ソニー、2002

広島出身のデュオの4thアルバム。作曲担当の松ヶ下宏之は作詞と打ち込みでマッキーの影響を受けたと語っている。「雷波少年」のサムエル柳の下企画でロシアに飛ばされていたのも今は昔。しばらく活動休止していたが10月に復活ライヴを行う模様。（西岡）

スキマスイッチ
夏雲ノイズ
オーガスタ、2004

ソウルフルなメロディ＆溌溂とした演奏でノスタルジックな世界を歌う彼らは公然たるマッキー・リスペクターだ。現在、人気急上昇中で、不良の美学としてのロックやヒップホップ（って見方が古い）を志向しない好青年へのニーズが健在であることを証明。（西岡）

navy & ivory
恋愛の樹
ブロー・ウィンド、2005

鳥取出身の薄い顔・吾郷と沖縄出身の濃い顔・下地（こっちが槇原好きらしい）のデュオ。下地のR&Bマナーに則ったヴォーカルはマッキーとは対照的だが、おセンチなラヴ・ソングに窺える恋愛至上の美学は同系統か。マッキーほどの才気は感じさせないけれど。（西岡）

CamScannerでスキャン

キーワードで読み解く「マッキー曼荼羅の世界

槇原敬之は菩薩である。

他に類を見ない独特な"言葉世界"は、槇原敬之というアーティストを語る際の最重要ポイント。その理由についてはさまざまな物言いがこれまでにもなされてきました。ここでは「言葉」そのものだけでなく、行間に漂う"心の機微"を捕らえながら、作品中の〈僕〉の"内面的変化"を追ってみます。試行錯誤の末に〈僕〉が辿り着いた新境地とは!? マッキー曼荼羅の"隠されたメッセージ"とは?

文▶見崎鉄[ライター]
写真▶瀬沢英治
イラストレーション▶JERRY

#1 素直/正直

徹底した素直さは人を不幸にする

槇原敬之は、素直であること、正直であることを第一の価値とする歌詞を書く人である。

素直さや正直さを恋愛に適用すれば、好きになったら迷わず告白すべきだし、嫌いになったら延命策を取り繕わず別れるべきである、ということになる。

〈今でもどきどきしている僕をもう　ごまかしたくはない〉(「まばたきの間の永遠」/「君は僕の宝物」収録　92年)

〈正直すぎる君と僕が　嘘をついてまで一緒にいれるなんて　今は思わない〉(「さみしいきもち」/「SELF PORTRAIT」収録　93年)

あるいは、素直さや正直さを生き方に適用すれば、自分が好きな道を自分らしく生きるべきである、ということになる。して後者を代表する曲が「どんなとき」(「君は誰と幸せなあくびをします」収録　91年)である。

〈僕の背中は自分が　思うより正直か(…)どんなときも　僕が僕らしくあめに〉

みに素直・正直であることによって、を傷つけたり、あるいは自分が孤独に陥ったりして苦しむことになる場合がある。

〈もしも他の誰かを　知らずに傷つけても　絶対ゆずれない　夢が僕にはあるよ〉(同)

それでも、嘘をついたりごまかしたりするよりは、素直・正直であることのほうがいいのである。

例えば、次のような歌——。

〈仲良くいたいという理由(わけ)で　心にうそを付くのなら　一人でも正直でいる方がマシ〉(「I got a friend.」/「本日ハ晴天ナリ」収録　02年)

仮にそのために関係が破綻したとしても、正直でいるほうが相手にとって誠実な態度となる。素直であり正直であることは、自分を大事にし、相手を大事にする「やさしさ」なのだといえる。だから、好きなのに別れるという次のような逆説も成り立つ。

〈本当に大好きだったから　大事だったから　別々に歩く二人もいると思う〉(「さみしいきもち」/「SELF PORTRAIT」収録)

「Tag Team」における家族観の変化

自分の気持ちに素直であり正直であると、相手との関係をスパスパ切ってゆく

ことになる。だが、場合によってはそうはいかない相手がいる。自分の家族である。

意外なのだが、人との関係を細やかに歌ってきた槇原なのに、人間関係の基本ともいうべき父や母という家族に題材をとった歌はきわめて少ない。もちろん全くないわけではない。〈両親〉や〈かあさん〉などが顔をのぞかせることはある。

だが、本格的に家族という題材と取り組んだのは、最新アルバム「EXPLORER」(04年)に収録された「Tag Team」においてである。同アルバムには、井戸を掘るかのように自分の内面を深く掘り下げてゆく歌がいくつか収録されている。そうした経緯を経て辿り着いたのが「家族」というテーマだったのだろう。同じように家族を題材にした「Happy Ending」

(同アルバム収録)からは、まるでトラウマ探しのような趣さえ感じられる。

「Tag Team」では、〈他人なら愛想尽かして　会わなきゃそれで終わる〉が、(家族は)〈絆というロープ〉に囲まれたリングで〈ぶつかり合える〉、と歌われる。逆に言えば、〈絆というロープ〉に囲まれた(家族という)リングからは逃れられないということである。他人に対してなら関係を断ち切ることでクールに振舞えるが、それができない家族とは、どろどろした"戦い"を一生続けなければならない。

かつて「三人」(『君は僕の宝物』収録)という作品では、東京に出てきたばかりの頃に一緒に暮らした年上の仲間とその彼女のことを〈まるで2人両親のように夜遅い僕を　待っていた〉と疑似家族にみたて、(彼らとともに過ごした日々を)〈楽しい思い出〉として懐かしがっていた。が、血のつながった家族にはそういうセンチメンタリズムは通用しない。

家族という共同体においては、個人主義的な素直さや正直さは断念せねばならないときがある。槇原は「Tag Team」において、家族との"逃れられない関係"を諦めによって受容したかのようだ。

#2 笑顔／ユーモア

マッキー流「しあわせの捉え方」

槇原の歌詞の中で最も出現頻度が高いのが、〈笑顔〉あるいは〈笑〉という言葉である。なかにはこんなに頻繁に出てくる作品もある。

〈笑顔が優しくなった…もっと笑わせよう…楽しそうに笑う…笑っちゃうくらい恥ずかしい…優しく笑えば〉(「ひまわり」/『君は誰と幸せなあくびをしますか。』収録)

「笑い」にはいろいろな種類がある。憫笑、嘲笑、冷笑、微笑、哄笑、苦笑、艶笑、喜笑、諂笑、朗笑……。槇原の歌詞にもさまざまな「笑い」が出てくるが、重要なのはもちろん「朗らかな笑い」である。

槇原の歌では、〈笑顔〉は幸福の別名として使用されている。自分や他の人が〈笑顔〉でいられることが、人と人との関係の理想的なあり方で、いわば人間関係のゴールのようなものだ。

ただしそれは、バカみたいに薄っぺらい〈笑〉ではなく、悲しみや切なさと同居した、あるいはそれを乗り越えたところにある立体的な情感としての〈笑〉である。悲しく深刻ぶるのではないが、かといってたんに陽気なだけでもない。

例えば、自己嫌悪を主題にしたような「桃」(『Home Sweet Home』収録01年)では、最後は、〈一緒に食べようと笑うから　桃はもっともっと甘く香る〉と締めくくられる。重苦しい主題でも〈笑〉の一字があることで全体の雰囲気はガラッと変わり、作品世界は救われる。槇原は〈笑〉という字を好んで使い、本来は暗い詞世界を明るくしようとしている。

進化する〈笑顔〉

〈笑顔〉を幸福の別名として、話をすすめてみたい。

〈君の笑顔が素敵なら　それでいいよ〉(「冬がはじまるよ」/『君は僕の宝物』収録)と歌う槇原の初期の作品では、たんに〈君〉の幸福しか考えていなかったの

が、〈ずっとみんなが毎日　笑っていられればいいな〉(「花火の夜」/『本日ハ晴天ナリ』収録)と歌う後期の作品では、顔もしらない他者の幸福をも願っている。しかも、そういった〈君〉の言葉が〈祈りの様に響いてる〉としているのだから、まさに「世界人類が幸福でありますように」という宗教性がそこには含意されている。〈笑顔〉への望みも時間の経過とともに進化しているのだ。

けれども筆者は、〈笑〉が救いの象徴のように使われ、それが連発されることに違和感を禁じえない。そんなに簡単に救済されてしまっていいものなのだろうか、と。〈笑〉はその瞬間を明るく照らしこそするが、思考をそこで中断させるだけの"一時的な救い"にすぎない。

ユーモアが消えた後期作品

〈笑顔〉の他にも、救いのための重要な要因が槇原の作品には見てとれる。それはユーモアである。

例えば、気に入っていたセーターを犬が噛んでいたので、〈ひどく叱りつけ〉たら〈あげたのは私よ〉と彼女が言ったとか(「今年の冬」/『PHARMACY』収録94年)、〈今日も吠えるとなりの犬に　本気でどなり返す〉(「東京DAYS」/同)など、クスッと笑ってしまう描写がいくつもある。

だが、こうしたユーモアは後期の作品ではあまり見られなくなった。同じような情景を〈言うことを聞かない犬を　必要以上に叱った〉と歌う「LOTUS IN THE DIRT」(『Home Sweet Home』収録)からは、もはやユーモアは感じられない。そこでは、自身の心の汚れが重く描写されているだけだ。

#3 大乗／小乗

槇原敬之が菩薩である理由

槇原は覚醒剤所持で逮捕された99年

CamScannerでスキャン

8月以降、4枚のオリジナルアルバムを出している。それらの作品には、ある一つの明確な質的変化が歌詞において見てとれる。「自分だけが救われればよい」(＝自利)という"小乗モード"から、「他のみんなも救いたい」(＝利他)という"大乗モード"への変化である。小乗／大乗は仏教の分類。「小乗」は小さい乗り物、「大乗」は大きい乗り物をさす。小さな船で自分一人が行くのではなく、大きな船に衆生みんなを乗せて彼岸に渡そうというのが大乗の精神だ。

槇原は復帰後第1作目のアルバム『太陽』(00年)の標題曲「太陽」でこう歌っている。

〈何も求めずに　何も変わらずに　いつも僕らを照らす太陽を　この暗闇の中雨に打たれながら　ずっと待ち続けた〉

太陽は、地球に一方的に熱と光を与え、しかも、他の何ものにも依存せず自律的に存在している。バタイユはそうした太陽を人間の経済活動の発端に置いた。太陽の無償の贈与は、究極の利他であろう。

槇原は同じ歌で、〈誰かのための幸せを　当たり前の様に祈りたい〉とも言う。自分が太陽から授かっているような恩恵を、他人にも施したいということなのだろう。「他人を救うような自分でありたい」という利他的な精神が、そこでは明確に芽生えている。

利他行に励む修行者を菩薩という。"大乗モード"期のアルバム作品には、次のような歌詞の曲が並んでいる。それらを見ていると、実際に槇原は自分の存在を菩薩に見立てているのではないかとさえ思えてくる。

〈今度こそは誰かに何か　良いことをできるチャンス〉(「Happy Birthday Song」／『Home Sweet Home』収録)

〈誰もが誰かのための　居心地の良い場所になれる〉(「Home Sweet Home」／同)

〈最近の僕ときたら　人のために何かしたいと　思いついただけで　もう　出来たつもりになっている〉(「雨ニモ負ケズ」／『本日ハ晴天ナリ』収録)

〈相手の喜ぶことをまず先に出来る　僕にならなくちゃだめだ〉(「Happy Ending」／『EXPLORER』収録)

〈僕のあげたものでたくさんの　人が幸せそうに笑っていて〉(「僕が一番欲しかったもの」／同)

軽い自己犠牲について

さらに純粋さを増していくと、槇原が好きな宮沢賢治のように「世界がぜんたい幸福にならないうちは個人の幸福はあり得ない」(『農民芸術概論綱要』)となるわけだが、槇原の後期作品からも、そうした「自分より他人の幸福を優先する」といった雰囲気は読み取れる。

ところで、宮沢賢治の「グスコーブドリの伝記」という物語では、農民を飢饉から救うために、最後の手段として主人公は火山の中に自分の身を投じる。自己犠牲を伴う利他行になっている。

だが、槇原における"利他行"はもっと軽い。前出の「僕が一番欲しかったもの」の歌詞は、〈僕〉が拾った〈素敵なもの〉を次々と他の人にあげてゆき、最後にそんな自分を改めて振り返ってみたら、〈僕のあげたものでたくさんの　人が幸せそうに笑っていて　それを見た時の気持ちが僕の　探していたものだとわかった〉という内容だが、結局〈僕〉がしたのは、自分が〈拾った〉ものを他人にあげただけなのである。〈惜しいような気もした〉ともあるが、〈素敵なもの〉だったから人にあげたとはいえ、所詮は「偶然の拾い物」。ゆえに自分自身の損失は小さい。

自分の命を代償とするような宮沢賢治の自己犠牲と比べるなら、槇原の利他行は、日常生活でも可能なささやかな"自己犠牲"にすぎない。自己犠牲というのも滑稽なほどの軽さであるが、半面、こうした軽い自己犠牲は、行為遂行の
性を高めてくれる。

実は、そこでは「"自分のもの"た
っているモノ」に執着しないという
(ざいせ)が説かれているのである。
薩が修めなければならない行の一つ
施がある。布施には、財施(ざいせ)・
施(ほうせ)・無畏施(むいせ)の3種
ある。財施は自分の所有物を分け与え
こと。法施は仏の教えを他者に説くこと
無畏施は相手の畏(おそ)れを解くこと
ある。

槇原は「昔から僕は仏教が大好き」
と言っているが、仏教の影響を受けた
を歌うことは、それ自体が法施といえる
また「Good Morning!」(『太陽』収
などは、無畏施の歌である。

〈何度君が挨拶しても返事さえしてく
ない人がいても　あきらめないで何度で
も言うのさ〉

「おはよう」「こんにちは」……と、ま
拶をしようと呼びかける。挨拶をすれば
お互いが幸せな気持ちになれる。これも
またささやかな菩薩行である。

人が挨拶を交わすのは、しばらく会わ
なかった時である。しばらく会わないと
互いに緊張感が生まれる。一晩でもそう
なる。「自分に対して変わってしまってい
ないだろうか？」――そうした気持ち
畏(おそ)れを解き、「変わらずにあなた
を認識していますよ」ということを相手に

示すために、互いに挨拶を交わすのである。だから挨拶は無畏施となる。

前期に作られた「男はつらいっすねぇ」(『UNDERWEAR』収録　96年)では、挨拶はかっこいい男になるためのたしなみの一つとされていた。挨拶が大事だという思いは、前期作品においても後期作品においてもあまり変わらない。ただし、後期のほうが"切実さ"が増しているのである。〈挨拶〉ひとつで、心の中の〈天使と悪魔〉が云々という話にまで広がっていく。ちょっと思いつめ過ぎではないか、とも思う。

修行には理想となるモデルが必要だ。先に「槇原は素直で正直であることに価値を見出している」と書いた。だが、「素直・正直であること」だけでは自利である。自利プラス利他を体現しているのが、〈いつか　あなたのようになりたい〉と歌われる「You are so beautiful」(『Home Sweet Home』収録)の〈あなた〉である。同曲には、〈美しい人〉は〈心に嘘をつくことはなく　頑ななまでに自分に素直〉で、まなざしの先には〈必ず誰かの幸がある〉と書かれている。

#4 気づき／あたりまえ

「世界に一つだけの花」は何を前提にしているのか?

槇原は「世界に一つだけの花」(『EXPLORER』収録)について、釈迦の言葉「天上天下唯我独尊」をこの歌に重ね合わせている。「他の人と比べる以前に、人はすでに一人一人が尊いのだ」と言いたいのだろう。

「世界に一つ〜」は、人権啓発でよく使われる「みんなちがってみんないい」という、金子みすゞの詩の一節と同じだと解釈する人たちも少なくない。こちらは、人と比べてその違いを知り、それでもなお「みんないい」と言っているわけだから、「天上天下〜」よりもさらに大人の見解である。

筆者には、〈もともと特別なOnly one〉と歌う「世界に一つ〜」は、仏教の如来蔵思想を説いているように思える。如来蔵思想では、すべての衆生は凡夫といえども如来＝仏性を内在させているので(一切衆生悉有仏性)、煩悩による曇りを取り去るだけで仏性が顕現する、と考える。悟りを得るための修行は超簡単なのだ。〈NO.1にならなくてもいい〉とは、特別な修行は無用であるということでもある。何もしなくても、すでに〈特別〉なのだから。

ただし、努力の必要性が完全に放棄されているわけではない。花を咲かせる程度には〈一生懸命〉にならなければならない。その前提として、この世界が悉有仏性の世界であることを、まずは気づかなければならない。

覚醒剤事件が与えたもの

復帰直後のアルバム『太陽』の標題作「太陽」以降、「気づき」ということが槇原作品の一つのテーマになっている。特にそれが顕著なのは13枚目のアルバム『EXPLORER』で、収録曲12曲のうち半分の6曲に〈気づき〉という言葉が使用されている。

「気づき」とは、ふだん見逃していたものを発見すること。なぜ見逃していたのかというと、それが「あたりまえ」の中に埋没していたからである。

〈あたり前にあるものなど何もない〉(「長生きしよう」／『Home Sweet Home』収録))

太陽が私たちをいつも照らしてくれていることに「気づき」、〈君〉がいつも近くにいてくれることに「気づく」。あるいはまた、私たち一人一人がかけがえのない存在(Only one)だということに「気づく」。

槇原は「気づき」という言葉を使って、慣れや日常の自明性に埋もれてしまいがちな"有り難さ"を、新鮮な驚きをもって呼びさまそうとする。

〈大事なことはいつも　平凡な場所にうずくまって　僕らに気づかれるのを　じっと待ってる〉(「うん」／「UNDERWARE」収録)

以前から槇原は、「いつも側にいてくれる〈君〉」の"有り難さ"を歌にしてはいた。

復帰後は、そうしたことを、もっといろんな出来事において感じはじめたということだろう。覚醒剤事件が槇原にいわゆる「末期(まつご)の目」を与えたのであろうか。

ところで、ここで注意しなければいけないのは、槇原はもう「気づいた人」だということだ。一方、私たちはまだ「気づかない人」である。「気づいた人」が「気づかない人」に向かって「気づきなさい」と言っているのである。仏教の世界観は、真理(悟り)に近いものの順に階層構造になっている。当然、「気づいた人」は「気づかない人」より上の階層にいる。後期の歌詞には、自己否定や謙虚さがあるかと思えば、押しつけがましい尊大さも感じられる。こうした矛盾はどこから来るのか?　自分より上のレベルの人を見れば卑屈になり、下のレベルにいる人に対しては自分が見出した真理を語りたがる——彼のそんな微妙な立ち位置ゆえではないのだろうか。★

※本文中出紹介した作品は、すべて作詞・作曲：槇原敬之

CamScannerでスキャン

距離感が絶妙な槇原敬之の「君」と「僕」

恋に恋するラブソングの時代:Before 1999

槇原ソングの誕生過程に注目しよう。基本は歌詞が書かれてからメロディやアレンジが加えられる。つまり数多の名作はあの歌詞あってこそ生まれるという。かように重要な歌詞について1991年の「どんなときも。」から2004年の「世界に一つだけの花」まで通覧すれば、どうやらその世界観に違いが生じている。分岐点は例の年——1999年にあるのではないだろうか。まずはマッキー before 1999 の特徴に迫ってみよう!

1st
「君が笑うとき君の胸が痛まないように」
(1990年 ワーナー)

2nd
「君は誰と幸せなあくびをしますか。」
(1991年 ワーナー)

「どんなときも。」
(3rd Single)

「Cicada」で変わった歌詞の濃度

槇原敬之は1990年に「君が笑うとき君の胸が痛まないように」でアルバムデビューして以来、一貫して「君」と「僕」のラブソングを歌ってきた。とりわけ初期の「君～三部作」において青春の青臭さを前面に出し、清涼飲料水のようなラブソングをポップな音にのせて僕たちに届けてくれた。槇原の楽曲作りでは、基本的に歌詞を書いてからメロディやアレンジを加えていく方法が採られている。要するに、まず歌詞ありきなのだ。

ところで歌詞を読んでいると、1999年の9thアルバム「Cicada」より前と後では歌詞の濃度が相違している。「Cicada」より前は、(切ないけど)爽やかな恋心が歌われていた。しかし「Cicada」以降は恋愛につきものの苦悩や傷心といった負の面をふくめたラブソングが増え、それとともに歌詞の描像が複雑になっていくのだ。以下において、まず「Cicada」より前の槇原敬之の歌詞に着目して、その特色を明らかにしよう。

「パッセンジャー」は恋愛を経験する

槇原敬之の「Cicada」より前の歌詞を読んでいると、「乗り物」(やそれに付随したもの)がよく登場することに気づかされる。具体的な「乗り物」としては、地下鉄、車、電車、自転車、観覧車、ロケット、バイク、飛行機などである。たとえば「ANSWER」(1st アルバム収録)で、急に涙が出て涙が止まらなくなった僕が手すりを越えて君を抱きしめたのは「地下鉄」の改札口。あるいは「No.1」(4th収録)で、チョコレイト工場のにおいのする僕の街に君が来たら河原へつれて行くのは「自転車」。あるいは「SPY」(5th収録)で、変装した君の後をつけた僕が他の男とキスをしているのを見つけたのは「車」の横、という具合である。

興味深いことは、主人公に「運転手」(ドライバー)というより、「乗客」(パッセンジャー)的な人物が多いことである。英語でいう「パッセンジャー」(passenger)とは、①「乗客」という

意味以外に、②「通行人」「旅人」とか、
③「足手まとい」「お荷物」といった意
もある。むろん主人公は、地下鉄、電
車、観覧車ではふつう①の「乗客」で
あるのだが、車や自転車を運転する
「運転手(こぎ手)」の場合でも、何と
なく②の「通行人」「旅人」というイメ
ージがある(「遠く遠く」[3rd収録]、
「MILK」[4th収録]など)。また君と
の恋愛において、僕はどことなく③の
「足手まとい」「お荷物」的な存在の場
合が多い(「NG」[1st収録]、「もう恋
なんてしない」[3rd収録]、「彼女の恋
人」[4th収録]など)。

ところで「パッセンジャー」の動詞形の"pass"は自動詞ではなく他動詞である。他動詞は、「目的語を必要とする動詞」であり、客体を表す「……を」が前に来る動詞のことだ。他動詞"pass"の場合だったら僕は「ある場所を通り過ぎる」とか、他動詞"experience"の場合だったら僕は「苦しみを味わう」とか、動詞の表す動作や作用が直接他に働きかけたり、他を作り出したりする働きをあわせもつ。しかし槇原の楽曲「足音」(8th収録)の〈(僕は)愛を一つ胸に かかげて行こう〉というフレーズを例にして考えてみると、「愛を」は、英文法の考え方では目的語となるのだが、日本語文法では修飾語となる。日本語は主語が漠然としているが、実は目的語も曖昧なのである。曖昧な主語である「僕」は動詞の働きによって「ある場所を通り過ぎ」たり「恋愛を経験する」。「僕」は主体的に何かに働きかけるのではなく、受身な存在＝「パッセンジャー」として「恋愛を経験する」ことになる。

曖昧な距離の「君」と「僕」

さてまた、槇原敬之の歌詞にはよく「電話」が登場する。たとえば「遠く遠く」で、同窓生からいつでも帰ってくればいいと言われたのは真夜中の「公衆電話」。あるいは「ズル休み」(4th収録)で、日曜出勤でつかれてもどった僕が自宅のドアを開けたら「留守電」が点滅。あるいは「2つの願い」(5th収録)で、内緒で5泊6日の海外旅行をした僕が待つのは君からの「電話」、という感じである(「Cicada」以降は「携帯電話」が登場)。

「電話」は、周知のように英語では「テレフォン」(telephone)という。元々、「テレ」(tele)というのは「遠隔の」「遠くの」、「フォン」(phone)は「音」という意味である。したがって「テレフォン」とは「遠くの音声」とか「遠くの音を聴く装置」ということとなる。日本語で「電話」と訳されたことで「遠く」という距離感が含意されていることを忘れがちであるが、「電話」は恋人、家族や友人から届く「遠くの音声」に耳を傾け、あたかもそこにその人物が存在するがごとく想像しなが

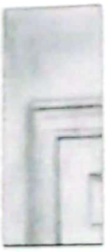
3rd
「君は僕の宝物」
(1992年 ワーナー)

4th
「SELF PORTRAIT」
(1993年 ワーナー)

「ズル休み」
(9th Single)

5th
「PHARMACY」
（1994年　ワーナー）

8th
「Such a Lovely Place」
（1997年　ソニー）



「足音」
（19th Single）

らコミュニケーションを行う装置なのである。

「遠くの音声」なのに「近くの音声」だと感じる距離は、いいかえると「手が届きそうで届かない曖昧な距離」といえる。電話において、「僕」と恋人、家族や友人との間には「曖昧な距離」が介在する。「電話」は相手の顔が見えない。したがって僕たちは相手を想像しつつ、呼吸とかタイミングとかを計りながらコミュニケートするわけである。しかも「電話」で電気信号に変換された「音声」は、ふだんの会話の声とは音質が違うため独特なリアリティがある。つまり「電話」を介在させることによって「もう一人の自分」が立ち上がってくるのだ。

とはいえ、槇原敬之の歌詞に「もう一人の自分」が存在しているわけではない。重要なのは「曖昧な距離」が絶妙な距離感として「僕」と「君」との距離の感覚として表象されているからこそ、彼のラブソングは僕たちの琴線に触れてくることだ。たとえば「北風」（1st収録）には「電話」は登場しないが、〈今君がこの雪に気付いてないなら 誰より早く教えたいと 心から思った〉ならば、僕は「電話」を取るのだろうと暗示させる。この微妙な心の動きをメロディアスな楽曲にのせ歌われたら「やられた」と誰でも思うだろう。しかもマッキーの笑顔つきだぜ！

等身大の主人公だからこそ

槇原敬之の『Cicada』より前の楽曲は、概ね青春にありがちな「恋に恋する」心の在り様が、ポップなメロディにのせて発信されたといえよう。たとえば「どんなときも。」（2nd収録）で、〈いつか 誰かを愛し その人を守れる強さを 自分の力に変えて行けるように〉とか、「ズル休み」で、〈人は必ず誰かに 愛されてると思いたい 君のこと想うように 僕もいつか愛されたい〉というフレーズに表されているように、枚挙にいとまない。

彼の作品にみられるニュートラル感やバランスの好さが、1967年から70年までに生まれたいわゆる「第2次すきま世代」の恵まれた環境の産物だなんて考えたりしない。むしろその時々の自分自身のこと（中途半端さや消極的な気持ちさえ）を正直に隠すことなく語り、等身大の主人公を登場させたからこそ、彼のこの時期の歌が、今もジェンダーや年齢を越えて広く愛されているんだと思う。

…「北風」いずれも作詞・作曲：槇原敬之

飢えた蛛、新たな生命、そして子供たちと家族

生まれ変わってこの場所で：After 1999

1999年6月2日に先行シングル「Hungry Spider」、そして7月7日、9thアルバム『Cicada』が発売された。優しい雰囲気のラブソングとは趣を変えた作風に、何かを感じ取るファンも多かったに違いない。時おかずして同8月26日、覚醒剤取締法違反で逮捕された槇原は、全国ツアー中止、活動無期限停止へと追い込まれる。同12月8日の判決は、懲役1年6カ月、執行猶予3年だった——。そんな激動の99年以降の詞世界に照準する。

文▶町口哲生［大学講師］
イラストレーション▶宇和島太郎

「Hungry Spider」の衝撃

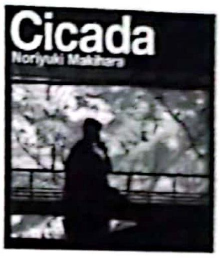
1999年、「夏」をテーマとした9thアルバム『Cicada』がリリースされた。先行シングル「Hungry Spider」を聴いた時の衝撃が今でも忘れられない。それ以前の槇原敬之の優しい雰囲気のラブソングは影を潜め、〈食べて〉〈助けて〉〈死んで〉といった言葉に象徴されるように、この曲では心の闇にある「死の欲動」のような潜在意識が、「蜘」「蝶」といった美しい／グロテスクな昆虫でメタファライズされていた。当時の槇原敬之の内面に何らかの変化の兆しを感じ取ったファンも多かったのではないだろうか？

とはいえ、僕はアーティストの私生活とその作品を結びつけてうんぬんという議論は避けたい。たしかに槇原敬之の生活は音楽と不可分な関係にある（つまり日常生活を大切にしながら創作活動を行うというのが彼のポリシーだから）。また『Cicada』発売後に覚醒剤取締法違反容疑で現行犯逮捕されるまでの、混沌とし整理がつかない心の在り様などがあったことだろう。しかし文学にしろ、音楽にしろ、一旦アーティストの手を離れたら、作品自体と真摯に向き合い、誠実にレスポンスすることが評論の鉄則だと思う。さあ、歌詞に密着して、槇原のさまざまなテーマや問題系を再発見していこう。そうすれば『Cicada』より前と後の歌詞の濃度差も明らかになるだろう。

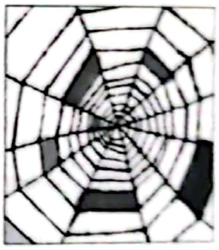
新しく生まれ変わる

まず『太陽』（2000年）収録の楽曲に特徴的なことは、自分自身と真剣に対峙した歌詞が多いことだ。また歌詞の一言一句が選び抜かれ、推敲を行ったあとが見られる。では他のアルバムと決定的に違うのはどこだろう。それは、①主人公を小動物に仮託した歌詞が多いこと、②傷、刃物、泥だらけといった自分の負の面と向き合った曲が増えたこと、③花、梅の木、キンモクセイといった植物が心象風景として効果的に使用されていること、などである。

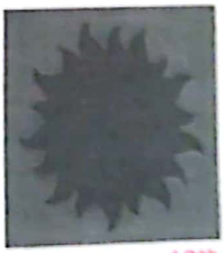
まず①は「濡れひよこ」「WILD



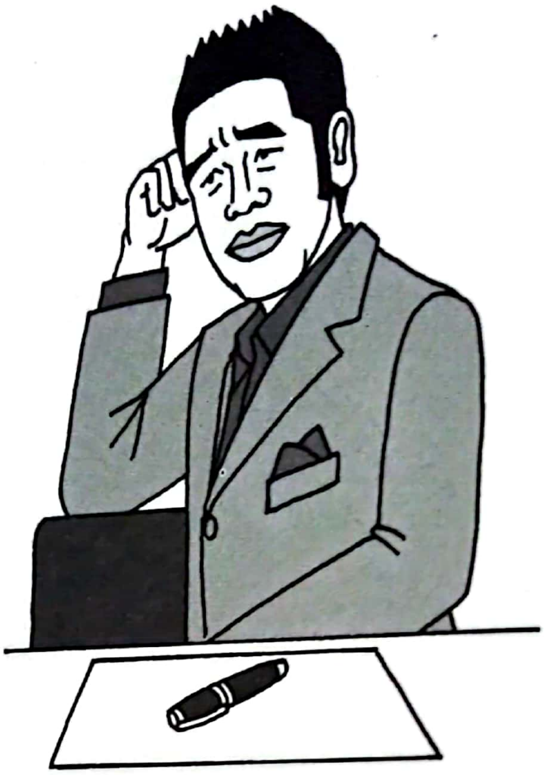
9th
『Cicada』
（1999年　ソニー）



「Hungry Spider」
（22th Single）



10th
『太陽』
（2000年 ワーナー）

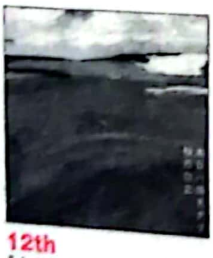


RABBITS」「迷わない羊」に登場する「ひよこ」「野ウサギ」「子羊」といった小動物に「僕」をかこつけた楽曲に見られる。このうち前2曲は、〈がんばれ！濡れひよこ〉とか、〈Let's go! Jumpin' Wild Rabbits〉といった具合に、主人公を鼓舞し応援したものである。それに対して、「迷わない羊」は、迷える子羊のような「僕」が、「あなたを傷つける人を絶対許さない」と言ってる癖に、平気でそいつらと遊んでいる「君」へ〈迷わない羊になる〉と宣言した曲である。

②は「I ask.」「SIMPLIFY」「キミノイイトコロ」「PLEASURE」などが代表だろう。まず前2曲は、今まで不在であった自分の中の「もう一人の自分」との闘いの歌で、「I ask.」では、何げない言葉で誰かの心を傷つけた「僕」に対する自戒の念が語られ、「SIMPLIFY」では、水たまりで泥だらけになった「彼」は、太陽で乾いた後に払いきれずに残るものが誇りだと知る。他方、後2曲は、「恋愛を経験する」ことは同時に傷ついたり傷つけたりすることでもあると歌った楽曲である。救いは、「PLEASURE」の中の〈君が笑うと 僕の中にも花が咲くよ 雑で乱暴な僕の中に 綺麗な花が咲くよ〉というように、負と正が同居する両義的な心に咲く「花」であろう。

「花」は「PLEASURE」以外に「Going Home」でも登場するが、こちらの方は「僕」の心象風景を映し、ある時は教え導くといった③の機能を発揮する聖霊（アニマ）のような存在と考えた方がいい。植物は春になると芽吹き、夏に繁茂する生命力溢れるものである。僕たちは失恋したり、裏切られたり、愛する人と死別したり、人生では色々な出来事が生起する。でもそれらを契機として「新生」、つまり生まれ変わった気持ちで新たな人生を歩みだすことが大切なことはいうまでもない。

11th
「Home Sweet Home」
（2001年 ワーナー）



12th
「本日ハ晴天ナリ」
（2002年 ワーナー）

13th
「EXPLORER」
（2004年 東芝）

子供たちと家族

「太陽」の続編的な「Home Sweet Home」を経てリリースされた「本日ハ晴天ナリ」（2002年）にはもう一つの「新生」が描かれた曲がある。それは「Wow」である。これは「家族」をテーマとした楽曲で、「家族」の中心である「子供」をお父さんがいとしく思う気持ちが伝わってくる心温まる作品だ。ここに描かれるのは打算的な愛ではなく、無償の愛であり、「元気でいてくれればそれでいい」という風に、新しい生命に対する感謝の念が語られている。

こうした「家族」をテーマとした楽曲は「EXPLORER」（2004年）に数多く収録されている。たとえば「武士は食わねど高楊枝」「Boy, I'm gonna try so hard」「夏は憶えている」「Happy Ending」「Tag Team」である。このうち前2曲は、

「Wow」と似通ったテーマで、お父さんの立場から「子供」がエンパワメントの源であることが歌われた曲。また中2曲は、僕の記憶の中の「少年」が主人公で、前者は今の「子供たち」への応援歌、後者は現在の「家族」に対する感謝の歌。そして最後の曲は、時にいがみ合ったりするけど「家族」は絆で結ばれたタッグ・チームなんだし、それが普通なんだよと歌った楽曲である。

槇原敬之の「Cicada」より前のアルバムは、「君」と「僕」のラブソングが主体で、「『君』と『僕』―家族・社会―世界」の3段階のうち、皮膚感覚でお互いを感じ取れる距離にいる「君」と「僕」、つまり「近景」が描かれてきた。そこには共同体的な対人距離である「家族・社会」といった「中景」はあまり言及されていない。また無限遠の彼方にある「世界」、すなわち「遠景」は抽象的な存在で、往々にして「君」と「僕」は「世界」の中心に存在するといった「近景」即「遠景」といったパターンだった。ところが「家族」をテーマとした楽曲を歌い「中景」を含んだことで、「世界」、つまり「遠景」も具体化し、歌詞の濃度も深まったといえるだろう(下図参照)。その結果「君の名前を呼んだ後に」「The Fog」(ともに『EXPLORER』収録)といったラブソングが以前にもまして胸にジーンと響いて来るんだ。泣かせるなよ、マッキー!

居場所はどこ?

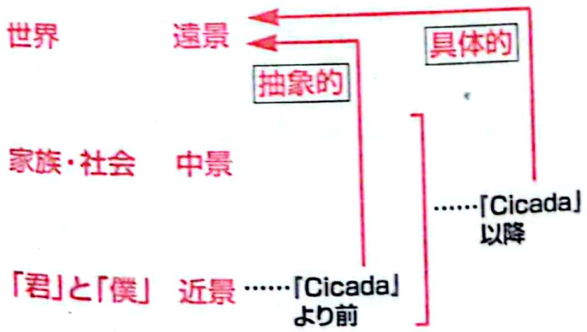
槇原敬之の歌詞を通読して感じたのは、「恋愛を経験する」ことで、他者を好きになるとはどういうことなのだろうと自問する主人公が多いことである。とはいえ「Cicada」以降の楽曲を聴くならば、(今まで論じてきたように)それより前にくらべ明らかに濃度が濃くなっている。しかも最新アルバム『EXPLORER』に至り、「家族」という「中景」を導入したことで、ある意味「達観」した印象があることも確かだ。「達観」したがゆえに、たとえば浅草寺で鳩豆を食べる外国人観光客に英語ができないからそれを教えられない主人公を描いた「ハトマメ」のユーモアや、大きな花も名前を知らない小さな花もどちらもOnly oneだという「世界に一つだけの花」のやさしさが生まれたんだと思う。

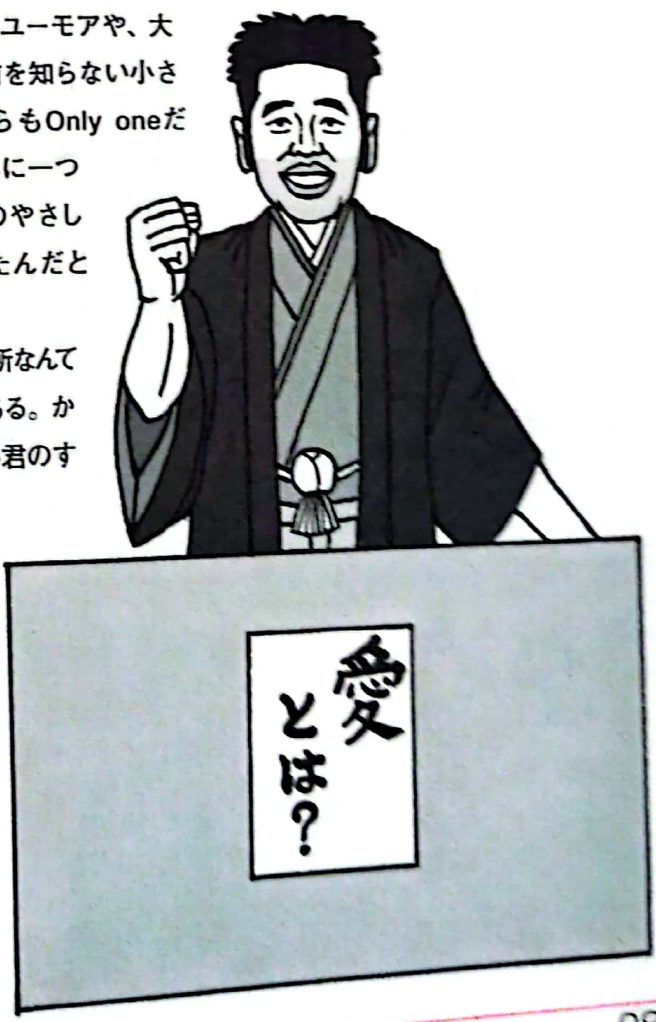
そう、居場所なんてどこにでもある。かけがえのない君のすぐ傍にも。

「君の名前を呼んだ後に」
(29th Single)

SMAP
「世界に一つだけの花」
(2004年)

槇原敬之の歌詞の世界観





個性の違いが花を咲かせた一度きりの名コラボ

ROLLYとマッキーの天才イトコ物語

槇原と元すかんちのローリー寺西あらためROLLYが6歳違いのいとこ同士であることはよく知られている(マッキーが下)。音楽性もキャラクターもまるで違う2人だが、アマチュア時代は互いに助け合ったりもしていた。そんな彼らの再会が生んだ名作とは——。

文▶宮城正樹［知ったかブンセキ家］

ROLLYとマッキーは幼い時分はよく遊んだというが、音楽性の違いから見ても、一緒にバンドを組んでいた訳ではなく、お互いに研磨していたのでもない。マッキーは教室へ通って習うくらいピアノ志向であり、高校ではバンドを組んだもののエレキが禁止だったらしく、隠れてROLLYにエレキを教えてもらった程度のことはあるようだ。そして、音楽性こそ違えプロを目指してそれぞれに励んでいた。しかし、マッキーが高校時代に作ったデモ・テープではROLLYがエレキを掻き鳴らしていたし、すかんちのデビュー前のライヴに、マッキーがキーボードで参加していたとの目撃情報もある。

そんな2人がプロとして遂に相まみえることになったのは、98年にROLLYが本名の寺西一雄名義でリリースしたシングル「Name Of Love」でだった。マッキーが詞曲を提供しただけでなく、初めてプロデュースした作品である。僕がインタビューした時、ROLLYはこう語っていた。「敬之君とROLLYの音楽はアプローチを含めて全然違うもので、僕もこれまではほとんどROLLY成分だったけど、純真な恋心や熱い正義感みたいなものを歌ってみたくなった。しかも全く違うキャラクターでね。普段変わった人のROLLYがフツーの人のコスプレをしてる。魅惑の変身願望かな。彼にもROLLYを意識せずに、アダルトな質感の槇原節そのものでやってほしいと依頼した訳で……」。そして、マッキーの曲についてはこう絶賛。「歌詞の中で、胸がキュンとしたらその気持ちに名前を付けるなんて主人公のキャラクターは、敬之君の曲の面白いところ。凄く純粋で、全然変な風に聞こえない。かといって、ストレートな青春歌謡でもない。そこも不思議な感じ。でも、良質のポップス。完成したこの曲を聴いた時、僕は胸が熱くなったよ!」。カップリングは「SPY」のカヴァー。ダブの手法を使ってテクノ化したものだが、ROLLYもテクノは好きだという。YMOには彼も影響を受けているのだ。そう、なにしろマッキー少年にYMOを教えたのはROLLYだったのだから。

寺西一雄「Name Of Love」
ソニー (SRCL 4566)
1998.10.2発売
マッキー自身のヴァージョンはアルバム「Cicada」に収録

異種格闘技の趣きではあったが、2人の音楽性、キャラクターが全然違うからこそ交流できた、とも言える。もし似たようなことをやっていたら、対抗意識が増して交流してる場合ではなかったかもしれない。このコラボレーションはむしろ、2人それぞれの音楽性を高め幅を広げる結果になったに違いない。なさそうな話ではあるが、逆にROLLYがマッキーをプロデュースしたら、どうなるでしょうね?☆

CamScannerでスキャン

PART 4

マッキーから ひろがる音楽世界

CamScannerでスキャン

PART 4

マッキーからひろがる音楽世界

ここでは、[illegible]にとどまらず、
社会派、歴史派、他アーティストとの[illegible]
さらに多角的なアプローチを展開します。
マッキーを[illegible]

[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]

CamScannerでスキャン

ザラザラよりスベスベ、モゴモゴよりロウロウ!

朗声論

美「声」男子・槇原の折り目正しいヴォーカルの魅力に迫る

柔らかくて強く、管楽器のようによく伸びる声を持つ槇原。素直な発声のせいもあって朗らかな印象を与える彼の声を、ここでは"朗声"と呼ぶ。そして、そんな朗声が彼の音楽をどう作っているか、Jポップ界全体のなかでどこに位置づけられるか、を考えていたら、我々はある"忘れ去られた朗声"の存在に行き当たるのだった——。

文▶宝泉薫[著述業]
イラストレーション▶いんなみりさ

歌い手にとって、声は顔のようなもの。それゆえ、声にも美醜が存在する。その点、槇原敬之のそれはなかなかの美声と言ってよく、かの近田春夫氏も、そのハキハキとして不良性の感じられない声を際立った個性として特筆している。ただ、その一方で、冬のリゾートをカッコよく描いた「STRIPE!」について「すべる人よりころぶ人の声では」とからかったことも(*1)。美声でありながら"ころぶ声"でもあるというのは、一見、矛盾している気もするが、案外、そういうところに槇原の本質が隠されているのかもしれない。

それでなくとも、彼は人間としての顔の美醜は語られても、歌い手の顔——声についてはあまり論じられないのだ。そんな彼の声について、若干の考察をしてみたい。

Jポップ男性歌手の声質分布図

まず、音楽シーンにおいて、彼の声はどう位置づけられるのか。そこで、ひとつの図表(マトリックス)を作ってみた。横軸を"ハスキー⇔(いわゆる)美声"、縦軸を"素直⇔クレン"として、さまざまな歌い手を分布化させたものだが、彼はもちろん"美声"で"素直"というAゾーンに入る。このゾーンには、谷村新司や尾崎豊といった顔ぶれも。要は、青春期の自分探しなどを歌うのに適した声だ。槇原自身「見た目おっさんなんだけど、少年の声持ってるわね」と、ホメられたりするとか(*2)。なるほど、彼の声は"美少年"、それこそ半ズボンと白いソックスが似合う男の子という趣だろう。

その下のBゾーンには、大瀧詠一や矢沢永吉といった面々が。美声であっても、バタくささなどが加わると、聴こえ方が変わるわけだ。ここの利点は、一度浸透するとエバーグリーンなものと化すこと。Aゾーンから Bゾーンに移行して成功したのが、井上陽水だったりする。また、"ハスキー"にして"素直"というCゾーンには、前田亘輝(TUBE)やアキヒト(ポルノグラフィティ)が。日本人の泣きのツボをミョーに刺激する両者が含まれているのは、興味深い。しかし、それ以上に注目すべきはDゾーン。"ハスキ

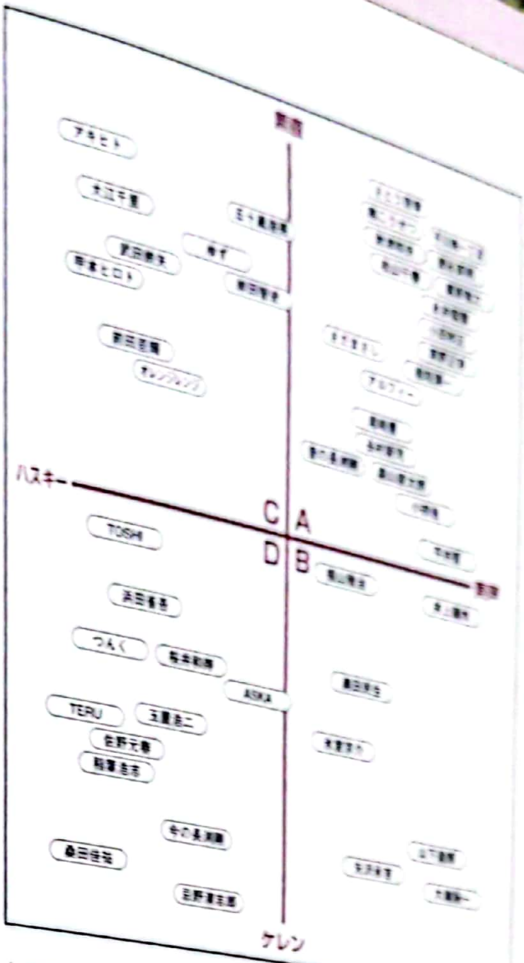
ー"かつ"ケレン"も利いているという、槇原とは対極の歌い手たちのことだ。"いわゆる美声"で"ハキハキ・素直"というのが正統的だとすれば、これは二重の意味で異端なはずだが、少数派かといえば、さにあらず。国民的存在の桑田佳祐（サザンオールスターズ）以下、90年代からのJポップ・ブームを支えた大物が並ぶ。一方、槇原のいるAゾーンはといえば、その多くは70年代のニューミュージック・ブームで世に出た連中だ。つまり、音楽シーンにおける声の流行を考えた場合、AゾーンからDゾーンへと人気が移行したとの仮説も成り立つ。そして、その変化は、顔の流行ともシンクロしているのである。

例えば、芸能史において、80年代はかつての二枚目が通用しなくなった時代といわれる。田村正和や近藤正臣がコミカルなドラマやCMに活路を見出すかわりに、舘ひろしや柳葉敏郎のような味のある顔がモテ始めた。これと同じことが"声"をめぐっても起きたのだ。その分岐点を象徴していたのが、70年代末に登場したロック御三家。特に、世良公則と原田真二はともにハスキー・ヴォイスで新時代の音楽を表現し、その味のあるルックスともあいまって、若い世代の共感を得た。ちなみに、前出の桑田も同期。こうした新しい声の台頭が、南こうせつやさだまさし、松山千春といった古い声をダサく感じさせることともなり、やがて葬り去っていくわけである（世良や原田は、突破者の宿命ですぐに消えたけど）。

とまあ、ミョーに力説してしまったのには理由がある。ダサイと言われて大成できなかった"古い声"の持ち主をひとり、思い出すからだ。

愛される声にも流行り廃りがある

永井龍雲というシンガー・ソングライターを覚えているだろうか。出身地や風貌、そ



して何より、その音楽性から"陽水の再来"とまで呼ばれたこの男は、槇原によく似た声を持っていた。いや、似ていたのは声だけではない。〈君がまどろむ部屋に〉〈風になって　窓からしのびこみ〉〈君の眠りの中に溶けこんで行きたい〉と歌ったデビュー曲「想い」に始まって、無為に過ぎる青春をひとりごちる「空振りの一日」や、新しい靴で水溜まりを飛び越える少年に希望を見出す「ひと握りの幸福」、さらには何をやってもかなわない恋人を抱きしめようとして転んでしまう「自信喪失」などなど、自分探しや一方的恋愛感情をテーマとした、槇原が歌ってもおかしくないような作品を数多く残している。それはおそらく、両者ともに人間関係が苦手でモテそうにないタイプだからだろう。にもかかわらず、彼はさほど売れずに終わった。その理由を当時、ファンだった筆者は彼のスタア向きでないルックス（現に、うちの母親は彼を初めて歌番組で見るなり

永井龍雲／龍雲ファースト
（キャニオン 1978）
「想い」「空振りの一日」など
を含む1stアルバム

*1『Bridge』Vol.39
*2『何を今さら』（世界文化社）
*3『考えるヒット②』（文芸春秋）
*4「大きくふたつに分けるとすれば 考えるヒット⑤」（同）

「これはテレビに出ちゃアカンわ」と斬り捨てた）のせいにして、自らを納得させたものだが……。

槇原の成功が、その納得を覆すに至る。というのも、この後輩もまた、けっしてスター向きの顔とはいえず、故・ナンシー関にも「人前で歌うべきじゃない人間」などと一刀両断されたほど〔*3〕。ではいったい、何が両者の運命を分けたのかといえば――今となってはやはり“声”なのだと思う。つまり、同じような声であっても時代によって聴かれ方が違ってくる、ということだ。78年デビューの龍雲は、自らの声が“ダサイ”として脇に追いやられてしまう時代にぶつかり（実際、筆者の周囲で彼の声をホメたのはクラシック好きの友人だけだった）、90年デビューの槇原は“かえって新鮮”とそれなりに面白がられる時代に出会えた、そんなタイミングの違いが大きかったのではあるまいか（そういえば、龍雲は自身のラジオ番組でやっていた企画で坂本九と忌野清志郎の「上を向いて歩こう」を聴き比べた際「どちらももうちょっと普通に歌えないのか」と笑っていた。笑っている場合ではなかったのだ）。

こうしてみると、近田氏が“ころぶ声”と評したのもうなずける。思うに、氏は世代的にも、ロック・ミュージシャンという立場的にも、こうした声を“ダサイ”と感じるのだろう。が、槇原と同世代以降の一般リスナーには、あまり馴染みのない“朗声”が清々しさや正直さといったイメージをもたらすことに。むろん、それは多少のマヌケさも含んでおり、そのあたりがプラスに働いたことで彼の自分探しソングは広く受け入れられたと考えられる。

さらにいえば、龍雲の苦悩が“目の不自由な母と生き別れた”という前時代的、あるいは演歌的なものだったのに対し、槇原のそれは“ジェンダーの揺らぎ”“クスリへの耽溺”といった同時代的かつロック的なものだった。現在、龍雲は演歌系の職業作家として活動しつつ、地道にライヴも継続中。槇原は『笑っていいとも！』に出演するなど“ザ・芸能人”としての振る舞いまで見せているが、その生き方の違いもまた、必然だったのだろう。

ただ、声の流行について補足しておくと、どうやらひとめぐりしたらしい。マトリックスが示すように、最近は森山直太朗や平川地一丁目のような存在もおり“美声”で“素直”なタイプもそれほど珍しくなくなってきたのだ。そのためかどうか、槇原は“陽水的変身”で差別化を図りつつあるようにも思える。また、ミスチル桜井との対談でも、相手の声を羨んだりして“美少年”ならではの不良願望を垣間見せたり。音楽的な幅を広げるためにも、その気持ちはわからぬでもないが……。小田和正のように、自分の声に作品を合わせていくのもプロとしてのやり方である。

ちなみに、近田氏は「Are You OK?」について「声が引っ込んで聴こえた」「この人はめいっぱい歌が前に出ていた方がらしくていい」と指摘〔*4〕。筆者も同感だ。あるいは、声の美貌が衰えつつあるのを自覚して、化粧や整形を施そうとしているのか。しかし、肝心なのは素顔だし、できればそれで勝負してほしい。最近の教訓ソングが今ひとつぎこちなく思えるのは、じつはそんな“声の異変”も関係しているのかもしれないし。☆

「想い」作詞・作曲：永井龍雲

実験的な編曲、サンプリング、ナレーション……YMOのエッセンスがそこかしこに

YMOチルドレンの異端児にみるテクノの痕跡

マッキーがYMOに影響されて曲を作り始め、坂本龍一の「サウンドストリート」でりぐる新曲を披露したことは、ファンなら誰でもが知っている事実。では、マッキーの曲の中でテクノの痕跡はどこに顕著なのだろうか。

文▶[illegible]（文筆家／DJ）
イラストレーション▶[illegible]

マッキーがまだ槇原範之だった頃、従兄弟からYMOを薦められ「自分が求めていたのはコレだ！」と影響を受け、作曲を始めることになったというエピソードで知られているように、生粋のYMOチルドレンであるマッキーですが、はたして日本トップクラスといわれるポップスメイカーの曲にYMOやテクノの痕跡を感じることができるのでしょうか？

まずは3rdアルバム「君は僕の宝物」から「雷が鳴る前に」。これは、もうイントロからしてYMOな中華メロディ（4度の和音）の影響を感じることができます。そもそもこのメロディは「西洋人から見た東洋とは中国なのでは」という歪曲したイメージをパロディ化したもので初期のYMOのコンセプトでした。

続いて6thアルバム「PHARMACY」から「恋はめんどくさい？」です。この曲はかなり編曲で遊んでいるのですが、「実験的な編曲」こそYMOの魅力ですから、ここでもYMOチルドレンらしさを窺うことができるといえるでしょう。個人的にはナレーションが入るというのも、YMO好きならではという感じがして好きです。

それから10thアルバム「太陽」の「濡れひよこ」。これもYMOを彷彿させるテクノな曲ですが、この曲はそれだけにとどまらず、ラストのほうに、あの「どんなときも。」のフレーズがさりげなくサンプリングされていることもポイントです。ちなみに世界で初めてサンプリングが導入されたアルバムはYMOの「テクノデリック」といわれています。

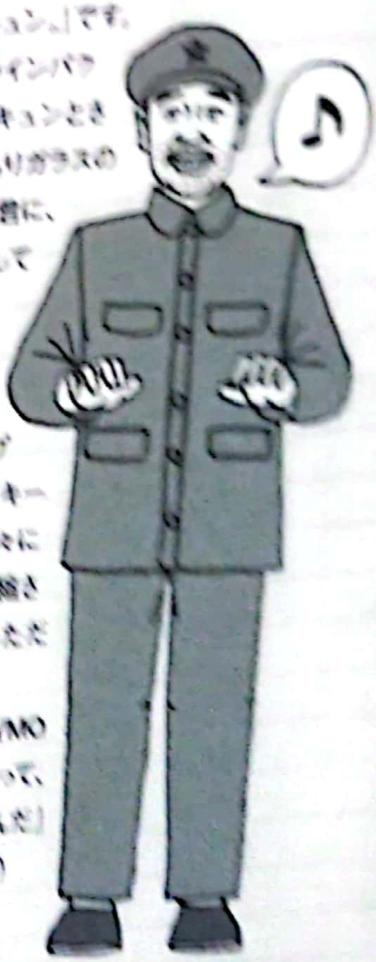
「君に、胸キュン。」のカヴァーで、YMOのインパクトを見事に払拭

そして12thアルバム「本日ハ晴天ナリ」からは「24hr Supermarket」です。この曲の間奏、YMOの「TAISO」に聞こえるのは私だけでしょうか。「ケイレン、ケイレン、ミンナゲンキニ」。

そして勿論、忘れてはならないのがカヴァーアルバム「Listen To The Music」に収録されている槇原版の「君に、胸キュン。」です。あのYMOの原曲の持つインパクトを払拭し、爽やかにキュンとさせてくれます。また「くもりガラスの夏」という曲は、この「君に、胸キュン。」をイメージして作られたそうです。

以上、ひときわYMOやテクノの痕跡を感じられる曲をピックアップしましたが、いかにマッキーがそのポップな曲の数々にYMOのエッセンスを凝縮させているかおわかりいただけたと思います。

『"自分の身体のなかにYMOという血が流れている"って、不思議と思えたからなんだ』（『槇原敬之の本』より）



! 歌とピアノの魅惑の世界へ

東西「ピアノ・マン」のとたたずまいの魅力

文▶[illegible]（ライター）
イラストレーション▶[illegible]

誰でもOK、

ン君の身体を張ったプロモ
ー・ジョエルのCDが売れて
連の騒動はピアノ・マンの
る機会を与えてくれた。
定義は「ピアノで弾き語る
れば誰でもピアノ・マンにな
こふさわしい佇まいがあるか
エルトン・ジョン、ビリー・ジョ
、トム・ウェイツら、英米の音楽
アンの名前を挙げてみればわか
はさまざまなヴァリエーションが
れに「彼こそがピアノ・マンだ」
的な佇まいを持っている。
んじゃないかね、ピアノという
。エルトン・ジョンやビリー・
れを物語っているし、「アロー
オサリバンも未だに人気があ
ーティストはどうなっておるの
ほど多くはないものの、マ
それぞれに人気を博した和

若いファンにはそんなイメー
ュー当時の彼はまさに典型
の弾き語り、というスタイ
が少なかったこともあって、
立っていた。外見的にも
ルは若き日の彼によく似

70年代末から80年代前半にかけては山本達彦もピアノ・マンのスタイルで人気があった。ジャズの影響も感じさせる彼の音楽にもそのスタイルは似合っていたし、AORの時代にふさわしい都会派ピアノ・マンの佇まいは女性ファンには特に魅力的に映ったはずだ。80年にデビューした佐野元春にも初期にはピアノ・マンのイメージがあった。ランディ・ニューマンやトム・ウェイツらの影響を感じさせるその音楽は個性的なもので、数年後に開花することになる彼の才能の多様性や多面性をも予感させた。

ピアノ・マンと「マジメな好青年」イメージ

同様にデビュー当時の大江千里にもピアノ・マンのスタイルが似合っていた。ある意味では、のちに登場するKAN

槇原はエルトン・ジョンやビリー・ジョエルやKANのような弾き語り派ではないものの、「STRIPE!」や「Are You OK?」のPVのおかげもあって「ピアノ・マン」的なイメージがある人だ。ひとくちに「ピアノ・マン」といっても、ひと筋縄じゃいかない。ちょっと意外な人も含めて、内外の「ピアノ・マン」の系譜を追ってみよう。

やマッキーの原型は大江にあった、と言ってもいいのかもしれない。どこにでもいそうな平凡な青少年がピアノを弾きながら「非体育会系の選手宣誓」を歌う、というスタイルの原型がそこにはあった。

「非体育会系の選手宣誓」というのはつまり、スポーツやケンカが苦手な、どちらかといえば軟弱なタイプの主人公の男の子が「それでも僕は僕なりに頑張ります」と宣言するような歌。87年にデビューしたKANの「愛は勝つ」は、そのスタイルの可能性を証明した90〜91年のヒット曲だ。

そういえばマッキーの「どんなときも。」も91年のヒット曲だった。当時、音楽業界から一時的に離れていた筆者はKANや槇原の名前も知らず、ラジオや有線から流れる「愛は勝つ」と「どんなときも。」を同一人物の歌だと誤解していた。いや、よく聴けば声質も歌唱法も違うことに気づいたのだろうが、歌詞のベクトルが酷似していたので、数カ月の間、そう思い込んでいた。やがてマッキーはこの道を極め尽くし、〈No.1にならなくてもいい〉と言い切る「世界に一つだけの花」のメガ・ヒットもあって、あらゆる競争を否定する「帰宅部の正義」の域にまで到達したことは敢えて今さら言うまでもない。

KANの出世作『野球選手が夢だった。』に「健全　安全好青年」なんて皮肉の利いた歌があるが、比較的マジメそうに見えるシンガー・ソングライターがピアノを弾きながら歌う「非体育会系の選手宣誓」は、多くの聴き手の支持を得た。そこにはピアノという楽器に対して一般ピープルが抱いている幻想のようなものも影響しているのかもしれない。ギターで弾き語るよりもピアノで弾き語るほうが誠実そうに見える、のだろう。たぶん。ビジュアル的にイメージしてみても、あるいはサウンド的に考えてみても、ピアノ・マンのスタイルには「非体育会系の選手宣誓」がよく似合うところがあるのだ。

その後も、黒人音楽の素養を持ったリクオ、キース・ジャレットが好きだという小林建樹ら、それぞれにユニークな個性を持つピアノ・マンが登場しているものの、残念ながら一般的な知名度は低いようだ。ピアノ・マンの魅力は「非体育会系の選手宣誓」や「帰宅部の正義」だけじゃないよ、と言いたい筆者としてはニュー・タイプの登場を待望しているのだが、たとえば運動神経抜群で体育会系のマッチョなピアノ・マンというのは……いや、マッスル・ミュージカルの演目だな、これは。★

「ピアノ・マン」名盤流麗に8選

選・文▶[illegible]

Randy Newman "Sail Away"
(米Reprise　1972)

のちに映画音楽でも大成するハリウッド派ピアノ・マンの4作目。短編映画のような歌を書く天才で、とりわけユニークな歌詞が素晴らしい。「ピアノを弾き語るLA版ウディ・アレン」と言えば雰囲気が伝わるだろうか？

Billy Joel "Piano Man"
(米Columbia　1973)

同題の曲を含む2作目のアルバム。代表作を挙げるなら「ストレンジャー」以降だろうが、初期のほうがよりピアノ・マンらしい風情があり、ファンには魅力的。やがてヒット曲を連発する才気あふれる彼の原点がある。

Tom Waits "The Heart of Saturday Night"
(米Asylum　1974)

やや演出過剰気味の飲んだくれピアノ・マンぶりが素敵なトム・ウェイツの2作目。歌の主人公を自ら演じてしまうところが彼らしい。四半世紀前の西海岸の場末のピアノ・バーに迷い込んだような擬似体験が楽しめる名盤。

原田真二『Feel Happy』
(フォーライフ　1978)

デビュー当時には典型的なピアノ・マンだった早熟の天才、原田真二の処女作。エルトンやビリーよりもむしろポール・マッカートニーを連想させる独自の音楽的センスとスウィートな歌声がチャーミング。

佐野元春『Heart Beat』
(EPIC・ソニー　1981)

いっそう音楽的な多様性を発揮した2作目のアルバム。典型的なピアノ・ソングは「彼女」だけだろうが、タイトル曲もピアノ・マン系の名曲だし、「ガラスのジェネレーション」も当時はエレピを弾きながら歌っていた。

KAN『野球選手が夢だった。』
(ポリドール　1990)

ヒット曲「愛は勝つ」を含む出世作。アルバム・タイトルの通り、実は体育会系でもあったKAN。「愛は勝つ」の主題（ていうか思想）は非体育会系のものだが、よく比較されたマッキーとの最大の差異は運動神経の有無か？

リクオ『Mellow Blue』
(エキシマム　2003)

ブルースやR&Bなど黒人音楽の素養を持つ実力派のピアノ・マン、リクオの弾き語りアルバム。これまでの活動を総括しながら新境地も披露した意欲作だ。「青空よ今夜もありがとう」のボサノバ調のカバーも素晴らしい。

小林建樹『曖昧な引力』
(キティMME　1999)

キース・ジャレットや佐野元春にインスパイアされたという新世代ピアノ・マンの処女作。非体育会系のインドア派だが、よりマニアックに個性的な新人だった。後にブラジル音楽を経由してギター・マン化しつつあるが。

「世界に一つだけの花」作詞・作曲：槇原敬之

"成功"しづらい社会に響く槇原流"人生の応援歌"

「どんなときも。」と"自己肯定"ソングの時代

91年のシングル「どんなときも。」の大ヒットでその名を全国に知らしめた槇原敬之は、05年にSMAPが歌う「世界に一つだけの花」でダブルミリオンの快挙を成し遂げた。この2曲の歌世界は同形の構造をもち、2曲がヒットする社会は同じく"不安定な"状況にあるという。ここではマッキーのメガヒット曲とシンクロした時代背景をとらえ、現代社会の"アノミー"なる様相を解きほぐしてみよう。

文▶南田勝也［社会学者］

槇原敬之「どんなときも。」(WEAミュージック WMD3-3009) 91年6月10日発売、最高1位、91年の年間チャート4位。

KAN「愛は勝つ」(ポリドール POOH-1019) 90年9月1日発売、最高1位、91年の年間チャート3位。

大事MANブラザーズバンド「それが大事」(ファンハウス FHDF-1117) 91年8月25日発売、最高1位、91年の年間チャート4位。

3組が放った"人生の応援歌"

槇原敬之は、1991年のサード・シングル「どんなときも。」の大ヒットにより、その名を全国に知らしめることとなった。同曲は、6月の発売以降3カ月あまりでミリオンを達成する。販売実績のないシンガー・ソングライターがここまでのヒットを記録したのは、メロディーやボーカルの魅力に負うところがもちろん大きい。さらには、歌詞のポジティブなメッセージ性が人々を惹きつけたという面もある。ちょうどKANの「愛は勝つ」が流行していた時期であり、ふたつの"人生の応援歌"は、まるで一連のシリーズのように受け入れられた。さらに、翌92年の大事MANブラザーズバンド「それが大事」がつづくと、その印象はより強まることになる。実際、「どんなときも。」は92年になってからも50万枚以上売れたのだった。

もちろん槇原ファンにしてみれば、KANや大事MANと同じ範疇に槇原が入るとは思っていないだろうが、当時それらの曲がひとかたまりのものとして認識され、相乗効果をもたらしていたことは事実である。91年～92年はミリオンセラーが続発しはじめた時期にあたり、小田和正やチャゲアス、米米CLUBらが驚異的なセールスを記録したのだが、新人に近いミュージシャンでここまで売れたのはこの3組だけであった。ではなぜ当時、人々はそんなにも"応援歌"を求めていたのだろうか。

時代背景と歌世界のシンクロ

いまこの3曲の歌詞を確認してみると、他者に対してエールを贈るという側面よりも、自己肯定・自己信頼の感覚が強調されていることに気づく。自分自身への絶対的な信頼感があってはじめて〈愛は勝つ〉などというセリフを高らかに謳いあげることができるのだし、自己暗示的に〈負けない事　投げ出さない事〉と繰り返す「それが大事」は、自分の足もとにある現実感覚を信じ抜こうとしている(だから高価なニットよりも手編みが美しいのだ)。そして、〈どんなときも〉〈僕が僕らしくあるために〉と自分に言い聞かせる歌の主人公は、現在の姿を、たとえ迷いや悩みがあっても、それを含めて肯定しようとしている。〈迷い探し続ける日々が答えになること〉を〈僕は知ってる〉。未来は先取りされて、現在の自己像への肯定に回帰している。

“成功”しづらい社会を理解するためのブックガイド

エミール・デュルケーム
『自殺論』
宮島喬訳
中公文庫（1985年）

原書は1897年刊。社会学の祖による古典的名著。アノミーとは「法がないこと」を意味するギリシャ語アノモスが語源。アノミー概念をもとに、好景気のときに自殺が増える理由などが分析されている。

ロバート・K. マートン
『社会理論と社会構造』
森東吾ほか訳
みすず書房（1961年）

原書は1949年刊。マートンは、アノミー概念が含意する「目標と手段の不一致」に着目した。社会規範に従っていては成功できない立場の人が、順法と脱法のはざまで煩悶する心理などを説明している。

大村英昭
『非行の社会学』
世界思想社（1989年）

「非行」と名指し名指される少年たちをトピックに、さまざまな社会学的知見を展望した著書。本書の一章に、「不満」のアノミーと「不安」のアノミーを分類した解説が載っている。

岩見和彦
『青春の変貌』
関西大学出版部
（1993年）

「名もなく・貧しく・美しく」から「豊かに・おしゃれに・有名に」へ。バブル前後の若者文化を、青年期、都市空間、メディア文化体験を軸に、丁寧な筆致で描いている。

山田昌弘
『希望格差社会』
筑摩書房（2004年）

「勝ち組」と「負け組」の格差が拡大した現代日本。将来に希望がもてる人と、努力は報われないと感じて絶望する人の分裂は進行している。問題提起の一冊。

小野登志郎
『「世界に一つだけの花」の真実』
太田出版（2003年）

「世界に一つだけの花」の生まれた背景や隠れた話などをSMAPファンではない立場からまとめた一冊。この曲が応援歌として受けとめられたことの時代性などが述べられている。

これらの歌は、目標に向かって努力を重ねて“がんばれ”と――少し先輩にあたる渡辺美里の「My Revolution」がそうだったような――エールを贈るのではなく、いま・ここにいる自分を“大丈夫”と励ましている点が共通している。未来に向けて自分を変えるのではない。ありのままの自分を信じるのである。

この“応援歌”の形は、時代性に密接に関係している。91年〜92年というと、バブル経済が終焉を前にピークを迎えていた時期である。バブル期とは、社会学用語でいう“アノミー”状況にあたり、まっとうな社会規範による規制が失われ、人々の欲求が無制限にふくれあがり、無規制状態に陥った状況と説明できる。なにしろ一日のうちに株価や不動産が途方もなく上昇していくのである。無規制状態のなか、人々の欲望のみが煽られて、どれだけがんばっても高く設定した努力目標に届かない（届いているのかさえわからない）という達成感の減少が生じる。成功という目標と、そのために利用可能な手段とが不釣り合いな状態は、人心をいちじるしく不安定にさせる。

そんなときに、“自分自身の足場をみすえて、正気を保ち、自分を信じよう”と槇原はメッセージを送った。総計190万枚（槇原敬之公式HPより）のメガヒットを生みだしたことには、ひとつには時代背景と歌世界のシンクロがあったのではないだろうか。

アノミーな社会に響きわたる歌

ところで00年代の現在をかえりみると、バブル崩壊後の景気の低迷がつづき、人々の心は安寧を欠いている。社会規範に従って大学をでても新卒の採用状況は厳しく、会社の正規ルールに則って働いてもリストラの憂き目は眼前にせまっている。つまり、どれだけがんばっても成功の可能性は低く、何をやったところで結果が得られない状況であり、成功という目標と可能な手段との不一致という点では、バブル期と同じで、これも社会学的にはアノミーの言葉で説明される。

いわば90年代初頭が沸点の高いアノミーで、00年代初頭は沸点の低いアノミーである。沸点の低いアノミー下においても社会規範による規制はゆらぎを見せる。規制に従っていてもたいした結果は得られず、よっぽど人と違ったことをしなければ、成功の快楽は味わえないのだから。

このような時代に、槇原敬之は〈NO.1にならなくてもいい〉と、メッセージを放った。SMAPに歌われた「世界に一つだけの花」は、CDが売れない時代にあって200万枚を突破（2003年5月）、ダブルミリオンの快挙を成し遂げる。この曲の歌詞は、歌世界の構造としては「どんなときも。」と同形である。人はみな〈一番になりたがる〉が、その浮き足立つ気持ちを諫めて、〈もともと特別なOnly one〉であることを肯定し、いま・ここの姿に信頼を寄せている。

槇原流の“応援歌”は、社会がアノミーの様相を呈したときに、実に効果的に、社会のなかに響きわたっているのである。

「どんなときも。」「世界に一つだけの花」ともに作詞・作曲：槇原敬之　「愛は勝つ」作詞・作曲：KAN　「それが大事」作詞・作曲：立川俊之

CamScannerでスキャン

マッキー五番勝負
男の恋叫トクの市

その一番 VS KAN

「ニューミュージック新御三家」の2人だけど決定的に違うのは、歌のレベル!?

多くの共通項があり、デビュー当時からよく比較されていた槇原敬之とKAN。なんとKANはマッキー・テイスト満載のパロディ曲「車は走る」まで作ってしまっている。が、そこには決定的な違いがあったようで。

文▶吉村聖(文藝春
イラストレーション▶宇和島

90年の初め、我々は槇原敬之、KAN、楠瀬誠志郎のことを「ニューミュージック新御三家」と呼んでいたことを憶えていますか?

そこでその新御三家から、FM802で週替わりで各人がパーソナリティをしていたことがあったり、「ポップジャム」のスペシャルでユニットを組んで歌ったりしたということで、KANと我らがマッキーを比較し、希代のソングライターといわれているこの2人の共通性や違いについて着目したいと思います。

まずは歌詞からチェックしましょう。

KANの歌詞というのは、基本的に情けない男のコミカルな歌詞が多いです。そしてそれこそがKANの歌詞の魅力です。格好悪いかもしれないけどこれが自分なんですという、背伸びをしない男の恋を描かせたら日本一かもしれません。

一方、我らがマッキーも等身大の恋を描くのですが、それだけではなく、初期の〈どんなときも　どんなときも　迷い探し続ける日々が／答えになること　僕は知ってるから〉(「どんなときも。」)という歌詞や、近作の〈この暗闇を切り裂くように／光の筋が走って／この心で生きていく世界に　明ける事のない夜はない〉(「明けない夜が来ることはない」)とあるように、温かく、そして優しく我々に勇気を与えてくれる歌詞を書くのです。勿論、KANにも「愛は勝つ」のような歌はありますが、自らインタビューで「愛は勝ちますか?と聞かれたらスリッパで殴りたい」と回答しています。

マッキーの"KANパロディ"を聴きたい

では続いて楽曲ですが、マッキーにもKANにも、洋楽ポップスをうまく消化してそれを昇華していく、作曲や編曲のセンスには共通性があります。それは王道ともいえるポップスを数多く作り続けていることで証明していますが、KANはさらに邦楽ポップスを意識してその楽曲を構築しているのです。その代表的な例が99年のアルバム「KREMLINMAN」に収録されている「車は走る」という曲です。なんとこの曲、驚くべきことに我らがマッキーの曲のパロディなのです。シンセの音からベースラインまで、マッキーテイスト調です(ただ歌詞は、いまいちマッキーになりきれなかった感じです)。この曲を聴いたマッキーは「自分はこんな縦笛みたいに歌っていない」と指摘したそうですが、このマッキーの言葉からも、もしかしたら2人が決定的に違うのは、歌のレベルかと……。それならば我々マッキーの"KANパロディ"を聴きたいと思うのは我々だけでしょうか?☆

KAN「KREMLINMAN」
(ワーナーミュージック　WPCV-10008)
99.4.21発売

槇原敬之の音楽を徹底的に解析して作った意欲作「車は走る」を収録した12枚目のアルバム。全体的にロック色の強い仕上がりになっている。

「どんなときも。」「明けない夜が来ることはない」作詞・作曲/槇原敬之

マッキー五番勝負
男の恋唄トクの市

その二番 VS 稲葉浩志

「一人でも大丈夫」か「一人じゃダメ」か 「負け犬」ふたりの対照的な処方箋

男っぽいイケメン稲葉と、ナヨっちくて冴えない槇原——そんなイメージをよそに、歌のなかの両者はけっこう似ている。ボクやキミと同じ「負け犬」なのだ。でも対処法は真逆。さて、ふたりはどう違う? そしてどっちがより日常生活に「使える」か?

文▶夏至明［エセライター／インチキ大学教員］
イラストレーション▶宇和島太郎

槇原とB'zのラヴ・ソング比較論を書くんだけど、なんて学生に話したら、「槇原とB'zって共通点あるんすか? のび太とジャイアンぐらい違うんじゃないっすかぁ?」との返事。よろしい! B'z学概論I@居酒屋、必修ね(テキストは『まるごとB'z大全』〈宝島社文庫〉で)。

ポップな槇原とロックなB'z。一見、槇原に比べてB'zは「男らしく」みえるかもしれない。でも、両者には同じスネ夫の血が流れているばかりか、より「女々しい」のは、実は稲葉の方だったりする。

さて、ここで問題です。(元)彼女が別の男といる(らしい)ところを偶然目撃してしまったら、どうしますか?

槇原くんの答え:サーチ!(〈跡をつけてみよう〉「SPY」)

稲葉くんの答え:デストロイ!(〈突っ込んじゃうぞ アクセルべったり踏んで〉「Liar! Liar!」)

と、いうことはB'zの「ロック」って、基本的に「〈逆ギレ〉のジャイアニズム」なのね。

適度な逆ギレでガス抜きもいいかも

例えばフラれた時だって、槇原くんの方がずっとタフ。〈僕はまだ生きてるよ／連絡くらいちょうだい〉(「まだ生きてるよ」)。一方の稲葉くんといったら〈君がいないと生きられない〉んだから(「LOVE PHANTOM」)。「葉隠」よろしく、「ロック道というは、死ぬこととみつけたり」ったって、理由が失恋じゃあねえ……。

つまり、槇原は一人でも大丈夫なのに対し、稲葉は一人じゃダメなのだ。

稲葉に比べれば、槇原の方がだんぜん「強い」。なんてったって〈どんなときも／僕が僕らしくあるために／「好きなモノは好き」と／言える気持ち抱きしめてたい〉わけだし(「どんなときも。」)。いや、でも別に行動に移すワケじゃないんだから「現状を甘んじて受け入れ堪え忍んでいる」だけか?

高校野球の入場テーマともなった「世界に一つだけの花」。だけど全国野球人口ピラミッドのNo.1を選ぶ場である甲子園で、プロで活躍するか、地元の安居酒屋の似合うオッサンになるかの瀬戸際に、〈Only one〉でいいわけがない。「負け組の免罪符」という意味では、まさしく新自由主義のイデオローグ的な選曲じゃない?

そう考えると、同じ「負け犬の遠吠え」でも、やっぱB'z的に逆ギレした方がいいんでしょうか。犯罪にならない程度に。☆

B'z「SURVIVE」
(ルームス BMCR-7022)
97.11.19発売

衝撃の破壊型ストーカー・ロック「Liar! Liar!」を筆頭に、めめしさ炸裂の倒錯的泣き節が目白押し。このころのB'zがいちばん脂が乗っていた……かも?

「SPY」「どんなときも。」「世界で一つだけの花」作詞・作曲:槇原敬之 「LOVE PHANTOM」「Liar! Liar!」作詞:稲葉浩志／作曲:松本孝弘

CamScannerでスキャン

マッキー五番勝負
男の恋唄トクの市

その三番 VS 小沢健二

具体の槇原！　観念の小沢！ 似たテーマも描写の流儀は大違い

恋愛を「自分と相手で成立するひとつの世界」と捉えるか、「外の世界」あるいは「超越的なもの」といった第三者の介在を意識するか。マッキーとオザケンのラヴ・ソングの違いとは、両者の世界観の違いに根ざした本質的なものなのかも——？

文▶宗像明将［音楽ライター］
イラストレーション▶宇和島太郎

小沢健二のラヴ・ソングについて考えてみると、彼の場合は自分と相手の関係のみを歌った、いわゆる「ラヴ・ソング」はそれほど多くないように感じられてしまう。むしろ、「僕らは喜びと悲しみのあるこの世界で暮らし、そこで恋をする（そして神様がいる）」というような世界観をベースにした、スケールの大きな「ラヴ・ソング」が多いからだ。こうした点は、シチュエーションを巧みに描き、ストーリー性もきたせつつ、恋における情景や心情のみを表現する槇原敬之のラヴ・ソングと大きく異なる部分だ。

そんなふたりにも似たようなシチュエーションをった楽曲がある。それが小沢の97年作品「恋しく」と、槇原の92年作品「もう恋なんてしない」だ。に終わった恋を回想しつつ現在の自分の心境をた恋人に向けて歌う楽曲である。

う恋なんてしない」はまず〈君がいないと何にできないわけじゃないと／ヤカンを火にかけた と具体的な行動の描写から始まるが、「恋しく〈幸せな時は　不思議な力に守られてるとも気に〉と、〈不思議な力〉というものにまず言及る。この冒頭部分に限らず、全般的に小沢の観念的なのだ。

的なのに痛みはリアル

「もう恋なんてしない」で主人公の孤独を際立てるために出てくるのは〈2本並んだ歯ブラシ〉〈君の趣味で買った服〉〈君あての郵便〉といった日常的なものだが、「恋しくて」では〈シリアル・ママ〉や〈拳〉といった映画、〈キムチラーメン〉のようなややマイナーなものが回想に登場する。こうしたキーワードのチョイスも個性の違いがはっきりと出ている点だ。

そして小沢は〈そんなことの全て　僕らが見た光／呑みこまれてゆく魔法のようなもの　持っている〉と、やはり自分の力を超えた何かについて歌うが、槇原が歌うのは自分の気持ちのみ。また、槇原は〈君が大好きだった〉と明言するが、小沢は〈思い出すたび　なにか胸につっかえてるだけ〉と言うにとどまるのだ。そう、彼はなかなか「好き」とは言わない。

ともに聴き手の胸をヒリヒリさせるような優れたラヴ・ソングだが、観念的な言葉を多用している「恋しくて」のほうが「もう恋なんてしない」より失恋後の漠然とした喪失感をリアルに表現しているのもポイントだろう。★

小沢健二「Buddy／恋しくて」
(東芝EMI　TODT-5015)
97.7.16発売

生産中止ながらシングル・コレクション「刹那」にも収録されず、プレミアのついている名作。94～97年ごろの"オザケン"はまさにJポップ界の王子さまでした。

「もう恋なんてしない」作詞・作曲：槇原敬之、「恋しくて」作詞・作曲：小沢健二

CamScannerでスキャン

マッキー五番勝負
男の恋唄トクの市

その四番 VS 草野マサムネ

「自分」へのこだわりではイイ勝負の両者。誰の目に映った「自分」か、それが問題？

寝ても覚めても俺また俺……自分への過剰なこだわりは、芸術家の必要条件と言っていいほど。マッキーもマサムネも、過剰な「自分語り」を得意とする“自分大好き男”という印象だけど、自己イメージはちょいと、いやずいぶんと違うようで——。

文▶川口瑞夫［ライター、編集者］

1年前の本誌「スピッツ特集」のとき、草野マサムネのインタビューを大量に読んだのだが、今回、槇原敬之のインタビューを読んでいたら、大きな違いに気がついた。二人とも自分について多くを語っているのだが、その「自分」に向けられる視線の方向がまったく違うのである。草野が他者の視線をたえず意識しているのに対し、槇原は自分の目線に映る自分のことを問題にしている。

ブルーハーツを見たとき、自分のアイデアを先取りされてしまったと思い、バンド活動をやめてしまったと語る草野は、聴衆に見られることを前提にして自分のことを考えている。草野は、イギー・ポップや河村隆一のような強いオーラを持ったアーティストに羨望のまなざしを向けているが、自分にはそのようなオーラがないと思っている。おそらく、草野の言動や作品からある種の女々しさが感じられる原因は、彼のこうした自信のなさにあると思われる。草野は、「ロビンソン」がヒットして有名になったことや、テレビ番組に出演することに強い警戒感を持ったと語っているが、彼を悩ませている自分とは、他人の目に映る自分なのである。

マッキー・ソング“相手不在”説!?

これに対して、槇原が語る自分というのは徹頭徹尾、自分にとっての自分である。ファンやマスコミが自分を誤解することに不快を表明することはあっても、彼らに対して自分を提示していくという問題意識はない。槇原が自分について語ることの多くは、自分を肯定したい、自分に納得したい、こういう風になりたい、スランプから抜け出したい、こういうときに幸せを感じる、といった内容である。

他人の目を気にする草野より男らしいという見方もあるかもしれないが、単に自己嫌悪と自己肯定を繰り返しているだけだともいえる。たとえば、伏見憲明は「Jポップ批評8」（2000年9月）で槇原の歌詞を次のように分析している。〈そこに表現されているのは、好きな彼女のことではなく、彼女を好きな自分のことであり、あるいは、自分の元を去った彼女のことではなく、彼女に去られた自分のことである〉

こうした槇原の精神構造は、痛みに苦しむ病人に似ているのかもしれない。自分のことで精一杯で、他人のことを考える余裕がないのである。だとするなら、彼の歌が癒しとして機能するメカニズムもわかりやすい。

もちろん、最近の作品では歌詞の内容も大きく変わってきているし、槇原も、歌を通じて真理とか幸せを伝えてゆきたいといった発言を繰り返している。しかし、そこで語られているのは槇原にとっての真理や幸せであり、それがそのまま他人に当てはまると楽観的に信じ込んでいるフシがある。彼の基本的な精神構造は変わっていないともいえるのである。☆

スピッツ「空も飛べるはず」
（ポリドール　POCH-1196）
94.4.25発売

〈隠したナイフが似合わない僕〉に彼女ができたという歌。この主人公は〈君と出会った奇跡〉に素直に感動しているのであって、軟弱な自分の自己評価になんか関心がない。

「空も飛べるはず」作詞・作曲：草野正宗

CamScannerでスキャン

マッキー五番勝負
男の恋唄トクの市

その五番 VS 桜井和寿

“M原”と“S井”の対極的な哲学——キミは『太陽』派？　それとも『深海』派？

1969年生まれのふたりは、ついつい結びつけたり比較したくなる、まさに“両雄”。もっとも、打ち込みまで自分でこなして精緻な物語を綴るマッキーと、バンドに支えられつつ無防備な俺節をがなる桜井には、かなり本質的な違いがあるようですが……。

文▶安部薫（ライター）
イラストレーション▶宇和島太郎

同世代ということだけでなく、ブレイク時は「ラヴ・ソングの伝道師」として語られ、30歳前後で一種の挫折を経験するところまで、槇原敬之と桜井和寿は表向き、ひどく似ている。が、中身は対極的なほど離れており、たとえば同じラヴ・ソングにしても、見線と言語という部分で両者の手つきは大きく異なる。

2人による対談（「bridge」04年2月号）の中で、桜はくわりと一人称で詞を書いているじゃない〉と槇に指摘していたが、歌の中の「僕」と槇原自身の間はある程度の距離が置かれている。恋愛物語の流性を支える語りべとして「僕」は機能し、リスナー一編の映画を観ているような思い——我々の胸のある語りを引き出す深い共感に彩られた親密な——を与えるのである。一方の桜井は、強烈な性のみで、今ある感情を一瞬のうちにしかも鮮な形で描き出す。「僕」という一人称に物言う役まとんど必要なく、我々は自分勝手な桜井自身をのみ聴くことになる。

という甘ったるい連帯は生まれ得ず、むしろやると「突き放しても追ってくるんだろ」という恐計算さえありそうだ。ある意味、自分原理主義流ホストの物言い。一方の槇原は、犬をたくさているということも含め、語り&聞き上手だが寂しが地方都市の良心的ホステス、という趣か。

多神教と一神教ほども違うふたり

転機となった作品のタイトルが「太陽」（槇原）と「深海」（ミスチル）というのも、あまりにも対照的。「太陽」には、どんな時でも太陽は昇る、誰をも平等に照らす、という意味が与えられているのだが、諸行無常や価値の多様性を認めるという意味で、槇原自身が傾倒している多神教的な仏教に通じる世界観がそこにはある。だが「深海」には、桜井自身のくとにかく「明日なんか信じるな、愛なんか信じるな」っていうアルバムだし〉（「ロッキング・オン・ジャパン」96年8月号）という言葉にもあるように、自分の“深海”を探る旅よろしく、懐疑の末にひとつの答えを見つけようとする「自我こそすべて」の考えが織り込まれているのである。さらに言えば、「今こそ常」という考えも槇原の無常観とは対極。

大袈裟に言えば、東洋哲学（槇原）と西洋哲学（桜井）。今の世界を見ると、槇原の方が明らかに救いになるのは間違いない。もっとも、桜井には端から人を救う気持ちなどないのだが。☆

Mr. CHILDREN「名もなき詩」
（トイズファクトリー　TFDC-28039）
96.2.5発売

同時期に槇原は自分とは異なる独身男性のほのぼのとした恋愛などを描いていたが、桜井は愛なき世界で自分の中の取り返しのつかない亀裂をさらけ出して逆ギレ。これぞ“オレ目線”が綴る文体の[illegible]なパワーの真骨頂。

「SPY」の犯行動機を歌った曲が、理想のアレンジに巡り会った

「2つの願い(VERSION Ⅱ)」の"突然変異"の魅力

ヒット曲「2つの願い」は、アルバム「PHARMACY」に収録された際、大きく印象の違う新バージョンに生まれ変わった。この曲の文脈、あるいは歌詞の世界は、新バージョンで聞いたほうがフルに味わえるのでは？　というわけで……。

文▶川口瑞夫〔ライター、編集者〕
イラストレーション▶宇和島太郎

一般的にいって、「この曲が大好きだ」なんて原稿は書いてて恥ずかしい。それでも、「2つの願い(VERSION Ⅱ)」については、どうしても書いておきたいのである。この曲は"槇原らしさ"を代表する曲ではないし、ぼくも"槇原らしさ"のファンではない。にもかかわらず、ぼくが惹かれるのは、この曲が槇原ソングにおける突然変異だからであり、通常作品にない異形の魅力に満ちているからである。

アルバム「PHARMACY」に収められた「2つ～」は、シングル・バージョンとはまったく違うアレンジがなされている。彼の全作品の中でも一、二をあらそうような重々しいアレンジなのである。

イントロのディストーション・ギター、オルガン・ロック風のキーボード、そして、アレンジ上の主役ともいえるドラムの破裂音。曲の節目に挿入されるエコー・ドラムの連打などは、まさにエンジニア入魂の音響処理である。ここには、シングル・バージョンにあるようなポップな音色は一切ない。曲全体に重々しくて息苦しい空気が漂っている。

息苦しいのはサウンドだけではない。歌の世界はさらに息苦しい。

圧倒されるのは実体験の重みゆえ？

この歌の主人公はデートに出かけようとしているが、相手に対して疑念を持っている。彼は、朝からの雨がやむことを願いながら、(デート中止の)電話が来ることを願ってもいる。相反する2つの願いは一つしかかなわない、と。

ここで歌われているのは、恋愛関係末期におけるダブル・バインド状況であり、主人公は行動を起すことができないで、ただ立ちつくしている。この曲に"癒し"はない。歌詞を聞いても、サウンドを聞いても、出口のない閉塞感があるだけ。そのインパクトの強さに、ぼくは圧倒されてしまうのである。

槇原が、新アレンジをALBUM VERSIONと呼ばないで、VERSION Ⅱとしたのは、そこに、シングル・バージョンにない強い説得力を感じたからなのだろうか。

「2つ～」が行動を起こす前の歌だとしたら、次のシングル「SPY」は行動を起こした後の歌である。この2曲はセットになっているのだ。恋人を尾行するという内容の「SPY」は、単なるストーカー男の歌だと解釈されることが多い。しかし、犯行動機(?)が歌われている「2つ～」を知れば、「SPY」の印象は微妙に違ってくるはずだ。

ところで、松野ひと実「槇原敬之の本。」(04年・幻冬舎)によれば、この2曲は、槇原の実体験がもとになっているようだ。信頼していた友人に裏切られたとあるだけで、具体的なことは書かれていないが、〈やはり、勘は的中していた。槇原は殴るつもりで友人に会いに行った。けれど、殴れなかった〉と書いてある。この2曲に圧倒されるのは、そこに実体験ゆえの重みがあるからなのかもしれない。☆

CamScannerでスキャン

日本人歌手の英語
発音採点表つき！

英語で歌わナイト！

発音のエロス――マッキー＆Jポップ歌手の英語

槇原敬之は96年にオール英語詞のアルバム『ver.1.0E LOVE LETTER FROM THE DIGITAL COWBOY』を発表したが、巧みな日本語使いで知られた彼があえて英語で歌ったこと、そしてその発音の美しさは衝撃的だった。米英の音楽への憧れを根底に持つ日本のポップスにとって英語は巨大な問題であり続けたし、これからもそうだろう。そんな中、槇原に限らず英語で歌うアーティストは増えているけれど、さて、その「実力」のほどは？

文▶舌津智之［米文学者］
イラストレーション▶玉城雪子

英語で歌う日本人、という問題

槇原敬之が多感な少年時代を過ごした70年代末から80年代前半というのは、英語で自己発信する日本人アーティストが目立ち始めた時期である。槇原に大きな影響を与えたYMOやゴダイゴ、とにもかくにも米国ビルボードのトップ40に入ったピンク・レディーはもちろん、それ以前から、美空ひばりのように、見事な英語で洋楽をカバーする歌手はいたのだが、多くの歌い手がこぞって英語を使い出したのは、80年代後半以降である。

そこで、過去20年、国内向けにせよ（形式的）国外発売にせよ、英語曲を複数ないしは全曲含む形で売り出された和製アルバムについて、その英語詞の発音がいったいどれほどのレベルなのか、主だった歌手の採点を試みた（108ページ参照）。5つ星は、ネイティヴが聴いてもネイティヴだと判断するレベル（筆者の同僚であるネイティヴの英語教師にも聴かせてテストした）。4つ星は、よくよく聴けば日本人だとわかるレベル。3つ星は、たやすく日本人だとわかるが、ネイティヴにも意味は通じるレベル。2つ星は、

CamScannerでスキャン

時に英語として聞き取れないレベル。1つ星は、これはギャグなの？というレベルである。ただし、日本人が異国の言語で歌う意味や意義を考えるべく、帰国子女や長期の海外生活体験者は除外した。

ここで誤解してはならないが、英語の発音の良し悪しは、アーティストとして／作品としての優劣や勝敗に直結する要素ではない。曲のスタイルやコンセプトによっては、発音が下手だからこそ良い、という場合だってある。そのことは、米国における宇多田ヒカルの失敗とPuffyの成功を見れば明らかだろう。アグネス・チャンは、BoAの曲を歌えなくても、「ひなげしの花」が歌えればよい、というのと同じことである。また、日本人はどうも、英語が話せたり歌えたりすると、まるでその話者／歌手は頭が良いかのように錯覚しがちだが、英語圏ならバカでも幼児でも英語を喋るのだから、英語力と知性は基本的に無関係だと思った方がよい。ただし、外国語の発音の正しさや美しさは、語学力や頭脳の問題ではなくとも、音に対する美意識や感性の問題ではある。その点、椎名林檎のように、ちょっとくらいイギリスにいたからといって、ねぇどう、歌舞伎町の女王なのに知的でしょ、国際派でしょ、とでも言いたげに、(中の上かせいぜい上の下の)英語／多言語をまき散らすのは、唄ひ手冥利につきるとしても、聴き手の冥利を考えていない。そういう中途半端な優等生は美しくないのである。いっそ倉木麻衣レベルの劣等生なら同情もできるし、佐藤竹善レベルの特待生なら尊敬もできるのだが……。少なくとも音楽を彩る異国語の場合、重要なのは、知的なオーラの煙幕より、審美的な快感の強度なのだ。

快楽としての発音

さて、それでは槇原敬之はというと、かなり、英語の発音が美しい。というか、その前にまず、日本語の発音がとても聴きやすい。「10.Y.O.～THE ANNIVERSARY COLLECTION～」のライナーノーツを書いた小貫信昭が言う通り、〈ロックを強調したいあまりに、英語的に歪ませて歌う人が急増し始めていた〉なかで、槇原の〈とてもクリアな日本語〉は、〈だから余計、際立った〉。つまり、槇原は、青学の先輩である桑田佳祐の対極にあって、英語と日本語の攪乱ではなく、差異化を実践したのである。

そもそも彼は、今日のJポップ界ではストイックなほど、日本語の歌詞のなかに英語を交えない方である。けれども、交えるときには、ひとつの顕著な法則がある。いわゆる"弾音"(柔らかに舌をはじいて発音する、母音に挟まれた〈t〉の音)を含む単語を好んで使用する、

CamScannerでスキャン

英語で歌わナイト! 採点表 1985-2005

アーティスト名 / アルバム名	発売元 / 発売年	種別 (*)	備考	採点 (★5つが満点)	講評
ELLEGARDEN / BRING YOUR BOARD!!	Dynamord / 2003年	A	サウンドも発音も米国仕様な"エモ"の新鋭	★★★★☆	英語らしさのツボをよく捉えた発音。巻で"情緒不安女疑惑"が出るのも当然。
オフコース / Back Streets Of Tokyo	ファンハウス / 1985年	A	海外進出を視野に制作した唯一の全編英語盤	★★★★☆	個々の発音は大変正確。ただ、その透明感が災いし、英語特有の躍動感には欠ける。
Toshi Kubota(久保田利伸) / Nothing But Your Love	米Epic / 2000年	C	米国進出第2弾。このあともう1枚作っている	★★★★★	"黒さ"に憧れつつ本当に黒くはなれない日本人の英語。上手いが、賛否はありうる。
Mai K (倉木麻衣) / Secret Of My Heart	米Giza USA / 2002年	C	発売だけは宇多田に先んじた?アメリカ盤	★☆☆☆☆	(th)も発音できないのに英語で歌うのは無謀。hoursをハワーズとか言ってるし。
KUWATA BAND / NIPPON NO ROCK BAND	ビクター / 1986年	A	桑田、ご乱心?と物議を醸した全曲英語盤	★★☆☆☆	全曲アップテンポの早口で誤魔化している。日本人英語ではないが、無国籍訛り。
小柳ゆき / Koyanagi the Covers PRODUCT 1	ワーナー / 2000年	A	勇敢すぎるゆき姐の名曲カヴァー集第1弾	★★☆☆☆	日本人と黒人のハーフがインチキ英語で歌ってる感じ。ある意味、オリジナル。
佐藤竹善 / Cornerstones	ファンハウス / 1995年	A	愛唱歌集はこの後2枚作られライフワークに	★★★★★	完璧。発音そのものへの愛が感じられる。アメリカ英語で歌う日本人歌手の最高峰。
椎名林檎 / 唄ひ手冥利〜其ノ壱〜	東芝EMI / 2002年	B	休養後に発表したカヴァー集。8曲が英語	★★★☆☆	日本人にしては上手い、という程度。「yer blues」の巻き舌(r)は面白いかも。
竹内まりや / Longtime Favorites	ワーナー / 2003年	B	表題通りの愛唱歌集。60年代の名曲がズラリ	★★★★☆	ヴォーカル主体の古き良きオールディーズを、自然にしっとり歌える才能は希有。
T.M. Revolution / vertical infinity	エピック / 2005年	B	UKデビューしたTMRの英語曲3曲を含む新作	★★☆☆☆	発音が下手な歌手は、決してスローバラードを歌わず、スピード感で切り抜けます。
Dreams Come True / Sing Or Die	米Virgin / 1998年	C	ヴァージン移籍第1弾にして世界デビュー作	★★★★☆	英語圏でも通用するのよ!と本気で思ってるっぽい割には修業不足の未完成品。
Puffy AmiYumi / Hi Hi Puffy AmiYumi	米Epic / 2004年	C	米TVシリーズのサントラ。日本語曲もアリ	★★★☆☆	米国での子供受けが大事なら、上手すぎない/下手すぎない発音、というのも英断。
B'z / WICKED BEAT	ルームス / 1990年	A	既成曲の英語版やリミックスで固めたEP	★★★☆☆	元英語教師志望だけに、悪くない。日本語より英語の方が聞き取りやすいかも。
BEAT CRUSADERS / APopCALYPSE NOW 〜地獄のPOP示録〜	デフスター / 2004年	A	人気パワー・ポップ・バンドのミニ・アルバム	★★☆☆☆	デタラメな文法の歌詞に、そこそこの発音。国内リスナーを見くびったアルバム。
平井堅 / Ken's Bar	デフスター / 2003年	A	独特な選曲も魅力の名カヴァー・アルバム	★★★☆☆	「Lovin' You」でmadeをmakeと発音しているのに目をつぶれば、実力は星4つ。
FLIPPER'S GUITAR / three cheers on our side 〜海へ行くつもりじゃなかった〜	ポリスター / 1989年	A	"渋谷系"の英語扱いの流儀を象徴する一枚	★☆☆☆☆	確信犯的な日本人英語を一種の詩学にしているので、まあこれはこれでアリか?
Bonnie Pink / Bonnie's Kitchen #2	ポニーキャニオン / 2000年	A	英語曲ばかり集めたベスト・アルバム	★★★★☆	独特に崩れた英語ながら、崩れ方のスタイルがちゃんと自分のものになっている。
槇原敬之 / ver.1.0E LOVE LETTER FROM THE DIGITAL COWBOY	ワーナー / 1996年	A	44ページ参照。このあとリミックス盤も出た	★★★★☆	ネイティヴの発音指導を受けてるはず。指導要るのはマッキーよりマイマイだけど。
Seiko (松田聖子) / Seiko	米Columbia / 1990年	C	米国盤第2弾。このあと96年にも出している	★★★☆☆	Puffy的なコミック路線にしない限り、この発音で真面目に歌って米国進出は無理。
トータス松本 / TRAVELLER	東芝EMI / 2003年	A	愛する黒人音楽の名曲を歌いまくった初ソロ	★★★★☆	ブルース/ソウル歌手のモノマネ集。似てる。黒人英語で歌う技術は、日本一か?
Yaiko(矢井田瞳) / U.K. Completion	青空レコード / 2002年	C	英国で出した曲を集めたベスト盤、らしい	★★☆☆☆	彼女が英語で歌っても、スワヒリ語で歌っても、英国人の反応は同じでしょう。
山下達郎 / ON THE STREET CORNER 3	ワーナー / 1999年	A	ひとり多重録音ドゥワップ・シリーズ第3弾	★★★★☆	もう少し崩れたグルーヴ感が欲しいけれど、一語一語を誠実にいつくしむ感じ。

*種別について……A:全編、もしくは大部分が英語曲のアルバム/B:英語曲を含むアルバム/C:海外でリリースされた(曲を含む)アルバム

編集部から……85年以降のリリースで、長期海外滞在経験のないアーティストの作品に絞りました。誤りがあった場合、責任は編集部にあります。

ということである。シングル曲でいえば、「雪に願いを」のサビに出てくる〈little〉、「これはただの例え話じゃない」の〈metaphor〉、「Hungry Spider」の〈beautiful butterfly〉などがその例になる。英語シングル曲のサビも同様で、「Secret Heaven」の〈waiting〉に加え、「Cowboy」の〈gotta〉もまた、弾音を含む音である。このような、日本語の発音体系にはない音をあえて口にする／耳にするという体験は、日本人にとっての審美的な鮮度を確保するひとつの方法たりえるだろう。

我々にとって非日常の響きがもたらす快感は、槇原の英語曲アルバム「ver.1.0E LOVE LETTER FROM THE DIGITAL COWBOY」に満載である。発音の快楽に浸るための一曲としては、「Running Out of Daydreams」あたりがいい。まず、〈miracle〉を〈ミラクル〉じゃなく〈ミリクル〉と発音する異化効果。別にデタラメではない。そういう発音も英語にはちゃんとある。カタカナ英語からの遊離ということでいえば、〈fantasies〉が〈ファンタジー〉じゃなく〈ファナスィー〉になるのも快い。また、筆者のツボにハマるのは、〈destiny〉を〈デスティニィ〉じゃなく〈デスタニィ〉と歌うブリッジ部分である。洋楽発音マニアなら、同種のケースとして、「Greatest Love of All」における〈dignity〉の〈ディグナティ〉や、「Don't Stop Me Now」における〈gravity〉の〈グラヴァティ〉を聞き逃さないだろう。ニュートラルに入れた車のギアのごとき宙吊り感を引き受ける、あの英語の曖昧母音のストイシズム……。ところが、この母音の発音が拙いドリカムの吉田美和などは、しばしば、広く開き過ぎた口でノー天気な大声を出してくれる。「Winter Song」の2番の歌詞の〈world〉を〈わぁ〜るど〉と歌うあたり、どうにも許しがたい。知的に、ではなく、美的に、である。たとえその意味を離れても滲む、言葉の響き自体に特異な彩度を侮ってはいけないのだ。

アメリカ英語のエロス

ちなみに、意味を離れた音としての英語を初めて筆者が意識したのは、パティ・ペイジが歌う「Love Letters」を聴いたときである。まだ大学生の頃だった。〈Love letters straight from your heart〉というゆるやかな冒頭の一節の衝撃は忘れがたい。唇から吐息が漏れるような〈v〉と〈f〉の摩擦音、軽やかに舌が跳ねる〈t〉の弾音、そして鋭く空気を切る〈str〉の子音結合群。だが極めつけは、最後に長く延ばされる〈heart〉の発音である。これを聴くと、〈r〉の発音で徐々に巻き上がる舌の動きと、最後に上顎ではじける〈t〉の舌先が、単なる聴覚をこえ、視覚的・触覚的なエロスを聴き手に喚起する、と言っても過言ではない。要は、唇と舌、とりわけ舌なのである。日本語に比べ、英語は、舌の運動量が確実に多い。弾ませたり、歯と歯の間に挟んだり、口の中で巻き込んだりするからである。つまり、単純化を恐れずに言えば、英語は、日本語より、身体性や官能性、とりわけ口唇的エロスを前景化しやすい発音体系をそなえている。ただし、同じ英語でも、イギリス英語は、アメリカ英語と違い、柔らかな弾音がないし、長母音に伴う〈r〉が響かないために、いくぶん舌の存在感が薄い。アメリカの音楽が世界に圧倒的な輸出力を誇るのは、国家の政治力や資本主義体制云々の前に、その言語にそなわった官能性が本質的に高い、という仮説を立ててみることも無謀ではないだろう。

かくして、アメリカの洋楽にふれる日本人の愉楽とは、母国語で知りえないエロスの希求、という側面を宿しているのではないか。そして、槇原敬之の英語には、それを伝えるだけの技術と感性があるように思われる。英語らしい発音の官能性というのは、耳の肥えた日本人なら、論理的説明をこえて感覚的に察知できるものであり、英語で歌う日本人アーティストは、決して自国のリスナーをバカにしてはいけない。むろん、"本物"のような英語で歌うことは、アメリカ帝国主義への共犯だ、と見る向きもあろうが、マスターできない発音でアメリカンな憧れを歌ったりするのは、それよりもっとタチが悪い。進駐軍の時代が遠く去ったいま、追従でもなく開き直りでもない、新たな和製英語曲の可能性に期待したいものである。★

コムロ、ミスチル、SMAPがマッキーを変えた!

1994年――Jポップ“革命”の余波

文・表作成▶川口瑞夫[ライター、編集者]
写真▶湯沢英治

小室哲哉、ミスチル、SMAP、渋谷系など新勢力がブレイクした1994年は、Jポップの質的変化をもたらす大きな歴史的転換点だった。すでにチャートの常連だった槇原もその波を受け、この時期にターニング・ポイントを迎えている。94年前後の槇原の変化を、Jポップ史の流れの中で検証してみよう。

Jポップ史において、91〜93年はビーイング系アーティストの全盛時代だった。91年前後にB'zやZARDがブレイクし、93年にはミリオン・ヒットの大半をビーイング系が占めるに至っている。CHAGE & ASKAがヒット曲を連発していたのもこの時期である。これらヒット曲の多くは、唱歌的なメロディを基調とした洋楽テイストの薄い作品。同時期にR&Bテイストの作品で成功を収めていたのは、米米CLUBやドリカムくらいである。

槇原が「もう恋なんてしない」や「No.1」といったヒット曲を量産していたのは、このような時代だった。デヴィッド・フォスター趣味などを反映した槇原のサウンドは、この時代においては十分に洋楽的だったといえる。

そんな槇原が93年に発表したのが、R&B志向・サウンド志向を強めた『SELF PORTRAIT』である。↗前年にブレイクしたドリカムを意識していたのかもしれないが、いずれにせよ、この作品で槇原はR&B系Jポップの最前線に立った。

しかし、そうした時期は長くは続かなかった。別表を見ればわかるように、94年になると、小室ファミリー、渋谷系、ヒップホップ、ミスチル、SMAPといった新興勢力が一気にブレイクしたからである。彼らは皆、洋楽志向の強いサウンドを特徴としていた。スピッツやシャ乱Qなどはあまり洋楽っぽくないかもしれないが、91〜93年ごろのJポップとは明らかに印象が異なる。

☆マッキー、洋楽路線に決着をつけ後退へ?

こうした状況を前にして、91〜93年組の多くはチャートから姿を消すか、姿を消さないまでも存在感を薄くしていった。唯一の例外といえるのは、小室サウンドに逆らうようにアーシーなロック色を強めたB'zである。槇原の場合はどうだったのか。94年の『PHARMACY』は『SELF〜』よりも洋楽・サウンド志向が後退していたが、そこには音楽的な迷いがあったようだ。彼は〈レコーディングしてて行き詰まってる部分も少しはありますしね〉(『ミュージック・マガジン』94年12月号)という発言を残して、活動を休止してしまう。

96年に活動を再開した槇原がリリースしたのは、

☆売れっ子の顔ぶれがガラッと変わった

別表は、槇原が「どんなときも。」でブレイクした91年から96年までのヒット曲をリストアップしたものである。各アーティストの最初のTOP10ヒットに●印をつけてあるので、誰がどの時期にブレイクしたのかが容易にわかる。94年を境に、Jポップの看板アーティストの顔ぶれがガラッと変わったことに着目してほしい。↙

CamScannerでスキャン

1991〜1996年のヒット曲

●印は最初のTOP10ヒット

1991年

●KAN「愛は勝つ」(レコード大賞受賞)
小田和正「ラブ・ストーリーは突然に」
CHAGE & ASKA「SAY YES」
ZARD「Good-bye My Loneliness」
●B'z「LADY NAVIGATION」(初のミリオン)
小泉今日子「あなたに会えてよかった」(初のミリオン)
●槇原敬之「どんなときも。」

1992年

米米CLUB「君がいるだけで」(レコード大賞受賞)
DREAMS COME TRUE「決戦は金曜日」(初のミリオン)
●T-BOLAN「じれったい愛」
●ZOO「Choo Choo TRAIN」(発売は91年末)
●GAO「サヨナラ」
●小野正利「You're the Only…」
サザンオールスターズ「涙のキッス」
槇原敬之「もう恋なんてしない」

1993年

ZARD「負けないで」(初のミリオン)
ZARD「揺れる想い」
中山美穂&WANDS「世界中の誰よりきっと」(初のミリオン、発売は92年末)
●WANDS「もっと強く抱きしめたなら」(初のミリオン、発売は92年)
CHAGE & ASKA「YAH YAH YAH」
●THE 虎舞竜「ロード」
槇原敬之「No.1」

1994年

MR. CHILDREN「innocent world」(レコード大賞受賞)
●MR. CHILDREN「CROSS ROAD」(発売は93年末)
小沢健二「今夜はブギーバック」(15位)
オリジナル・ラヴ「接吻」(発売は93年末、13位)
●EAST END×YURI「DA.YO.NE」
●trf「寒い夜だから」(発売は93年末)
trf「survival dAnce」(初の1位、初のミリオン)
●篠原涼子 with t「恋しさと せつなさと 心強さと」
SMAP「Hey Hey おおきに毎度あり」(初の1位)
SMAP「がんばりましょう」
●広瀬香美「ロマンスの神様」
槇原敬之「SPY」

1995年

trf「Overnight Sensation」(レコード大賞受賞)
●華原朋美「keep yourself alive」
●globe「Feel Like dance」
●H Jungle With t「WOW WAR TONIGHT」
DREAMS COME TRUE「LOVE LOVE LOVE」
●MY LITTLE LOVER「Man & Woman」
●安室奈美恵「TRY ME〜私を信じて〜」
●シャ乱Q「シングル・ベッド」(発売は94年末)
●スピッツ「ロビンソン」
●小沢健二「カローラⅡにのって」
CHAGE & ASKA「Something There」(英語詞)
(久保田利伸が「SUNSHINE, MOONLIGHT」で世界デビュー)

1996年

安室奈美恵「Don't wanna cry」レコード大賞
globe「DEPARTURES」
久保田利伸「LA・LA・LA LOVE SONG」
●Puffy「アジアの純真」
●SPEED「BODY & SOUL」
B'z「REAL THING SHAKES」(英語詞)
槇原敬之「SECRET HEAVEN」(英語詞)

■参考資料
「1986-1997オリコンチャートブック」(97年・オリコン)　「広告景気年表」(http://www.dentsu.co.jp/trendbox/adkeizai/)

全曲英語詞で歌われる「ver.1.0E LOVE LETTER FROM THE DIGITAL COWBOY」と「LOVE CALLS FROM THE DIGITAL COWGIRL」だった。興味深いのは、この時期、91〜93年組の多くが英語詞の作品を発表していることである(別表参照)。洋楽的なアプローチを通して自分たちの方法論を見つめ直したかったのかもしれない。しかし、英語で歌っても独特のコブシを失わなかったASKAを別にすれば、その他は皆、没個性的な洋楽もどきだったように思う。

槇原自身もそのことを痛感したのか、その後、徐々にR&B的なアプローチを控えていく。その代わりに目立つようになってきたのはレトロ歌謡的なアプローチである。「どうしようもない僕に天使が降りてきた」(96年)、「モンタージュ」(97年)、「HAPPY DANCE」(98年)、「Hungry Spider」(99年)といったシングルを順番に聞いていくと、日本の歌謡曲史をさかのぼって行くような印象を受ける。

槇原は、R&B色を強めるJポップの最前線で、新興勢力と張り合うのをやめたのである。そんな彼を、ナンバー・ワンじゃなくてオンリー・ワンをめざしたと評することもできるが、単にニッチをねらったという方が正確かもしれない。☆

CamScannerでスキャン

槇原的「絶対」としてのワン・パターン

もちろんオレは槇原敬之のファンなんかではないのだが、楽曲／ヴォーカル／サウンド・プロダクションのクオリティの高さでいつもオレを唸らせるのは「コイツぐらいしかいない」と、感服している。

べつに褒めようとしているわけではなくて、事実を書いているだけだ。「好き」でも「嫌い」でも

マッキーの音楽は、全体像としてはおそろしくワン・パターンだ。しかし、さまざまな音楽のミクスチャーを経たうえで「槇原敬之」と署名している感じのワン・パターンは、彼にとっての「絶対」とも思える。たとえば桑田佳祐や奥田民生のように、意識的に過去のロックのパロディ（オマージュ？）を曲作りのパターンの中に嵌め込んでいるということはないし、ユーミンのように、「オールディーズ風」で一曲、「ラテン風」で一曲…という書き方でもない。いや、たとえサウンドがそうであっても、マッキーの場合はメロディま

過剰と蕩尽のマッキー・ミュージック

才能を「焼き尽くすように使いきる」男の恐ろしさ

巷では、洋楽寄りのマニアックな音楽好きほど「フツー」とか「引っかかりがない」と槇原に興味を持たないケースが多いようだ。しかし一方で、「いや、音楽性は中庸でもヘタなロッカーよりよっぽど過激だよ」との声もある。それも、主に同業者の間にですよ。う〜む、なんでこうなる？　そして、同じ音楽家だからこそわかるマッキーの凄味って何？

文▶和久井光司［音楽家／詩人］
イラストレーション▶いんなみりさ

ないから、フツウなら「眼中にない」、もしくは「どうでもいい」対象になりそうなものだが、どこかからマッキーの曲が聴こえてくるたびに「うわッ、よく出来てるなあー」と驚かされ、思わず聴き入ってしまうのである。

それは、知らない曲でも声ですぐにマッキーだと判るから（そういう銘柄の油性ペンで歌に名前を書いているかのように判りやすいのは、彼が一流のシンガーである証拠だろう）だし、ストーリーテラーぶりを感じさせる、掌篇小説のような歌詞がうまい具合に心にひっかかるからでもあると思う。

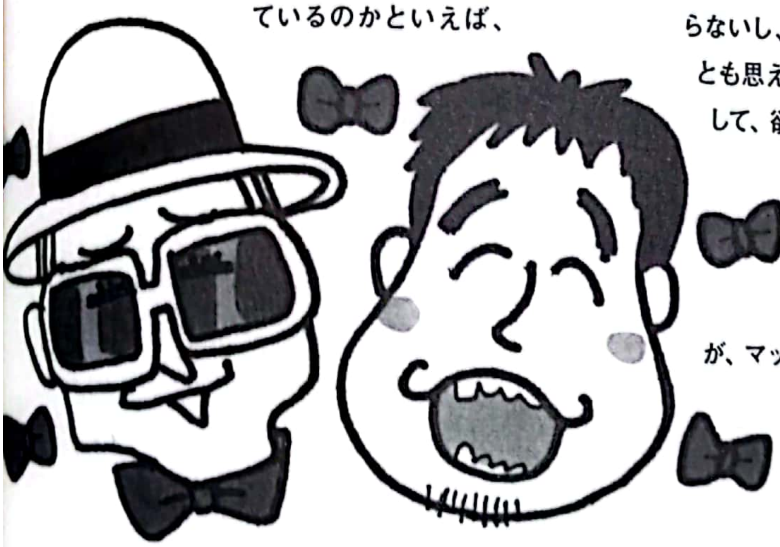
で簡単に「○○風」に向かってしまうことはないのである。曲作りとヴォーカルのオリジナリティで音に記名してみせる先輩には小田和正がいるが、小田の場合、アレンジ〜演奏のパターンにマッキーほどのバリエイションはないから、サウンド・クリエイターとしての強い力は感じなかったりもする。

世代的な特徴でもあるのだろうが、マッキーはリズム・アプローチが実に柔軟なのだ。そのくせメロディは「ポップのど真ん中」で、律義なまでにきちんと歌詞をつける。リズム重視の語呂合わせなんて一行もないのだから、「きちんと」は「偏

執狂」とほとんど同義語だ。そういう創作に対しての病的なこだわりは、オリジナル版の「スマイル」を作っている頃のブライアン・ウィルソン級かもしれないな、なんて勝手に想像したりするのだが、オレはブライアンがああなってからのビーチ・ボーイズはむしろ嫌いだし、去年の「スマイル」にもみんなほど感心しなかったから、音だけだったらマッキーみたいなタイプには興味がないはずなのである。

徹底的に「やりきる」ということの凄味

オレが無性に好きなのは、ボブ・ディランやニール・ヤングみたいに「音楽的に出来ていない部分」と「精神的なほころび」が直結している人なのだけれど、逆もまた真なりで、抜け目ないほどに「やりきっている姿」から「精神的なほころび」が染み出してしまうタイプの人も気になってしょうがない。もちろんどちらの場合もヒントになってくるのは歌詞や人となりかもしれないが、じゃあオレがディランやニール・ヤングの歌詞をどこまで理解しているのか、人となりをどこまで知っているのかといえば、



ろくに判らない、知らないと言った方が実情に近い。歌詞や人となりは作品を紐解くヒントにはなるけれど、作者と直結しているのはそこではないのだ。「具体的に歌詞で何が描かれているか」ではなく、「そいつの精神性がどれぐらい歌に乗っているか」をオレは見ているわけで、だから「やりきっている姿」からだって「精神的なほころび」を感じたりするのである。

マッキーの作品を聴いていると、かつて栗本慎一郎が「人間」という「パンツをはいたサル」の本質を解くのに使った「蕩尽」という言葉を思い出してしまう。詳しい内容は忘れたが、「人間は蕩尽して快感を得る生き物だ」というのが彼の「過剰＝蕩尽理論」の基本で、芸術的才能がある者は才能を、肉体的に優れた者は肉体を、金を持った者は金を、それこそ「焼き尽くすように使って」こそ人間は「生きた」と実感するものだ、というような話だった。松岡修造のように「いつも熱い」パンク・バンドは少なくないだろうが、才能を「焼き尽くすように使って」ポップ・ミュージックに取り組んでいるヤツはそうそういるものではない。

あの事件後、マッキーは「正しいこと」をまっすぐに歌うようになったが、そこへのこだわりに、オレは彼の激しさ、過剰さを感じるようにもなっている。まるで「正しいこと」を「焼き尽くすかのような」それが、一体どこから来るものなのかは判らないし、まさか懺悔の念がそうさせているとも思えない。「偽りのない正しさ」を抽出して、欲望渦巻く世界に惜しげもなく投げ入れるような行為は、「蕩尽」でなければ「殉教」ではないか。そこからは三島由紀夫的なマゾヒズムやヒロイズムも感じられるが、マッキーには三島のようなナルシシズムはない。だから徹底的に「作品上で蕩尽している」のではないか、と思えてくるのだ。

エルトンを彷彿させる本当の理由

オレは90年の秋に、WEAミュージック（当時）

CamScannerでスキャン

のコンヴェンションでデビュー直前のマッキーを観ているが、その時は「丁寧に曲を書いて、素直に歌っているだけ」としか思わず、それよりも「変な顔だなー」という印象の方が強かった。でも、翌年「どんなときも。」がヒットし始めた時に、「あの変な顔のヤツだ！」と思い出し、同曲にすっかり感心させられてしまったのだ。そのうちに「海外のミュージシャンではエルトン・ジョンに近いな」と思うようになったのだが、もちろんその段階ではマッキーのセクシャリティなど知る由もなかった。三島、エルトンとくれば、どうしてもそこにつながってしまうし、とくに詞の世界などは普通の男にはない感性が染み出ている場合もあると思うのだが、オレが「エルトンに近い」と感じたのはそういうところではなくて、ソウル・ミュージックの咀嚼のしかたなのである。

ご存じのように、エルトン・ジョンは英国を代表するシンガー・ソングライターであり、ピアニストとしての腕も一流だ。袂を分かっていた時期もあるが、代表曲のほとんどは作詞家バーニー・トーピンとのコンビによるもので、すべての共作はバーニーが書いてきた詞に、エルトンがあとで曲をつける形で行われてきたのだという。オレはエルトンの黄金時代を支えたプロデューサー、ガス・ダッジョンにインタヴューした時に、バーニーとの共作がそういう形で行われているのを知らされたのだけれど、先に完成している詞に、あの、どこまでも音符にしなければ気がすまない、こねくりまわすようなメロディをつけてしまうエルトンは「おかしい」とさえ思った。と同時に、詩の朗読にも語りの芸にも理解のある英国で育ったエルトンがそこまで「歌いたい」のは、黒人音楽への憧れが誰よりも強かったからだろう、と悟ったのだ。

60年代の英国ビート・バンドは、黒人のブルースやR&Bの模倣を、アメリカ型のロックンロールの定形には当てはまらない「ロック」に発展させ、アメリカに根強かった白人音楽と黒人音楽の垣根を取っ払うことに成功した。そして、そういう世代の活躍を横目で見ながら下積み生活を送ったエルトンは、ミック・ジャガーを代表とする英国のR&Bシンガーが踏み込まなかった、ソフィスティケイトされたソウル・ミュージックのマナーを身につけて、よく聴けば「英国版スティーヴィー・ワンダー」とも取れるヴォーカル・スタイルをいち早く完成させたのだった。そのソウル解釈は、フレディ・マーキュリーやジョージ・マイケルに継承され（こうなってしまうからセクシャリティの問題は無視できないのだ）、どこか「固い」英国音楽が、「しなやかさ」を加えてさらに発展する要因としたのである。

日本では80年代半ばに、久保田利伸がようやくそこに踏み込んだわけだが、シンガーとしての彼の力量や功績は評価しつつも、70年代以降のスティーヴィーから、当たり前のようにブラコン~ヒップホップに行ってしまった彼の音楽は、オレにはちっとも面白くない。平井堅？　論外である。音楽はスポーツではない。「どこまで声が出るか」ではなく、「何を歌うか」が問題なのだ。

マッキーが英語で歌うのを聴くと、彼がいかに素晴らしいシンガーであるかが判るが、それを納得できた耳で普通に日本語で歌われた曲をもう一度聴いてみてほしい。そうすれば、抜け目ないサウンドの中で、歌詞とメロディを「焼き尽くすように使いきる」槇原敬之が恐ろしくなってくるはずなのである。☆

CamScannerでスキャン

槇原敬之はゲイ・コミュニティの中で、神話の域に達している。
彼が特別な存在であることには、どのような理由があるのか？
日本のゲイ・ムーヴメントの先駆け的な役割を果たし、
現在もさまざまな媒体で論考を発信し続ける作家の伏見憲明氏と
J-pop Clubパーティ「マッキーナイトWow!」の
DJであるTake-3氏に、その理由を読み解いてもらった。

構成▶編集部　イラストレーション▶もりいくすお

マッキーの
クイア・リーディング

マッキーの歌は、ゲイの切なさとナルシシズムをすごく演出してくれる

ゲイ好みのディーヴァに近い存在なのでは

伏見憲明（以下伏見）　槇原敬之はゲイの人たちに特別な人気があって、特に今のゲイ・ムーヴメントの中核をなしている30歳前後から40歳ぐらいまでを、僕は勝手に「マッキー世代」と命名して、『クイア・ジャパン・リターンズ（以下、QJr）』最新号でも特集をしているんです。彼が登場した90年代に思春期／青年期を過ごした世代ですね。Take-3さんも33歳ですけど、マッキーとの出会いは？

Take-3　91年のことなんですが、ラジオか何かでたまたま「どんなときも。」が流れたんですよ。それを聴いて一瞬で共感を得るものがあったんです。就職してすぐの19歳か20歳のときで、その時期にいちばん聴いていたのが槇原敬之で。自分でも中学から打ち込みで音楽を作っていたんですが、槇原さんの曲も打ち込みを全面に出してそこに若い感情を歌った歌詞をうまく乗せていた。機械的なものと感情的なものが一緒になっているところに惹かれたんだと思います。

伏見　その頃、Take-3さんには自分がゲイだという自覚はありましたか？

Take-3　まだぜんぜん自覚していませんでしたね。女の子ともつきあったことはあったんですが、興味を

持てなかった（笑）。

伏見　じゃあ、マッキー体験のほうが先ですね。普通は逆で、ちょうど自分がゲイであることに悩んでる時期に「どんなときも。」みたいな歌詞がうまくシンクロしてハマッたという人が多いんだけど。あの歌詞は簡単にいってしまえば、"どんな状況にあっても、自分らしさを手放さずに生きていこうよ"ってメッセージでしょう。

Take-3　僕の場合は「打ち込み」にすごい興味があったので、アレンジが勉強になると思って聴いてました。でも女々しさを当たり前に歌う歌詞にも興味はありましたよ。少し前には大江千里がそういう女々しさを歌ってましたね。

伏見　いわゆるマッチョじゃない、男子にしてはすごく繊細な言葉に、ゲイの子は自分の気持ちとシンクロするものを感じたのでは。僕はマッキーの実際のセクシュアリティを知らないけれど、それよりも、ゲイたちが、マッキーはゲイだという神話を勝手に抱いた、という現象に興味を持っている。

Take-3　見た目がイケてるから、あの人はゲイだって思い込みたくなる人は多いですよね。槇原さんの場合は、それが見た目でなく曲であったと。有名なところでは、「THE END OF THE WORLD」。不倫の曲ということになっているんですが、ゲイの間ではこれぞゲイのために歌った曲だと思われてますね。

伏見　カミングアウト・ソングだっていう人もいるよね。でも本人がゲイだからといって、ゲイとシンクロする音楽を作るとは限らない。例えば平井堅や大江千里もゲイに人気があるけれど、槇原のようにゲイ・コミュニティの中で特別な位置を占めてる人は他にいない。どちらかというと日本のゲイ・コミュニティの中での槇原需要は、ゲイ好みのディーヴァに近いのかもしれない。例えばバーブラ・ストライザンド、シェール、ベット・ミドラーとか、ブスばかり挙がってるけど（笑）、そういう系統なのでは。

Take-3　3年ほど前に「ジャパニーズ・ディーヴァズ・ナイト」というイベントで自分もDJやったんですけど、曲のリストに松田聖子、中島みゆき、MISIAなんかと一緒に槇原さんが入ってたんですね。オーガナイザーに「どうして槇原さんが？」って聞いたんだけど、「槇原はディーヴァでしょ」っていわれて、回しました（笑）。

「LOVE LETTER」は利己的恋愛ソングの極み

伏見　Take-3さんはマッキーではどの曲が好きなの？　ゲイの関係に置き換えやすいから、ゲイ的には「MILK」が人気あるといわれてますが、QJrで取ったアンケートでは、意外や「Such a Lovely Place」が一番人気だったんですね。マッキー世代のゲイが、自分のいる場所とか誰かと歩んでいくこととか、生活することに地に足がついてきたんでしょうね。それを背景にした思いをあの曲に託しやすいんでしょう。

Take-3　例の事件の前を前期、後を後期としたら、それらぜんぶひっくるめて僕が一番好きなのは「太陽」です。好きだ嫌いだというラブソングをずっと歌ってた彼が、事件後に伝えるものを変えたような気がするんです。実はあのアルバムはあまり期待しないで聴いたんですが、Jポップ聴いててあそこまで感動したことはなかったです。ものすごくドラマティックで、ああ本当に苦しんだんだなって分かったんですよ。この曲があれば、もう許しちゃおうかなって思ったんですね（笑）。

伏見　僕は「LOVE LETTER」や「Witch hazel」などのシンプルなラブソングが好きなんですけど、「太陽」に関しては収録アルバムの全体の音楽的な出来はいいと思うんですけど、歌詞に関しては、言葉で自分を組み伏せようとしている感じがしてイタい。事件の反動で、彼は音楽よりも理屈で自分を納得させようとしているのかな、と。

Take-3　それはみんないってることで、まず商業的なことを考えなくてはいけなかったと思うんですけど、それはとりあえず置いといて歌わなければいけない歌を歌おうと。それまでの好きだ嫌いだって歌で事件の後にまた同じことを歌っても、何いってんだっていわれることは目に見えてたんじゃないかな。そこで「太陽」を歌ったのなら、認めようと。僕も「LOVE LETTER」は好きなんですけど、自分のための自分のラブソング、利己的恋愛ソングの極み、それ以上ない

でしょって曲ですね。

伏見　ゲイにとっての「LOVE LETTER」は、"告白したいけど相手がノンケだとできない、気持ちを呑み込まざるをえない"ってことを、ものすごくいいかたちで夢見させてくれるところですね。ゲイの切なさとナルシシズムをすごく演出してくれる曲だと思う。

Take-3　「LOVE LETTER」はクラブで回しても人気あります。僕がリミックスしたヴァージョンを僕の作品を気に入ってくれている大阪のDJに渡しておいたら、イベントの最後に流したらしいんです。そしたらみんな踊りながら泣いちゃったって聞きました。

伏見　それは何なんだろう？　あんな正統なバラードで踊るっていうのがよく分からない（笑）。

Take-3　クラブの最後の最後では、ものすごい盛り上がる曲よりも、「LOVE LETTER」みたいなしんみりとした曲をかけてお客さんを帰してあげるっていうのがDJとしての優しさだと思うんですね。パチンコ屋の「蛍の光」的な（笑）。でもバラードをそのままかけても誰も踊らないしつまらない。いい曲があるんだけど自分がかけたいなと思ったときはリミックスします。まず踊れなきゃ意味がないのでリズムを重点的に作って。リミックスってDJの解釈でぜんぜん違ってくるので、自分だったらこう作るというのがあるんですね。J-pop Clubパーティ「マッキーナイトWow!」では、みんな踊りながら歌いますよ。全員が手をつないでワーッとなったり。ここは歌声喫茶かって思うんですけど（笑）。僕がそうやれっていったことはないんですけどね。この曲は手をつながなきゃって思って騒ぐ曲とかあるんですね。

伏見　そうさせるものは何なんだろう？

Take-3　例えばすごいダンサブルな曲をバンバンバンと連続で流して、合間にバラードを入れるとその曲で手をつないだり、くっついた、くっついた、くっついたってラブソングを連続で流して、はい、別れたよって曲をかけるとその曲で泣いたりするんですよ。気持ちに抑揚をつけさせて爆発できるような流れを作っているので、歌詞の素晴らしさが頭にガーンと入ってくるんでしょうね。

伏見　感情の起承転結みたいなものが好きな人が多いのかな。

Take-3　曲の中に主人公が必ずいるので、そこに乗っかる形で疑似恋愛をするということもありますね。あの曲を聴くと、あの恋愛を思い出すみたいな。ユーミンと似てますね。

伏見　ユーミンの場合はゲイが曲の男女の関係に自分を主に女に置き換えて聴いていたんだけど、マッキーの場合は女の子がマッキーの曲に自分を置き換えてもいいし、男の子が置いてもいい。代名詞としての機能の幅が広い。ジェンダー的にいうと男女の役割表現が近付いてきた時代の中で、マッキーの曲は男女のラブソングというよりも誰でも乗っかれちゃうところが、すごく特徴的なのかなと思いますよね。

Take-3　歌の主人公は本人なんだろうけど、実はそうじゃなくて女の子の気持ちを歌ってるのかもしれないって思ったことがあったんです。僕は「MILK」は男女を超えたラブソングだと思ってます。

伏見　あれは友情を表現している曲でしょう。でも友情であそこまでオーケストレーションで盛り上がれるって、これは普通の友情じゃないだろって（笑）。ある意味で性愛とそうでない友情との境界も、今の時代は曖昧だってことはあるのかもしれない。「MILK」ってその境界にあって面白いなって思うんだけど。

CamScannerでスキャン

マッキーの持ってる運の強さ

伏見　ところでTake-3さんは、最近のマッキーの曲については、どう思いますか？

Take-3　前は一人一人に話しかけてるような感じだったんですよ。聴くほうも、「あ、私に歌ってる」という感じがあったと思うんですが、今は一人に対して歌うんじゃなくて、もっと大きいところに向かって歌わなきゃいけないって思ってるんじゃないのでしょうか。宇宙に向けて、とかね（笑）。

伏見　抽象的なところに向かうのってどうかなあ。それで小さくて大事なものを超えられると思っているのだとしたら、それは違う。宗教性とか哲学性より、「LOVE　LETTER」の持ってる力のほうが人をいい方向に導くパワーを放っているような気がするのね。僕はポップスターが反戦と環境問題とファミリー愛を歌いだしたら、おしまいって感じるんですけど。でもマッキーってまだ終わってない、どんな展開があるのかなっていうのを残してるのがすごい。「世界に一つだけの花」も、SMAPのいい加減なところと説明のある種古臭い、修身みたいな世界のマッチングがよかったと思うのね。テーマのシンプルな強さが際立った。これはマッキーの持ってる[illegible]

Take-3　あれはSMAPのアルバム[illegible]じゃないですか。それをシングルで出し[illegible]ちゃって、槇原さん自身が歌った[illegible]のマッキーさんは[illegible]。これから[illegible]前には、そろそろラブソング[illegible]

伏見憲明（ふしみ・のりあき）
PROFILE [illegible]

『クイア・ジャパン・リターンズ Vol.1 Generations/Realities』（ポット出版）

伏見憲明責任編集。[illegible]

朝まで踊りまくり！歌いまくり！
ウワサのJ-pop Clubパーティ「マッキーナイトWow!」とは？

バラードからハードなもの、そして泣かせまで、華麗なオリジナルミックスでフロアをヒートさせる「マッキーナイトWow!」DJのTake-3氏が語るイベントの全容。

最初は友達のイベントで4時間もらってやってみたら、それが大盛り上がりで次は8時間やったら自分もすごく楽しくて、初めは1日だけで終わる予定だったんですけど、好評でずっと続いています。クラブに来たことのないノンケのお客さんもいるけれど、自分が知ってる曲がずっと流れてて、ゲイもいるしレズビアンもいるしっていう異様な空間が楽しいみたいですよ。女の子が一人で来ても友達が作れるように、手首に光るルミカライトをつけてる子には声かけていいというルールを作ってるんです。おかげさまでノンケの女の子から「ゲイのお友達ができて、一緒にコンサートいきました」ってメールをもらいます。そんなときは、イベントやってよかったなって思うんですよ。ゲイはゲイで恋人が見つけやすいし。とにかくオープンで楽しい雰囲気なので、槇原さんが好きな人はぜひ遊びにきてほしいですね。

Take-3（ていく・すりー）
PROFILE [illegible]

J-pop Clubパーティ
「マッキーナイトWow!」
～Episode7: Return of the Animal Dancers～

7月30日(土)20:00～29:00
場所　[illegible]
住所　[illegible]
電話　03-3359-8638
web site　take-3.net/wow/
DJ:Take-3、SHOWA
Performance:Animal Dancers
料金　3,000円、フライヤー[illegible]2,500円、[illegible]2,000円（すべて1ドリンク付）
[illegible]

PART 5

寄ってたかって全曲解説

マッキーが歌った感動の176曲、ぜ〜んぶ一挙に紹介!

槇原敬之 勝手に全曲ガイド

誰でも知ってる大ヒット曲から、ファンの間で人気の高い曲、ちょっとレアな音源まで、
どの曲にも純粋な優しさや愛がぎっしり。
マッキーの曲の素晴らしさを、ひとつひとつ味わってみよう!

文▶上田健二(上)、榊ひろと(榊)、Take-3(T)、西岡ムサシ(西)、町口哲生(町)、宮城正樹(宮)、宗像明将(宗)、やぶきもとこ(や)、吉田正太(吉)、阮点生(阮)
イラストレーション▶いんなみりさ

※日本語タイトル曲五十音順の後に、英語タイトル曲をアルファベット順に並べています。「収録」の欄には、最初に収録されたシングルとアルバムのタイトルを記し、後に収録されたベスト盤は「B1〜8」、ライヴ盤は「L1、2」、リミックス盤「THE DIGITAL COWGIRL」は「CG」、シングルのカップリングの場合は「S1〜33」と略称にしました。どの盤を指すかは各ページ下のディスコグラフィをご参照下さい。ただし、既発表曲の英語版以外のヴァージョンの違いは表記していません。

あ

蒼い月の夜〜Lady In Blue〜

収録　カヴァー・アルバム「Listen To The Music」(98.10.28)

元は、レイジー・ルーズ・ブギのヴォーカルLOUのシングル「泣いたり笑ったり忙しい君に」カップリング曲。原曲自体が知られていないせいか、どこをとってもマッキー節全開に聴こえる不思議。　(上)

秋の気配

収録　カヴァー・アルバム「Listen To The Music」(98.10.28)
B6

デュオ時代のオフコースがオリジナル(77年発表)。オリジナルの透明感あふれる寂寥感を活かしつつ、"憂いのある"ヴォーカルでマッキー印の失恋ソングに昇華している。　(上)

明けない夜が来ることはない

収録　シングル(05.5.18)

最新シングル曲となる、壮大なバラード。まわりくどいタイトルからしてマッキー。静かに始まり、サビにむけてその世界はどんどん広がってゆく。ストリングスがその広がりを感動的に彩る。　(上)

足音

収録　シングル(98.1.21)
アルバム「Such a Lovely Place」(97.11.21)
B6　B7　B8

19枚目のシングルにして、長野オリンピック聖火リレー公式応援ソングであったスロー・バラード。地味な仕上がりだが、後の「世界に一つだけの花」にも通じる、優しくセンチメンタルな"いい歌"を書く才はさすが。「愛」を胸に前に進んでいこう、後に続くみんなの光になるから、という「普遍性」が当時、個人的ラブ・ソングを愛するファンの間でも賛否両論。〈待ってないふりをして/ずっと待っていた〉というあたりが槇原的だと思う。　(上)

雨ニモ負ケズ

収録　シングル(02.5.22)
アルバム「本日ハ晴天ナリ」(02.11.7)
B8

まだ"反省モード"だった時期の、「自分の弱さに負けないでがんばるのは難しいけど、なんとかやってみせるぜ」(超訳)と歌う内省的ファンク・ポップ・ナンバー。いつになく男臭も高め。　(上)

い

1秒前の君にはもう2度と会えない

収録　シングル「桃」(01.4.25)カップリング
アルバム「Home Sweet Home」(01.11.21)

〈ゴメンという一言を伝えたいと思った時に/必ず君がいるとは限らないだろ〉という言葉にすべてがこもる。サウンドに重みを増したアルバム版のほうが、〈当たり前のものを失う怖さ〉が強く響く。　(吉)

印度式

収録　アルバム「Such a Lovely Place」(97.11.21)
B7

槇原敬之が突然岡村靖幸化!?　そんな衝撃をもたらす、槇原流のエレクトロ・ディスコ。冒頭からいきなり〈スイカ〉〈ワキ・スネ〉などと歌われているが、この部分はシックの「おしゃれフリーク」のパロディだ。歌詞は、毛深いのでホルモン注射、太っているから脂肪吸引と、極端な施術に走る男をユーモラスに描いた美容外科ソング。インチキ臭いインド風味やラップも導入するなど、槇原の作品の中でも屈指の針の振り切れ方をしてる楽曲だ。　(宗)

➡シングル

1st

「NG」(90・10・25)WEA

2nd

「ANSWER」(91・4・25)WEA

3rd

「どんなときも。」(91・6・10)WEA

4th

「冬がはじまるよ」(91・11・10)WEA

5th

「もう恋なんてしない」(92・5・25)WEA

6th

「北風〜君にとどきますように〜」(92・10・25)WEA

7th

「彼女の恋人」(93・4・25)WEA

う

うたたね

アルバム「Such a Lovely Place」(97.11.21)
L2

ゆったりしたキーボード・プレイに優しく包み込まれそうな曲。多彩なボーカル色を持つマッキー節だが、この穏やかなモードは元チューリップの財津和夫的な温もりか。初恋を歌ってるのもよく似合う。(宮)

海と少年

カヴァー・アルバム「Listen To The Music」(98.10.28)
B7

原曲は、マッキーの心の師匠、矢野顕子もカヴァーしたことがある大貫妙子の78年発表曲。開放感あふれるアレンジと歌声。山弦の小倉博和によるリラックス・ギターがいいスパイスを添えている。(上)

うん

アルバム「UNDERWEAR」(96.10.25)
L1

とにかくサビのメロディが美しく、メロディ・メイカーとしての槇原の才能を改めて認識させられる楽曲。「うん」というたった一言から広がる世界を、美しいメロディに乗せて描き出している。そこで歌われているのは、例えばふたりで一緒に年月を過ごしていくことや、平凡な暮らしの中にある大事なものなど。ガット・ギターやウッド・ベースを使ったアコースティックなサウンドの楽曲で、装飾を削ぎ落とした中で歌う槇原も非常に魅力的だ。(宗)

え

縁

シングル「雷ニモ負ケズ」(02.5.22) カップリング
アルバム「本日ハ晴天ナリ」(02.11.7)

君と僕が向かい合っているのではなく、ともに前を向いているイメージがするミディアム・バラード。君との縁をくれた神様に感謝するこの歌は、結婚するときにぜひ歌いたい(ただかなり難しい)。(や)

お

オオカミ少年

アルバム「UNDERWEAR」(96.10.25)

ブラコン・サウンドに乗せて歌われるのは、"嘘つき少年"ではなく、オオカミに育てられた純真無垢な少年のお話。愛を知るために、彼は髪を切り、服を着て、守られた場所から飛び出すのだ。(上)

男はつらいっすねぇ

アルバム「UNDERWEAR」(96.10.25)

ラウドなロック魂炸裂! 小倉博和のギターが唸り、槇原の歌声もハードでノリノリだぁ。トランクス一丁で「俺は男だ」って鏡の前でガッツポーズ(笑)。珍しいけど、この吹っ切れ感が潔い。(町)

朧月夜

カヴァー・アルバム「Listen To The Music」(98.10.28)

お馴染みの文部省唱歌を朗々と歌うが、トラッド風味のアレンジになっているところが味噌。こうした3拍子モノ唱歌の原型である「蛍の光」がスコットランド民謡であることを考えれば合点が行く。(榊)

お嫁においで

V.A.「60 CANDLES」(97.4.23)

加山雄三の還暦を記念して、97年に作られたトリビュート盤への参加曲。歌はオーソドックスだが、イントロに鼻歌やポリフォニー風のコーラスを入れるなど、槇原らしい遊び心のあるアレンジが楽しい。(阮)

か

彼女の恋人

シングル(93.4.25)
アルバム「SELF PORTRAIT」(93.10.31)
B1 B5 B8

彼女の恋人は「僕」の友達。後ろ向きな自分を抱えて、でもやはり君が好き。そんな甘くて切ない片思いをマッキーに歌われたら、心がチクリとする。イントロにエンジンの音が入り、間奏にジェイク・H・コンセプションのサックスが挿入され、曲の切れ味をよくしている。都会の片隅のどこにでもありそうな話だが、気持ちのアクセルを踏み込んだら3人の関係が崩れる。そうした微妙な関係性がこの曲の陰影を深くしている。ちょっとクールな槇原もカッコいいね。(町)

雷が鳴る前に

アルバム「君は僕の宝物」(92.6.25)
B3

数ある槇原の"雨風もの"ソングの中で最もドラマティックな展開を見せる曲。またYMOからの直接的な影響をアレンジに反映させた最初期の作品で、その完成度は坂本龍一をも感服させたという。(榊)

髪を切る日

彼女が嫌いだったスタイルには本当はしたくなかった。でも、それをしなければ前に進まない。男性の誰もが持つ、いい意味での"女々しさ"がよく表れている。主人公はこの後前に進めたのだろうか? (T)

き

北風/北風~君にとどきますように~

デビュー前にインディーズで歌っていた曲の一つ。後にシングルで再発売するが、ファースト・アルバム収録のものの方が完成度は劣っている。だが、それが逆に温かさ・人間味を出していて、シングルのものよりもこっちの方が好きだというファンも多いはず。それはまるで一人一人に語りかけるように歌っている槇原を、目の前にいるように感じることができるからではないだろうか?〈誰かを愛したその時から/家族の意味さえ変わってしまう〉このフレーズにうなってしまう。(T)

君が教えてくれるもの

アルバム「Home Sweet Home」(01.11.21)
L1

槇原が飼っている犬たちをモデルとしていて、私も初めて聴いたときうちの犬を思い浮かべて泣いてしまった。私たちは人間らしく生きているのか?という問いかけがソフトなメロディにのっている。(や)

君に会いに行く

アルバム「SELF PORTRAIT」(93.10.31)
B2

前作までの3作が「君」シリーズ、このアルバムから「僕」シリーズに変わる。その1曲目は、ゆっくりと流れるメロディが「僕」の心の中を表している。主人公は今スゴく幸せで全てが安定しているかのように。(T)

君に、胸キュン。

カヴァー・アルバム「Listen To The Music」

中高時代の槇原の心の師匠、YMOの83年の名曲。槇原絶対楽しみながらコーラス入れてる。思えば槇原の「君」という言葉や句読点を使った曲名、その言語感覚の原点は、ここにあるのではないか。(吉)

8th

「No. 1」(93・9・10)WEA

9th

「ズル休み」(93・10・1)WEA

10th

「雪に願いを」(93・11・28)WEA

11th

「2つの願い」(94・5・25)ワーナー

12th

「SPY」(94・8・25)ワーナー

13th

槇原敬之 勝手に全曲ガイド

キミノイイトコロ

アルバム「[illegible]」([illegible])

相手の長所を見つけあってお互いに成長すること。相手を喜ばせるのに計らないこと。それまでの恋愛ソングとは一味違った優しさが見える。カタカナのタイトルが言葉の本質だけを伝えようとする。(や)

君の声を待つ夜

アルバム「本日ハ晴天ナリ」(02.11.7)

お互いを完全に理解しあうことは難しいけど、わかろうとする気持ちは大事だよと歌う。だからといって〈僕も風邪を引いたことが／あってほんとうによかった〉とまで言ってしまうことには感動。(や)

君の自転車

アルバム「UNDERWEAR」(96.10.25)

付き合い始めてだいぶ時間の経った、ドキドキもワクワクもない時期の二人。まだ知らなかった恋人の視線を、相手の自転車に乗って初めて知る。槇原、〈自転車〉で本当にいろんなことを表現する。(吉)

キミノテノヒラ

シングル「SPY」(94.8.25) カップリング

花屋に転職した友達を訪ねる歌。ひび割れた掌に驚くが、握手して〈とてもあたたかいね／本当にあたたかいね〉と呟くくだりがメロディと相俟って感動的だ。ファン人気も頷ける隠れ佳曲。(西)

君の名前を呼んだ後に

シングル(03.5.21)
アルバム「EXPLORER」'04.8.11)
B4 L2

アコースティック・ギターの爪弾きが哀愁を帯びたラブ・バラード。リフレインでの槇原のファルセット・ヴォイスと相俟って、胸キュン。〈君に早く会いたいよ〉とこられると、初期の「君〜3部作」に先祖帰りしたようだが、メッセージ色が強い「EXPLORER」全体を通して聴いてみると、この曲のよさが際立ってくる。紙コップのコーヒーから〈いつも側にいてくれてありがとう〉まで至福の時間を演出。指先の温もりを分け合える関係って恋愛の基本だよね。(町)

君は僕の宝物

アルバム「君は僕の宝物」(92.6.25)
B2 B4 L1

名作「君は僕の宝物」の最後を飾るタイトル・ナンバー。自分の恋が叶った嬉しさ、相手を大切に思う気持ちをこれほどストレートに、そして鮮やかに描いてみせる手腕はさすがだ。もし相手といることを当たり前に思うようになったら〈力いっぱい／つねって下さい〉と神様に頼んでしまう歌詞は大胆だが、幸福感を強く印象付ける。〈君は僕の宝物〉と言ってみせるところは、まさに槇原敬之の真骨頂だ。エコーを効かせたサウンド・プロダクションも効果的。(宗)

君を抱いたら

アルバム「君が笑うとき君の胸が痛まないように」(90.10.25)

アコギも入ったスロー・ナンバーは、淡々とマイペースで歌われていく。一目惚れのときめきを〈季節が僕の所へ／鮮やかに戻った〉とする表現も、この歌い方に乗るとまさに鮮やかにはっきり聴こえる。(宮)

く

くもりガラスの夏

アルバム「君は僕の宝物」(92.6.25)
B3

爽やかなポップチューン。ジェイク・H・コンセプションによるサックスがメロディの美しさを際立たせている。とはいえ「君」が家出したという失恋がテーマ。洗濯機、メガネ、Tシャツ、ラジオといった日常生活のアイテムが「僕」の心象風景を写し取る。繰り返しの部分における語尾の「た」が印象的で、最初聴いた時、〈あの海〉が〈汗でずれ落ちた〉と勘違いしていたが、〈ずれ落ちた〉は〈メガネ〉にかかる(笑)。夏のほろ苦い思い出。(町)

こ

恋はめんどくさい？

アルバム「PHARMACY」(94.10.25)
B3

テクノ・ディスコのビートで遊びまくった一曲。「困っちゃうんだよなぁ。」と同じマジメな男の子が、恋に手慣れたつもりになった頃の曲。そして後の「ハトマメ」の主人公も、きっと同じ彼です。(吉)

今年の冬

[illegible]

必殺のスロー・バラード。[illegible]二人で暮らす冬のアイテムが[illegible]〈今年の冬も僕には／[illegible]る〉という名ゼリフが……。美しいファルセット・ヴォイスに[illegible]。([illegible])

この傘をたためば

[illegible]

キーボード・サウンドに乗って[illegible]われるバラード。傘と雨をシンボライズし[illegible]過去も点描していく。傘を[illegible]ての、僕と君との距離感が[illegible]語を、聴かせることに徹した曲だ。([illegible])

困っちゃうんだよなぁ。

アルバム「SELF PORTRAIT」([illegible])
B3

いままでこういう"おふざけ"をアルバムでも見せたことがなかった。この曲の成功が、「恋はめんどくさい？」「[illegible]」に続いている。ゴスペルチックなコーラスが楽しい。([illegible])

これはただの例え話じゃない

シングル([illegible])
アルバム「本日ハ晴天ナリ」(02.11.7)
B8

R&B色の強いトラックに乗せて、ハードでクールに「人は人を傷つけてしまう生き物」とメッセージ。〈自分が思いもよらないような／行動をとってしまう僕ら人間〉というのは槇原なりの懺悔？(上)

さ

桜坂

アルバム「君が笑うとき 君の胸が痛まないように」([illegible])

福山雅治と同名の曲だが、この曲のモデルとなっている場所は大阪なので全く違う雰囲気である。〈僕らの街の言葉は／正直綺麗じゃないけれど／どうか　どうか忘れないで〉という歌詞が個人的に大好き。(や)

さみしいきもち

シングル「ズル休み」(93.10.1) カップリング
アルバム「SELF PORTRAIT」(93.10.21)

「相手を大切にしたいから別れる」という一見矛盾した感情を肯定してくれる歌。「フラれた側の強がり」ではなく。八木のぶおによる少年っぽい響きのハーモニカが、曲に馴染んで気持ちいい。(吉)

14th

「COWBOY」(96・7・10)ワーナー

15th

「どうしようもない僕に天使が降りてきた」(96・9・25)ワーナー

16th

「まだ生きてるよ」(96・11・18)ワーナー

17th

「素直」(97・7・30)ソニー

18th

「モンタージュ」(97・10・29)ソニー

19th

「足音」(98・1・21)ソニー

20th

「HAPPY DANCE」

CamScannerでスキャン

さよなら小さな街

アルバム「本日ひとり」(97.11.?)

元ピチカート・ファイヴの野宮真貴に提供した曲をセルフカヴァー。洒落て小粋、ラテンのエッセンスが利いた昭和ジャズ歌謡風なのが珍しい。明るく前向きに、新たな一歩を踏み出す旅立ちを描く。 (上)

3月の雪

アルバム「君は僕を好きかい」(01.9.?)

槇原自身の高校時代について歌っている。どんないい思い出であっても、それに浸ってばかりで後ろ向きになってはいけない、と、思い出をキチンと封印しようとする、前向きになれる歌。 (や)

三人

アルバム「君は僕の宝物」(92.6.25)

槇原自身が1990年に上京したときのエピソードがそのまま曲になっている。居候させてもらっていたエンジニアの男性とその人の彼女との3人の生活を、やさしい気持ちで懐かしんでいる。住む場所が変わっても、変わらない3人のあたたかい関係が感じられる。最後のきれいなコーラスは「カーペンターズになりきっている」とは槇原談。ちなみに〈ビアガーデンに行く約束〉はあの後果たしたのだろうか？と個人的に気になる。 (や)

し

80km/hの気持ち

アルバム「君が笑うとき 君の胸が痛まないように」(90.10.25)

多少違和感のあるイントロが主人公の"焦る気持ち"を表しているようで、聴いているうちになぜかドキドキしてくる。槇原がよくとる表現方法"僕と君と○○"という形の一番最初の曲？ (T)

12月の魔法

アルバム「君が笑うとき 君の胸が痛まないように」(90.10.25)

師走の"わざとらしい慌ただしさ"を、「そんなことは気にするな」といわんばかりに優しく歌う。誰もが経験ある恋愛の「浮き足だった」感情と背景にある年末の忙しさのギャップが面白い。 (T)

情熱

シングル「情熱」(97.7.30)カップリング
アルバム「Such a Lovely Place」(97.11.21)

コンピューターのバック・トラックで作られる、ダークでワイルドなダンス・ミュージック。マッキーにしては異色。洞先なのに曲先のように聴こえたりシンセの声も。洞の「君」って「犬」だよね？ (宮)

勝利の笑顔

シングル「冬がはじまるよ」(91.11.10)カップリング

幼馴染みとの再会を歌うファンキーなミディアム。声が不安定で音も外すが、こもった熱量はA面の「冬がはじまるよ」を余裕で凌ぐ。どうもフツーの男同士って感じがしないんだよね。 (西)

す

彗星

アルバム「太陽」(00.11.29)

ピアノとアコギが美しいメロディを奏で、槇原のヴォーカルと絡み心に染み込んでいく復帰アルバムの第1曲。「歌が心を打つ」という言葉でしか言い表せないが、涙が自然に溢れてくる。 (町)

素直

シングル(97.7.30)
アルバム「Such a Lovely Place」(97.11.21)

ピアノだけのシンプルな伴奏に乗せて、童謡とR&Bが混じったようなコクのあるメロディをていねいに歌い込んだバラード。いま聞いて思い出すのは、「思いがかさなるその前に」など、R&B的なイメージを強調しなくなってからの平井堅の一連のバラードである。実際に影響を受けているかどうかはともかく(好きだったと思うけど)、曲調といい声といい音楽性といい、何かと共通点が多いのだ。しかし移籍第1弾がこの地味さは凄いな。自信か、戦略か、ケレンか……。 (西)

スポンジ

シングル「明けない夜が来ることはない」(05.8.18)

〈Wash away!〉というハイ・テンションなリフレインに踊らされる、軽快なカントリー・ポップ。自らをスポンジに、素直さを洗剤にたとえ、心を洗って美しくなろうと歌う。発想の豊かさに改めて感服。 (阮)

ズル休み

シングル
アルバム

アップテンポな「No.1」の1カ月後にリリースされた「ズル休み」は、ゆったりしたミディアムテンポのバラード。シンセの効果音から入り、槇原のヴォーカルをくっきりと浮き上がらせたアレンジは見事。日曜出勤から帰ったら留守電に別れた彼女からの伝言が——。すれちがった2人は元に戻ることはできないけど、〈人は必ず誰かに愛されていると思いたい〉〈いつか愛されたい〉って思う気持ちは痛いほど分かるなあ。被害者では涙は止まらないしね。 (町)

せ

世界に一つだけの花

アルバム「EXPLORER」(04.?.?)

近年、槇原は他の音楽家へ提供した楽曲が目立っているが、その中でもSMAPのために作詞・作曲した本作は文句なし。「No.1よりOnly one」というテーマが、老若男女の心へ広く訴えかけた。反戦歌という捉え方には留保が必要だが、今までのあらゆる男性中心主義的な考え方へのアンチとして「花」が寓意化されていることは確かだ。SMAPの5人で歌ったのをマッキーが1人でカラオケ屋で歌い直した感もあるが、それも味わい深い。長く歌い継がれるべき名曲。 (町)

青春

アルバム「Cicada」(99.7.?)

どこか不安定な音の運び。大人ならみんな知っている、青春時代に愛を誓った相手なんて、生涯を添い遂げることはほとんどない。〈バカみたい〉だけど、でもその時その時で愛を信じることは大切。 (西)

そ

空と君のあいだに

カヴァー・アルバム「Listen To The Music 2」(05.?.?)

原曲は中島みゆきの大ヒット曲(94年発表)。元より"みゆき流の愛"が凄い曲だが、〈君が笑ってくれるなら僕は悪にでもなる〉と恋に誠実な(?)男子の歌になっているのがおもしろい。 (上)

21st

『STRIPE!』98・11・25 SME

22nd

『Hungry Spider』99・6・2 SME

23rd ※S23

『桃』01・4・25 ワーナー

24th ※S24

『Are You OK?』01・10・? ワーナー

25th ※S25

槇原敬之 勝手に全曲ガイド

た

太陽

収録 アルバム「太陽」(00.11.29)
B7 L1 L2

「シングルじゃなかったんだ？」と驚いたほど、槇原敬之の歴史の一角を象徴する意味のある曲。前半、雲がかかったように不鮮明な声は、内側にこもるばかりで解決を見いだせない、以前の槇原本人の象徴だろう。もっと言えば、「事件」が発覚する前の槇原。だが、個々の人間がなにをしようと、太陽のように不変で普遍で不偏な「真実」がある。それを彼は「喜びも悲しみも自分の責任で招いている」そして「誰かのための幸せを祈りたい」と綴る。弱さの中にある偉大さ。（吉）

つ

月の舟

収録 カヴァー・アルバム「Listen To The Music」(98.10.28)

オリジナルとなる池田聡のシングル（88年発表）は、槇原が「日本でいちばん好きな曲」と公言している。なるほど、のロマンティシズムあふれる叙情的な詞と、狂おしいメロディが涙を誘うバラード。（上）

て

てっぺんまでもうすぐ

収録 アルバム「君は僕の宝物」(92.6.25)
B2

ピアノの弾き語りから始まる、僕の彼女への告白を目前にしたメロディアス・バラード。場所が遊園地の観覧車内だけに、間奏ではメリーゴーラウンドでよく使われる、シンセによるマーチ・サウンドを構築して雰囲気を盛り上げていく。山弦の佐橋佳幸もマンドリン、ハープの音をプレイして参加した。主人公は「しっかりしろよ」と自らを励まし、てっぺんでついに……。当時のTVドラマ「101回目のプロポーズ」に触発された結果か〈100回以上言っても〉のフレーズが登場。（宮）

手をつないで帰ろ

収録 アルバム「Such a Lovely Place」(97.11.21)

日曜日の水族館デート、ひょんなことからやきもちを妬いてしまった彼女に「機嫌直してよ」となだめようとする彼の気持ちを歌う。サビで〈なぁ　こっちむいてーなー〉と初めて大阪弁が使われている。（や）

天国と地獄へのエレベーター

収録 アルバム「Home Sweet Home」(01.11.21)
L1 L2

自分がだまされたという出来事をも考え方一つでポジティブに取れることができるという、かなり耳の痛い内容の歌詞。だがハウスのビートとコーラスでノリがよく、コンサートでも盛り上がる一曲。（や）

と

東京DAYS

収録 アルバム「PHARMACY」(94.10.25)
B2

イントロのピアノと、アルペジオのギターが印象的なスロー・バラード。東京で暮らす何げない日々が、槇原マジックでかけがえのない日常に大変身。誰だって星空に向かって口笛は吹けるのさ。（町）

どうしようもない僕に天使が降りてきた

収録 シングル(96.9.25)
アルバム「UNDERWEAR」(96.10.25)
B1 B4 B5 B8

昔の恋人の目覚し時計をずっと使っていたため、怒って飛び出していく〈僕に降りてきた天使〉。揺れる白い羽根、飛んでいく目覚し時計などの視覚表現や、時限爆弾のような時計のチクタクという聴覚表現が、エッジが効きスピード感ある曲調にジャストフィット。名曲中の名曲だぁ。ラストの〈部屋の掃除は僕が全部やるから／一緒に帰ろう〉というところが可愛い（笑）。たしかに〈僕に降りてきた天使〉は人生に何人かは絶対現れるよね。まあ小悪魔なんだけど。（町）

遠く遠く

収録 アルバム「君は僕の宝物」(92.6.25)
B1 B4 S23

大阪から上京して2度目の東京の春。外苑通りの桜並木を眺めながら故郷の両親や友だちを思い起こし、その体験を書き上げた曲。リズムを「チャッチャッ」と刻んで小気味よいポップスに仕上がっており、間奏のサックスも気持ちよい。同窓会の案内状、真夜中の公衆電話……多くの人から陰に日向に支えられ今の「僕」は存在している。シングルカットされなかったが、上京した新入生や新社会人の応援歌としてステキ。『君は僕の宝物』における屈指の名曲。（町）

とりあえず何か食べよう

収録 シングル「優しい歌が歌えない」(04.4.28) カップリング
アルバム「EXPLORER」(04.8.11)
L2

衣食住言葉を使う内の生活食系ソングは、ユーモアに満ちつつもノリノリの聴きごたえ。派手なストリングスを入れたモータウン調サウンドがチョー・キャッチー。声に一部和田アキ子的なところが!?（宮）

どんなときも。

収録 シングル(91.6.10)
アルバム「君は誰と幸せなあくびをしますか。」(91.9.25)
B1 B4 B5 B8 L1 L2

映画「就職戦線異状なし」の主題歌にして、槇原敬之最初の大ヒット曲。「人生の応援歌のような曲」という発注を受けて書き下ろされたのは、むしろ自分自身の迷いを捨てようとしているような楽曲だった。彼の歌詞にしては具体的な描写が少なく、抽象的な言葉でイメージを紡いでいるのも特徴的。「僕」について語り続ける歌詞は、大学受験と音楽活動の間で葛藤していた当時の彼の心情の表れだろうか？　キーボードのキラキラした音色は91年的だが今もみずみずしい。（宗）

な

長生きしよう

収録 アルバム「Home Sweet Home」(01.11.21)

究極の愛の歌。隣で寝ている君の顔をふと見たとき、〈「もし君が死んだら」〉と考えてしまい、涙が止まらなくなる。そうやって愛する人のことを思いたいし、好きな人からそう思われたいものだ。（や）

夏のスピード

収録 シングル「もう恋なんてしない」(92.5.25)

アマ時代からの持ち歌。「Witch hazel」の原型のような泣きメロに乗った青く切ない歌詞には「ANSWER」に匹敵する詩情が。「HAPPY DANCE」系のエスノ風アレンジもこのへんから？（西）

26th

「花火の夜」(02・8・7)ワーナー

27th

「これはただの例え話じゃない」(02・9・26)ワーナー

28th ※S28

「Wow」(03・2・13)ワーナー

29th ※S29

「君の名前を呼んだ後に」(03・5・21)ワーナー

30th ※S30

「Good Morning!」(03・6・25)ワーナー

CamScannerでスキャン

夏は憶えている

アルバム「EXPLORER」(04.8.11)
B2

デビュー当初から多重録音によるコーラス・ワークには定評のあった槇原だが、ここではついに御本尊とも言うべきビーチ・ボーイズ風のサウンドに挑戦。彼らのトリビュート・アルバムに参加したことが契機になっているのだろうが、「夏」と「イノセントな子供時代」いうテーマも見事にマッチしている。エンディングで「Good Vibrations」のフレーズを奏でるテルミン音は、高野寛に本物を弾いてもらうスケジュール的な余裕がなくシンセサイザーで代用したという。 (榊)

涙のクリスマス

アルバム「君は僕の宝物」(92.6.25)
シングル「北風～君にとどきますように～」(92.10.25)カップリング

ピアノ風音色のイントロにストリングス系のシンセが絡んでくる典型的なデイヴィッド・フォスター調バラード。"冬男"として知られる槇原だがクリスマスそのものを歌った曲は意外と少ないかも。 (榊)

ぬ

濡れひよこ

アルバム「太陽」(00.11.29)

全レパートリー中で最もYMO（教授）色の濃いサウンドを聴かせる曲。〈ゴボウを笹掻き〉の生活感も矢野顕子的。以前のアルバムに入っていれば"変だけど可愛い曲"で済んでいたかもしれない。 (榊)

ね

猫がふんじゃった

アルバム「SELF PORTRAIT」(93.10.31)

「猫ふんじゃった」の逆型タイトルは、日常の何げない幸せを壮大なサウンドで捉える相反性を備えた楽曲。往年のハリウッド恋愛映画サントラ的とも言える、ジャジーでスウィンギーな音にウットリ！ (宮)

は

ハトマメ~Say Hello To The World~

アルバム「EXPLORER」(04.8.11)

「さんまのスーパーからくりTV」の出演者が結成した「The Students」に書いた楽曲のセルフカバー。モータウンを連想させるような、ソウルフルなダンス・ナンバーだ。 (宗)

花火の夜

シングル(02.8.7)
アルバム「本日ハ晴天ナリ」(02.11.7)
B8

青春時代にときどきあった「ずっとこのままでいたいな」という感覚を思い出させてくれるこの曲は、数々の「ギャップ」をはらんでいる。花火特有の、長い静けさと一瞬の華やかさ。浴衣を着た彼女の、昼間とは違う顔。苦労を知っている相手と、まだ子供のような自分。そして、ノスタルジックな和の歌詞と、激しいラテンのビート。誰にでも覚えのある花火大会での思い出を、あえてバラードにせず、激しく寂しげなラテン・ビートに乗せたのが、切なさを増した。 (吉)

花水木

アルバム「PHARMACY」(94.10.25)
B2 B4

アルバムのみの収録曲であるのに、ファンの間でこの曲を愛する人は多い。コンサートで槇原のキーボードによる弾き語りを聴いて、この歌のよさを実感したと同時に、アコースティック・ヴァージョンも最高だと感じた。2004年3月には、5人組コーラスグループのア・カッペラーズがカヴァーをしている。最後のデートに臨むというシーンが物悲しいだけでなく、「ハザード」「花水木」「ペインター」といった言葉が彼の描写にリアル感をプラスしている。 (や)

春よ、来い

カヴァー・アルバム「Listen To The Music」(98.10.28)

94年発表の松任谷由実のNHK朝ドラ主題歌がオリジナル。印象的なピアノのイントロはそのままに、アコースティック・ソウル風に。優しく繊細なメロディがマッキーの素直な歌声にピッタリ。 (上)

ひ

ひまわり

アルバム「君は誰と幸せなあくびをしますか。」(91.9.25)

冬に幸せだった二人が、夏には冷めてきてる。それを丸ごと受け入れ「でもあの気持ちは本物で、大切だった」と肯定する槇原。正しい。たぶん当時22歳の若さだと思うが、その達観ぶりがすごい。(吉)

ふ

ファミレス

シングル「Are You OK?」(91.10.26)カップリング
アルバム「Home Sweet Home」(91.11.21)

オープニングと間奏にハーモニカが鳴る、穏やかなミディアム・スロー。何げない日常の大切さを打ち出したマッキー節が、ところどころ強調された作り。ラストは「ラララ…」のコーラスで締める。(宮)

武士は食わねど高楊枝

アルバム「EXPLORER」(04.8.11)

リストラされた上、妻に家出された夫が育児をする。江戸時代の浪人みたく「武士は食わねど高楊枝」。笑いとペーソス溢れるミディアム・テンポの楽曲だ。ファルスを持たない父性愛に乾杯！ (町)

2つの願い

シングル(94.5.25)
アルバム「PHARMACY」(94.10.25)
B1 B5 B8

シングル・アルバムと二つのヴァージョンがあるが、どちらもそれぞれ人気がある。曲の解釈としては「電話は来ないまま二人は別れてしまった」という解釈がファンの共通であるが、僕は「電話が来ないなら直接会いに行って話をしてみよう」と「着替えをしてドアを開けて」出掛けた。という解釈をしている。今まで"運""成り行き"ですごしてきたが、自分から行動を起こすことによって「願いは自分で叶える」と前向きに動き出した主人公の意思の強さを感じる。 (T)

冬がはじまるよ

シングル(91.11.10)
アルバム「君は僕の宝物」(92.6.25)
B1 B5 B8

出だしのハーモニカとサビの「冬がはじまるよ」がとても印象的なラブソング。1クールのトレンディ・ドラマのように、8月の「君」の誕生日から、秋を経て、冬が始まるといった時間の経過が描かれる。「どんなときも。」の大ヒット後にシングルでリリースされたのでどうなることと思いきや、これまた大ヒットし、槇原の人気を決定付けた。個人的にこの歌を口ずさんで91年の幕を閉じた印象がある。「これからもよろしくね」と恋人に言いたくなる王道ラブソングだ。 (町)

31st

「優しい歌が歌えない」(04・4・28)東芝EMI

32nd

「僕が一番欲しかったもの」(04・7・28)東芝EMI

33rd
「明けない夜が来ることはない」(05・5・18)東芝EMI

➡ オリジナル・アルバム

1st

「君が笑うとき君の胸が痛まないように」(90・10・25)WEA

2nd

「君は誰と幸せなあくびをしますか。」(91・9・25)WEA

槇原敬之 勝手に全曲ガイド

ほ

僕が一番欲しかったもの

収録
シングル(04.7.28)
アルバム『EXPLORER』(04.8.11)
L2

イギリスの男性グループBlueに提供した楽曲「The Gift」のセルフカヴァー。とはいえ、カヴァーするにあたって歌詞内容も変えた、とのこと。また、ドラマ「ラストプレゼント」の主題歌にもなった。さまざまな人たちと出会い、調和していく上で大事なのは、相手のことを思いやることである、という。誰かのことを思い、誰かのためにすることで、その人を幸せにするだけではなく自分も幸せになれる。まさに「情けは人のためならず」の言葉の意味をわかりやすく伝えている。 (や)

僕の彼女はウエイトレス

収録
アルバム『君は誰と幸せなあくびをしますか。』(91.9.25)
B1

ダンサブルなメロディに流されて忘れがちだが、詞の濃度が尊敬に値する。〈寄り添う2人の髪が／同じ香りになる夜も〉という一節だけで「同じシャンプーを使っている」=「半同棲中」という二人の状況を理解させる。相手を喜ばせるためなら雨も降らせてやるという、若さゆえの無敵な感覚が気持ちいい。ちなみに、アルバム2作目にして初めて、恋の相手を「彼女」と表現した歌でもある(それまでは全部「君」という表現で、男女の区別のない歌を作っていた)。 (吉)

僕のものになればいいのに

収録
シングル『モンタージュ』(97.10.29)カップリング
アルバム『Such a Lovely Place』(97.11.21)
B6

彼氏がいる女性への恋心が抑えきれない苦悩と自虐を、意外なほどサラリとけだるいメロディで歌うのが、空元気や空虚な空気を醸し出す。おさえめな歌声もそれを後押し。マッキーの鬱系代表曲。(上)

僕は大丈夫

収録
アルバム『君は誰と幸せなあくびをしますか。』(91.9.25)

ピアノをメインにバイオリンなども取り入れ、オーケストレーションな壮大さを打ち出したスロー・ナンバー。クラシックも当然得意な彼だけど、これぞマッキー流ショパンへのオマージュではないか。 (宮)

本日ハ晴天ナリ

収録
アルバム『本日ハ晴天ナリ』(02.11.7)

数少ない3拍子の歌。誰もが幸せに生きていく権利があり、誰もそれを奪うことはできない、と真正面から平和を願う曲。最後の歌詞が1st.アルバムタイトルと重なっているのは何とも心にくい。 (や)

ま

まだ生きてるよ

収録
シングル(96.11.18)
B3 B5 B8

96年夏、巷に「槇原敬之死亡説」が流れた。新曲「どうしようもない僕に〜」でTVに出た槇原は、噂を一笑に付し、そのわずか数週間後にこれを発表。ジャケはスポーツ新聞風。要するに悪ノリ。 (吉)

まだ見ぬ君へ

収録
『UNDERWEAR』(96.10.25)
B2

未来の恋人へ宛てた川端康成の「掌の小説」のような味わい深い小品。視点はとても繊細で部屋のコーヒーメーカーまで体温を感じさせる。〈愛のようなものじゃなくて／愛をあげたい〉。至極名言。(町)

まばたきの間の永遠

収録
アルバム『君は僕の宝物』(92.6.25)
L1

シンセ・ベースが唸る「NG」以来のマッキー流ブラコン・サウンドの第一次完成型。スタイリスティックスを意識したという英語詞コーラスも効果的だが、小倉博和による多彩なギター・プレイが光る。(榊)

迷わない羊

収録
アルバム『太陽』(00.11.29)

ジャジーなピアノ、ウッド・ベース、ドラムスに槇原のヴォーカルが絡み、エレキが効果的に挿入された大人ムード漂う必聴ナンバー。嘘吐きな君に吐いた捨てゼリフが槇原らしく思わずニヤリ。 (町)

満月の夜

収録
アルバム『君は誰と幸せなあくびをしますか。』(91.9.25)

ラジオのSEからスタートする、ミッドナイト向きのAORタイプの曲。パーカッションほかのサウンド作りに、マイケル・ジャクソン＆ポール・マッカートニー「ガール・イズ・マイン」を思い出した。 (宮)

み

ミス・ブランニュー・デイ

収録
カヴァー・アルバム『Listen To The Music』(98.10.25)
B6

ご存知サザンオールスターズの84年の大ヒット曲。桑田の発声法とは対極的な素直で滑らかな槇原の声が、曲をより瑞々しく仕上げる。〈誰のため本当の君を捨てるのCrazy〉という叫びが切ない。 (吉)

も

もう恋なんてしない

収録
シングル(92.5.25)
アルバム『君は僕の宝物』(92.6.25)
B1 B4 B5 B8 L1

「どんなときも。」の絶大なヒットは、同時に「どうせまた一発屋じゃ…」という空気を醸し出した。が、本作はそれを完全に覆す。当時のオリコンで最高2位にまで上ったこの曲は、図らずもライバルとなった米米CLUB、CHAGE&ASKA、浜田省吾といった人たちの歌に比べ、ダメ男っぷりがあまりに正直だった。一緒に暮らしていた恋人が出て行った後、「男らしく潔く」を目指しながら、相手の歯ブラシ一本捨てるのにも戸惑っている。弱い男の本音を「魅力」に転化した一曲。 (吉)

モグラの詩

収録
シングル『これはただの例え話じゃない』(02.9.26)カップリング
※初回盤のみ

ギタリスト小倉博和がドラマ「透明人間」のサントラに提供した曲をカヴァー。槇原アレンジには珍しいビートルズ(をマネたブリット・ポップ)っぽいサウンドと楽しそうな歌唱が新鮮だ。 (西)

桃

収録
シングル(01.4.25)
アルバム『Home Sweet Home』(01.11.21)
B7 B8 L1 S28

事件後最初のシングル。キャッチーなフレーズがまったくなく、にわかには意味すら取れないこの歌、初めて聴いたときには失望した。反省を表現したいのだろうが、これは地味すぎで説教くさいぞ、と。しかし何度か聴き重ねるうちに、槇原が丁寧に織り込んだ言葉の意味がつかめてくる。熟れた桃の薄皮をそっと剥くときに感じるような、ザラッとしているのにどこか繊細な内省。シングル「Wow」併録の「2003飯尾芳史MIX」は、音は楽しいがその辺を聴き流ししがち。 (吉)

3rd

『君は僕の宝物』 92・6・25 WEA

4th

『SELF PORTRAIT』 93・10・31 WEA

5th

『PHARMACY』 94・10・25 WEA

6th

『THE DIGITAL COWBOY』 95・7・25 ワーナー

7th

『UNDERWEAR』 96・10・25 ワーナー

CamScannerでスキャン

COLUMN #7

韓流スターにハマるように、恋の基礎をいとおしむ

マッキー・ソングの「僕」に惹かれる理由

マッキー・ソングの「僕」は、いつだって純粋無垢だ。
こんな純愛っぷりが有効なのは、恋愛初心者ではなく、むしろ百戦錬磨の大人たちに対してだ。
そう、現実ではありえないからこそ。

文▶島田[illegible]子［フリー文筆家］
イラストレーション▶玉城雪子

〈僕がコンパに出席／このこと事態が革命的なんです／真面目ひとすじなんです／他の女の子には興味なんてなくて図書館で見かけてるあの子に片思い〉(「困っちゃうんだよなぁ。」)

〈ひとめみたとき／僕は生まれて初めて／自分の耳が赤くなっていく音を聞いた〉(「モンタージュ」)

「僕」の恋の始まりはいつも、捨て猫のようなオマエを都会の片隅で抱きしめたりする、オレとオマエのロック・ワールドにはとうてい描かれない、静かで古典的な出会いだ。友達の彼女を好きになっても連れ去ることもしないで切なく想うだけの「僕」。デパートの1階を何気なく歩いてたら君の香りを見つけて、なんだか照れてしまう「僕」。紙くずを投げ入れたり、横断歩道を渡るときに何かひとつルールを決めて願いをかける「僕」。今年の冬もそれからもずっと一緒に過ごせるためのおまじないだと、8月生まれの彼女に半袖と長袖のシャツをプレゼントする「僕」。

純愛にキュンとなる自分を楽しんでみたり

不純物の見つからないまっすぐな声で歌われる「僕」は、誰がプロファイリングしたとしても、浮かび上がるのはまず確実に好青年だろう。一人で落ち着きたいなら居酒屋よりはコーヒーショップ、夜中に欲しくなるのはバーボンじゃなくてドーナツ……恋をするには多少危険な香りというものもあったほうが良かろうが、マッキーの楽曲に登場する主人公は、さらにエロ皆無の純粋無垢な男だ。出会って恋をしてときめいて、思いを伝えて思いはつのって、すれ違ってケンカして追いかけて、終わった恋からもなかなか抜け出せない……そう、これは、勢いでなんとなく付き合ってはなし崩しに別れたりする汚れた大人が今一番憧れる、純愛なのだ！

〈あの日地下鉄の改札で／急に咳が出て／涙にじんで止まらなくなった／君と過ごしてたさっきまで噛みたいだね／もう帰る時間だよ〉(「ANSWER」)

そんなに別れがたいんだったら、どっか泊まればいいじゃん！と思うところだが、このあと、僕と君は2人の腕時計を並べて手のひらを重ねたり、手すりを越えて思わず抱きしめ合ったりする。「電車男」の中にあるようなないような展開だ。「世界の中心で、愛をさけぶ」のドラマ版の中で、朔太郎より3カ月早く誕生日を迎えるアキがこんなことを言っていた。「待ってたの。私はずっとサクのいない世界でサクが生まれるのを待っていたのよ」。そしてマッキーの楽曲の中にはこんなフレーズがある。〈子供の頃の写真を君に見せたとき／当たり前だけど自分がいないから悔しいと言ったね〉(「No.1」)。

子育てすら終了した女たちが、どんなときもエンジェルスマイルを見せてくれる韓流スターにハマるように、現実の世界ではもはや出会うことができないファンタジックな「僕」の純愛っぷりに、汚れを知った大人は惹かれてしまう。過去の初恋に思いを馳せてみたり、バーチャルな純愛にキュンとなる自分を楽しんでみたりしながら、忘れていた恋の基礎を思い出しているのだ。☆

「困っちゃうんだよなぁ。」「モンタージュ」「ANSWER」「No.1」作詞・作曲：槇原敬之

CamScannerでスキャン

槇原敬之
勝手に全曲ガイド

モンタージュ

シングル〔97.10.29〕
アルバム『Such a Lovely Place』〔97.11.27〕

稲垣&江角のドラマ「恋の片道切符」主題歌。キーを上げた細い歌声が、ロック的なビートの疾走感が、図らずも落ちてしまった恋の心細くも浮かれた気分を鮮やかに演出する。絶妙なヴォーカル・ディレイ。〈僕は生まれて初めて／自分の耳が赤くなっていく／音を聞いた〉というケレン味のある歌詞など、槇原の得意技が満載。この曲の派手さは、前作「素直」の地味さとの意図的なコントラストとして捉えると腑に落ちる。PVにも前作の人形が出てきたしね。（西）

や

優しい歌が歌えない

シングル〔94.4.28〕
アルバム『EXPLORER』〔94.8.11〕

アメリカン・ロックを連想させるようなギターを前面に押し出したサウンドが新鮮。そして、自分の中の暗闇をストレートに吐露している歌詞が衝撃的だ。こうした苦悩をテーマにしながらも、クオリティの高いポップスに昇華できることは、槇原敬之が才能ある音楽家であることの証拠に他ならないだろう。筆者は、この楽曲によってやっと彼の「事件」が清算されたかのような感慨を抱いた。激しい葛藤を乗り越えた人間だからこそ生み出せた楽曲だろう。（宗）

ゆ

雪に願いを

シングル〔93.11.26〕
アルバム『SELF PORTRAIT』〔93.10.31〕

槇原から贈られた93年のクリスマス・ソングは、彼らしい歌詞で心が温かくなり、誰でも優しい気持ちになれる。〈例えば一人の夜でも／君のことを思っている人は／必ずいるから〉って詞は「一人身の孤独な君だってメリー・クリスマスなんだよ」ってことだよね。老若男女、あらゆる人が幸せでありますようにと。槇原のメッセージはとてもシンプル。サビの〈TWINKLE' LITTLE WHITE SNOW〉が可愛いし、槇原の歌声はすがすがしく伸びやか。神様まで届く歌声だよ！（町）

A

After calling your name

シングル『Good Morning』〔93.6.25〕カップリング

※「君の名前を呼んだ後に」英語ヴァージョン

AFTER GLOW

アルバム『君は誰と幸せなあくびをしますか。』〔91.9.25〕

リズミカルなハーモニカが入った、清涼感あるミッドテンポ・ナンバー。マッキーは洋楽もチェックしていたらしいから、ホール&オーツの「ONE ON ONE」やS・ワンダーなんかが意識下にあったのでは。（宮）

AMAZING GRACE

アルバム『本日ハ晴天ナリ』〔02.11.7〕

アルバムのタイトル曲に引用するアイデアが先にあって冒頭でカヴァーしたのだろうが、歌詞の内容があまりにも槇原の心境にフィットしすぎ。トラッド趣味とゴスペル志向のリンクを象徴する楽曲。（柳）

ANSWER

シングル〔91.4.25〕
アルバム『君が笑うとき 君の胸が痛まないように』〔90.10.25〕

槇原敬之の美メロの出発点。「絶対に離したくない」という想いをイントロのピアノにのせてなぜか悲しげに槇原は歌い出す。それが聴き手の心を切なくさせる。主人公の二人は幸せになって欲しかったのに、この曲のアンサーソングである「EACH OTHER」で別れてしまう。二つの曲をセットで聞くと、どうしようもなくつらくなる。できればこの曲はこの曲で終わらせて欲しかった、と思っているファンも多いはず。デビュー前から歌われていた名曲である。（T）

Are You OK?

シングル〔[illegible]〕
アルバム『Home Sweet Home』〔01.11.21〕

昨今のスウィング・ブームを先取りしていたのか！と驚きの1曲。ブロードウェイやミュージカル映画を見るような、ゴージャスなスウィング・ポップ・ナンバー。ホーン・セクションが自在に鳴り響いて胸がときめく仕上がりだ。ハリー・コニックJr.と往年のグレン・ミラー・オーケストラが競演しているのかと錯覚を覚えるほど。主人公が巻き込まれる因果応報のドラマを、次々に場面転換して見せていく歌詞とスピーディーな曲展開は、これ以上ないくらいにハマっている。（宮）

B

BLIND

シングル『HAPPY DANCE』〔98.7.29〕カップリング
アルバム『Cicada』〔99.7.7〕

「秋の気配」「さよなら」といった小田和正作の名曲を思わせる、「相手を愛せなくなった自分」と「終わる恋」の歌。槇原の曲には珍しい立ち位置。辛いが、もう戻れないことは自分で分かってる。（吉）

Boy, I'm gonna try so hard

アルバム『EXPLORER』〔94.8.11〕

マッチョに生きることだけが父親の役割ではない。子供と分かち合える貴重な時間も大切。そうした「スローな生き方」の提案として捉えうる名曲。槇原のやさしい歌声に父子ともに癒されます。（町）

Bye Bye Cowboy

アルバム『THE DIGITAL COWBOY』〔96.7.25〕

インタールード的なインスト。野外録音っぽい音像とドラマチックな展開が映画音楽的だが、酔っ払いカウボーイが歌ってるみたいな♪ニャーラララーも槇原？なんだろなきっと。立派。（西）

C

CALLIN'

アルバム『君は誰と幸せなあくびをしますか。』〔91.9.25〕

これはビックリ、小田和正「ラブストーリーは突然に」のイントロかと思った。考えるに、仮想でTVのトレンディ・ドラマの主題歌を作ろうとしたらこうなった、みたいな。電話のSEはきっとおまけね。（宮）

8th

『Such a Lovely Place』97.11.27 ワーナー

9th

『Cicada』99.7.7 SME

10th

『太陽』00.11.29 ワーナー

11th

『Home Sweet Home』01.11.21 ワーナー

12th

『本日ハ晴天ナリ』02.11.[illegible] ワーナー

CamScannerでスキャン

Cicada

アルバム「Cicada」('95.7.7)
B7

情感だけの曲かと思えば、今になって気がつく。「真っ暗な土の中」で「まだ見ぬ太陽の光を信じて」いたのは、セミではなく槇原自身だったのか。そして深い闇がやってきて、次に「太陽」が昇る。 (吉)

CLASS OF 89

シングル「遠くの恋人」('91.4.25) カップリング

やさしくて切なくなる、きれいなバラード。「来年結婚する」と大人になっていく昔の彼女と、変わらない自分自身。それが対比されるのだけれど、あくまで前向きで、それがまた心をくすぐる。 (や)

Cleaning Man

アルバム「Such a Lovely Place」('97.11.21)

主人公はレストランの掃除係。仕事はたいしたことないかもだけど、小さな幸せを集め、ちゃんと喜ぶことができる。夢はいつかその店に席を取り、愛する彼女を招くこと──こいつ、いいヤツだ。 (吉)

CLOSE TO YOU

アルバム「君が笑うとき 君の胸が痛まないように」('90.10.25)
B3（英語ヴァージョン）

本人のラジオ番組名にもなったこの曲は、ファンにはなじみ深い題名。初期の槇原はとにかく"打ち込み音楽"だった。DTMやその前の時代のMTR（マルチトラックレコーダー）をかじったことのある人なら、一度はこういう曲は作ったことがあるんでは？と思うほど"打ち込み音楽の基本"。ベスト「SMILING Ⅲ」に英語ヴァージョンがあるが、こちらは完成度がとても高い。 (T)

Cowboy

シングル('95.7.15)
アルバム「THE DIGITAL COWBOY」('95.7.25)
B1 B4 B5 B6 CG S30

「THE DIGITAL COWBOY」では全体で自由の象徴としてのカウボーイ像を追求したが、そのテーマのようなカントリー調の英語曲。同アルバムのデザインを手がけたイギリスのMe Companyがビデオも制作。(阮)

D

DANCING IN THE RAIN

B7

※「RAIN DANCE MUSIC」英語ヴァージョン

DARLING

アルバム「PHARMACY」('94.10.25)
B3 B4

当初は「PHARMACY」の先行シングル用につくられた曲（94年10月の「笑っていいとも！」にて本人談。結局周囲の勧めで「SPY」がシングルに）。なるほど、シングルで出しても売れそうな、ハッピーなメロディとかわいい歌詞。自分よりちっちゃな恋人が拗ねたり怒ったりするのに手を焼きつつ、もっと大事にしてあげようと決める男の優しさ。キャップをキュッと後ろ向きにするのがキスの合図とか、どこのカップルにもありそうな小さなお約束事が微笑ましい。 (吉)

David

カヴァー・アルバム「Listen To The Music」('98.10.28)
B7

名盤「峠のわが家」で披露された、マッキーが敬愛する矢野顕子の曲。アコースティックなボサノバ調の曲を、リラックスしたボーカルで歌う。彼女がもし男だったら、おそらくこんな歌唱だったはず。(宮)

Day And Night

アルバム「THE DIGITAL COWBOY」('95.7.25)
B2 CG

オリエンタルなフレーズがあちこちで顔を覗かせる、ゆったりとしたバラード。R&B／ソウルの中のオリエンタリズムを本場東洋人のマッキーが試みると、その距離の遠さが実感できるという面白さ。(阮)

E

EACH OTHER

アルバム「君は誰と幸せなあくびをしますか。」('91.9.25)
B2

名曲「ANSWER」の"ANSWERソング"。〈あの日地下鉄の改札で〉、同じ場所なのに気持ちが違うだけで全く別のものになってしまう。少し明るめのアレンジが悲しさを更に強調している。 (T)

F

Fan Club Song

[illegible]

槇原には珍しいストレートなロック調サウンドを聴かせるパーティ・ソング。4thアルバムあたりからこの種のコミカルな路線が必ず1曲は入っているが、これはその中でも素直に楽しめるほう。 (柳)

FISH

アルバム「君が笑うとき 君の胸が痛まないように」('90.10.25)

マイナー系の歌謡曲テイストがそこはかとなく感じられ、80年代に安全地帯やYMOらがアイドルたちに提供したナンバーみたい。水族館の魚に例えられる彼女もまた、歌謡曲にふさわしいヒロインだね。(宮)

Forget-me-not

V.A.「"BLUE" A TRIBUTE TO YUTAKA OZAKI」[illegible]

オリジナルは、1985年にリリースされた尾崎豊の3作目「壊れた扉から」に収録。情熱的な原曲に比べて、穏やかなアレンジとボーカルで、想いが滲み出てくるようなカバーに仕上がっている。 (宗)

G

Going Home

アルバム「太陽」('96.11.29)

口笛のメロディをピアノがリフレインし、近藤久美子のヴァイオリンが重なるイントロが美しい情緒溢れる楽曲。望郷の想いが「花」に仮託され、胸に迫る。間奏のジャズ風味もアレンジの妙。 (町)

Good Morning!

シングル('93.5.25)
B4

本当の人としての幸せのきっかけとして、日常的な行いである挨拶をとりあげ、その大切さと効力を歌う。コーラスとPVにはK-1の角田信朗氏が参加。カップリングには英語バージョンもあり。 (や)

Good Vibrations

※槇原敬之with高野寛

V.A.「BEACH BOYS BEST OF TRIBUTE」('98.4.4)

ビーチ・ボーイズの67年のヒット。高野寛のテルミンや管弦楽を迎えて、コーラスはすべて自分で……とくりゃ、狂気のブライアン・ウィルソンであり悲運のアルバム「スマイル」だ。本気かマッキー。 (西)

「EXPLORER」94・8・11

→カヴァー・アルバム

「LISTEN TO MUSIC」98・10・28 ソニー

→ベスト・アルバム

※B1

「SMILING ~THE BEST OF NORIYUKI MAKIHARA~」97・5・19 ワーナー

※B2

※B3

※B4

（写真左から）「SMILING Ⅱ ~THE BEST OF NORIYUKI MAKIHARA~」('97.9.25)ワーナー／「SMILING Ⅲ ~THE BEST OF NORIYUKI MAKIHARA~」('98.5.13)ワーナー／「SMILING GOLD ~THE BEST&BACKING TRACKS~」('99.2.24)ワーナー

CamScannerでスキャン

H

HALF
※C.M.C.

V.A.「(SOUND TRIPPER) TAPE 1」(01.3.21)

C.M.C.というユニットで、85年にFM番組「サウンドストリート」に応募した曲。マイナーの打ち込み音に乗せ、「半分大人の僕と君」を濁った声でじれったそうに歌う。サビでのシャウトはまるで別人。（阮）

Happy Birthday Song

アルバム「Home Sweet Home」(01.11.21)
L1 L2

タイトルを見ただけでは、単なる誕生日のお祝いソングのように思えるが、実際の内容はもっと奥深い。人生は山あり谷ありで大変だし、それが当たり前なんだ。でも誰かのために喜んでもらえることをすれば自分にも嬉しいことが舞い戻ってきて、自分の人生を変えることもできる。そして最後には自分が生まれてきたことを喜び祝いたいね、と。そんなふうに人生を前向きにとらえた気持ちを、ブラスの入ったにぎやかなアレンジにのせて歌っている。（や）

HAPPY DANCE

シングル(98.7.23)
アルバム「Cicada」(99.7.7)
B6 B7 B8

タイトル通り、ダンサブルに切り込んでくるミディアム・アップなトラックだけど、カルメンチックな哀愁感を持った歌謡曲風味のポップ・ナンバーだ。間奏ではテクノをフィーチャーした。そんなサウンドが奏でる哀切さに呼応するように、詞的にも、いつも見慣れた公園での二人の踊りは噛み合っていないし、当然のごとくハッピーではない。ただし、あくまで別れをストレートに詠み込んでいないあたりが、タイトルも含めて新しいマッキーのセンスと言えるのではないか。（宮）

Happy Ending

アルバム「EXPLORER」(04.8.11)

家族への愛情をテーマにしたこの楽曲を初めて聴いたとき、槇原敬之が敬愛する矢野顕子を真っ先に連想した。そのぐらいこの楽曲は悲しくて、優しく、そして温かい。（宗）

Hey Yo!

アルバム「THE DIGITAL COWBOY」(96.7.25)

英語アルバム「THE DIGITAL COWBOY」の冒頭を飾るインスト曲で、「Cowboy」のサビのフレーズに、シンセのストリングス音をかぶせ、宇宙の広がりを感じさせるスケールで続く物語の扉を開く。（阮）

Home Sweet Home

アルバム「Home Sweet Home」(01.11.21)
L1

「居場所は探すのではなく、自分でつくるもの」「そこに他の人も入ってきてくれるようにしよう」――かつて「居場所」を失ったことのある槇原が出した、たぶん本心からの答えだ。それに気づいたのが嬉しくてたまらないかのように、音作りはポップで賑やか、声も朗々と広がる。数多くある同タイトルの曲が過去に向かった望郷歌であるのに対し、槇原の「Home Sweet Home」は未来に向かう。人と一緒に楽しみながら生きていきたい、そんな気持ちにさせられる。（吉）

HOME WORK

アルバム「PHARMACY」(94.10.25)
B3

中期の作品の中で代表的な槇原節。ただの“ラブソング”とは違う、良い意味での“利己的恋愛ソング”は、聞き手全員を仮想恋愛に引き込んでしまう。主人公と自分の感情をたやすく重ねられる名曲。（T）

Hungry Spider

シングル(99.6.2)
アルバム「Cicada」(99.7.7)
B6 B7 B8

日テレ系ドラマ「ラビリンス」の主題歌。この曲を音楽番組で歌って回った直後に例の事件が発覚し、槇原が順調に歩んでいたドラマ主題歌とかCM曲とかの「王道」が、ここでいったん途切れる。それまでの槇原にない、凡人の共感を拒んだかのような、逃げ場のない歌詞に注目。ともかく、槇原がこの曲である種の極みに達しているのは間違いない。シングルには、セイン・カミュ訳による英語詞バージョンも収録。発音が早口すぎて、槇原自身、生では歌えないと思う。（吉）

I

I ask.

アルバム「太陽」(00.11.29)
L1 L2

自分の中の「もう1人の自分」と対峙し、己を問い質した「太陽」の中で最重要な曲。イントロのメロディアスな調子から一転して突き進み、緩急をつけたサウンドに乗せたハードな歌詞が心に突き刺さる。痛み、怖れなど人間の負の面をここまで抉り出し捉え切ったことを、単に槇原の「心の痛み」の表現だとするのは間違いだ。彼の自戒はあくまで他者の「心の痛み」に対するレスポンスだということ。これが肝心。歌詞を完成させるまでに1カ月以上かかったという。（町）

I Can Feel Your Heart

アルバム「THE DIGITAL COWBOY」(96.7.25)

ディズニー映画の主題歌みたいなブラコン風バラード。作詞はリンダ・トンプソン(!)。オケを生音に差し換えてブライアン・マックナイトあたりが歌ったら、全米ヒットしても不思議じゃない。（西）

I got a friend.

アルバム「本日ハ晴天ナリ」(02.11.7)

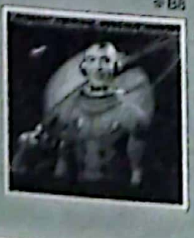
エンディングで本歌取りのようにジェイムズ・テイラー(キャロル・キング作)の「You've Got a Friend」が引用される友愛ソング。ギター中心のオーガニックな音作りに心が和む逸品。（榊）

I need you.

シングル「どうしようもない僕に天使が降りてきた」(96.9.25)
カップリング
アルバム「UNDERWEAR」(96.10.25)

困ったときにしか連絡してこない。退屈なときにしか会ってくれない。あきらめようにも、その笑顔を見たらやっぱりどうしようもなく好きなんだ――(超訳)。叶わぬ恋の苦しさを歌うマッキー真骨頂の切ない系ラブソング。シングル「どうしようもない僕に天使が降りてきた」のカップリングよりアルバム・ヴァージョンのほうが明るめのアレンジになっているが、暗さが曲の切なさを強調するシングル・ヴァージョンのほうがファンには根強い人気がある。（上）

※B5
※B6
※B7

※B8 
『Completely Recorded』(04.6.25) ワーナー

➡ライヴ・アルバム

1st ※L1
『THE CONCERT—CONCERT TOUR 2002 "Home Sweet Home"』(02.5.9) 東芝EMI

2nd ※L2
『NORIYUKI MAKIHARA A SYMPHONY ORCHESTRA "CELEBRATION"』(04.11.25) ワーナー

I'm Not Gonna Fall In Love

アルバム「THE DIGITAL COWBOY」(96.7.25)
B1 CG

ヒット曲「もう恋なんてしない」と同意のタイトルだが、方向は真逆。前者が恋の後の悔いの曲であるのに対し、この曲は恋に躊躇する男の子の、未来ある曲。槇原、前向きになりたかったのだろう。(吉)

If You Believe In Love

アルバム「THE DIGITAL COWBOY」(96.7.25)

デジタル・カウボーイの冒険を締めくくるのはゆったりしたロッカバラード。小倉博和によるギター・シンセのソロが印象的だ。作詞はスティーヴン・ビショップ……ってオイオイ! (西)

~Introduction for Cicada~

アルバム「Cicada」(99.7.7)

ゆったり静かなピアノの音が響き、直後にシンセ、ドラムが続いていくインスト・ナンバー。シカダすなわち蝉をタイトルにしたアルバムへの導入曲らしく、サウンドで蝉の羽音を作り出す妙味が楽しい。(宮)

L

Limit's Of Love

アルバム「THE DIGITAL COWBOY」(96.7.25)
B3 CG

マッキーの80年代EW&F心が爆発したソリッドなファンク。生のホーンズがごきげんなリフを刻む。いつになくドスを効かせたヴォーカルもツボを押さえてる。しかしなぜアポストロフィが? (西)

LONESOME COWBOY

アルバム「PHARMACY」(94.10.25)

50ccの単車を馬になぞらえたイーグルズがやりそうなカントリー・ワルツ。サビメロの展開が「ならず者」を思わせたりもするが"ガソリンは売ってない"は「ホテ・カル」を意識したものだろうか?(榊)

LOTUS IN THE DIRT

アルバム「Home Sweet Home」(01.11.21)
L1

ビートルズ「ミッシェル」などで使われたシタールのエレクトリック版をフィーチャーしたインディー(インド風)歌謡POP。余りやらない早口調の歌い方が新鮮だ。蓮の花が問い掛ける擬人法も快感。(宮)

LOVE LETTER

アルバム「UNDERWEAR」(96.10.25)
B2 B4 L1

「MILK」「PENGUIN」などと並び、アルバム曲の中で票を取ったら必ずベスト5には入るはずの、隠れた人気曲。〈徹夜でつくったテープ〉を届けるくらい好きだった子が、遠くに行ってしまう。でも、〈何回も 何回も/書き直した手紙〉は渡せない。今なら「徹夜で作ったMD」に「送信できないメール」なのだろうが、行為自体がどの時代の若者にも共通のものなので、誰の心にもノスタルジックに響く。あの頃、好きな相手はどうしても自分より偉く見えたっけ。 (吉)

LOVE SPACE

※村上"ポンタ"秀一feat.槇原敬之

村上"ポンタ"秀一「MY PLEASURE」(03.11.3)

村上秀一の30周年記念アルバムに参加し、山下達郎の77年作をカヴァー。ド迫力の歌唱はアルバム全体でも出色だが、若き日の達郎の伸びやかさを思うと、少し重すぎてポップ度低いかも。 (西)

M

Merry-go-round

シングル「STRIPE!」(98.11.26) カップリング
B6

ジングルベルが終始シャンシャン、クリスマスという言葉が出てこないクリスマス・ソング。A面曲「STRIPE!」ともども滑らかな発声を心がけていたようだ。大サビのハイトーンが印象的。 (西)

MILK

アルバム「SELF PORTRAIT」(93.10.31)
B1 B4 L1

"バラード of バラード"。しかし、恋愛の歌ではない。誰にでもいる"心の支え"となる人。その人の温かさを歌った"性別を越えたラブソング"。聴き手が男性でも女性でも自分の感情を素直に曲にのせる事が出来るのがこの曲の人気の秘密だろうか? 曲の解釈としては色々とあるだろうが、最後の歌詞〈君がいてよかった〉この言葉に全てが集約されているように感じられる。上京して一人暮らしを始めたときによく聴いていた。元気をもらったのをよく憶えている。 (T)

MONKEY MAGIC

カヴァー・アルバム「Listen To The Music」(98.10.28)

完全英語詞の洋楽色ある邦楽として、マッキーが78年に出会ったゴダイゴの大ヒット曲。原曲よりシンセ音をゴージャスに繰り出し、ファンキー・ソウル~70'sディスコノリをノリノリで歌い切った! (宮)

My Eyes Adored You

アルバム「THE DIGITAL COWBOY」(96.7.25)

原曲はフランキー・ヴァリ(フォー・シーズンズ)が1975年に放った全米No.1ヒット「瞳の面影」。アルバムのコンセプトを象徴するかのような定番曲だが、ちょっと大胆不敵な挑戦という気もする。 (榊)

N

Name Of Love

アルバム「Cicada」(99.7.7)
B7

槇原のいとこであるROLLYこと寺西一雄に提供した曲のセルフカヴァー。バンドっぽいサウンドにアレンジされたやわらかいメロディに、胸がキュンとするような懐かしさのある歌詞がマッチしている。 (や)

Necessary

アルバム「君は誰と幸せなあくびをしますか。」(97.3.25)

デイヴィッド・フォスターのバラード系サウンド・プロダクツに加え、サビではマイナー・コードにチェンジする哀愁のスロー。パーカッションで雨音を示すなど、細部のこだわりも耳を澄まして聴こう。 (宮)

NG

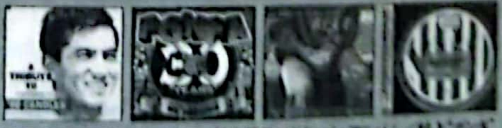
シングル(90.10.25)
アルバム「君が笑うとき君の胸が痛まないように」(90.10.25)
B1 B5 B8

「どんなときも。」へのヒントになったであろう、メロディとストレートな歌い回しでキメるデビュー曲。〈強く責めたあの夜〉などの歌い方が心にクル。ジャパンAORなスパイスと80年代型フュージョン・タッチを併せ持った聴きごたえで、間奏ではエレキが泣いてるよ。前向き系の曲ではなく、お得意の「僕と君の物語」でも破局した恋を振り返る内容で、噂が原因で別れたらしいのは彼には珍しい理由付け。お好みの「雨」を取り入れた詞と歌のテンポが妙にマッチング。 (宮)

➡リミックス・アルバム

「THE DIGITAL COWBOY」(96.8.10)ワーナー

➡参加したトリビュート・アルバムなど



(写真左から)V.A「60 CANDLES」(97.4.23)ファンハウス 加山雄三トリビュート・アルバム/村上"ポンタ"秀一「MY PLEASURE」(03.11.3)ビクター 全曲ゲストを招いた30周年記念アルバム/V.A「"BLUE" A TRIBUTE TO YUTAKA OZAKI」(04.3.24)ソニー 尾崎豊トリビュート・アルバム/V.A「BEACH BOYS BEST OF TRIBUTE」(04.8.4)トーキョーリップスブロー ビーチ・ボーイズ・トリビュート・アルバム

➡デビュー前音源収録作品

V.A「DEMO TAPE 1」

9×Forever

アルバム「THE DIGITAL COWBOY」(96.7.25)
[illegible]

中国語の台詞やカウントが入ったエスニック調。好きな人とのデートの別れ際を惜しんで、「君といれば永遠どころか、永遠の9倍だって大して長くないよ」な～んていう、とても甘酸っぱい曲。(や)

No.1

シングル(93.9.10)
アルバム「SELF PORTRAIT」(93.10.31)
B1 B4 B5 B6

ピアノの音、「123……ふぅ!」の掛け声で始まり、大編成のブラスをフューチャーした93年のヒット曲は「ポップ」の一言。プロモーション・ビデオの槇原の笑顔に思わず「可愛い」とつぶやいた思い出がある(笑)。シンプルなラブソングなんだけど、夕暮れの街で「チョコレイト工場のにおい」がする河原が喚起する心的イメージは、素敵な恋を甘く甘く彩る。槇原が当時目指した「ポップ」を体現した名ラブソングだ。とりあえずみんな、幸せになろう!(町)

O

OCTAVERS

アルバム「PHARMACY」(94.10.25)

ミディアム・アップのドライヴィング・ミュージック。レゲエ風展開も。サウンドに合わせた詞で、僕は昔の仲間とドライヴへ。かつての冒険の話と、大人になった現在とをシンクロさせる構成が絶妙。(宮)

Ordinary Days

アルバム「太陽」(00.11.29)

復帰作「太陽」の最後を飾る、色彩に富んだ楽曲。君の人生には意味があるという主旨の歌詞、アイルランド風のサウンドなど、「世界に一つだけの花」のプロトタイプのようにも感じられる。(宗)

P

PAIN

アルバム「UNDERWEAR」(96.10.25)

故郷で心配する両親が息苦しく、そんな自分が悲しい息子。互いを思いやれば思いやるほど、世代も生活も違う親子のすれ違いが痛みとなる。槇原27歳、等身大の歌。恋よりも奥にある愛の切なさ。(吉)

PENGUIN

アルバム「UNDERWEAR」(96.10.25)
B3 L2 S25

南極で〈君と僕とペンギン〉とで暮らそうと恋人と話していたものの、結局別れてしまった男性が過去を回想している楽曲。ただしこの歌に出てくるふたりの関係は、〈誰も許してくれない〉というものであり、〈一緒に逃げようって泣いた〉〈連れ出さなくてよかった〉とも歌っているのがなんとも暗示的だ。サンプリングと思われるエスニックな歌声が交錯する幻想的なサウンドが心地良く、また聴き手に昂揚感をもたらすメロディ・ラインも秀逸。(宗)

PLEASURE

アルバム「太陽」(00.11.29)
L2 S23 S28

ソリッドな魅力に満ちたサウンドで、グイグイ引き込まれる1曲。「君」との別れがテーマで、恋愛の両義性を「刃物」と「花」で暗喩。槇原の声はシャープで、佐橋さんのエレキも効いてます。(町)

pool

アルバム「Cicada」(99.7.7)
L2

夏の曲といえばビーチやリゾートといった爽やかなものが多いが、この曲は日本の夏独特の湿っぽい空気が感じられる。リズムはサンバなのに「和風」に聴こえてくるのは槇原の才能だろう。(や)

R

Rain

カヴァー・アルバム「Listen To The Music」(98.10.28)

大江千里の隠れ名曲(88年発表)をリサイクル。恋人を〈雑に〉〈抱きしめた〉りする、千里の意外にも粗野な歌を、マッキーもいつもより骨っぽく男っぽく歌い上げる。(上)

RAIN DANCE MUSIC

シングル「HG」(90.10.25)カップリング
アルバム「君が笑うとき 君の胸が痛まないように」(90.10.25)

雨の情景がよく表されていて、絵本を開くかのように物語が進んでいく。実はとても踊れるリズム。これは後のテクノやハウス調(「恋はめんどくさい?」「Home Sweet Home」)の原型だと感じる。(T)

Red Nose Reindeer

シングル「冬がはじまるよ」(93.11.26)カップリング
B2

遠距離恋愛をテーマにしたバラード。クリスマスすらも一緒にいられない、というさみしさがとても伝わる。新幹線を、彼女を無事に家まで届ける「白鼻のトナカイ」と例えるなんてすごすぎる。(や)

revenge

アルバム「UNDERWEAR」(96.10.25)

ブルース・ホーンズビーを思わせるピアノのイントロに導かれて始まる異色作。中盤からは佐橋佳幸によるハードなギターが絡んできて、楽曲の自暴自棄的な表情はさらにヴォルテージを上げていく。(榊)

Running Out Of Daydreams

アルバム「THE DIGITAL COWBOY」(96.7.25)
C3

甘くロマンティックなミディアム・バラード。奇跡を起こして君を取り戻せたらいいのに、という英語詞を明るめにサラリと歌うことで、余計に悲しみが増す玄人技の歌唱が聴ける、大人の味わいの逸品。(阮)

S

Secret Heaven

シングル(96.4.10)
アルバム「THE DIGITAL COWBOY」(96.7.25)
B3 B4 B5 B8 C3

初の英語シングル。ピアノが刻むレゲエのビートをサンプリング音がせわしなく遮断する。当然ながら英語詞だとメロディやコード感も違う。リミックスが正規盤だけでも5ヴァージョンある。(西)

SELF PORTRAIT

アルバム「SELF PORTRAIT」(93.10.31)

ブラスっぽいキーボードの音に導かれて歌うのは、忙しくて疲れ気味の男の日常。周囲の人々へ感謝する男の気持ちも、ダイナミックなサウンドに乗せて歌っている。(宗)

SIMPLIFY

アルバム「太陽」(00.11.29)
L2

シンプルなリズムだけに乗せたポエトリー・リーディングというべきナンバー。人生を簡素化するための責任とは、善悪の判断ができるということだろう。槇原流の泥だらけの「判断力批判」。(町)

SPY

シングル(94.6.25)
アルバム「PHARMACY」(94.10.25)
B1 B4 B5 B8 L2

アグレッシブな曲調で、槇原カッコいいぜ!と唸らせた94年のヒット・チューン。ドラムスが前面に出て、胡弓っぽいサウンドが入るなど、アレンジがイカしている。浮気しているんじゃあないかと、スパイのように彼女をつけたら、高そうな車の横で知らない男とキスをしている場面に遭遇という、まるで短編映画のようなストーリー。聴き手のイマジネーションを膨らませるという意味で、アルバム「PHARMACY」の中で珠玉の1曲。ブラックな槇原もいいね。(町)

CamScannerでスキャン

Star Ferry

収録 アルバム「Cicada」(99.7.7)

香港の名所を舞台にしたナンバーだが、中華風のメロディとサウンドはカヴァー・アルバムの「月の舟」がヒントかも。当時はユーミンみたいに海外へ叙情を求め始めたのかと危惧したものだったが。

STRIPE!

収録 シングル(98.11.26)
アルバム「Cicada」(99.7.7)
B6 B7 B9

二律背反なミスマッチ性が色濃く出たアップ・ナンバー。つまり、サマー的サウンドでクリエイトした、夏に思うウインター・ソングなのだ。角松敏生的なリゾート・ミュージック・サウンドに乗って、〈青い空と白い雪の〉以降のサビを山下達郎的な熱唱ぶりで披露する。韓流映画「八月のクリスマス」とか桑田佳祐の「Merry X'mas in Summer」のような感覚だろう。遠くの町の天気を聞いて、〈僕の周りの温度が少し下がった〉なんて描写からグッと引き込まれるぞ。（宮）

Such a Lovely Place

収録 アルバム「Such a Lovely Place」(97.11.21)
B7

イントロを聴くと、なぜだか一つの物語終わるようなイメージが浮かぶ。地に足つけ、たんぽぽのように根を張って生きいこうと思う力強い決意が、「遠く遠く」続編であるようだ。（や）

ag Team

アルバム「EXPLORER」(04.8.11)

族というのは、神様がわざわざ「いざが起こるように」組み合わせたメンバんだ、という槇原自身の解釈はさすコンサートでは、槇原のフリを真似てしょに踊ろう!（や）

E END OF THE WORLD

バム「UNDERWEAR」(96.10.25)

は語られないが、祝福されない恋愛。〈世界の終わりみたいな顔をしてキる〉寂しげな二人は、〈ダメになるのはて〉いながら、ただ寄り添うことしかで、その切なさ。（上）

Fog

ム「EXPLORER」(04.8.11)

僕の物語」でも「僕が君を探す話」メロディアス・ピアノ・バラードで、ュージック風の曲。声が「さよなら」田和正のボーカルのように聴こえあるような……。（宮）

The Future Attraction

収録 アルバム「Cicada」(99.7.7)

軽快なシンセに乗って展開する、マイナー系ミディアム・アップのポップス。二人で恋に落ちるんだという決意が歌い込まれた。TVドラマや歌に出てくる恋を否定しつつ、本当の恋へと導いていくよ。（宮）

The Lover In You

収録 アルバム「THE DIGITAL COWBOY」(96.7.25)
CG

日本語詞には少ない色っぽい表現で熱い恋心を歌うマッキー。気持ちいいほど70年代ソウルにハマっていて、歌い回しに日本人っぽいクセが全くなく、細部の発声まで完璧に洋楽テイストなのがすごい。（阮）

Turtle Walk

収録 シングル「これはただの例え話じゃない」(02.9.26)カップリング
アルバム「本日ハ晴天ナリ」(02.11.7)

「どんなときも。」と同じ「僕らしく生きていくこと」をテーマとしているが、前者より等身大の自分を捉えた上での更なる力強さが現れている。カメのしっかりした歩みのようなビートが印象的。（や）

24hr Supermarket

収録 アルバム「本日ハ晴天ナリ」(02.11.7)

最近では珍しい純粋なハッピー・ソングに思えるが、ひょっとして大量消費文化批判？　サウンドは80年代っぽい軽めのデジタル・ファンクで、間奏ではYMOの「体操」のフレーズも顔を出す。（榊）

TWO MOONS

収録 シングル「2つの願い」(94.5.25)カップリング
アルバム「PHARMACY」(94.10.25)

ソウルフルなボーカルからいきなり幕開けし、シンフォニックな展開へと続くミディアム・ソウル・ナンバー。ブラコンセンスある英語詞のサビが「一人きりの帰り道」の詞的テーマにピッタリだ。（宮）

Witch hazel

収録 アルバム「SELF PORTRAIT」(93.10.31)
B2 B4 S24

タイトルは「アメリカマンサク」の樹とそこから採れる傷薬「チンキ類」のことだが、言葉を分解してみれば「薄茶色に日焼けした魔女」と意訳できる。いずれにせよ“ひと夏の恋”のヒリヒリとした後味を、まるでヨーロッパ映画みたいに鮮やかな語り口で描いて見せた傑作。楽曲的にはセカンド・アルバムの「3月の雪」に通じるものがあり、槇原にしては歌謡曲的な情感を湛えた作品であるが、メロディもサウンドも哀愁味があるのにどこかドライなところが肝だろう。（榊）

Wouldn't It Be Nice

収録 V.A.「BEACH BOYS BEST OF TRIBUTE」(04.8.4)

ビーチ・ボーイズ「ペット・サウンズ」(66年)の冒頭を飾った名曲を、「ON THE STREET CORNER」スタイル（ひとり多重録音のアカペラ）で。トリビュート盤でもひときわ光る発音のよさ。（西）

Wow

収録 アルバム「本日ハ晴天ナリ」(02.11.7)
B8

子どもが生まれたことの驚きと喜びがテーマとなっている、聴いているだけでハッピーになれる曲。新しい生命という心から愛しいと思える存在によって、自分の生き方や感じ方までが自然と変わってしまう。〈君が生きてゆくために／必要なら命も惜しくない〉とまで思えることがとても幸せなのだ。個人的に出産したばかりの親友に贈りたい。ちなみに最初SMAPに提供した曲が「世界に一つだけの花」ではなくこの曲だったのは、ファンの間では（でなくても？）有名な話。（や）

W

What I wanted the most

収録 シングル「僕が一番欲しかったもの」(04.7.28)カップリング

※「僕が一番欲しかったもの」英語ヴァージョン

WILD RABBITS

収録 アルバム「太陽」(00.11.29)

ダンサブルでビートが効いたナンバー。野ウサギは主人公の心情を事寄せた小動物なのだが、Wild Rabbitsと複数形にすることで、「僕ら」の応援歌となった。雪に閉ざされた北国でも冬を乗り切れ!（町）

Y

You are so beautiful

収録 アルバム「Home Sweet Home」(01.11.21)
L1 L2

斉藤有太のピアノに乗ってマッキーが歌い上げた、ソウルフルにして壮大なバラード。しかも、一発録音でレコーディングしたので、スリルと臨場感がいっぱい。近年、森山直太朗らが「さくら」などで披露している、あのシンプル・イズ・ベストな試みだ。ボーカルが徐々に盛り上がっていくタイプの曲だが、ここでのマッキーはあくまで冷静沈着。ピークもやや抑えぎみに歌っている。主人公の「僕」が心の美しい「あなた」に出会った喜びを、切々と歌い込んで感動的だ。（宮）

CamScannerでスキャン

流行り歌斬り捨て御免！RETURNS

Target Lineup 6

Mr. Children ▶ SINGER SONGER ▶ LIV ▶ オレンジレンジ ▶ BENNIE K ▶ 槇図かずお

Mr. Children

『四次元　Four Dimensions』

諦念を歌っても情感満点、桜井一流の錯覚作用が炸裂

文▶安部薫［ライター］

トイズファクトリー　TFCC-89139
［マキシ］6/29発売

新曲4曲がすべて大型タイアップ付。確かに前半2曲はいやでも頭に刷り込まれているのだが、カップヌードルのCMに使用されている「and I love you」を聴く度に思っていたのは、同じタイアップが付いていた尾崎豊の「I LOVE YOU」のその後の風景を歌ったのではないか、ということだった。

自分達の置かれた状況――完全になり得ない恋――にもがいている純粋な2人を描いているのが尾崎の「I LOVE YOU」。そんな恋の不完全さに痛めつけられた後の2人を描いているのがミスチルの「and I love you」。「I LOVE YOU」には衝動の美しい響きがあるが、「and I love you」の響きはほとんどあきらめ。だいたい「未来」という曲では、〈出会った頃はよかった〉、でも今は〈この別れの予感を　信じたくなくて　光を探している〉と、明るい未来など最初から信じられてはいないのだ。

でも「and I love you」の情感たっぷりな歌は、未来に対する最後の賭け……つまり祈りの響きをたたえており、泣き寸前のファルセットが効いた声は尾崎版「I LOVE YOU」と同じくらいの純粋さをもってリスナーの心に入り込んでくる。ただ、それはただの錯覚ということを忘れてはならない。なぜなら過去の作品が教えるように、「ここまで言えば、やり直すんだろ」と、愛なき世界の住人にして一流ホストの桜井は思っているはずだから。

SINGER SONGER

『ばらいろポップ』

大人なのにピカピカ！ つくづく凄いCocco

文▶齋藤奈緒子［ライター］

ビクター VICL-61651
［アルバム］6/29発売

本作で本格的な復活となるCocco、くるりの岸田繁を中心に、タワレコで限定リリースされた名曲「SING A SONG」で集まったメンバーが、その時の「いい感じ」を生かすべく結成されたバンド、SINGER SONGER。ベクトルは違えど、密度が極めて高いアーティストであるCoccoとくるりだが、その音楽性やキャラクターはあまり持ち込まず、シンプルに、みんなで音楽を作る楽しさを重視する、という点が最大の肝だ。

この原稿を書いてる時点で、このアルバムはオリコン3位を記録。そもそも売れる作品とは、「聴く側が楽しい」度数が「演ってる本人たちが楽しげ」度数より高い、またはイコールの場合が多いが、このアルバムに関しては、プレイヤー側の「楽しげ」が、聴く側の「楽しさ」に勝っちゃってるような気がする。もちろん、Coccoの歌と曲、メンバー個々の能力の高さが、作品の質はガッチリ保証してはいるが、その楽しげ感はこっちが照れるぐらいで、個々のこれまでの濃い作品に精神的な思い入れがある聴き手（含む私）を、つい「見守る」というスタンスに回らせてしまうぐらいに強力なのである。

しかし、ソロ時代にあれだけ血を吐くような曲を作り続けたCoccoの、現在の佇まいというのがものすごく面白い。雰囲気が断然丸く穏やかになってる（＝大人）なのに、世間の手垢にまみれてないというか、大吟醸に使うお米のようなピカピカ、艶々感がある。つくづく凄い、大人Cocco。

LIV

『Mi Vida Loca』

LIV最大の長所にして最大の弱点、それは学♥

文▶阮点生［ライター&編集者］

ユニバーサル UPCH-1416
［アルバム］6/22発売

[illegible]」と口にしたら、頭おかしいんじゃないの？と言わんばかりの軽蔑の表情でみんな見るわ。イケメンだし、LIVだってまあ売れてるし、ドラマで主役だってやるメジャーな芸能人なのに――分かってるわよ。分不相応の妄言を吐くからでしょ。その理由は実は簡単で、学は役者としても全く評価されない。音楽もまともに聴いてもらえない。ブラジルにサッカー留学したけどモノにはならなかった。そう、自信がなくて寂しいから強がって妄言を吐くの。人目を引きたいだけ。ね、可愛いでしょ。

LIVのファンは学のファン。学の顔が好きなの。ラウドロックのファンは学を相手にしない。残念ながらLIVは良き聴衆をつかむことはできないわ。学がLIVにいる限りこの矛盾は解決されないのよ。

LIV最大の弱点は、学のヴォーカル。痩せたチンピラみたいな上ずった声が聞き苦しいわ。音も迫力不足。でも私は学の顔を見て勃起しつつ、LIVの行く末に期待するわ。学が役者としてはみ出し者のように、LIVもJポップ界で見事にはみ出してる。聞き苦しい声と迫力不足の音の中に、私は馴れ合う相手もいない孤独と意地、現状への不満を聴くの。一匹狼の遠吠え。もっと開き直ってはみ出し尽くしちゃった方がいいわね。下手なんだから王道はダメよ。個性で勝負なさい。もっと奇抜になあれ。

CamScannerでスキャン

オレンジレンジ

「ラヴ・パレード」「お願い！セニョリータ」

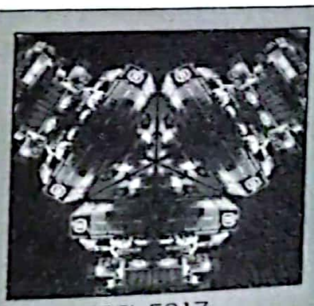
合言葉「パクろうぜ！」はかまわないんだけど…足もと見直して、魂を取りもどしてくれ！

文●[illegible]［ライター／編集者］

たてつづけにシングル2枚。季節は夏、オキナワの夏、ノリにノってるオレンジレンジ……とかなんとか書き出せれば、おれももちっと仕事が増えるんだがな。でしょ？　下[illegible]センセイ。でも、心にもないコトを言ったり書いたりできるのも適性なんですよ。

で、2枚のシングル。どっちもピンとこないんだが、しいて好みを言うなら「お願い！　セニョリータ」のほうだ。セニョリータというスペイン語からベタに連想されるスパニッシュ風味は、イントロのフラメンコ・ギターで18秒。そのあとすぐのドラムのカウンターはサルサ調（どうせなら本格的にティンバーレス使えばよかったのにね）、"ウッ"なんてマンボなかけ声に引っ張られての歌い出し部分は若干音頭調。ただし、サウンドの基本ラインはオールド・ウェイヴなハード・ロック・マナーで、ギターのリフは、ふむ、ジョー・ペリーですかね。でもって、サビんとこは、このままなにかの曲につなげて歌えるなあと口んなかでころがしてたんだが、おれの場合は「渚のシンドバッド」だった。何につながるかは年齢・世代によってさまざまだと思うが、オレンジレンジのパッチ・ワーク的作曲法（パクリとも言う）もなかなかに進歩しているのであるよ。ラテンに音頭に70年代ロックに[illegible]ディーとくれば、おれ的には好きなアイテムばかりなんだが、なんでこんなに響かないかねえ。その理由はただひとつ、心がないからなんだよね、歌に。

パッチ・ワーク手法というなら、桑田佳祐だって奥田民生[illegible]「勝手にシンドバッド」（＝勝手にしやがれ＋渚のシンドバッド）なんてサザンオールスターズのデビュー曲[illegible]。オレンジレンジの例の問題発言「オレたちの中の合言葉は〈パクろうぜ！〉です（笑）」（出典はタワーレコード販促『bounce』でのインタビュー）とそう変わるもんじゃない。ただ、ものは言いよう。桑田は触発された（かもしれない）モトの曲名をタイトルに織り込んだうえで、そのモト曲を一切連想させない別の曲をつくった。モト曲の、その歌の〈心〉に刺激されたという表明なのだ。仏つくって魂入れず、とはよく言ったもので、オレンジレンジは「好きな曲はまずカヴァーして、ここと ここを足して、ここ使ったらバレるからわかんないようにして」なんて、仏のつくり方はとうとうと語るが、魂を込めてないことには全く気づいていない。しかも「（笑）」ときたもんだ。恥、という言葉をキミらは知らんのかなあ。恥という字にも心が入ってるんですけど。



ソニー　SRCL-5917
［マキシ］5/25発売

ソニー　SRCL-5918
［マキシ］6/8発売

いや、オレンジレンジも昔は心入ってたんですよ。インディ盤の「オレンジボール」あたりまでは。「お願い！　セニョリータ」のなかにほんの一瞬、そのころを思い出させる部分があるのだけど、それはウチナーグチ（沖縄言葉）で書かれた2フレーズ。キミらいっぺん沖縄に帰って、好きな曲のパクリじゃなくて、ちゃんとしたカヴァー・アルバムとかつくってみたらどうだ。落とした魂（マブイ）も戻ってくるかもよ。

BENNIE K

「Dreamland」

活きのいい掛け合いで孤独な大和撫子の星となれ

文▶丸目蔵人［ライター］

フォーライフ FLCF-4060
マキシ 6/8発売

カンフー映画に匹敵するオーバーアクト、ノーマン・ロックウェルの絵画にも似た濃い表情。とにかく、見る者にイメージを焼き付ける某清涼飲料の現行CM。その和製ミュージカルをほどよく中和、ビバ・アメリカな方向へ持って行っているのが、このナンバー。2005年夏、おそらく海の家で最も耳にする曲のひとつだろう。

本来、ヒップホップ系のユニットと認知されているYUKIとCICOの2人だが、オンエアされているコマーシャル部分では、むしろカントリー・ロックのシンガーYUKIのソロ・パフォーマンスという印象を受ける。過去、コカコーラ（面倒くさいから言っちゃいます）のCMソングを担当したトランザムへの回帰と思えるほどで、確かにこれは従来の商品イメージをみごとに継承している。

が、本来独立した作品としてつくられた楽曲「Dreamland」は、中盤から俄然立ち上がってくるCICOのラップ込みで聴かなくては意味がない。CMだけで判断していては、石清水八幡宮の本殿を見ず、早とちりで帰った仁和寺の法師。活きのいいオネーチャンたちとしての魅力は、掛け合い&シンクロにおいてさらに相乗効果を生むのだから。

元気な外見とは裏腹に、多くが孤独感に苛まれている。そんな調査結果が出た日本の女子。2人が求められる場はもっと広がっていくはずだ。

楳図かずお

「闇のアルバム／楳図かずお作品集」

ついに蘇った世紀の怪作。聞いてくれ、ちびってくれ

文▶安田謙一［ロック漫筆家］

ソニー・ミュージックダイレクト
MHCL-542［アルバム］6/29発売

漫画家、楳図かずおが75年に発表した唯一のアルバムの……ちびりそうなほどチカラを込めて……待望の、初CD化である。

楳図本人作詞・作曲・歌唱によるオリジナル盤収録の「イアラ」「洗礼」「アゲイン」など自作品の標題からイメージを広げた10曲に加えて、秘蔵テープからの未発表曲、カラオケなどボーナス9曲を加えて、あまりにも美しいスリーヴ・アートを紙ジャケで完全再現、最新インタビューも収録したブックレット……と、文句のつけようのない形での、まさに待望の……あ、ちびった。

もともと、自宅録音のデモテープを持ち込んで……という暴挙から生まれた本盤。「売れていないディレクターに持っていって断られたら腹が立つので、もっとも売れている酒井政利に」テープを渡した、というエピソードも最高。その縁で、本盤はもとより、郷ひろみ「寒い夜明け」など、作詞家としての才能を発揮することとなった。

よく「ホラー」と「笑い」は紙一重と言われる。楳図漫画そのものにもよくその表現は使われる。が、ほんとうに優れた表現とは、そんな風に"見える"ふたつの極だけで語られるものではないことを、『闇のアルバム』は教えてくれる。これらの歌は何も目指していない。何も狙っていない。それが怖くて、それが可笑しくて、それが……。また、ちびった。ゆらゆら帝国が到達した「真空」。ようやく蘇った。ちびってくれ。

"流行歌"で読み解く話題の本

書評でポン

文▶栗原裕一郎［文筆業］

第20回：日本人と英語

槇原敬之が英語のアルバムを出し、その丁寧な発音で世間を驚かせてから10年近く。グローバリズムとITの時代になっていっそう英語のニーズが高まった、と世間は大騒ぎです。あまりに巨大なテーマですが、イッてみましょう！　他人事じゃないしね。

英語が必要な日本人なんてほとんどいないだろ？

え、でも、グローバリゼーションの、というよりアメリカナイゼーションの波に世界が飲み込まれて、ブロードバンドの普及により外国メディアの情報へ接することの重要性が声高に叫ばれたりもしていて、じっさい、小学校への英語教育の導入が国会で真剣に検討されるくらい英語への危機感は募っているわけじゃない？

なるほど。でも、重要な海外ニュースが外電として入ってくるスピードは確実に上がっているので、IT化は、逆に、多くの人にとって英語の需要を減らしているともいえる。

おまけに、IT化はグローバル化を促すようでいて、じつは文化的には鎖国する方向に現状、働きかけている。それは、たとえばブログの状況なんかを見れば一目瞭然だ。

何より日常生活で要求される状況がまるでない。つまり、日本人の多くにとって英語はいまだ、マスターを余儀なくされるのっぴきならない現実ではなく、得体の知れない脅迫観念により幻想のニーズが作り出されている、あえていえば趣味的な教養の位置にとどまっているんじゃないか？

英語は国際化の武器ではない

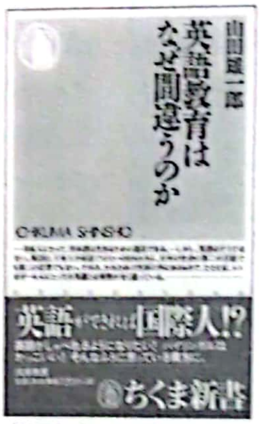
山田雄一郎『英語教育はなぜ間違うのか』（ちくま新書）は、日本というそんな言語文化的に特殊な国において、英語というものへの期待がいかに偏り歪んでいるか、われわれの心を覆う過剰なコンプレックスと強迫観念が日本の英語教育をどれほど迷走させているかについて、論理的に、かつ事実を例に挙げながら説き批判する書である。

さっき、日本人にとって英語は趣味だと書いたが、英語が、「英語帝国主義」と危惧されるくらいに唯一の世界公用語として寡占状況になりつつあるのは間違いない。そうした趨勢において、英語を使いこなせることがこの経済的文化的動乱を生き残るための生命線だという主張はたしかにもっともらしい。日本人は国際化しなければならない、そのためには英語だと。しかし、と山田はいう。国際化とは英語で闘うことなのか？

〈英語で世界と渡り合うと言うが、英語を武器に闘うのは危険である。英語は、強力な武器のように見えるが、それを使いこなし、それで自分の身を守るのは並大抵のことではない。英語を基準に物事を判断するのでは、非英語国が英語国の前に立つことは不可能である。われわれが英語で彼らに勝てるとは、到底思えない。また、このような争いで生まれるのは、英語国を頂点とした階層化だけである〉

国際化とは、国際理解とは、英語（をはじめとする支配的欧米言語）を特別視して縛られることではなく、その言葉をとおして世界に触れることではないか。

そうした理念に基づき、山田は、バイリンガルへの誤った理解、英語公用語論つまり多言語社会化を目指すことの陥穽と実現不可能性、小学校への英語教育の導入、ネイティブ・スピーカー至上主義とそれが引き起こしている弊害を批判していく。



『英語教育はなぜ間違うのか』（ちくま新書）

普段、英語教育のことなんか考えもしない身としては、耳新しいことも多くて勉強になるが、ここではバイリンガルについての見解を見ておきたい。バイリンガル、トリリンガル、マルチリンガル、すげー、頭んなかどうなってんの？と英語に不自由している人間としては素朴に驚くわけだが、最近有力な仮説として浮上しているのは、人間の脳には「共通基底能力（Common Underlying Proficiency）」なる中央管制塔のようなシステムがあって、操る言語が増えても、根っこのところの処理は共通しているという考え方だそうだ。

生成文法とシャドーイング

この考え方の背景になっているのは、おそらく、言語学者ノーム・チョムスキーの「生成文法」だろう。人間はみな普遍文法と呼ばれる言語の原理を生得的に備えていて、日本語とか英語とかはその生成のバリエーションであるとする理論で、幼児が母国語をマスターするシステムの不思議に根ざしている。環境が違っても、みんなだいたい同じように言葉を操るようになるのだから、もともと言語を処理するための装置が組み込まれていると考えた方が合理的である。すなわち言語は社会的に

CamScannerでスキャン

[illegible]

『決定版　英語シャドーイング』コスモピア

『快読100万語! ペーパーバックへの道』ちくま学芸文庫

適当に読めばいいじゃない

リーディング版シャドーイングとでも言うべき方法論もある。

酒井邦秀『快読100万語! ペーパーバックへの道』ちくま学芸文庫は、「辞書は引かない、和訳しない、わからないところはパンパン飛ばす」という読み方をしていけば、ペーパーバックを楽しめる読解力が身につくと主張する。

なんかこれまたインチキくさいのだけれど、読めばまともな本であることは疑うべくもない。要は、母国語である日本語を読むのと同じように英語も本来読まれるべきだ、というだけの話で、根底には学校「受験」英語や英語学者への強烈なアンチテーゼが流れている。

学校の英語は辞書を使い、文法解析して、短い文章に大変な時間をかけます。そんなのろのろした速度ではペーパーバックを楽しむというわけにはいきません。快適な速度で読むには、学校英語の読み方とはちがう、本来の読書を習いなおさなければならないのです。それは別

[illegible]

【連載】 DIS-COVER“*enka*”！ ――vol.15

おカミさん、「演歌の名盤」ですョ！

今月のお題▶演歌の華としての“死のエロス”論

文▶宝泉薫［著述業］ イラストレーション▶宇和島太郎

古今東西、「花」といえば、“平和”や“あるべき人生”などの象徴。
古くはピート・シーガーの「花はどこに行った」や喜納昌吉の「花」。
最近ではオレンジレンジまでが歌ってますが……。
どっこい、一筋縄ではいかない演歌の世界では、
「花」はむしろ“死のエロス”を表す常套句。
そして、歌い手の“薄倖さ”ゆえに輝きを増した演歌版「フラワーソング」の
名曲といえば、これでしょう。

ファイル#42 渡哲也

演歌的“死のエロス”の象徴としての〈花〉の効用

“殿堂入り”名曲リスト
①「くちなしの花」(73年)
②「あじさいの雨」(74年)

ここ数年、Jポップシーンにおいて“花”をテーマにした作品が目立つ。「世界に一つだけの花」(SMAP)や「さくら〈独唱〉」(森山直太朗)、「花」(オレンジレンジ)といったあたりだが、これらはかつての歌謡曲――例えば、森進一の「花と蝶」など――が得意とした“エロス的関係性を花に喩える”という世界とは一線を画するものだ。大ざっぱにいえば「花はどこへ行った」(ピート・シーガー)や「花」(喜納昌吉)の流れを汲む“人生のあり方を花に託す”――それは相田みつをの書などにも通じる――世界である。むろん、単純に二分することはできないとはいえ、Jポップと歌謡曲とを識別するひとつの基準にはなるだろう。

今回、まず取り上げるのは、そんな“歌謡曲的花唄”の傑作「くちなしの花」。俳優の渡哲也が73年にヒットさせた作品だ。別れた女を花に喩えて追憶するのに、地味で存在感の薄い“くちなし”を用いたこと自体、味のある趣向だが、出色なのはやはり歌い出しのフレーズ〈いまでは指輪も　まわるほど〉だろう。自分と別れたために、そこまで〈やつれた〉女がくちなしの〈花のかおり〉となって〈旅路のはてまで　ついてくる〉のだ。これほど“死のエロス”にあふれた歌というのも珍しいのではあるまいか。

じつは、この歌の成功はその“死のエロス”が幾重にもつながったところにある。渡は師と仰いだ石原裕次郎同様、蒲柳の質で、何度も大病を経験。そのためかどうか、低音による節回しもどこか頼りない。そこがかえってプラスに働き、退廃的なムードを高めたわけだ(のちに『やくざの墓場・くちなしの花』と

CamScannerでスキャン

いう主演映画にも、このムードは生かされた)。また、詞を手がけた水木かおるも十年余病で、田舎に隠棲しながら創作。そういう境遇のせいか、植物を愛し、花にちなんだ作品を多く残した。出世作の「アカシアの雨が止む時」(西田佐知子)しかり、最後のヒットとなった「二輪草」(川中美幸)しかり。物書きには"動物"型と"植物"型があるとされるが、彼などはまさに後者だろう。そして"植物人間"なる言葉が象徴するように、植物はときに死を想起させる(それゆえ、梶井基次郎も「桜の樹の下には屍体が埋まっている!」と書いた)。つまり"植物"型の物書きは、花を介して"死のエロス"を体現させるのが上手いのだ。殊に、サビが"花のようなおまえだった"ではなく〈おまえのような　花だった〉と結ばれるのは、圧巻。追憶の中で、人と植物とが逆転してしまい、別れた女がすでに枯れ果てたかのような印象をもたらしている。ついでながら、そこに"死人に口なし"という諺に由来する駄洒落めいた効果まで加わるのだから、見事という他ない。

もっとも、歌い出しのフレーズが出色なのは"やせること＝不幸"という図式があればこそ。"やせること"がむしろ"幸福"を意味するような最近の風潮では、ピンと来ない人も多いだろう。そのあたりにも、前時代的な芸術としての演歌の危機がうかがえる。

ファイル #43

さくらと一郎

"不幸なデュオ"ゆえに輝きを増した薄倖演歌の大傑作

"殿堂入り"名曲リスト
①「昭和枯れすすき」(74年)

続いては、いわゆる一発屋ソング。無名デュオにもかかわらず、74年に1位を獲得し、ミリオンセラーを達成した作品だ。最大のヒット要因は、ドラマ「時間ですよ・昭和元年」の挿入歌に使われたことで、薄倖のカップル"秀と十郎"(演じるは、大楠道代と細川俊之)が登場するたびに流れた。つまり、のちの言葉でいうメディアミックス。作風は片仮名イメージとは程遠いながら、物哀しさを強調しすぎて逆に間抜けさすら漂うサウンドといい、大仰かつ朗々と謳い上げたのがかえって戯画的にも思える歌唱といい、舞台が昭和初期なのをいいことに、確信犯的なパロディを仕掛けたニオイがする(自らを枯れすすきになぞらえるところからして、古典演歌からの転用だ)。

ただし、それが絶大な成功を収めたのは、彼らが本当に"不幸なデュオ"だったからかもしれない。結婚時、ふたり合わせて苦節15年という、徳川一郎(本名は遠藤実!?)とさくら。2作目でこれを当てたが、最初から「お互いに感覚が合わなかった」(一郎・談)とかで、わずか1年半で解散。さくらはソロに戻り、一郎は2代目さくらと組んで再出発した。しかし、息のピッタリ合った"新・さくらと一郎"としては「平成枯れすすき」が多少話題になった程度(オリコンランク外)。うがった見方をするなら、仲が悪く、コンビとしては死んでいた"旧・さくらと一郎"が〈いっそきれいに死のうか〉などと言いつつ、けなげに生きようとする姿を歌ったからこそ、大ヒットの条件というべき絶妙な演劇性が生まれたのではあるまいか。

ともあれ〈花さえも咲かぬ〉という枯れすすきにまで着目して"死のエロス"を描いたあたり、演歌の面目躍如たるものがある。と同時に〈幸せなんて望めぬが　人並みでいたい〉というしおらしさも、今となっては新鮮だ。それこそ、誰もがそれぞれに優れた"オンリーワン"で"世界に一つだけの花"だと歌うのが、当世のJポップなのだから。本来、大衆芸術の華というべきエロスを避け、自分探しという現代の亡霊ばかりにとらわれる最近のヒット曲のほうが、よっぽど枯れすすきみたいだという気もしないでもないが——。

男子アイドルHere & Now

第20回
いよいよ佳境！大河ドラマ「義経」

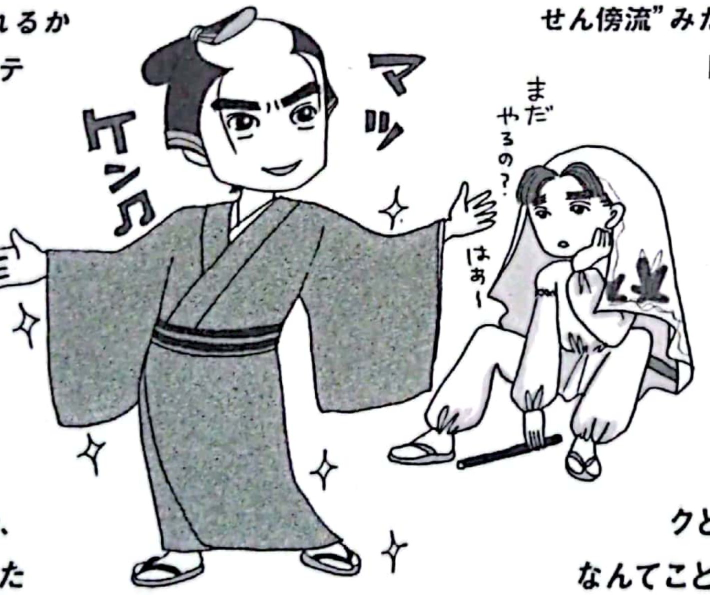
少年易老楽難成
～しょうねんおいやすくがくなりがたし～

と【音楽解説者】
ション▶小石川ユミ

義経伝説に読み込む“ジャニーズ的物語”のカタルシス

が出るころには合戦合戦の連続でいよいよ佳
いるはずのNHK大河ドラマ『義経』。ここ数
ーズ勢の登用に色んな意見はあるようだが、
前の郷ひろみが『新平家物語』に抜擢され
係を知る者には驚くほどのことでもない。
間を通じての主役というのは音楽活動へ
いため、一昨年の松岡昌宏（佐々木小次
出方がちょうど良くて、昨年の香取慎吾
のたっての要請ということだろうし、今年
関しては“義経だから”ということなのだ

りもオーソドックスな作りになっている
劇／大河ファンからも支持を得ている
、今どきあんな超現実的な「五条大
られるのは“タッキー＆マツケン”コン
ン味と言えそうだ。この分だと「八艘
」も史実にこだわら
ってくれるか
キャステ
、どう
った
う
…
?）とか、
といった



若手人気女優陣がどう見ても賑やかしにすぎないあたりか。史実にも原作にも登場しない上戸彩なんていいように狂言回しに使われて、これじゃまるでストーカーだし（最後の最後まで追い回すらしい）。
それにしても幼少時や死後の伝説を抜きにしてもドラマティックな人生で、数々の古典芸能の題材になってきたのも頷けるが、舞台を中世西欧に移して日本人好みの要素をなくしてもハリウッド映画やミュージカルにそのままできそうな英雄譚ではある。興味深いのはやはり義経と滝沢自身の物語がダブってくるところで、美輪明宏が演じた鞍馬山の謎の陰陽師の姿にはジャニーさんが投影されているようだし、容貌や技量では決して引けを取らない今井翼（予想どおり那須与一役でゲスト出演）がタッキーのサポート役に徹しているのはジュニア時代の早い時期に子供同士なりの「五条大橋」があったものと推察される。何よりも“ジャニーズの御曹司”とはいえ時代劇／大河ファンにしてみれば“しょせん傍流”みたいな状況から、古臭いセリフ回しは苦手でも表情と身のこなしの良さで視聴者を納得させていくあたりだろうか。終盤は大河絡みでジャニーズとは因縁浅からぬ中井貴一の頼朝に追われる悲劇性が軸になるのだろうが、どうか現実のタッキーがファミリーの頭領たるキムタクとかの嫉妬を買って干されるなんてことになりませんように。

執筆者紹介

●[illegible](あべ・かおる)
[illegible]していた海外から帰ってきて、応援歌[illegible]になっていることに"浦島太郎"状態。マッキ[illegible]のとんだったのだが、「頑張れ」系のKANや大[illegible]に比べ、「どんなときも。」には誠実な響き[illegible]ことを証明する──頑張らないライター。

●五十嵐十五(いがらし・じゅうご)
ライター。昔からカラオケで槇原敬之を歌うと気味悪がられてましたが、最近はそういうことがなくなりました。いい時代になったものですね。

●上田健二(うえだ・けんじ)
神保町に勤務する編集者。基本的にいつもヨレヨレしてます。あらためてマッキーの才能に感服しつつ、自分と自分の[illegible]が浅はかだということに気づかされていた。もっとよこしまになりたい。

●梅本直志(うめもと・なおし)
大阪府大阪市生まれ。神奈川県横浜市在住。1984年、すばらしのコンピュータ雑誌「MSXマガジン」でデビュー。今は2chラウンジャ、tvk「saku saku」サクサ[illegible]。この原稿書かせていただいてるあいだの事件といえば、ジェフ・ベック来日公演。で、増田ジゴロウから日本ヴィンセントへのショック・シフト・ショック、とまた「俺、フォーエバー!!」!!

●大須賀猛(おおすか・たけし)
ライター／編集者。1959年生。最近の愛聴盤──「GOODER/LINDLEY FAMILY LIVE AT THE VIENNA OPERA HOUSE」。最近の愛読書──「にっぽん60年前」。最近の主食──ラーメンばばあ＋アクティブ・ダイエット。最近の[illegible]一番典代。

●小川真一(おがわ・しんいち)
愛知県生まれ。戦前戦後あちゃらかソング研究家。もともと特別なロンリー・ワン、になってしまいそうな昨今だが、今年の秋もウルトラ歌謡探偵団の一員として昭和の歌謡ポップスに斬り込みをかける予定。

●鹿島良雄(かしま・よしお)
[illegible]のサラリーマン・ライター。某自動車会社の下請け会社勤務。当然、原稿書きは会社に内緒。でもこの本を同僚が見てる可能性はゼロ。最近は、同僚の話題に「ウィー・ウィル・ロック・ユー」が上ったので観劇に行くも失望。ミュージカルはだめだと思う。

●川口瑞夫(かわぐち・みずお)
64年生まれ。新ドラマ「女王の教室」と「ドラゴン桜」で、ともに主人公から「個性が大事なんて嘘に騙されるな」というセリフが……。妙に清々しい気持ちになっちゃったのは、ここ1カ月、マッキー漬けだったから？

●木村重樹(きむら・しげき)
編集者、ライター。本書原稿の執筆とほぼ並行して、7月下旬刊行の某音楽書の編集サポートに参入したら──一日18時間ずつ作業しても、全然片づかない！ [illegible] というわけで、6月は1日しか休みがありませんでした(´・ω・`)。7月末には'05フジロック・フェスに強制参加の予定(宮崎ハヤ夫氏のプロフ参照)。

●栗原裕一郎(くりはら・ゆういちろう)
芸能関係の本をアマゾンで漁ってたら、「この本を買った人はこんな本も買っています」に槇原敬之のCDがけっこう頻繁に出てきました。マッキーファンは英語に熱心なんでしょうか。cry00777@nifty.com

●[illegible](げし・あきら)
1971年生。もと院生ライター／一応国立大の教員。[illegible]ブログは「フロイト床屋」。会社帰りのOLが自転車で[illegible]を通るのだが、毎日「どんなときも。」を、しかも同時刻にちょうど同じフレーズを大声で熱唱中、というのは友人から聞いた怪談(現在進行形)。

●[illegible](さいとう・なおこ)
ライター。1976年生まれ。槇原敬之って何気に服、オシャレですよね。あとチキチキマシンのケンケンが[illegible]によって激似。http://www.k2.dion.ne.jp/~naokos/

●[illegible]ひろと(さかき・ひろと)
「Digital Cowboy」~「UNDERWEAR」期にワーナーのエグゼクティヴだった小杉理宇造氏(山下達郎の育ての親)がKinKi Kidsのデビューに関わっていたころ、槇[illegible]に曲を書かせてみたいと語っていたのを思い出す。[illegible]はSMAPに持っていかれちゃったけど。

●島田典子(しまだ・のりこ)
編プロ勤務を経てフリー文筆業歴13年。著書に「OUR PARADISE ONLY」「ことば美人」「頭のいい女、悪い女の話し方」(宝島社刊)、「やさしい風」(シンコーミュージック刊)。

●真保みゆき(しんぼ・みゆき)
音楽評論家。03年の約半分を取材・構成に費やした村上ポンタの聞き書き自伝「自暴自伝」が、今年初頭に増刷。歌謡曲／Jポップのレコーディング裏面史として読んでもおもしろいので、手前みそながらレコメンドするです。

●鈴木芳樹(すずき・よしき)
1970年生まれ。「デモテープ特集」はほぼ毎回エアチェックしていた、重度のマニア。この特集の常連でのちに音楽を生業としたひとは、「OTO-NETA」なるブログにまとめられているので、関心のあるひとはぜひ。
http://o10.cc/o10/000055.php

●舌津智之(ぜっつ・ともゆき)
64年生まれ。東京学芸大学教育学部助教授・中等教育教員養成課程英語専修担当。ちなみに、「Longtime Favorites」で竹内まりやとデュエットする大滝詠一の英語は★★★★☆です。

●高橋道彦(たかはし・みちひこ)
音楽評論家。元ミュージック・マガジン編集長。今年のはじめ、経産省「プロデューサー人材育成支援事業」の仕事で数々の映画関係者に会っていた。邦楽バブル期を反面教師に、いまこそ質の高い邦画作りを！と語る方、多数。健全な発想に刺激を受けた。

●武田昭彦(たけだ・あきひこ)
1966年生まれ。マッキーのアルバムをほぼ全作聞き返し、彼はホントに洋楽フリークなんだと改めて実感。周辺スタッフが彼をフォローしている側面は大きそうですね。

●Take-3(ていくすりー)
118ページ参照。

●西岡ムサシ(にしおか・むさし)
マッキーより4歳上の今年40歳。彼の全盛期、顔が似てるとちょくちょく言われた。以来、気にかけてます。ほかに似てると言われた人は故ジャンボ鶴田、松本知子(麻原彰晃の妻)など。

●伏見憲明(ふしみ・のりあき)
118ページ参照。

●宝泉薫(ほうせん・かおる)
テレビで偶然見た岡村孝子の特集番組で、離婚後の心境を綴った近作にちょっと感心。不幸が傑作を生むという真理から言って、今の槇原はどうなのか。そして、自分は!?

●町口哲生(まちぐち・てつお)
近畿大学文芸学部講師、文芸評論家。単著に「帝国の形而上学─三木清の歴史哲学」(作品社)、翻訳にヴァネッサ・ベアード「性的マイノリティの基礎知識」(作品社、近刊)、共著に「現代文化テクスチュア」(晃洋書房)など多数。槇原敬之はいちばん友だちになりたいミュージシャンです。くう、マッキー大ぃ好きだよ！
ホムペ：http://earth.endless.ne.jp/users/tetsuo_m/
携帯ホムペ：http://k.excite.co.jp/hp/u/tetsuo_m/

●丸目蔵人(まるめ・くらんど)
ライター。アジアのエンターテインメント中心に紹介。中華圏で大ヒット中の香港映画「頭文字D」を見る。日本人役を香港、台湾の俳優が演じた珍品。猟奇殺人犯も似合う怪優アンソニー・ウォンが豆腐屋のオヤジだが、それじゃ「八仙飯店之人肉豆腐」では?! 厚揚げ一丁ぉ♪

●見崎鉄(みさき・てつ)
65年生まれ。ライター。ニア・ミステリー研究家。著書に「謎解き『世界の中心で、愛をさけぶ』」(夏目書房)、「Jポップの日本語」(彩流社)ほか。
http://blog.livedoor.jp/msktt/

●南田勝也(みなみだ・かつや)
67年尼崎生まれ。現在、神戸山手大学人文学部助教授。著書「ロックミュージックの社会学」(青弓社、01年)、「現代社会理論ガイドブック」(共著、ナカニシヤ出版、05年)など。

●宮城正樹(みやぎ・まさき)
音楽と映画の知ったか分析(文責)家。01年に行われたマッキーの音楽業界向けライヴで、当時、マッキー担当だったOディレクターが「みなさんのお力添えを頂き、槇原をもう一度男にしてやってください」と頭を下げていた。僕は笑いそうになったけど、誰も笑わなかった。でも、あの発言はきっとジョークが入ってたんじゃないかな。だって、マッキーもジョークいっぱい飛ばしていたんだからね。ね、そうでしょ、Oさん！

●宮崎ハヤ夫(みやざき・はやお)
編集見習い、ニート君。"ジャケット観光"でおなじみ木村重樹氏、小説家・清野栄一氏らが結成したバンド"balesound"のメンバーとして、各種野外レイヴ・パーティーなどで健康的なお色気を振りまきつつ、目下'05フジロック・フェス出演[決定！]に向け、基礎体力作りで山登り中。

●宗像明将(むねかた・あきまさ)
1972年生まれ。音楽ライターとして「MUSIC MAGAZINE」「レコード・コレクターズ」などに執筆。大学生時代のカラオケの十八番は「どんなときも。」と大江千里の「格好悪いふられ方」でした。
http://www.outdex.net/

●谷亜ヒロコ(やあ・ひろこ)
まさか2005年になってマッキーのことをこんなに考えるとは！ はぁ〜人生何があるか分かりません。そんなわけでどういうわけかRISING SUN ROCK FESTIVAL in EZOに行く予定。なぜか2回目。

●安田謙一(やすだ・けんいち)
今日の出来事。ジェイムス・チャンスの来日公演@大阪で僕の10代のヒーロー＝町蔵(町田康)と、20代のヒーロー＝アイちゃん(EYE)が共演したのを観てきました。感無量？ ……なんだか不思議な気持ちです。

●やぶきもとこ
1976年広島生まれ。大学院で「音楽と日本とアジア」について修行中。マッキーファンという長年の趣味が高じて「Jポップ批評」に書くなんて自分でも驚きですが、マッキーの歌のことばかりを考えられるという至福の時間がすごせました。今秋のcELEBRATIONも楽しみ。

●阮占生(ゆん・ちむさん)
1969年千葉県生まれ。フリーのライター／編集者。Jポップとアジアの音楽が専門。

●吉田正太(よしだ・しょうた)
70年生、ライター。このページにいる誰かと二人暮らしを初めて1年ちょい。新しいTシャツをわざと洗ってよれさせるように、小さなケンカを重ね──るどころか、日々是ケンカです。他人同士が暮らすんだから、当然ですね。

●吉村智樹(よしむら・ともき)
書籍レーベル「耳カキBOOKS」を発足しました。第1弾が僕の単行本「吉村智樹の街がいさがし」、第2弾が僕の大好きなカメラマン佐々木まこととの雑種犬写真集「ぼく、となりのわんこ。」(ともにオークラ出版)。ともに発売したてほやほや。土下座したら、買ってくれますか？ 責任編集している雑誌WEBマガジン「日刊耳カキ」も、ぜひ読んでくださいね。
http://mimi33.com/

●吉村聖(anonymous)(よしむら・ひじり)
文筆業/DJ。高校1年の頃だったでしょうか、片思いだった女生徒にマッキーの「僕は大丈夫」の録音テープをプレゼントしたことがありました。それって優しさのアピール？ それとも自虐？

●和久井光司(わくい・こうじ)
音楽家／詩人。最新ソロ作は「トーチソング・トリロジー」、最新の著書は「ビートルズ＆アップル・マテリアル(改訂新版)」。10月4日から8日まで、下北沢440(Four-Forty)で6回目となる「和久井光司 5夜連続ライヴ」を開催する。今年の日替わりゲストは、バール兄弟、中川五郎、あがた森魚、パンタ、エディ藩＋ミッキー吉野ら。詳しくは http://flying-dc.com でどうぞ。

CamScannerでスキャン